茨城県教育財団文化財調査報告第296集

薬師入遺跡2

阿見吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上　巻

平成20年3月

茨城県竜ヶ崎土木事務所
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第296集

薬師入遺跡2

阿見吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上　巻

平成20年3月

茨城県竜ヶ崎土木事務所
財団法人　茨城県教育財団

遺跡全景（南から）

薬師入出土遺物

序

茨城県は，21世紀の社会を展望し，県全域にわたる調和のとれた発展を図るために，県内の交通体系の整備を進めています。

一般国道首都圏中央連絡自動車道は，首都圏の再編成・産業活力の向上を図るための基幹施設として計画されたものです。この整備に伴い，阿見町吉原地区に隣接する牛久市に，阿見東インターチェンジが設置されました。

阿見吉原土地区画整理事業は，インターチェンジへの接続道路になる地域幹線道路の整備と共に，インターチェンジ周辺部に商業及び業務系施設や住宅地の形成を図り，当地域及び周辺地域の活性化と秩序ある発展に寄与することを目的として計画されています。

この事業地内には，阿見町の埋蔵文化財包蔵地である篠崎A遺跡や薬師入遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県竜ヶ崎土木事務所から阿見吉原土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査事業の実施について委託を受け，平成18年４月から12月まで薬師入遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は，薬師入遺跡の発掘調査の成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして，教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県竜ヶ崎土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，阿見町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成２０年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　人見實德

例　　言

1　本書は，茨城県竜ヶ崎土木事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字正上内に所在する薬師入（やくしいり）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は，以下の通りである。

調査　平成18年４月１日～平成18年12月31日

整理　平成19年４月１日～平成20年３月31日

3　発掘調査は，調査課長川井正一のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	川又　清明	
主任調査員	綿引　英樹	
主任調査員	田原　康司	平成18年９月１日～平成18年９月30日
主任調査員	井上　琢哉	平成18年８月１日～平成18年11月30日
主任調査員	市村　俊英	平成18年４月１日～平成18年６月30日
主任調査員	本橋　弘巳	平成18年７月１日～平成18年12月31日
副主任調査員	小林　悟	

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長村上和彦のもと，以下の者が担当した。

主任調査員	綿引　英樹	第３章第３節１～３・５～７，第４節，写真図版
副主任調査員	小林　悟	第１章～３章第２節，第３節３・４

5　第78号住居跡から出土した粒状滓などについては，財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査官（当時）坂野和信氏にご指導いただいた。

6　本書の作成にあたり，当遺跡から出土した炭化材の樹種同定及び土器付着炭化物の成分分析はパレオ・ラボ株式会社，土壌分析についてはパリノ･サーヴェイ株式会社に委託し，考察は付章として掲載した。また，旧石器時代の石器実測については株式会社ラングに委託した。

凡　　例

1　地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X軸＝－1,520m，Y軸＝＋36,280mの交点を基準点（A１a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，「A１区」「B２区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A１a1区」「B２b2区」のように呼称した。

2　遺構番号は，平成16年度報告の継続である。

3　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は，次のとおりである。

遺構　ＳＩ－住居跡　ＳＢ－掘立柱建物跡　ＳＫ－土坑　ＳＤ－溝跡　ＳＦ－道路跡
ＴＭ－塚　ＵＰ－地下式坑　ＳＸ－不明遺構　Ｐ－柱穴・ピット　Ｋ－撹乱

遺物　Ｐ－土器　ＴＰ－拓本記録土器　ＤＰ－土製品　Ｑ－石器・石製品　Ｍ－金属製品
Ｇ－ガラス製品　Ｗ－木製品　Ｔ－瓦

土層　Ｋ－撹乱

4　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は600分の１，遺構実測図は60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物実測図は原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3)　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・火床面・赤彩　　炉
竈部材・粘土・炭化材・黒色処理・硬化面　　柱痕・煤
●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　▲木製品・馬歯　—·—·— 硬化面

5　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

6　遺物観察表・一覧表の表記については，次の通りである。

(1)　遺物番号は通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

(2)　計測値の（ ）内の数値は現存値を，［ ］内の数値は推定値を示した。計測値の単位はcm，gで示したが，大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に単位を表示した。

(3)　備考欄には，土器の残存率のほかに，必要と思われる事項を記した。

7　主軸方向の表記については，次の通りである。

(1)　「主軸」は，炉（竈）を有する竪穴住居跡については炉（竈）を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸」及び「長軸」方向は，それぞれの軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例：N－10°－E）。

(2)　地下式坑については竪坑と主室を通る軸線を，火葬土坑については開口部と燃焼部を通る軸線を主軸とした。

抄　　録

ふりがな	やくしいりいせきに
書名	薬師入遺跡 2
副書名	阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅲ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第296集
著者名	綿引 英樹　小林 悟

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
薬師入遺跡 (やくしいりいせき)	茨城県稲敷郡阿見町 (いばらきけんいなしきぐんあみまち) 大字吉原字正上内 (おおあざよしはらあざしょうじうち) 2719番地の2ほか	08443 — 118	35度 58分 06秒	140度 14分 18秒	24 ～ 25m	20060401 ～ 20061231	36,786㎡	阿見吉原土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師入遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点 2か所	石器(楔形石器・石核・剥片)	古墳時代前期の第78号住居跡の床面から器台を転用した羽口と粒状滓が出土し，4世紀代の鍛冶工房跡と考えられる。
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡　15軒 土坑　3基	弥生土器（高坏・広口壺）土製品(紡錘車)	
		古墳時代	竪穴住居跡　56軒 掘立柱建物跡　1棟 土坑　2基	土師器（坏・椀・坩・器台・高坏・壺・甕・台付甕・甑），須恵器（把手付椀・甕），手捏土器，ミニチュア土器，土製品（土玉・小玉・紡錘車），石器・石製品（砥石・紡錘車・勾玉・臼玉・臼玉未製品・有孔円板・双孔円板・剣形・滑石原石・滑石剥片），鉄製品（手鎌・釘ヵ・不明鉄製品），粒状滓，ガラス製品（小玉）	
		平安時代	竪穴住居跡　9軒 土坑　2基	土師器(坏・高台付椀・小皿)，鉄製品（釘・不明鉄製品）	
		中世	掘立柱建物跡　3棟 地下式坑　10基 溝　4条 道路跡　3条 土坑　5基	土師質土器（小皿・擂鉢・内耳鍋），石器（茶臼・砥石），自然遺物（マツカサガイ・ヤマトシジミ）	

	近　　世	塚　　3基 溝跡　　1条	石製品（石碑），金属製品（古銭）
墓　跡	中　　世	火葬土坑　　2基 墓坑　　1基	金属製品（古銭）
	近　　世	墓坑　　1基	金属製品（煙管・古銭）
生産跡 その他	時期不明	炭焼遺構　　13基	
		溝跡　　28条 道路跡　　5条 土坑　　224基 ピット　　84基 不明遺構　　1基	縄文土器，弥生土器，土師器，陶器，土製品（土玉・泥面子），石器・石製品（剥片石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘・敲石・砥石・双孔円板・剣形），馬歯

要約	旧石器時代から近世にかけて断続的に土地利用された複合遺跡である。旧石器時代では，平成14・15年度調査で確認された2か所の石器集中地点がさらに南側や西側に広がることが確認された。弥生時代の住居跡は，浅い谷を挟んだ南北に15軒確認され，南北で若干の時期差が想定される。古墳時代では，前期から中期の住居跡が多く確認されている。中世・近世の遺構では，大型の地下式坑や「青面金剛」と刻まれた庚申塔が建てられていた塚が3基確認されている。

目　　次

―上　巻―

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
第１章　調査経緯……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査経過……1
第２章　位置と環境……3
　第１節　地理的環境……3
　第２節　歴史的環境……3
第３章　調査の成果……7
　第１節　遺跡の概要……7
　第２節　基本層序……7
　第３節　遺構と遺物……9
　　１　旧石器時代の遺構と遺物……9
　　(1)　調査の方法……9
　　(2)　石器集中地点……10
　　２　弥生時代の遺構と遺物……16
　　(1)　竪穴住居跡……16
　　(2)　土坑……49
　　３　古墳時代の遺構と遺物……52
　　(1)　竪穴住居跡……52
　　(2)　掘立柱建物跡……206
　　(3)　土坑……207
　　４　平安時代の遺構と遺物……210
　　(1)　竪穴住居跡……210
　　(2)　土坑……222

―下　巻―

5　中世の遺構と遺物…… 225
(1)　掘立柱建物跡…… 225
(2)　地下式坑…… 227
(3)　溝跡…… 243
(4)　道路跡…… 247
(5)　火葬土坑…… 248
(6)　墓坑…… 250
(7)　土坑…… 251
6　近世の遺構と遺物…… 255
(1)　塚…… 255
(2)　溝跡…… 265
(3)　墓坑…… 265
7　その他の遺構と遺物…… 266
(1)　溝跡…… 266
(2)　道路跡…… 283
(3)　炭焼遺構…… 286
(4)　土坑…… 294
(5)　ピット…… 302
(6)　不明遺構…… 303
(7)　遺構外出土遺物…… 303
第4節　まとめ…… 310
付章
1　薬師入遺跡出土炭化材の樹種同定…… 326
野村敏江（パレオ・ラボ）
2　薬師入遺跡の放射線炭素年代測定…… 329
パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・藤根　久・野村敏江
3　薬師入遺跡第78号住居跡の土壌に係る自然科学分析…… 336
パリノ・サーヴェイ株式会社
写真図版

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県は，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の建設に伴って周辺部の開発を図り，周辺地域の活性化を目的とした土地区画整理事業を計画している。そうした中，茨城県竜ヶ崎土木事務所は，阿見吉原地区土地区画整理事業を進めている。

平成５年12月17日及び平成11年１月21日，茨城県知事（土木部扱い）は，茨城県教育委員会教育長に対して，阿見吉原地区土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成８年度に現地踏査を，平成11年１月20日～22日及び１月26日～29日，平成17年９月20日～22日及び10月６日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成11年５月６日及び平成17年10月26日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県土木部長（都市局都市整備課扱い）あてに，事業地内に薬師入遺跡が所在する旨回答した。

平成18年１月31日，茨城県竜ヶ崎土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第94条の規定に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，計画変更が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成18年２月15日，茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成18年２月20日，茨城県竜ヶ崎土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，阿見吉原地区土地区画整理事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成18年２月24日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに，薬師入遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県竜ヶ崎土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成18年４月１日から12月31日まで，薬師入遺跡の第３次発掘調査を実施することとなった。第１次調査は，平成14年12月１日から平成15年１月31日まで，第２次調査は平成15年11月１日から平成16年３月31日まで行われている。

第2節　調　査　経　過

薬師入遺跡の調査は，平成18年４月１日から12月31日までの９か月間実施した。以下，調査経過について，その概要を表で記載する。

第1図　薬師入遺跡調査区設定図

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

薬師入遺跡は，稲敷郡阿見町大字吉原字正上内2719番地の２ほかに所在し，霞ヶ浦と利根川に挟まれた標高25～28mの稲敷台地北部に位置している。この台地は小野川，桂川，乙戸川などの河川によって開析され，樹枝状に入り組んだ複雑な地形を呈している。台地周辺は水郷国定公園に含まれる低湿地で水田が広がり，灌漑のための小川や用・排水路が発達している。

台地の地質は，新生代第四期洪積世の古東京湾期に堆積した貝化石を含む海成砂層の成田層を基盤として，これを覆う斜交層理の顕著な竜ヶ崎層と呼ばれる砂礫層，さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～5.0m），褐色の関東ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し，最上部は腐食土層となっている[1]。

当遺跡は，町域の南部，桂川左岸の標高24～25mの舌状台地上に立地している。この台地は南北約1400m，東西約800mの規模を有し，南側に沖積低地，西側及び東側から北側にかけて細長い谷津が入り込んでいる。

当遺跡と周辺の土地利用の現状は，台地上は主に畑地及び平地林で，桂川流域の沖積低地は水田として利用されている。

第2節　歴史的環境

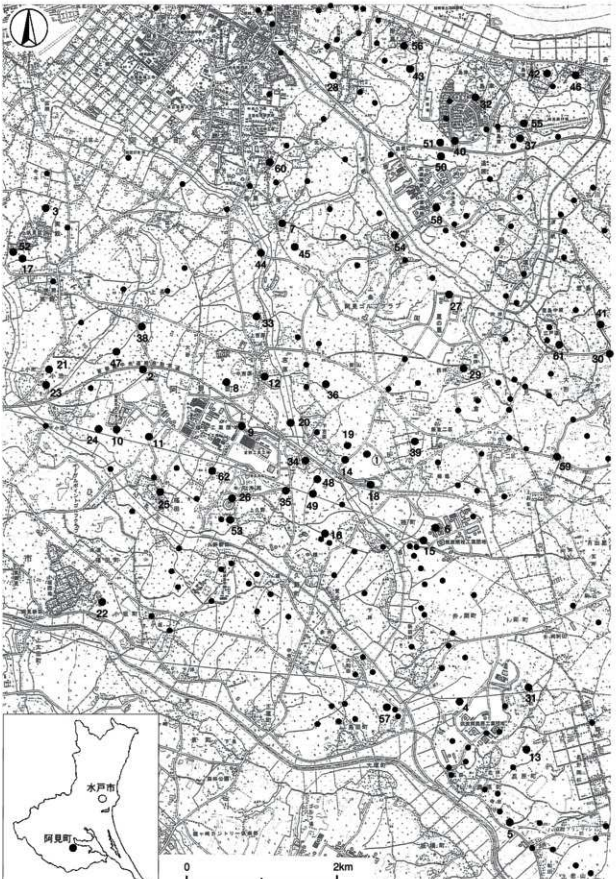
当遺跡は，桂川流域の台地上に所在し，旧石器時代から近世まで断続的に利用された複合遺跡である。桂川は阿見町内を南流して，牛久市内で乙戸川と合流する。その流域の台地上には多くの遺跡が分布している。ここでは，当遺跡に関連する周辺遺跡について，桂川流域を中心に時代ごとに述べる[2]。

旧石器時代の遺跡は，桂川流域にはほとんど知られないが，平成14・15年度調査の薬師入遺跡[3]で２か所の石器集中地点が確認されている。乙戸川流域では，石器集中地点が確認された谷ノ沢遺跡[4]〈２〉，ナイフ形石器などが出土した実穀寺子遺跡[5]〈３〉があり，このほか，小野川流域では有舌尖頭器が出土した牛久市木戸 間Ａ遺跡[6]〈４〉，天王峯遺跡〈５〉が知られている。

縄文時代の遺跡は，中期の大規模集落跡である牛久市赤塚遺跡[7]〈６〉をはじめ，下原遺跡〈７〉，手接遺跡〈８〉，吉原遺跡〈９〉などが知られている。乙戸川流域では，陥し穴や早期から後期の土器が出土している於山遺跡[8]や下小池東遺跡〈10〉，福田遺跡〈11〉などが知られている。

弥生時代の遺跡は少ないが，下原遺跡，花房遺跡〈12〉，姥神遺跡〈13〉などがあり，後期の竪穴住居跡は花房遺跡[9]で２軒，姥神遺跡[10]では12軒が調査されている。乙戸川と小野川の合流地点からさらに下流の左岸に位置する天王峯遺跡[11]では，竪穴住居跡15軒が調査されており，出土土器は後期に位置づけられている。

古墳時代になると遺跡数が急増する。桂川流域では，花房遺跡，手接遺跡及び篠崎遺跡〈14〉，御山台遺跡〈15〉，台畑遺跡〈16〉，乙戸川左岸の台地上には実穀古墳群〈17〉，実穀寺子遺跡などが確認されている。当財団が発掘調査した牛久市と阿見町にまたがるナギ山遺跡[12]〈18〉では，滑石製の臼玉や有孔円板などとともに，未製品，原石，剥片及び砥石や敲石が出土している住居跡が調査されており，石製模造品を製作する工房跡の可能性が指摘されている。桂川及び乙戸川流域の台地上には，ガラス小玉，直刀，40点を超える鉄鏃が出土した後期の円墳４基からなる実穀古墳群[13]や，箱式石棺が確認された内記古墳群などが分布している[14]。



第２図　薬師入遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院５万分の１地形図「土浦・玉造・龍ヶ崎・佐原」）

表1　薬師入遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	薬師入遺跡	○	○	○	○	○	○	○	32	鳥津遺跡		○		○			
2	谷ノ沢遺跡	○							33	根崎遺跡				○			
3	実穀寺子遺跡	○			○	○			34	腰巻遺跡				○			
4	木戸向A遺跡	○	○		○				35	水堀遺跡				○			
5	天王峯遺跡	○		○	○				36	赤太郎遺跡				○			
6	赤塚遺跡		○						37	宮平貝塚群		○					
7	下原遺跡		○	○	○	○			38	道記遺跡		○	○	○			
8	手接遺跡		○		○	○			39	桜立遺跡			○	○			
9	吉原遺跡		○		○	○			40	頭田遺跡		○	○	○		○	
10	下小池東遺跡		○		○				41	君島古墳群		○		○			
11	福田遺跡		○		○	○			42	後原古墳群				○			
12	花房遺跡		○	○	○	○			43	古女子古墳群				○			
13	絶神遺跡		○	○	○	○			44	橋向古墳群				○			
14	篠崎遺跡		○		○				45	若梨古墳群				○			
15	御山台遺跡		○						46	若宮古墳群				○			
16	台畑遺跡		○		○		○		47	塚越古墳群				○			
17	実穀古墳群		○		○	○			48	吉原向古墳群				○			
18	ナギ山遺跡		○		○		○		49	牛頭座古墳群				○			
19	篠崎A遺跡		○		○	○	○		50	烏瓜台遺跡				○	○		
20	大日遺跡		○		○	○			51	梶内台遺跡				○			
21	前畑遺跡				○		○	○	52	実穀寺子西遺跡		○		○			○
22	小坂城跡						○		53	久野城跡						○	
23	上小池城跡						○		54	上条城跡						○	
24	下小池城跡						○		55	鳥津城跡						○	
25	福田城跡						○		56	掛馬館跡						○	
26	源蓋遺跡	○	○	○	○	○			57	新堀遺跡						○	
27	星合遺跡	○	○		○	○			58	内堀遺跡						○	
28	竹来遺跡	○	○	○	○	○	○	○	59	割目遺跡						○	
29	中ノ台遺跡	○	○		○	○			60	若梨大日塚							○
30	君島天神遺跡	○	○		○	○			61	堂坂庚申塚							○
31	スカキ台遺跡	○	○	○	○				62	石塚庚申塚							○

奈良・平安時代になると，当遺跡周辺は信太郡子方郷に編入される[15]。桂川流域の集落跡では，9世紀前葉から中葉の仏教関連遺物が出土している篠崎（しのざき）A遺跡[16]〈19〉，手接遺跡[17]，花房遺跡[18]，大日（だいにち）遺跡[19]〈20〉などがある。大日遺跡では4基の骨蔵器が確認されており，当時の葬送儀礼を考える上で重要な資料となっている。また，乙川川流域を代表する中核的な集落跡である牛久市絶神遺跡[20]では，奈良時代の竪穴住居跡32軒，平安時代の竪穴住居跡21軒が調査されており，灰釉陶器の宝珠硯や「仲止夫」「夫百」などの墨書土器が出土している。

中・近世の遺跡では，篠崎A遺跡，聖天久保遺跡などが確認されている。ナギ山遺跡[21]からは，地下式坑2基や炭焼窯跡，溝跡1条が確認され，土師質土器の小皿や鉢，焙烙，内耳鍋などが出土している。前畑（まえはた）遺跡[22]〈21〉では，掘立柱建物跡3棟，井戸跡5基，溝跡2条などが確認され，溝跡からは900点を超える土鍋類の破片が出土している。また，周辺には，小坂（おさか）城跡〈22〉，上小池（かみこいけ）城跡〈23〉，下小池（しもこいけ）城跡〈24〉，福田（ふくだ）城跡〈25〉など，

戦国期の城館跡が数多く確認されており，下小池城跡[23]は，戦国期末期に土岐氏によって築域されたと伝えられており，虎口，薬研堀などが確認されている。

※　文中の〈　〉内の番号は，第２図及び表１の該当遺跡番号と同じである。

註

1）日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質３　関東地方』共立出版　1986年10月

2）茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図（地名表編・地図編）』茨城県教育委員会　2001年３月

3）駒澤悦郎「薬師入遺跡　阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第239集　2005年３月

4）綿引英樹，後藤孝行「谷之沢遺跡・手接遺跡・花房遺跡・大日遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第212集　2004年３月

5）ａ浅野和久「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　実穀古墳群・実穀寺子遺跡１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第144集　1999年３月

ｂ宮崎修士，柴田博行「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　実穀寺子遺跡２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第151集　1999年３月

6）茨城県考古学協会旧石器時代シンポジウム実行委員会『茨城県における旧石器時代研究の到達点－その現状と課題－発表要旨・資料集』茨城県考古学協会　2002年12月

7）河野辰男ほか「赤塚遺跡発掘調査報告書」茨城県牛久町赤塚遺跡発掘調査会　1984年４月

8）矢ノ倉正男「主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　於山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第96集　1995年３月

9）註4）に同じ

10）河野辰男ほか『茨城県牛久市文化財調査報告 奥原遺跡発掘調査報告書』奥原遺跡発掘調査会1989年12月

11）ａ河野辰男ほか『天王峯遺跡報告書』天王峯遺跡発掘調査会　1984年９月

ｂ河野辰男ほか『天王峯遺跡報告書（第二次調査）』天王峯遺跡発掘調査会　1988年４月

12）ａ石川義信，後藤孝行「ナギ山遺跡１・柏峰Ｂ遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第233集　2005年３月

ｂ桑田功「ナギ山遺跡２（仮称）阿見東ＩＣランプＢ区間整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第277集　2007年３月

13）註５）に同じ

14）阿見町史編さん委員会『阿見町史』阿見町　1983年３月

15）牛久市編さん委員会『牛久市史　原始・古代・中世』牛久市 2004年３月

16）小林健太郎「篠崎Ａ遺跡　阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第217集　2004年３月

17）註４）に同じ

18）註４）に同じ

19）註４）に同じ

20）註10）に同じ

21）註12）に同じ

22）後藤孝行，綿引英樹「ヲサル下遺跡・反子遺跡・大高田遺跡・前畑遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第211集　2004年３月

23）河野辰男ほか『下小池城跡保存調査報告書』阿見町教育委員会　1981年11月

第3章　調査の成果

第1節　調査の概要

薬師入遺跡は，阿見町の南部を流れる桂川左岸の，樹枝状に延びた小支谷と霞ヶ浦に流れ込む清明川の支流によって開析された小支谷間の標高24～25mの台地上に立地している。

平成14・15年度には，11,939㎡が調査され，石器集中地点２か所，竪穴住居跡34軒（縄文１・弥生４・古墳29），陥し穴２基，炉穴１基，炉跡２基，土坑29基，火葬土坑１基，道路跡１条，溝跡２条が検出され，旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であり，中でも古墳時代前期の集落跡が中心であることが判明した。遺物は，縄文土器，弥生土器，土師器，陶器，土師質土器のほか，石器（ナイフ形石器・石刀・石核・石鏃・磨製石斧・磨石・石皿・砥石），石製品（臼玉・双孔円板・有孔円板・剣形），自然遺物（炭化米）が出土している。

今回の調査は平成14・15年度調査部分の西及び南側に位置する36,786㎡で，調査前の現況は平地林である。

調査の結果，旧石器時代の石器集中地点２か所，竪穴住居跡80軒（弥生15軒，古墳56軒，平安9軒），掘立柱建物跡４棟（古墳１棟，中世３棟），土坑236基（弥生３基，古墳２基，平安２基，中世５基，時期不明224基），地下式坑10基，塚３基，炭焼遺構13基，火葬土坑２基，墓坑２基（中世，近世）溝跡33条（中世４条，近世１条，時期不明28条），道路跡８条（中世３条，時期不明５条），ピット84，不明遺構１基が確認された。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に115箱出土している。主な遺物は，縄文土器片，弥生土器（広口壺・高坏），土師器（坏・椀・小皿・坩・器台・高坏・壺・甕・台付甕・甑・手捏土器・ミニチュア土器），須恵器（甕・把手付椀），土師質土器（小皿・擂鉢・内耳鍋），陶器（天目茶碗），土製品（土玉・小玉・紡錘車・球状土錘・泥面子），石器（楔形石器・石核・剥片・石鏃・磨製石斧・打製石斧・敲石・茶臼・石錘・砥石），石製品（臼玉・臼玉未製品・紡錘車・双孔円板・有孔円板・剣型・石碑），金属製品（手鎌ヵ・釘・鍵ヵ・煙管・古銭・不明鉄製品）などである。

第2節　基本層序

平成14・15年度調査では，調査区南部のＤ４f2・3区にテストピット１を設定し，基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピット１の地表面の標高は24.5mで，地表面から1.9mほど掘り下げて第３図左のような堆積状況を確認している。

今回の調査では，調査区東部のＧ５f2区にテストピット２を設定して，基本土層の堆積状況を観察した。テストピット２の地表面の標高は24.7mで，地表面から深さ2.6mほど掘り下げて第３図右のような堆積状況を確認した。

テストピット２の土層は10層に分層され，観察結果は以下の通りである。

第Ⅰ層は暗褐色を呈する表土で，ローム粒子中量，ロームブロックを少量含み，粘性は普通で締まりは弱く，層厚は20～25㎝である。

第Ⅱ層は褐色を呈するソフトローム層で，黒色粒子を微量に含む。クラックが発達し，ガラス質粒子・炭化粒子を微量含み，層厚は20～30㎝である。

第Ⅲ層は褐色を呈するハードローム層で，ガラス質粒子・赤色スコリア粒子・炭化粒子を微量含んで締まり

が強く，姶良 Tn 火山灰（AT）を含む層に対比され，層厚は30～40cmである。

第Ⅳ層は褐色を呈するハードローム層で，黒色粒子・橙色スコリアを微量に含む。姶良 Tn 火山灰（AT）を含む層に対比され，層厚は５～30cmである。

第Ⅴ層は褐色を呈するハードローム層で，黒色粒子・橙色スコリアを微量含む。姶良Ｔｎ火山灰（AT）を含む層の下の黒色帯であることから第２黒色帯上部に対比され，層厚は45～50cmである。

第Ⅵ層は褐色を呈するハードローム層で，橙色スコリアを微量含み，第２黒色帯下部に対比され，層厚は30～35cmである。

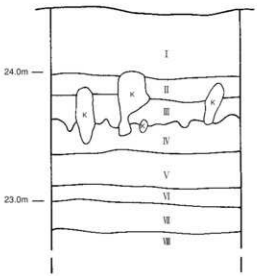
第Ⅶ層は褐色を呈するハードローム層で，粘性・締まりはともに強い。層厚は16～30cmである。

第Ⅷ層は褐色を呈するハードローム層で，黒色粒子を微量，鉄分を少量，粘土粒子を多量含み，粘性・締まりはともに強い。層厚は16～30cmである。

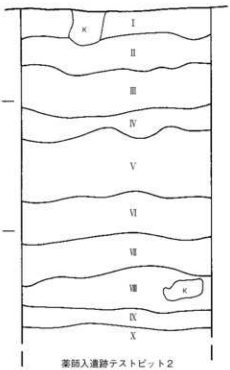
第Ⅸ層は明褐灰色を呈する粘土層への漸移層で，粘性・締まりは極めて強い。層厚は16～30cmである。

第Ⅹ層は灰白色で，常総粘土層にあたる。粘性・締まりともに極めて強く，層厚は不明である。

なお，遺構の多くは，第Ⅱ層上面で確認されている。



薬師入遺跡テストピット１
（平成14・15年度調査区）



薬師入遺跡テストピット２
（平成18年度調査区）

第３図　基本土層図

第3節　遺構と遺物

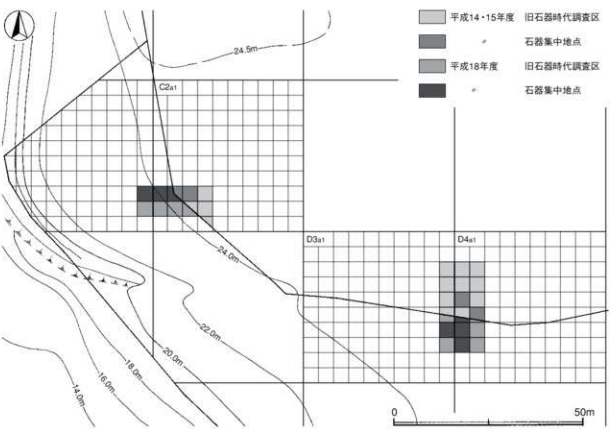
1　旧石器時代の遺構と遺物

(1)　調査の方法（第４図）

薬師入遺跡は，平成14・15年度に第一次調査（調査面積：11,939㎡）が行われ，２か所の石器集中地点が『茨城県教育財団文化財調査報告第239集』(2005年３月）で報告されている（以下『薬師入遺跡１』)。

第１号石器集中地点の調査範囲は，Ｃ2h2・Ｃ2h3・Ｃ2h4・Ｃ2i3・Ｃ2i4・Ｃ2j4の６グリッド（調査面積約72㎡）で，石器はＣ2h3区から２次加工を有する剥片１点，剥片５点が出土しており，石材は黒曜石と瑪瑙である。第２号石器集中地点の調査範囲は，D3c0・D3d0・D3e0・Ｄ3f0・D4c1・D4c2・D4d1・D4d2・D4e1・D4e2・D4f1・D4f2の12グリッド（調査面積：約160㎡）で，石器はD4e1区及びD4f2区から石核１点，２次加工を有する剥片３点，剥片５点が出土しており，石材は安山岩，珪質頁岩，頁岩である。

平成18年度の第二次調査区（調査面積36,786㎡）は，第一次調査区の南西及び南側に位置しており，調査当初から第１・２号石器集中地点の広がりが想定され，第１号石器集中地点は南西のＣ1h0・Ｃ1i0・Ｃ2h1・Ｃ2h2・Ｃ2i1・Ｃ2i2・Ｃ2i3の７グリッド（拡張面積約88㎡），第２号石器集中地点は南のＤ3f0・Ｄ3g0・Ｄ3h0・Ｄ4f1・Ｄ4f2・Ｄ4g1・Ｄ4g2・Ｄ4h1・Ｄ4h2の９グリッド（拡張面積128㎡）をそれぞれ拡張して調査した。



第４図　旧石器時代調査区設定図

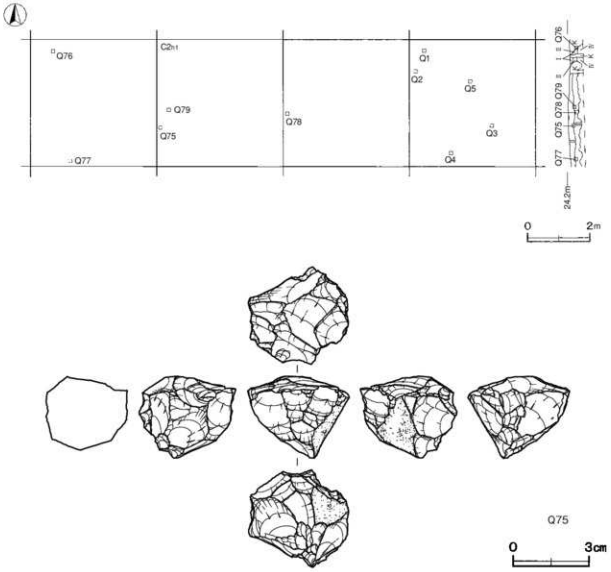
(2) 石器集中地点

今回の調査で，第１号石器集中地点は南西方向へ，第２号石器集中地点は南方向への広がりが確認された。以下，それぞれの石器集中地点について記述する。なお，第１・２号石器集中地点ともに出土層位は「薬師入遺跡１」を参考にしている。

第１号石器集中地点（第５・６図）

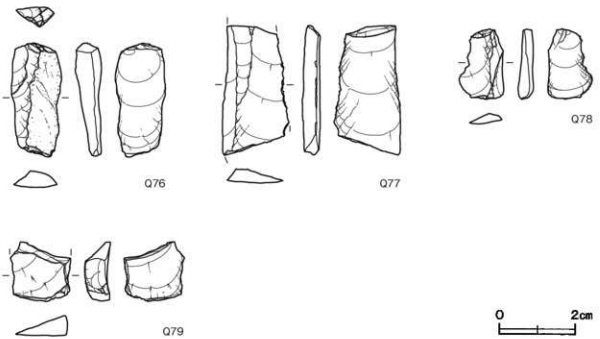
位置　調査区北西部のＣ１h0・Ｃ２h1・Ｃ２h2区で，台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況　石核１点（安山岩），二次加工を有する剥片１点（瑪瑙），剥片３点（チャート，安山岩，頁岩）がまばらに出土している。垂直分布は標高23.749～24.083ｍで，『薬師入遺跡１』基本層序の第Ⅱ～Ⅳ層に相当する。Q75はＣ２h1区第Ⅱ層，Q79は同区第Ⅲ層，Q76はＣ１h0区第Ⅳ層，Q77はＣ１h0区第Ⅲ層，Q78はＣ２h2区第Ⅲ層からそれぞれ出土している。



第５図　第１号石器集中地点・出土遺物実測図

所見　『薬師入遺跡１』で，「当集中地点は，調査区域外の西側に分布が広がる可能性が高い。」と指摘されているとおり，調査の結果，疎らながらも石器が確認された。しかし，『薬師入遺跡１』の調査で確認された黒曜石は１点も検出されず，垂直分布はQ76を除いてやや高い位置からの出土である。出土した石器は，姶良Tn火山灰（ＡＴ）を含む第Ⅳ層より上層から出土していることから，茨城県後期旧石器時代編年のⅡｃ期に位置づけられる。



第６図　第１号石器集中地点出土遺物実測図

第１号石器集中地点出土遺物観察表（第５・６図）

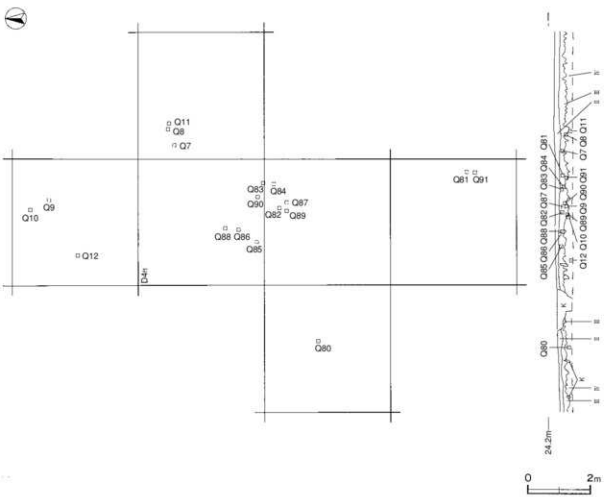
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重　量	材質	特　　徴	出土位置	備考
Q75	石核	3.1	3.9	3.6	44.8	安山岩	円礫を素材とした石核　打面調整・頭部調整を伴う剥片剥離を不規則に転移	第Ⅱ層	PL50
Q76	二次加工剥片	2.8	1.2	0.6	2.6	鶏頭	二次加工剥片　主要剥離面の剥離方向に対し同一方向からの剥離　単剥離打面　末端部片面に簡易な二次加工	第Ⅳ層	PL49
Q77	剥片	(3.3)	1.7	0.4	(2.3)	頁岩	基端部及び末端部を折損した縦長剥片　背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅱ層	PL49
Q78	剥片	1.7	1.1	0.4	0.2	チャート	縦長剥片　単剥離面打面　背面は主剥離面の剥離方向に対し同一方向・逆方向・横方向からの剥離	第Ⅱ層	PL49
Q79	剥片	(1.4)	1.5	0.6	(1.4)	安山岩	打点部折損した剥片　背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅱ層	PL49

第２号石器集中地点（第７～10図）

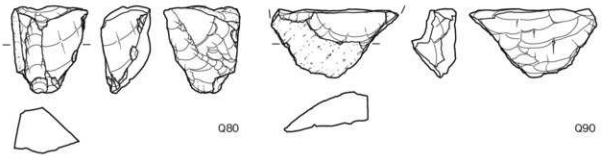
位置　調査区北部のＤ３g0・Ｄ４f1・Ｄ４g1・Ｄ４h1区で，台地平坦部に位置している。

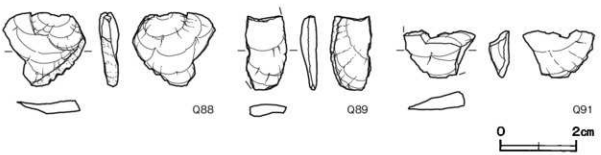
遺物出土状況　楔形石器１点（チャート），石核１点（頁岩），剥片10点（安山岩９，頁岩１）が出土している。垂直分布は23.568～23.831ｍで，『薬師入遺跡１』基本層序の第Ⅲ～Ⅳ層に相当する。Q80はＤ３g0区第Ⅳ層，Q83・Q85・Q86・Q88・Q90はＤ４f1区第Ⅲ層，Q82・Q84・Q87はＤ４g1区第Ⅲ層，Q89は同区第Ⅳ層，Q81・Q91はＤ４h1区第Ⅲ層からそれぞれ出土している。また，Q82はQ86（接合資料１），Q84はQ85（接合資料２）と接合関係にあり，『薬師入遺跡１』で報告されている安山岩剥片Q81・Q82・Q86・Q89との接合も試みたが，接合はしていない。さらに，Q81・Q87と『薬師入遺跡１』で報告されている２次加工を有する頁岩剥片やその他の剥片との接合を試みたが，接合できなかった。

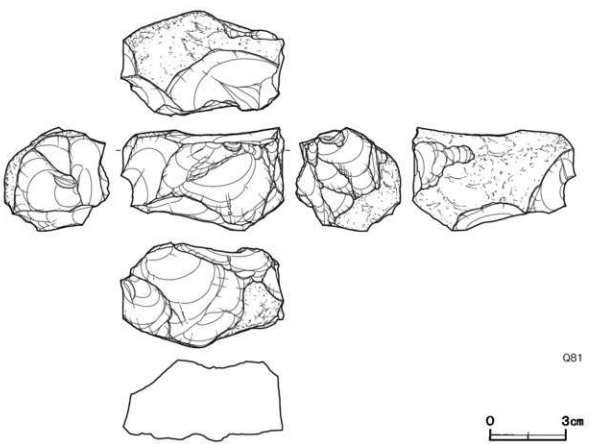
所見　「薬師入遺跡１」で「当集中地点は，調査区域外の南側に分布が広がる可能性が高い。」と指摘されているとおり，楔形石器や石核を含む12点の石器が出土し，接合関係も確認された。また，「石核が存在することから，小規模な剥片剥離が行われ，不要とされた剥片類が廃棄されたものと考えられる。」という指摘をさらに裏付ける結果となった。安山岩や頁岩は，出土位置や層位などから判断してそれぞれ同一母岩から剥がされたと考えられる。出土層位の第Ⅲ層はソフトロームであり，第Ⅳ層は姶良Tn火山灰（ＡＴ）を含む層と考えられることから，出土した石器群のほとんどはＡＴ降灰後の時期と考えられ，茨城県後期旧石器時代編年のⅡｃ期に位置づけられる。



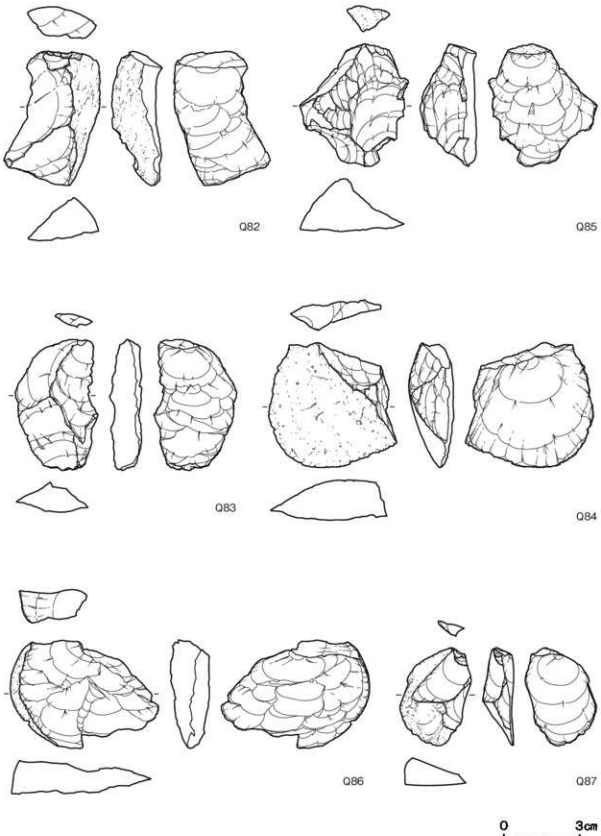
第７図　第２号石器集中地点実測図



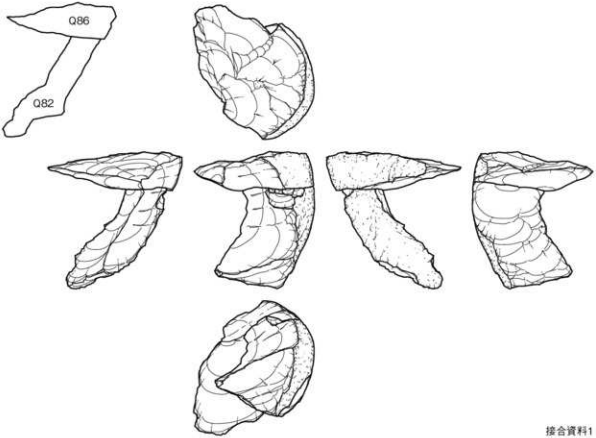




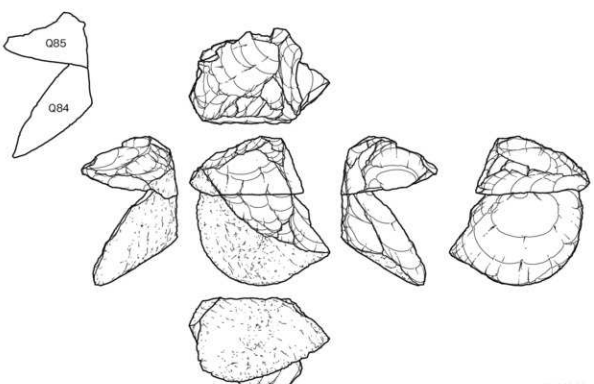
第８図　第２号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第９図　第２号石器集中地点出土遺物実測図(2)



接合資料1



接合資料2

第10図　第２号石器集中地点出土遺物実測図(3)

第２号石器集中地点出土遺物観察表（第８～10図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q80	楔形石器	2.2	1.9	1.2	5.9	チャート	両極剥離痕をもつ楔形石器　上部は両極打法の加圧による折損	第Ⅴ層	PL49
Q81	石核	3.8	6.3	4.1	112.3	頁岩	単角礫を素材とした石核　剥片剥離毎に打面を不規則に転移	第Ⅴ層	PL50
Q82	剥片	5.2	3.1	1.7	29.5	安山岩	縦長剥片 Q85の剥離によって作出された平坦面を打面とする単剥離面打面，側部調整　主要剥離面の加撃方向に対し横方向からの剥離	第Ⅴ層	接合資料１ PL50
Q83	剥片	5.1	3.1	1.2	16.9	安山岩	縦長剥片　単剥離面打面　背面は主剥離面の剥離方向に対し同一方向・反対方向・横方向からの剥離	第Ⅴ層	PL50
Q84	剥片	4.9	4.7	1.7	42.3	安山岩	Q88の剥離によって作出された平坦面を打面とする単剥離面打面　主要剥離面の加撃方向に対し横方向からの剥離	第Ⅴ層	接合資料２ PL50
Q85	剥片	4.8	4.1	2.1	33.1	安山岩	縦長剥片　打面は自然面打面　背面は主要剥離面の剥離方向に対し逆方向・横方向からの剥離	第Ⅴ層	接合資料２ PL50
Q86	剥片	4.2	5.6	1.5	31.8	安山岩	横長剥片　打面は単剥離面打面　主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅴ層	接合資料１ PL50
Q87	剥片	3.6	2.4	1.1	9.4	頁岩	縦長剥片　単剥離面打面　主要剥離面の加撃方向に対し横方向からの剥離	第Ⅴ層	PL49
Q88	剥片	1.9	2.0	0.4	1.2	安山岩	剥片　打面は線状打面　主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅴ層	PL49
Q89	剥片	(1.8)	(1.0)	0.4	(0.9)	安山岩	打点部折損した剥片　主要剥離面の剥離方向に対し横方向からの剥離	第Ⅴ層	PL49
Q90	剥片	(1.7)	(3.2)	1.1	(4.5)	安山岩	打点部折損した剥片　背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向	第Ⅴ層	PL49
Q91	剥片	(1.1)	(1.8)	0.5	(0.8)	安山岩	打点部折損した剥片　背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅴ層	PL49

２　弥生時代の遺構と遺物

今回の調査では，台地縁辺部から平坦部にかけて弥生時代後期後半の竪穴住居跡15軒，土坑３基が確認された。以下，遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第102号住居跡（第11図）

位置　調査区北部のＦ４g1区，標高24.9mの台地の平坦部に位置している。

重複関係　第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.30m，短軸3.11mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｗである。壁高は44～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部のやや西寄りに位置している。長径64cm，短径58cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

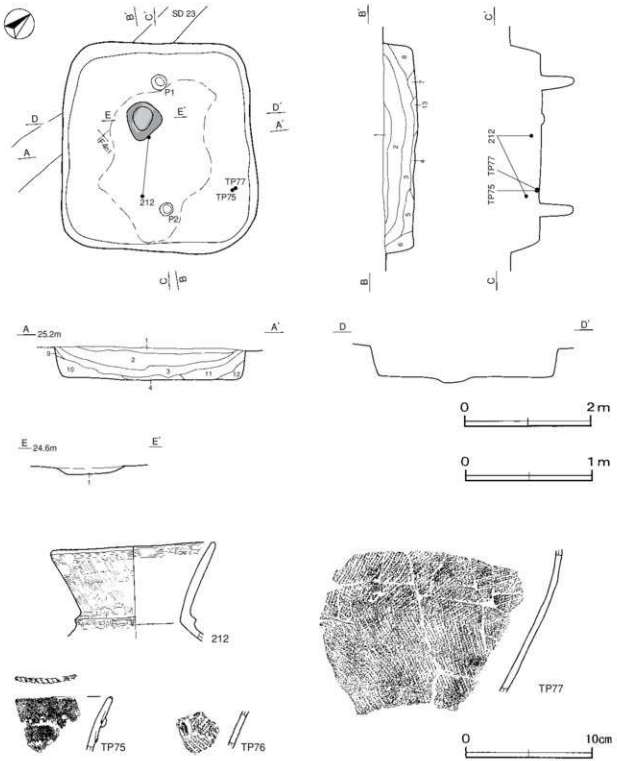
ピット　２か所。深さは50cm・52cmで，位置と規模から主柱穴と考えられる。

覆土　13層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
9　褐　　色　ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子，炭化粒子微量
12　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片19点（広口壺）のほかに，埋没の過程で流れ込んだ土師器片２点も出土している。TP75・TP77は東壁際の床面に近い覆土下層から出土している。212は中央部とＰ２のやや北西側の覆土下層から出土した土器片がそれぞれ接合したもので，廃絶後の埋没過程の早い段階で投棄されたと考えられる。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



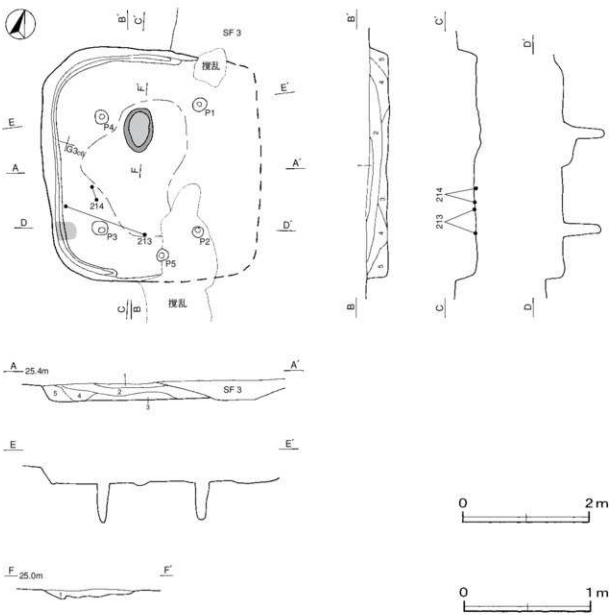
第11図　第102号住居跡・出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
212	土師器	壺	12.7	(7.8)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部外面ハケ目後横ナデ　口辺部内面横ナデ	覆土下層	5％
TP75	弥生土器	広口壺	－	(4.3)	－	長石・石英	明黄褐	普通	口唇部に原体押圧　2段の複合口縁　口辺部外面に棒状工具による刺突列2列　口辺部中位に貼瘤　胴部に附加条一種（附加2条）の縄文	覆土下層	5％
TP76	弥生土器	広口壺	－	(2.9)	－	長石・石英	明黄褐	普通	頸部に附加条一種（附加2条）の縄文　原体による刺突列2条巡らした後刺突列間に貼瘤　羽状構成	覆土中	5％
TP77	弥生土器	広口壺	－	(11.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	胴部に附加条一種（附加2条）の縄文　羽状構成	覆土下層	5％

第103号住居跡（第12・13図）

位置　調査区西部のＧ３ｂ６区，標高25.2ｍの台地縁辺部に位置している。



第12図　第103号住居跡実測図

重複関係　第３号道路に掘り込まれている。

規模と形状　全体は確認できなかったが，主軸方向をＮ－17°－Ｗとする，長軸3.70m，短軸3.42mの隅丸方形と推定される。壁高は28～33cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，壁溝が北・西壁側に確認されている。南西コーナー寄りの壁際で焼土塊が確認されている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径70cm，短径45cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量

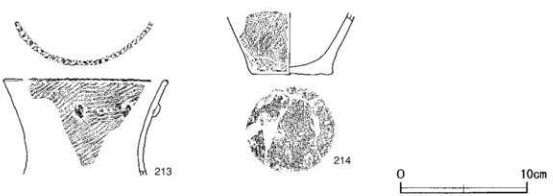
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ60～67cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ21cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　５層に分層される。第３層は堆積状況から住居廃絶後，人為的に埋め戻されたと考えられるが，その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片37点（広口壺）が出土している。213は西壁際と南西部の床面，214は西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



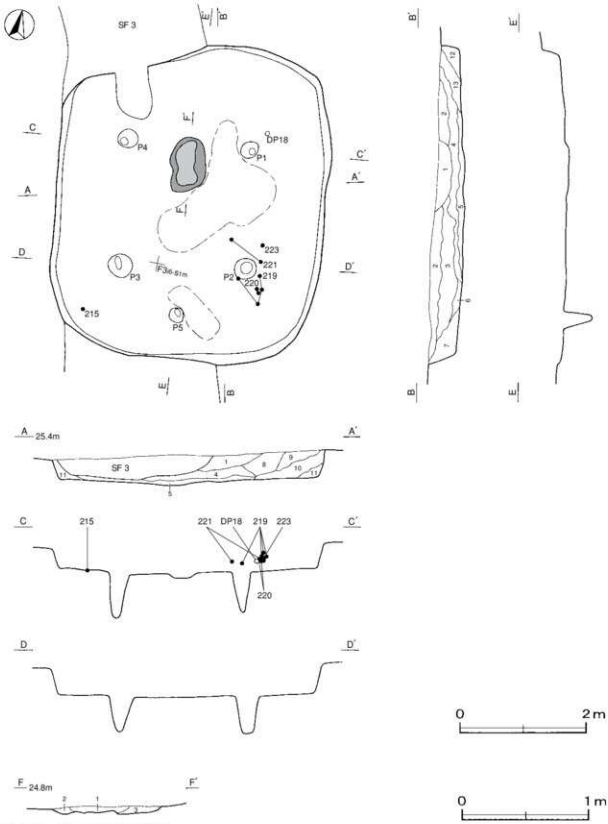
第13図　第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
213	弥生土器	広口壺	[12.8]	(7.6)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部に原体押圧　口辺部に附加条一種（附加２条）の縄文施文　頸部による刺突列１列　刺突列上に貼瘤　胴部上位に無文帯	床面	5％
214	弥生土器	広口壺	－	(4.9)	6.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条一種（附加２条）の縄文　底部ナデ	床面	5％

第104号住居跡（第14～17図）

位置　調査区西部のＦ３ｈ６区，標高25.1ｍの台地縁辺部に位置している。



第14図　第104住居跡実測図

重複関係　第３号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.08m，短軸4.26mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は30～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の南東側及びＰ５の北東側が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径85cm，短径55cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量	
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	
3	赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ58～74cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ44cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

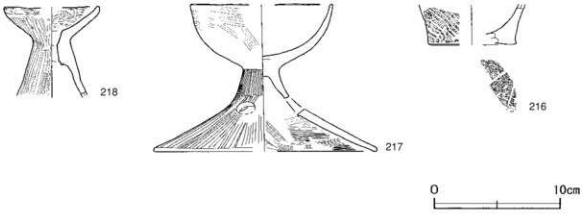
覆土　13層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

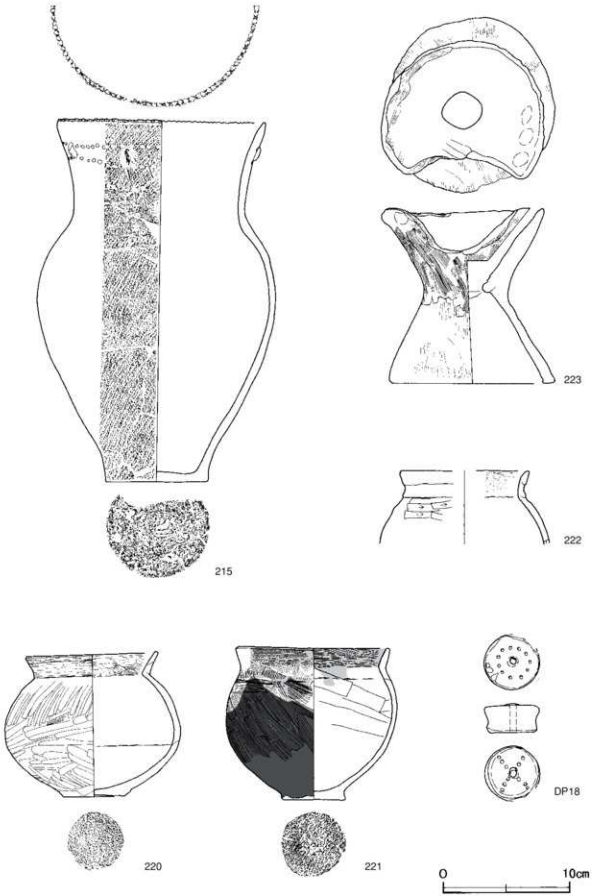
1	黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒褐色	ローム粒子微量	
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
5	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
6	褐色	ロームブロック微量	
7	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
8	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
9	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
11	明褐色	ロームブロック少量	
12	にぶい褐色	ロームブロック微量	
13	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　弥生土器片69点（広口壺），土製品１点（紡錘車），礫１点のほかに，埋没の過程で投棄された土師器片101点も出土している。215は南西コーナー部の床面から横位で出土している。また，219～221・223を含む土師器片の大部分は南東側の覆土中層からまとまって出土しており，住居廃絶後の窪地にまとまって投棄されたものである。

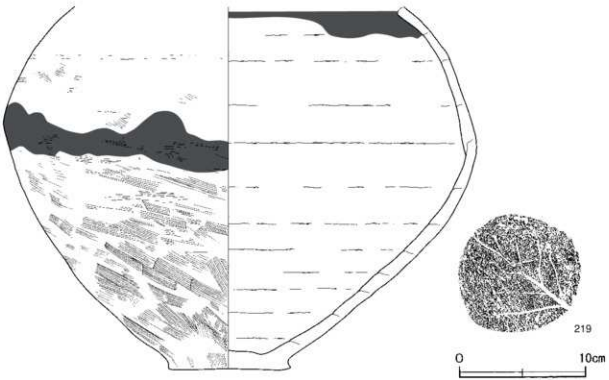
所見　土器の出土状況から，弥生土器と土師器との共伴関係とは考えにくく，時間的な断絶が想定される。また，まとまって投棄された土師器の推定個体数は９点（器台１，炉器台１，高坏１，壺１，甕２，小形甕３）であり，出土状況から南東コーナー部から投棄されたと考えられる。時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第15図　第104号住居跡出土遺物実測図(1)



第16図　第104号住居跡出土遺物実測図(2)



第17図　第104号住居跡出土遺物実測図(3)

第104号住居跡出土遺物観察表（第15～17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置		備考
215	弥生土器	広口壺	16.3	25.8	8.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇部に原体押圧．口辺部及び頸部に附加条一種（附加２条）の縄文　口辺部に原体による刺突列を２条巡らした後刺突列間に貼瘤　頸部と脚部を分割する無文帯　胴部に附加条一種（附加２条）の縄文　底部調整痕	床面	90%	PL30
216	弥生土器	広口壺	－	(3.2)	[7.0]	石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部外面に附加条一種（附加２条）の縄文　底部本葉痕	覆土中	5％	
217	土師器	高坏	[11.2]	11.7	[17.4]	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ハケ目後ナデ　内面摩滅調整不明　脚部外面ハケ目後ヘラ磨き　内面ハケ目後ナデ　透孔	覆土中	60%	
218	土師器	器台	[7.5]	(7.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部・外面横ナデ　脚部外面ハケ目後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中	20%	
219	土師器	甕	－	(28.8)	9.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部ハケ目後ナデ　内面ナデ　輪積痕　底部本葉痕	覆土中層	60% ２次転用？	PL45
220	土師器	小形甕	10.2	11.5	4.9	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ　内面ハケ目　体部外面ハケ目後ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土中層	85%	PL42
221	土師器	小形甕	11.8	12.1	5.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整後横ナデ　体部外面ハケ目内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	75%	PL42
222	土師器	小形甕	[10.1]	(5.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面輪積痕　内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中	5％	
223	土師器	甲器台	12.2	14.0	13.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面上部ハケ目　下部ハケ目後ナデ　内面ヘラナデ　指頭圧痕　輪積痕	覆土中層	95%	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP18	紡錘車	4.4	0.75	2.3	(83.1)	土（長石・石英・雲母）	ナデ　上面に棒状工具による円形状の刺突　下面に同工具による放射状の刺突　一方向からの穿孔	覆土中層	

第105号住居跡（第18・19図）

位置　調査区西部のＦ３f6区，標高24.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸3.58m，短軸2.90mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は42～58cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。

炉　中央部のやや北寄りに位置している。長径100cm，短径60cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量　　2　暗 赤 灰 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

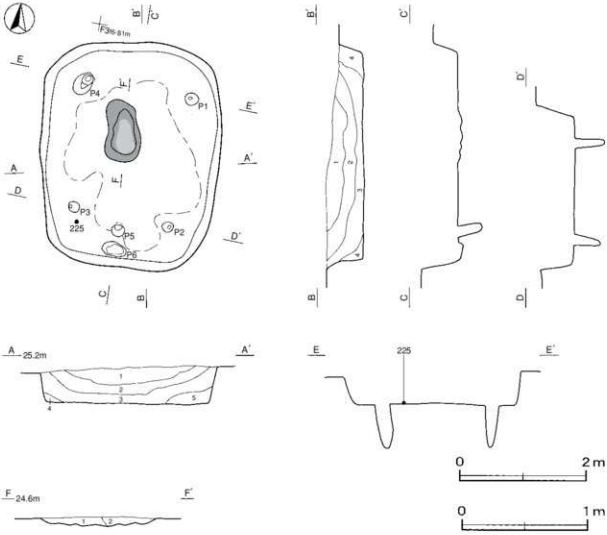
ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ40～71cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ35cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６の性格は不明である。

覆土　５層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

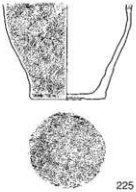
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片18点（高坏１，広口壺17）のほかに，流れ込んだ縄文土器片１点，混入した土師器片８点も出土している。224は炉の覆土中，225はＰ３付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第18図　第105号住居跡実測図



第19図　第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
224	弥生土器	高坏	－	(5.9)	4.7	長石・石英	明黄褐	普通	坏部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　脚部内・外面ナデ	炉内	40%
225	弥生土器	広口壺	－	(7.5)	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部に附加条一種（附加２条）の縄文　底部調整痕	床面	30%

第106号住居跡（第20～23図）

位置　調査区北部のＦ３ｅ３区，標高24.5ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸3.66ｍ，短軸3.05ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－44°－Ｗである。壁高は32～54cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から南東壁際にわたって広く踏み固められている。

炉　中央部やや北西寄りに位置している。長径74cm，短径58cmの楕円形で，床面を８cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ51～60cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ９cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

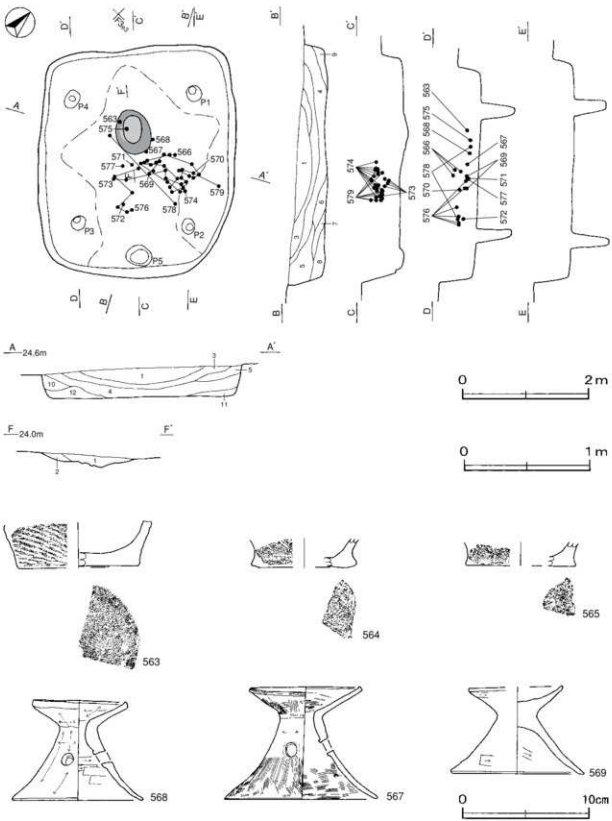
覆土　12層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム・ブロック微量
3　極暗褐色　ローム・ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム・ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム・ブロック・焼土ブロック微量
7　暗　褐　色　ローム・ブロック微量
8　褐　　色　ローム・ブロック微量
9　褐　　色　ローム粒子中量
10　褐　　色　ローム・ブロック中量
11　暗　褐　色　ローム・ブロック中量，炭化物微量
12　暗　褐　色　ローム・ブロック中量，焼土粒子微量

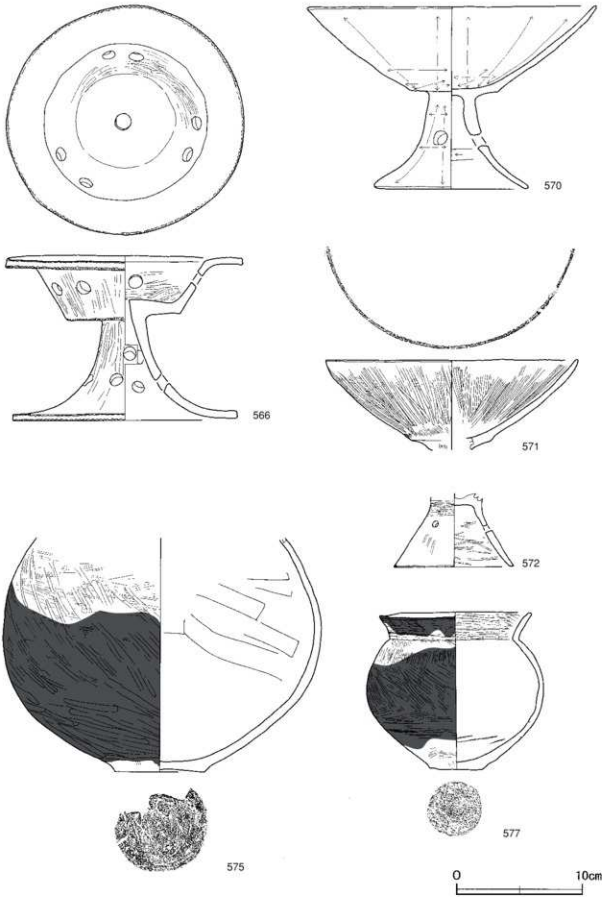
遺物出土状況　弥生土器片25点（壺）のほかに，投棄された土師器片16点も出土している。遺物の大部分が中央部の覆土中層から下層で出土しており，弥生土器の大部分は土師器の下から出土している。

所見　土師器は，覆土第４層が自然に堆積する中で廃棄されたと考えられ，平面的な出土位置とレベルから見ると東コーナー部側からの投棄が想定される。まとまって投棄された土師器の推定個体数は16点（装飾器台１，器台３，高坏５，甕４，小形甕１，台付甕２）である。当該時期を明確に判断できる遺物は少ないが，遺物の出土状況が浅い谷を挟んで北側に位置する第12号住居跡（弥生時代後期後半）と類似している。時期は，出土

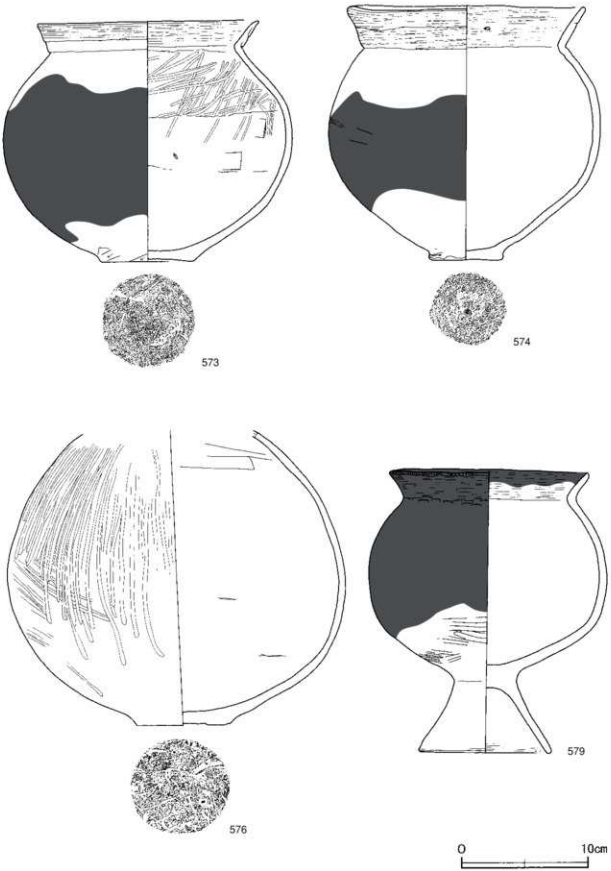
土器や遺構の形状や規模が付近の弥生時代後期後半の遺構と類似していることから弥生時代後期後半と考えられる。



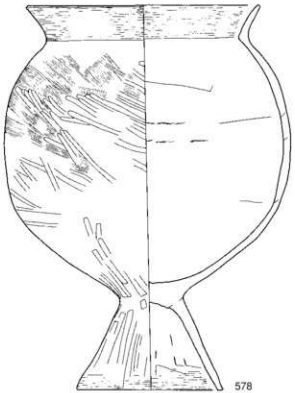
第20図　第106号住居跡・出土遺物実測図



第21図　第106号住居跡出土遺物実測図(1)



第22図　第106号住居跡出土遺物実測図(2)



第23図　第106号住居跡出土遺物実測図(3)

第106号住居跡出土遺物観察表（第20～23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考	
563	弥生土器	壺	－	(3.5)	[9.3]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文　底部調整痕	覆土下層	5％	
564	弥生土器	壺	－	(2.3)	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文　底部調整痕	覆土中	5％	
565	弥生土器	壺	－	(1.9)	[8.8]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文　底部調整痕	覆土中	5％	
566	土師器	装飾器台	18.5	13.1	17.8	雲母	橙	普通	器受部及び脚端部に棒状工具による押圧　器受部内・外面及び脚部外面ヘラ磨き　器受部に2対3か所の窓　脚部上部に3窓、下位に6窓	覆土中層	95％	PL.39
567	土師器	器台	8.7	8.9	12.2	長石・石英	明赤褐	普通	器受部内・外面及び脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　脚部内面ハケ目調整後ナデ　3窓	覆土下層	95％	PL.39
568	土師器	器台	7.3	8.0	10.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	器受部内・外面及び脚部外面丁寧なヘラ磨き　脚部内面ヘラ削り後ヘラナデ　3窓	覆土下層	90％	PL.39
569	土師器	器台	[7.3]	7.0	10.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器受部外面及び脚部内・外面ヘラ削り後ナデ	覆土中層～下層	70％	
570	土師器	高坏	22.6	14.6	12.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部内・外面及び脚部外面丁寧なヘラ磨き　脚部内面ヘラ削り後ナデ　3窓	覆土下層	95％	PL.41
571	土師器	高坏	19.8	(7.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部にハケ目　坏部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土中層	60％	PL.40
572	土師器	高坏	－	(5.8)	9.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面摩滅により一部のヘラ磨き以外調整不明　内面ヘラ磨き　3窓	覆土中層	45％	
573	土師器	甕	17.3	19.0	7.2	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土中層～下層	70％ 将棋	PL.43
574	土師器	甕	18.7	20.3	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ハケ目調整後ナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土中層	75％	PL.43
575	土師器	甕	－	(18.6)	7.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面ナデ　底部二次加工	覆土下層	60％	
576	土師器	甕	－	(23.5)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土中層～下層	45％	
577	土師器	小型甕	11.7	12.5	4.3	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部ヘラ目調整後横ナデ　体部外面上位ハケ目調整　下位ハケ目調整後ナデ　輪積痕	覆土下層	100％	PL.42
578	土師器	台付甕	18.2	30.5	11.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面及び脚端部横ナデ　体部及び脚部外面ハケ目調整後ヘラナデ　体部及び脚部内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層～下層	90％	PL.46
579	土師器	台付甕	15.6	22.5	10.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部に棒状工具による押圧　口辺部内・外面及び脚端部横ナデ　口辺部下面及び体部外面ヘラナデ　内面及び脚部内・外面ナデ	覆土中層	95％	PL.46

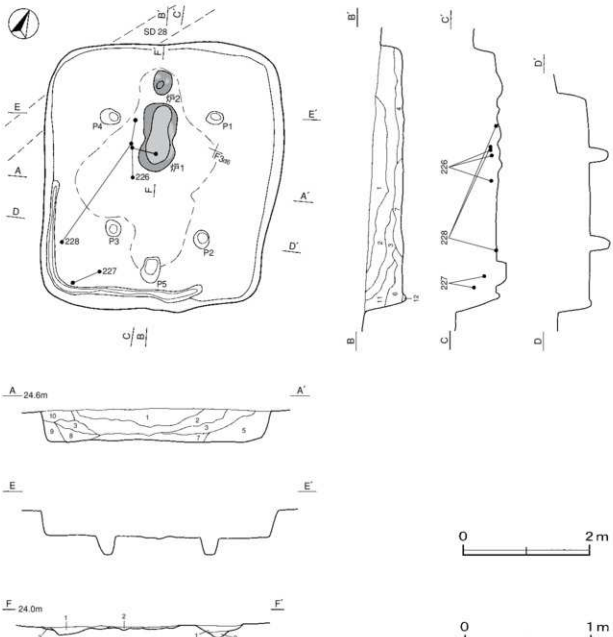
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP96	弥生土器	壺	－	(7.9)	－	長石・石英	にぶい・橙	普通	胴部に 凹 の単節縄文	覆土中層	5％
TP99	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条一種(附加２条)の縄文　羽状構成	覆土中層	5％

第107号住居跡（第24・25図）

位置　調査区西部のＦ３ｄ5区，標高24.5mの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第28号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.22m，短軸3.78mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－20°－Ｗである。壁高は34～67cmで，外



第24図　第107号住居跡実測図

傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は南西コーナー部に確認されている。

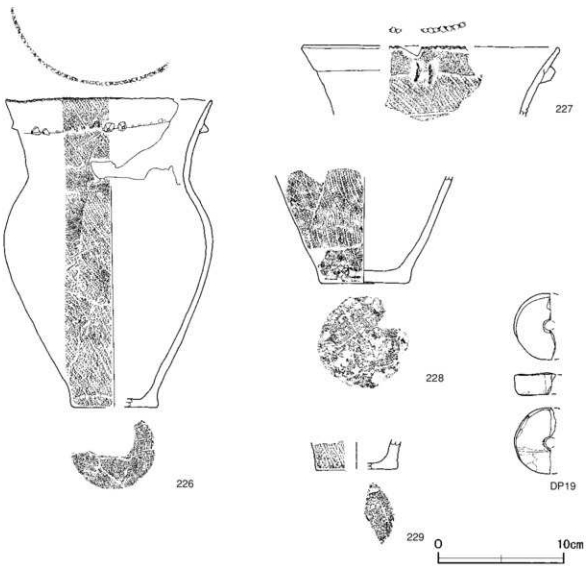
炉　2か所。炉1は，中央部のやや北寄りに位置している。長径108cm，短径46cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は，炉1のさらに北側に位置している。長径40cm，短径28cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化しているが部分的であり，規模も炉1の半分以下であることから，炉1が主に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量

炉2土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　5か所。P1～P4は深さ28～31cmで，主柱穴である。P5は深さ18cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。



第25図　第107号住居跡出土遺物実測図

土層解説
1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3 黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4 暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5 褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6 暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7 褐　　色　ロームブロック中量
8 褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 褐　　色　ロームブロック少量
10 黒　褐　色　ロームブロック少量
11 褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
12 暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　弥生土器片66点（広口壺），土製品１点（紡錘車）のほかに，混入した土師器片18点も出土している。226は中央部の覆土最下層，227は南西コーナー付近の覆土中層，228は西壁際の床面及び炉の西側からそれぞれ出土している。DP19は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第107号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
226	弥生土器	広口壺	[16.3]	24.0	6.7	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部に原体押圧　複合口縁　口辺部から頸部に附加条一種（附加２条）の縄文　口辺部下端に原体押圧後対の貼瘤　胴部附加条一種（附加２条）の縄文　底部調整痕	覆土最下層	20% PL30
227	弥生土器	広口壺	[20.1]	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部に棒状工具による押圧　複合口縁　口辺部無文　下端に貼瘤　頸部上位に附加条一種（附加２条）の縄文　頸部中位に２条の沈線	覆土中層	5%
228	弥生土器	広口壺	－	(8.5)	7.0	長石・石英・雲母・白色粒子	明黄褐	普通	胴部に附加条一種（附加２条）の縄文　底部調整痕	床面	15%
229	弥生土器	広口壺	－	(2.3)	[6.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部に附加条一種（附加２条）の縄文　底部木葉痕	覆土中	5%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP19	紡錘車	[5.3]	[0.8]	1.8	(63.1)	土（長石・石英・雲母）	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

第108号住居跡（第26・27図）

位置　調査区北部のＦ３ｄ８区，標高24.7ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.63ｍ，短軸4.25ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－18°－Ｗである。壁高は32～54cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北壁寄りに焼土塊が確認されている。

炉　中央部のやや北寄りに位置している。長径98cm，短径46cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1 暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
3 極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ62～70cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ36cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

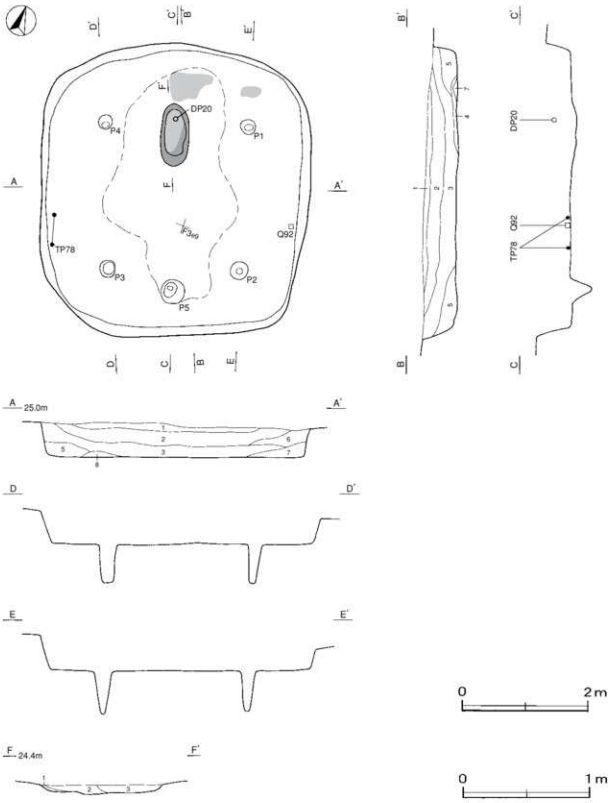
覆土　８層に分層される。第４層は，堆積状況から住居廃絶後，人為的に投げ込まれたと考えられるが，その他の層は，レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
5 褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8 暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量

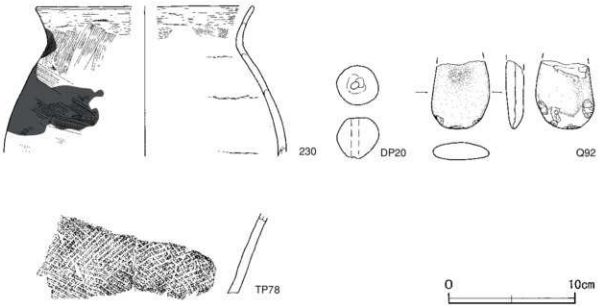
遺物出土状況　弥生土器片13点（広口壺），土製品１点（球状土錘），石器１点（磨製石斧）のほかに，混入し

た土師器片38点も出土している。TP78は西壁際の床面から，Q92は東壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は確認されていないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第26図　第108号住居跡出土遺物実測図



第27図　第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
230	土師器	甕	[17.2]	(11.9)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後横ナデ　体部外面ハケ目　内面ナデ　輪積痕	覆土中	5％
TP78	弥生土器	広口壺	－	(6.1)	－	長石・石英	橙	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文　羽状構成	床面	5％

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	球状土錘	3.4	0.6	3.2	(29.2)	土(長石・石英・雲母)	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q92	磨製石斧	(5.4)	4.6	(1.5)	(204.8)	砂岩	定角式　両刃　両面に調整痕	床面	

第109号住居跡（第28・29図）

位置　調査区北部のＦ３a9区，標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第８号炭焼遺構に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.89m，短軸3.46mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は26～31cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径92cm，短径52cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

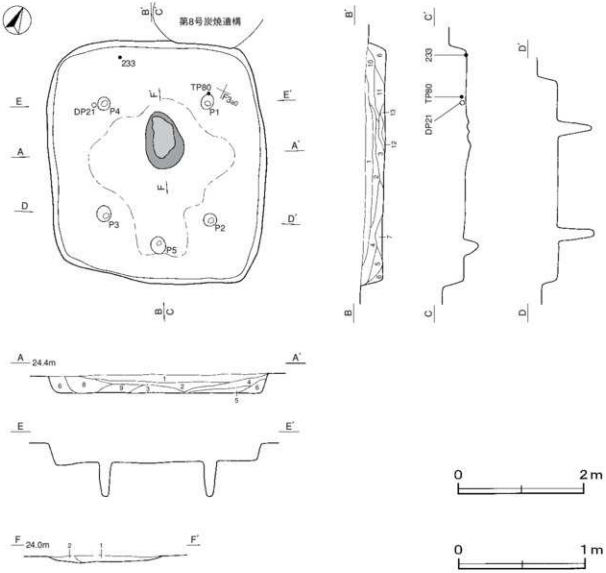
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ53～58cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　13層に分層される。第１・２層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが，他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

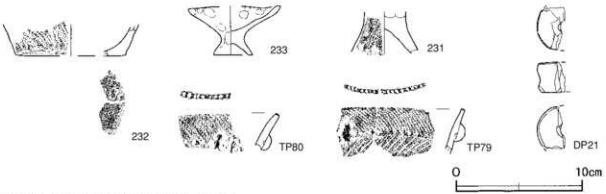
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片57点（高坏１，広口壺56），ミニチュア土器１点（高坏），土製品２点（球状土錘，紡錘車）のほかに，混入した土師器片29点も出土している。233は北壁際，TP80はＰ１付近の床面からそれぞれ出土し，DP21はＰ４付近の覆土下層から出土している。土師器片は第２層よりも上層から出土しており，住居廃絶後の窪地に流れ込んだものである。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第28図　第109号住居跡実測図



第29図　第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
231	弥生土器	高坏	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面附加条一種(附加2条)の縄文　内面ナデ	覆土中	10%
232	弥生土器	広口壺	－	(2.5)	[8.7]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文　底部調整痕	覆土中	5%
233	弥生土器	ミニチュア	[7.3]	3.9	3.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	全面ナデ　指頭圧痕	床面	60%　高坏
TP79	弥生土器	広口壺	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に棒状工具による押圧　複合口縁　口辺部に見し の単節縄文　口辺部下端に棒状工具による刺突列1条施らした後貼瘤　頸部に附加条一種(附加2条)の縄文	覆土中	5%
TP80	弥生土器	広口壺	－	(2.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部棒状工具による押圧　口辺部に附加条一種(附加2条)の縄文　口辺部下端に棒状工具による刺突列1条を施らした後対の貼瘤	床面	5%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	紡錘車	－	－	2.4	18.9	土（長石・石英）	丁寧なナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	

第123号住居跡（第30図）

位置　調査区北西部のＤ３ｈ４区，標高23.5ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　一辺が3.65ｍ前後の隅丸方形で，主軸方向はＮ－32°－Ｅである。壁高は25～42㎝で，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径81㎝，短径60㎝の楕円形で，床面を８㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

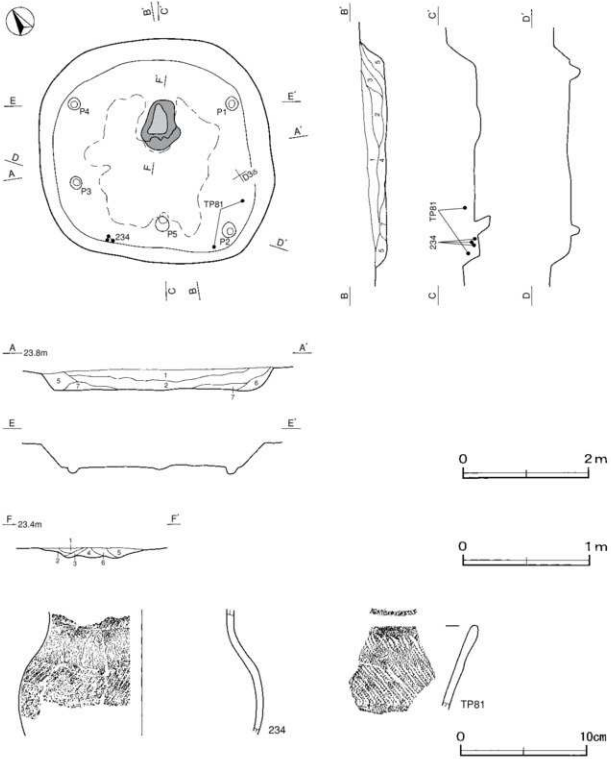
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ10～17㎝で，主柱穴である。Ｐ５は深さ22㎝で，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　７層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片54点（広口壺53，甕形１）のほかに，流れ込んだ縄文土器片３点，混入した土師器片11点も出土している。234は南西コーナー付近の覆土下層，TP81は南東コーナー付近の中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第30図　第123号住居跡・出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
234	弥生土器	広口壺	－	(10.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部に附加条一種（附加２条）の縄文　頸部と胴部を分割する無文帯　胴部に附加条一種（附加２条）の縄文	覆土下層	10% 胴部外面に煤付着
TP81	弥生土器	広口壺	－	(6.6)	－	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部に櫛描押圧　口辺部上端横ナデ　口辺部にＲＬの単節縄文　頸部無文帯	覆土中層	5%

第124号住居跡（第31・32図）

位置　調査区北西部のＤ３f2区，標高23.6mの台地緩辺部に位置している。

規模と形状　長軸2.90m，短軸2.65mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は18～27cmで，外傾して立ち上がっている。

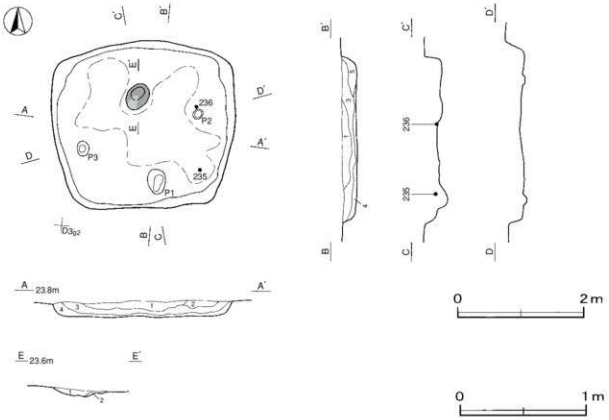
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径46cm，短径33cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　赤　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１は深さ15cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２・Ｐ３は深さ６cmで，性格は不明である。

覆土　５層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

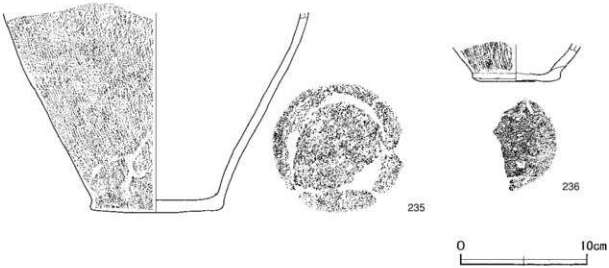


第31図　第124号住居跡実測図

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片11点（広口壺）が出土している。235は南東コーナー付近の覆土下層からまとまって出土した土器片が接合したものであり，埋没過程の早い段階で投棄されたと考えられる。236は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第32図　第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
235	弥生土器	広口壺	－	(15.9)	10.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部に附加条一種(附加２条)の縄文　底部砂目痕	覆土下層	30%
236	弥生土器	広口壺	－	(3.0)	[7.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部に附加条一種(附加２条)の縄文　底部調整痕	床面	5%

第125号住居跡（第33・34図）

位置　調査区北西部のＤ２f0区，標高23.4mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸4.84m，短軸4.15mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｗである。壁高は39～63cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が広く踏み固められている。北西側に焼土塊が２か所確認されている。

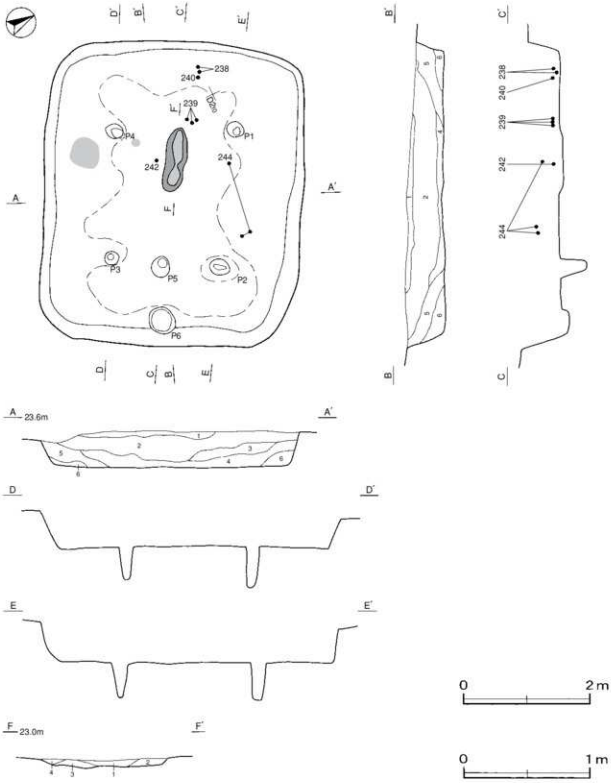
炉　中央部やや北寄りに位置している。長径106cm，短径33cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　にぶい褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
x

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ56～65cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ41cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６の性格は不明である。

覆土　6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

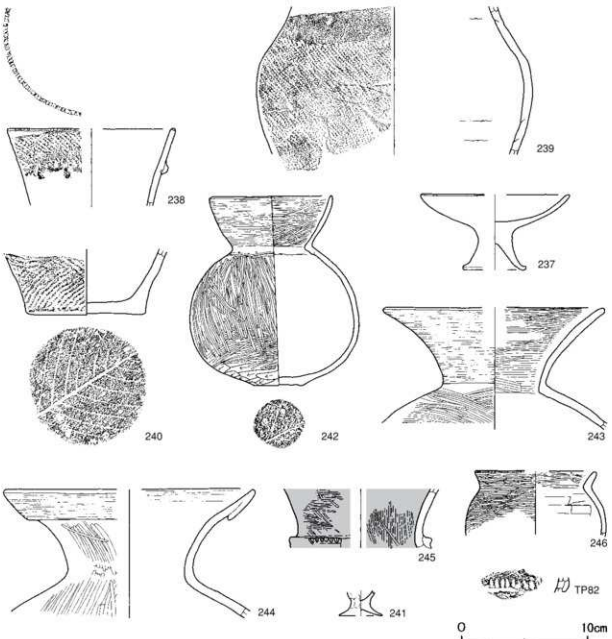
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量、焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量、焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量



第33図　第125号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片107点（高坏２，広口壺105），ミニチュア土器１点（高坏）のほかに，流れ込んだ縄文土器片11点，投棄された土師器片100点も出土している。238～240は北西壁際の覆土最下層から出土している。242は完形で，中央部の覆土中層下位から出土している。他の土師器片も覆土中層から上層にかけて出土しており，埋没過程で窪地に投棄されたものと考えられる。

所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。土器の出土状況から，弥生土器と土師器との共伴関係とは考えにくく，時間的な断絶が想定されることは第104号住居跡と同様である。しかし，土師器の出土位置が低いことなどから時間的な断絶は第104号住居跡ほど開いていない。また，まとまって投棄された土師器の推定個体数は11点（坩１，壺５，甕１，小形甕４）で，出土状況から住居廃絶後の早い時期に投棄されたと考えられる。時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



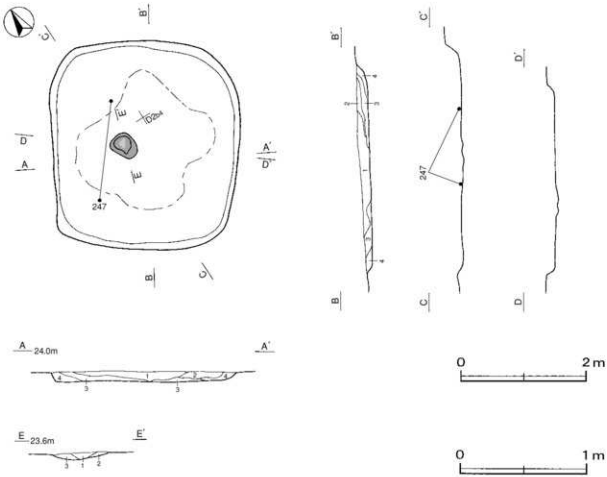
第34図　第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考		
237	弥生土器	高坏	[11.8]	6.0	[4.9]	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	内・外面摩滅調整不明	覆土中	15%		
238	弥生土器	広口壺	[13.3]	(6.1)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口唇部棒状工具による押圧　複合口縁　口辺部に附加条一種（附加２条）の縄文　頸部上端に棒状工具による刺突列１条を巡らした後刺の貼瘤　頸部無文帯	覆土最下層	5%		
239	弥生土器	広口壺	－	(11.7)	－	石英・白色粒子	黒褐	普通	頸部と胴部を分割する無文帯　胴部に附加条一種（附加２条）の縄文　輪積痕	覆土最下層	10%		
240	弥生土器	広口壺	－	(5.2)	9.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条二種（附加１条）の縄文　羽状構成　底部木葉痕	覆土最下層	10%		
241	弥生土器	ミニチュア	－	(2.0)	[3.3]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	全面ナデ　指頭圧痕	覆土中	45%	高坏ヵ	
242	土師器	坩	9.6	15.1	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き後横ナデ　体部外面ヘラ磨き　下端ヘラ削り　輪積痕　底部木葉痕	覆土中層	100%	PL.37	
243	土師器	壺	[17.2]	(9.6)	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内面ヘラ磨き　外面横ナデ　体部外面ヘラ磨き	覆土中	15%	PL.42	
244	土師器	壺	[19.6]	(10.2)	－	石英・赤色粒子	橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　頸部及び体部外面ヘラ磨き	覆土中層	10%		
245	土師器	壺	－	(4.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	頸部内・外面ヘラ磨き　頸部下端にキザミを有する粘土紐貼付	覆土中	5%		
246	土師器	小形甕	[9.4]	(5.1)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口唇部ヘラ状工具によるキザミ　口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中	10%		
TP82	土師器	壺	－	(1.2)	－	石英・白色粒子	橙	普通	折り返し口縁　複合口縁　口辺部刷目状の懸垂文　口辺部下端原体押圧　内・外面赤彩	覆土中層	5%		

第126号住居跡（第35・36図）

位置　調査区北西部のＤ２b3区，標高23.7mの台地縁辺部に位置している。



第35図　第126号住居跡実測図

規模と形状　長軸3.29m，短軸3.01mの隅丸方形で，主軸方向はN－30°－Eである。壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が広く踏み固められている。

炉　中央部やや西寄りに位置している。長径44cm，短径36cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

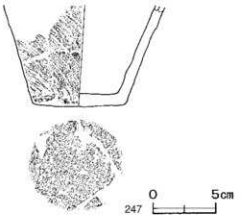
炉土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量，炭化粒子微量

覆土　4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

炉土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　弥生土器片21点（広口壺）のほかに，流れ込んだ縄文土器片9点，混入した土師器片3点も出土している。247は西壁側と北側の土器片が接合したもので床面から出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第36図　第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
247	弥生土器	広口壺	－	(8.0)	7.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部に附加条一種（附加1条）の縄文　底部調整痕	床面	10%

第127号住居跡（第37図）

位置　調査区北西部のC2h1区，標高24.2mの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第1号石器集中地点を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.96m，短軸2.86mの隅丸方形で，主軸方向はN－45°－Wである。壁高は24～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北西寄りに位置している。長径57cm，短径38cmの楕円形で，床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

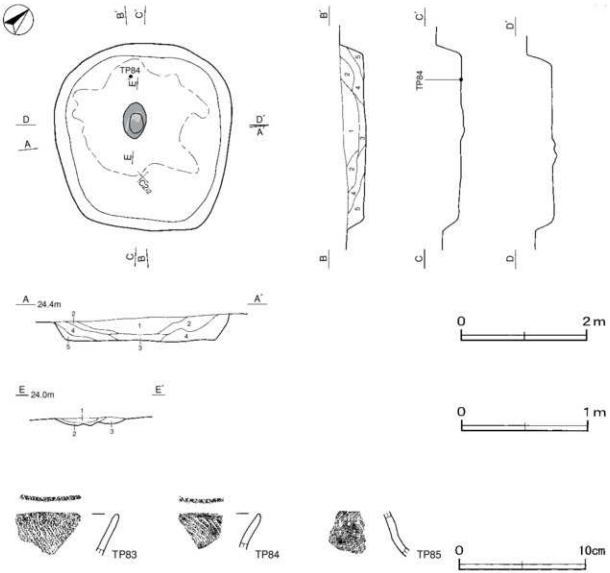
炉土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子微量

覆土　5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片22点（広口壺）のほかに，流れ込んだ縄文土器片８点，混入した土師器片１点も出土している。TP84は北壁付近の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第37図　第127号住居跡・出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP83	弥生土器	広口壺	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部に原体押圧　口辺部に附加条一種（附加２条）の縄文	覆土中	5％
TP84	弥生土器	広口壺	－	(2.9)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に原体押圧　口辺部に附加条一種（附加２条）の縄文	床面	5％
TP85	弥生土器	広口壺	－	(3.5)	－	石英・長石・雲母	褐	普通	頸部に附加条一種（附加２条）の縄文　口辺部下端に棒状工具による刺突列１条　頸部と胴部を分割する無文帯	覆土中	5％

第128号住居跡（第38・39図）

位置　調査区北西部のＣ１h9区，標高23.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸3.23m，短軸3.07mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－51°－Ｗである。壁高は30～52cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径68cm，短径43cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

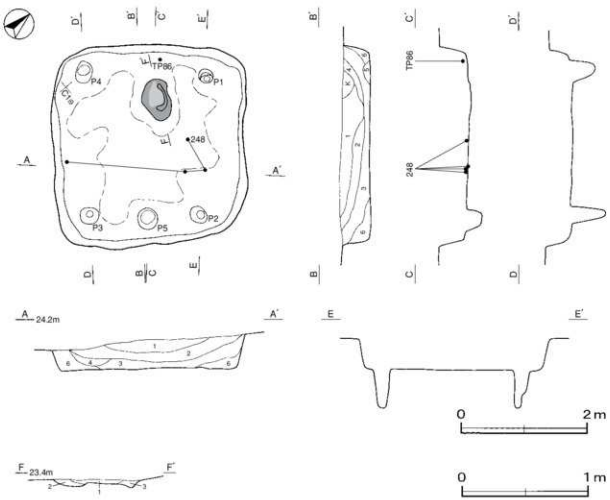
1	黒　褐　色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	
2	褐　　色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
3	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量	

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ38～61cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ21cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

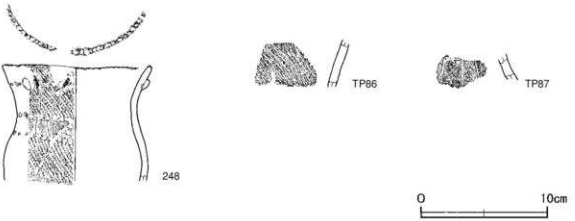
1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	
5	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	
6	褐　　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	



第38図　第128号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片19点（広口壺）のほかに，流れ込んだ縄文土器片18点も出土している。248は南西壁際の床面から横位で出土した頸部と，東側の床面から出土した土器片がそれぞれ接合したものである。TP86は北西壁付近の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第39図　第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考	
248	弥生土器	広口壺	11.5	(9.1)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部に原体押圧　口辺部及び頸部に附加条一種（附加2条）の縄文　口辺部中位に原体による刺突列1条を巡らした後対の貼瘤　無文帯上端に原体による刺突列1条　頸部と胴部を分割する無文帯	床面	30%	PL.30
TP86	弥生土器	広口壺	－	(3.8)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	胴部に附加条二種（附加1条）の縄文	覆土下層	5%	
TP87	弥生土器	広口壺	－	(1.9)	－	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	棒状工具による沈線により区画　区画内に格子状文	覆土中	5%	

第131号住居跡（第40・41図）

位置　調査区北西部のＤ２ｅ7区，標高23.4mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸4.11m，短軸3.61mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｗである。壁高は10～37cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径85cm，短径60cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

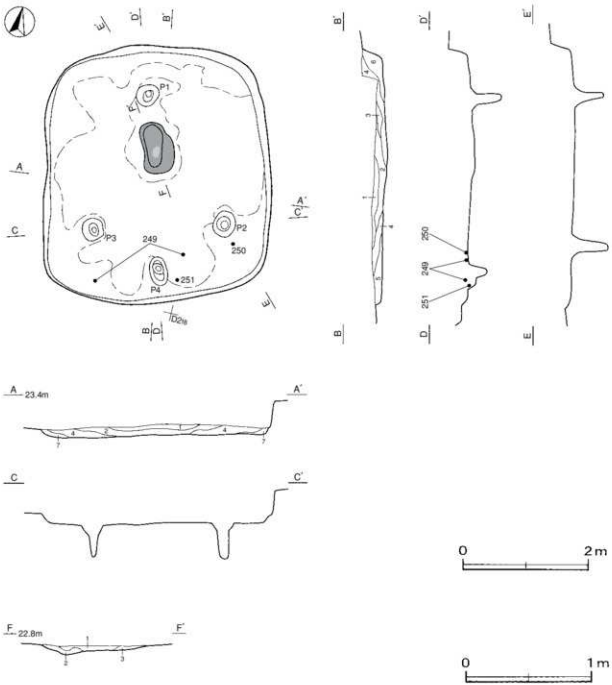
ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ45～57cmで，配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ29cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　７層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

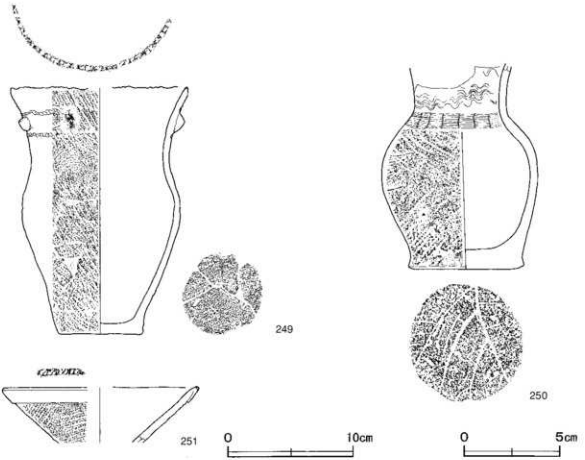
土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　弥生土器片38点（広口壺36，片口壺１，甕形１），ミニチュア土器１点（高坏）が出土している。249・251は南壁付近，250は南東コーナー付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第40図　第131号住居跡実測図



第41図　第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
249	弥生土器	広口壺	[14.0]	19.6	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に原体押圧　口辺部及び頸部に附加条一種（附加2条）の縄文　口辺部に原体による刺突列を2条巡らした後刺突列間に貼瘤　頸部と胴部を分別する無文帯　胴部に附加条一種（附加2条）の縄文　底部砂目痕	床面	50%
250	弥生土器	広口壺	－	[10.9]	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部に櫛歯状工具（9本）による波状文　同工具により頸部下端に波状文　胴部に附加条一種（附加2条）の縄文　底部木葉痕	床面	20%　PL30
251	弥生土器	高坏	[15.6]	[4.4]	－	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部に原体押圧　複合口縁　坏部外面附加条一種（附加2条）の縄文　内面ナデ	床面	5%

表2 弥生時代竪穴住居跡一覧表

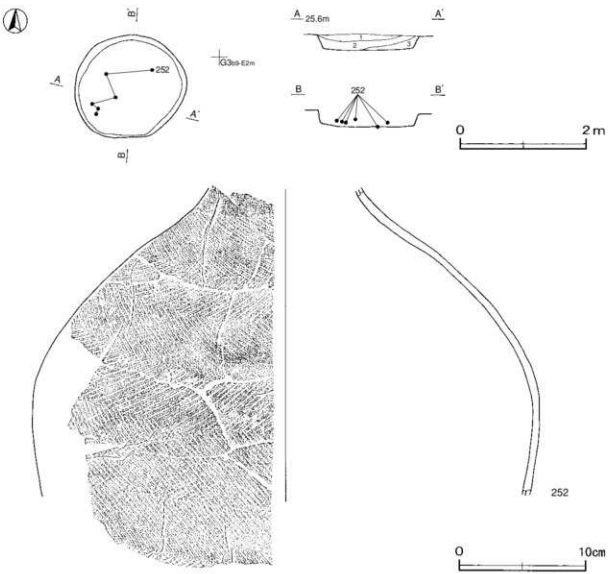
番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉				
102	F 4g1	N－47°－W	隅丸方形	3.30×3.11	44~50	平坦	—	2	—	—	1	自然	弥生土器，土師器	後期後半	本跡→SD23
103	G 3h6	N－17°－W	隅丸方形	3.70×3.42	28~33	平坦	半周	4	1	—	1	自然	弥生土器	後期後半	本跡→SF 3
104	F 3h6	N－10°－W	隅丸長方形	5.08×4.26	30~48	平坦	—	4	1	—	1	人為	弥生土器，土師器，土製品，礫	後期後半	本跡→SF 3
105	F 3f6	N－3°－W	隅丸長方形	3.58×2.90	42~58	平坦	—	4	1	1	1	自然	弥生土器	後期後半	
106	F 3e3	N－44°－W	隅丸長方形	3.66×3.05	32~54	平坦	—	4	1	—	1	自然	弥生土器，土師器	後期後半	
107	F 3d5	N－20°－W	隅丸長方形	4.22×3.78	34~67	平坦	一部	4	1	—	2	人為	弥生土器，土製品	後期後半	本跡→SD28
108	F 3d8	N－18°－W	隅丸方形	4.63×4.25	32~54	平坦	—	4	1	—	1	自然	弥生土器，土師器，土製品，石器	後期後半	
109	F 3a9	N－28°－W	隅丸長方形	3.89×3.46	26~31	平坦	—	4	1	—	1	人為・自然	弥生土器，ミニチュア土器，土製品	後期後半	本跡→第8号炭焼遺構

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	出入口	ピット	炉				
123	D 3h4	N－32°－E	隅丸方形	3.66×3.64	25～42	平坦	—	4	1	—	1	自然	弥生土器	後期後半	
124	D 3f2	N－8°－W	隅丸方形	2.90×2.65	18～27	平坦	—	—	1	2	1	自然	弥生土器	後期後半	
125	D 2f6	N－50°－W	隅丸長方形	4.84×4.15	39～63	平坦	—	4	1	1	1	自然	弥生土器，ミニチュア土器，土師器	後期後半	
126	D 2h3	N－30°－E	隅丸方形	3.29×3.01	10～20	平坦	—	—	—	—	1	自然	弥生土器	後期後半	
127	C 2h1	N－45°－W	隅丸方形	2.96×2.86	24～40	平坦	—	—	—	—	1	自然	弥生土器	後期後半	第１号石器集中地点→本跡
128	C 2h9	N－51°－W	隅丸方形	3.23×3.07	30～52	平坦	—	4	1	—	1	自然	弥生土器	後期後半	
131	D 2e7	N－17°－W	隅丸長方形	4.11×3.61	10～37	平坦	—	3	1	—	1	自然	弥生土器，ミニチュア土器	後期後半	

(2) 土坑

第704号土坑（第42図）

位置　調査区北部のＧ３ｂ９区，標高25.4ｍの台地平坦部に位置している。



第42図　第704号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　長径1.77m，短径1.62mの円形で，長径方向はN－0°である。深さは23cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが，含有物や遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　弥生土器片27点（広口壺）が出土している。252は覆土中層から下層にかけて散在した土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第704号土坑出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
252	弥生土器	広口壺	－	(24.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	頸部と胴部を分割する無文帯　胴部に附加条一種（附加2条）の縄文　3次構成	覆土中層～下層	10%

第712号土坑（第43図）

位置　調査区北部のＦ3f8区，標高25.0mの台地平坦部に位置している。

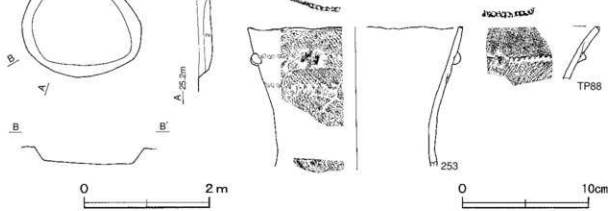
規模と形状　長径1.85m，短径1.68mの楕円形で，長径方向はN－53°－Wである。深さは24cm，底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　2層に分層される。遺物の出土状況と不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片４点（広口壺）が出土している。253は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第43図　第712号土坑・出土遺物実測図

第712号土坑出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
253	弥生土器	広口壺	[17.0]	(11.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部に草体押圧　2段の複合口縁　口辺部に附加条一種（附加1条）の縄文　口辺部中位と下端に草体による刺突列各1条を巡らした後刺の処理　頸部と胴部を分割する無文帯　胴部に附加条一種（附加1条）の縄文	覆土中	10%
TP86	弥生土器	広口壺	－	(4.8)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部に草体押圧　複合口縁　口辺部無文　口辺部下端に棒状工具による刺突後貼瘤　頸部に附加条一種（附加2条）	覆土中	5%

第713号土坑（第44図）

位置　調査区北部のＦ３e7区，標高24.6mの台地平坦部に位置している。

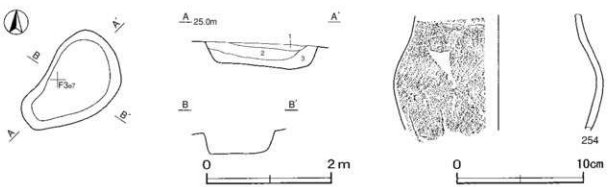
規模と形状　長径1.78m，短径1.16mの不整楕円形で，長径方向はＮ－44°－Ｅである。深さは35cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが，含有物や遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片30点（広口壺）が出土している。254は覆土中から出土した土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第44図　第713号土坑・出土遺物実測図

第713号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
254	弥生土器	広口壺	－	(9.2)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	頸部に附加条一種（附加2条）の縄文　頸部と胴部を分割する無文帯　胴部に附加条一種（附加2条）の縄文	覆土中	10%　胴部外面煤付着

表３弥生時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模（m）（長径×短径）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
704	Ｇ３b9	Ｎ－0°	円形	1.77×1.62	23	外傾	平坦	人為	弥生土器	
712	Ｆ３f8	Ｎ－53°－Ｗ	楕円形	1.85×1.68	24	緩斜	平坦	人為	弥生土器	
713	Ｆ３e7	Ｎ－44°－Ｅ	不整楕円形	1.78×1.16	35	外傾	平坦	人為	弥生土器	

3　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では，台地縁辺部から平坦部にかけて古墳時代の竪穴住居跡56軒，掘立柱建物跡１棟，土坑２基が確認された。以下，遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第38号住居跡（第45図）

位置　調査区南部のＪ３f0区，標高24.0mほどの台地縁辺部の南緩斜面に位置している。

重複関係　第78号ピットに掘り込まれている。

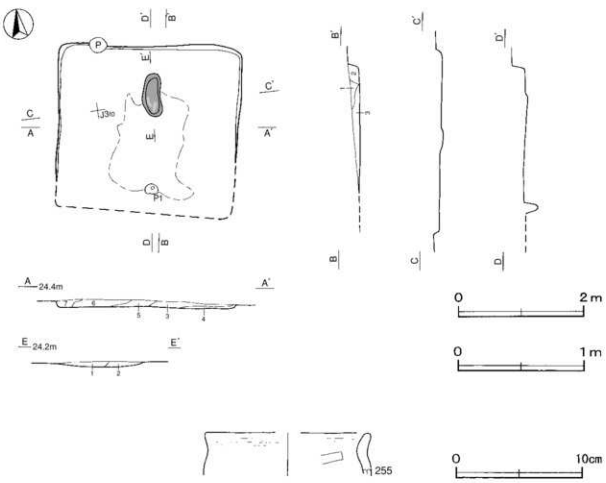
規模と形状　耕作による削平を受けているため全体は確認できなかったが，主軸方向をＮ－８°－Ｅとする長軸2.96m，短軸2.66mの長方形と推定される。壁高は８～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径69cm，短径38cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けてわずかに赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

ピット　１か所。深さは21cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第45図　第38号住居跡・出土遺物実測図

覆土　7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片２点（甕，小形甕）が出土している。255は覆土中からの出土である。

所見　一辺３ｍに満たない小形の住居である。規模や台地縁辺部の限られた平坦部に構築されている点などが第39号住居と類似している。時期は，出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
255	土師器	甕	[13.0]	(3.3)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ	覆土中	5％

第39号住居跡（第46・47図）

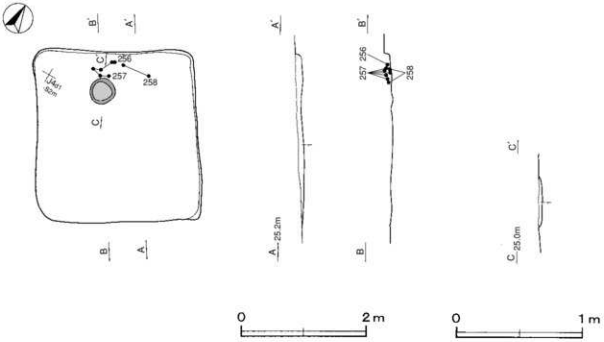
位置　調査区南部のＪ４ｄ１区，標高25.0ｍほどの台地縁辺部の南緩斜面に位置している。

規模と形状　耕作による削平を受けているため，床面が露出した状態で検出された。長軸2.74ｍ，短軸2.54ｍの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は８㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められたところは確認されていない。

炉　中央部の北壁寄りに位置している。長径42㎝，短径40㎝の円形で，床面を３㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けてわずかに赤変している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量



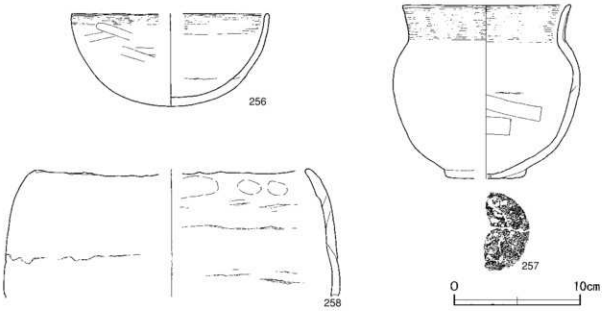
第46図　第39号住居跡実測図

覆土　単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片237点（坏１，椀２，壺１，甕218，小形甕14，甑１），滑石剥片１点が出土している。256～258は北壁際の覆土下層から出土した土器片がそれぞれ接合したものである。

所見　一辺３ｍに満たない小形の住居である。規模や台地縁辺部の限られた平坦部に構築されている点などが第38号住居と類似している。時期は，出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第47図　第39号出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
256	土師器	椀	[15.5]	7.3	－	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	25%
257	土師器	小形甕	13.2	13.8	[6.2]	長石・石英	にぶい・褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	40%
258	土師器	甑	[21.4]	[10.1]	－	長石・石英・雲母	褐	普通	内・外面ナデ　指頭圧痕　輪積痕	覆土下層	15%

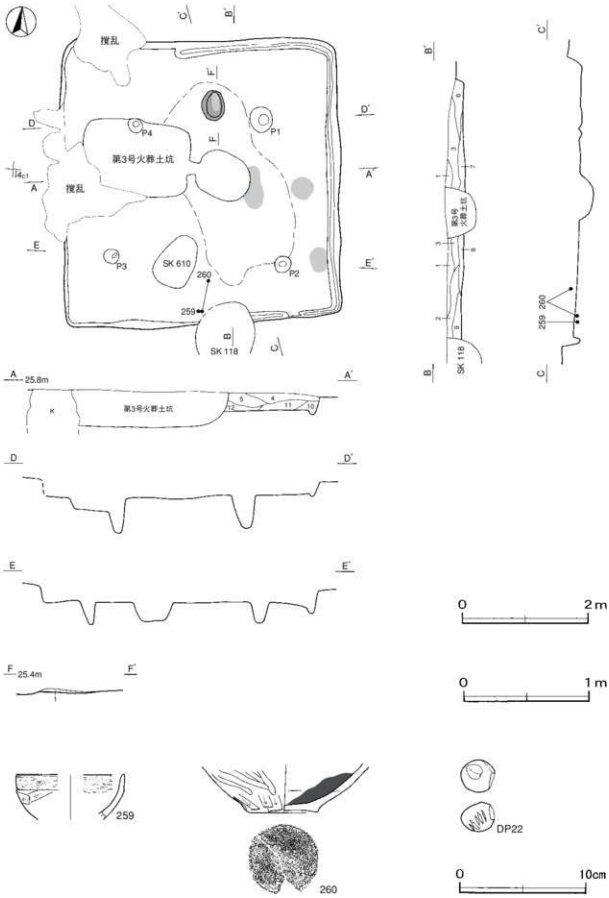
第42号住居跡（第48図）

位置　調査区南部のＩ４ｂ１区，標高25.6ｍの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第３号火葬土坑，第118・610号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.46ｍ，短軸4.42ｍの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は18～28㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東側にかけて踏み固められている。壁溝は南・東・北壁側に確認されている。円形及び楕円形に広がった焼土塊が確認されている。



第48図　第42号住居跡・出土遺物実測図

炉　中央部の北壁寄りに位置している。長径48cm，短径37cmの楕円形で，床面を２cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ30～53cmで，主柱穴である。

覆土　12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
9　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
11　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片33点（坏20，椀１，甕11，小形甕１），不明土製品１点のほかに，混入した陶器片１点も出土している。259は南壁際の床面から出土している。260は南壁際の床面及び覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は，出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
259	土師器	坏	[8.4]	[3.6]	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	床面	20%
260	土師器	甕	－	[3.9]	5.5	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　輪積痕	覆土下層～床面	10%

番号	器種	最大径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	不明	2.5	2.6	2.3	12.9	土（長石・石英）	ナデ	覆土中	

第45号住居跡（第49～51図）

位置　調査区南部のＨ３j0区，標高25.7mの台地緩辺部に位置している。

重複関係　第459・608・609号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.67m，短軸4.66mの長方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は16～33cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉　中央部の北壁寄りに位置している。長径61cm，短径41cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径51cm，短径47cmの円形で，深さは43cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

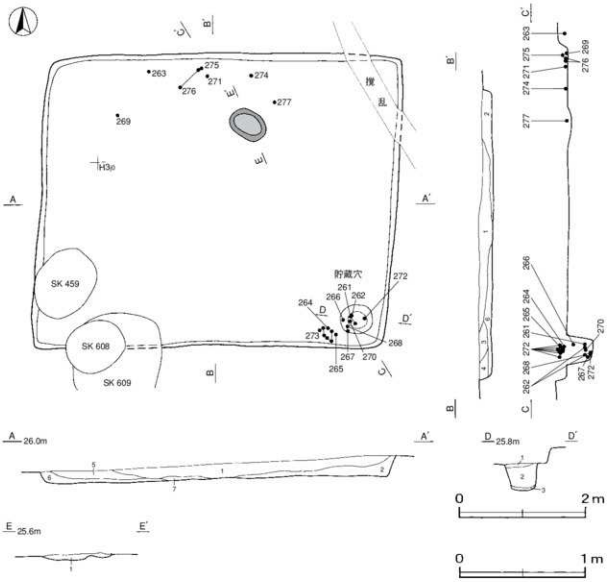
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量

覆土　7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

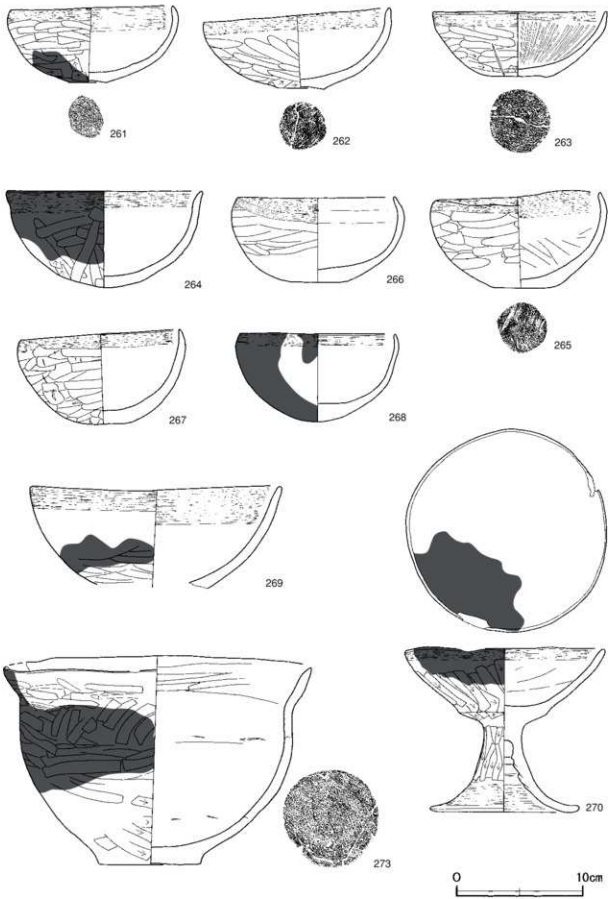
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム ブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片97点（坏４，椀５，高坏１，壺１，甕85，小形甕１）が出土している。261・262・268・270・272はほぼ完形の状態でそれぞれ貯蔵穴の覆土下層，266は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。273は貯蔵穴近くの覆土下層から出土した土器片６点が接合したものである。263・269・271・274～277は北壁際の床面に近い覆土最下層からそれぞれ出土している。

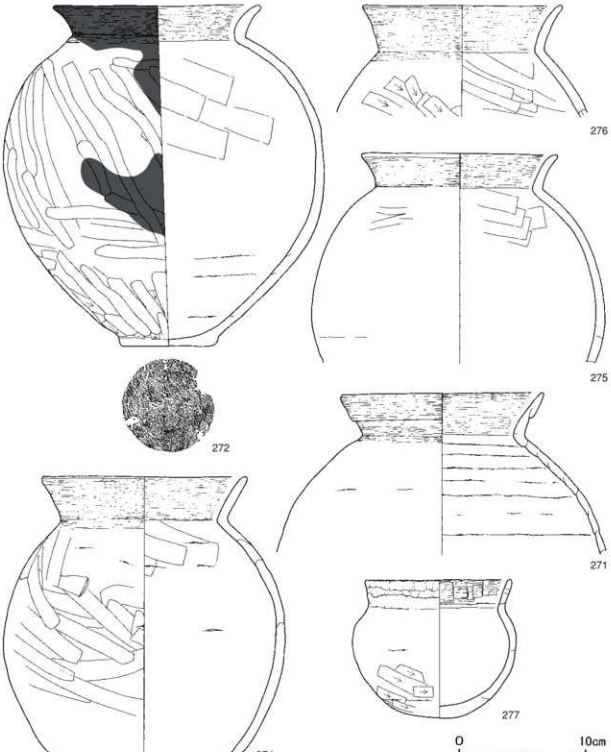
所見　土器は，南東側貯蔵穴付近及び北側壁の２方向からの投棄が想定され，いずれの土器も壁際の覆土下層や貯蔵穴下層からの出土である。特に，貯蔵穴からは椀が５個体，高坏，甕がそれぞれ１個体ずつ出土しており，廃絶後間もない時期に投棄されたと考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



第49図　第45号住居跡実測図



第50図　第45号住居跡出土遺物実測図(1)



第51図　第45号住居跡出土遺物実測図(2)

第45号住居跡出土遺物観察表（第50・51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
261	土師器	椀	12.8	6.0	3.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	貯蔵穴下層	100%	PL.31
262	土師器	椀	14.6	6.5	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	貯蔵穴下層	100%	PL.31
263	土師器	椀	13.7	5.2	4.5	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土最下層	80%	PL.31

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
264	土師器	椀	15.3	7.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	床面	95%	PL.36
265	土師器	椀	13.1	7.7	4.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	100%	PL.31
266	土師器	椀	12.4	6.9	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ	貯蔵穴上層	100%	PL.31
267	土師器	椀	12.6	7.5	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	貯蔵穴下層	95%	PL.31
268	土師器	椀	12.4	7.0	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面摩滅調整不明	貯蔵穴下層	100%	PL.31
269	土師器	椀	19.7	(8.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土最下層	80%	PL.31
270	土師器	高坏	15.5	13.0	11.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ後ナデ　脚部外面ヘラ削り	貯蔵穴下層	100%	PL.40
271	土師器	壺	15.8	(12.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ナデ　輪積痕	覆土最下層	30%	
272	土師器	甕	15.8	27.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	貯蔵穴下層	100%	PL.44
273	土師器	甕	24.2	16.7	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	95%	PL.41
274	土師器	甕	16.1	(22.3)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　輪積痕	覆土最下層	80%	
275	土師器	甕	15.5	(16.6)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　輪積痕	覆土最下層	40%	
276	土師器	甕	15.7	(8.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土最下層	20%	
277	土師器	小型甕	11.5	11.0	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面ナデ　内面ヘラナデ　体部外面ナデ　下端ヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	覆土最下層	100%	PL.43

第46号住居跡（第52～54図）

位置　調査区南部のＨ３ｂ0区，標高25.7ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸4.70ｍ，短軸4.58ｍの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は40～60cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が，東壁から２条，西壁から２条，それぞれ主柱穴につながる形状で確認されている。Ｐ５を取り囲むようにわずかな高まりが確認されている。また，焼土塊が４か所確認され，炭化材も床一面から確認されている。

炉　中央部の北壁寄りに位置している。長径103cm，短径66cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム ブロック微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ68～87cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ25cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

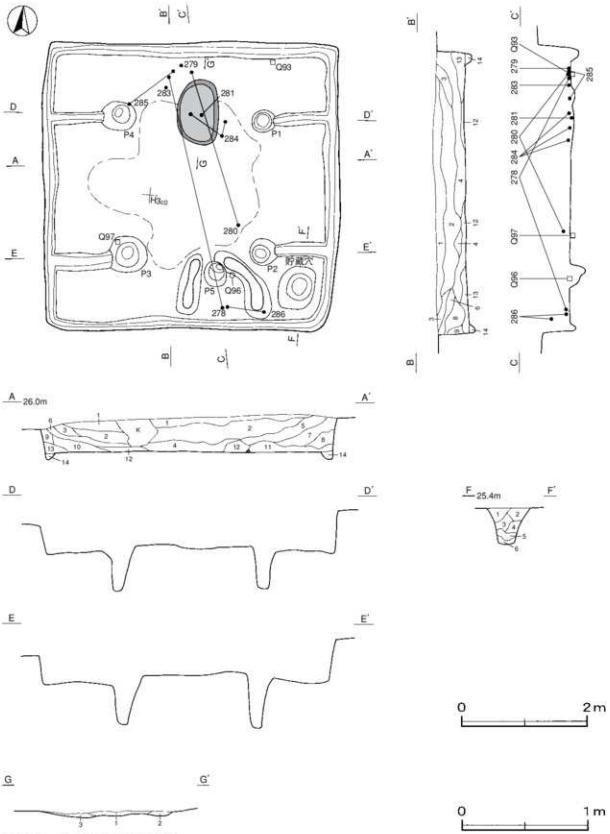
貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径78cm，短径59cmの楕円形で，深さは58cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
6　にぶい褐色　砂質粘土粒子少量，ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　14層に分層される。第１～３層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが，その他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極 暗 褐 色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

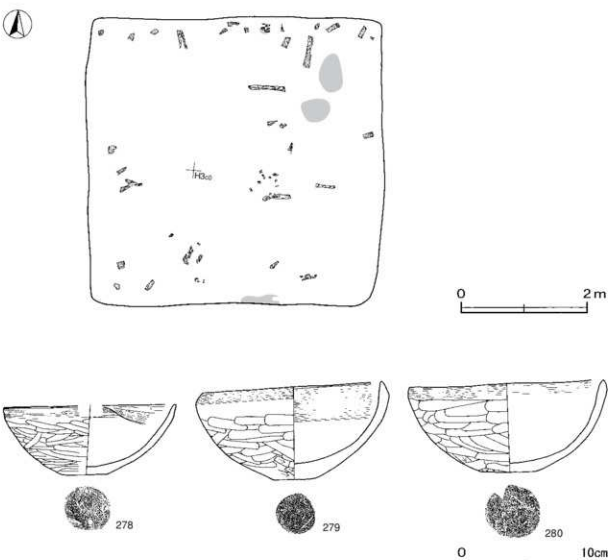
9　褐　　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
11　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量



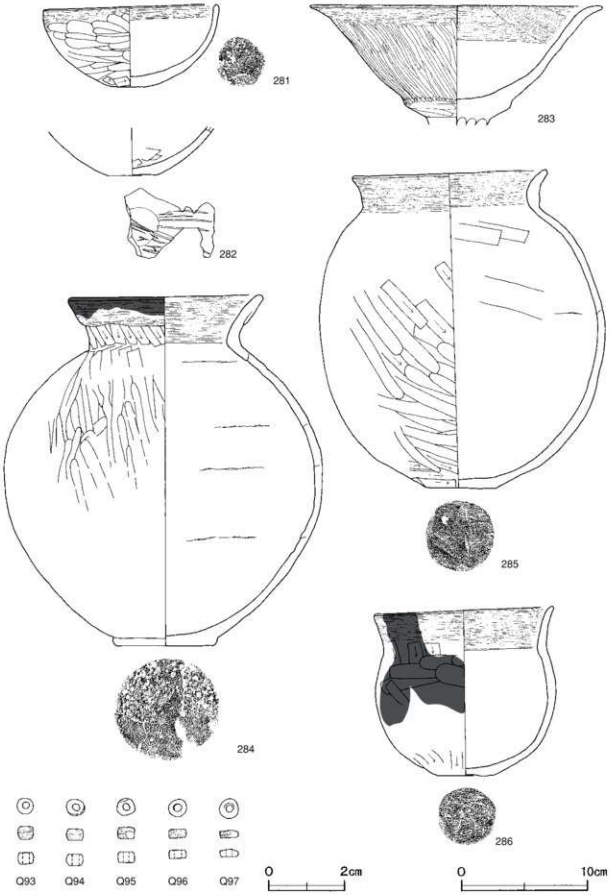
第52図　第46号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片237点（坏95，椀４，高坏２，壺１，甕134，小形甕１），石製模造品５点（臼玉），滑石剥片15点，鉄製品２点（不明）のほかに，混入した縄文土器片２点も出土している。278は南壁際と北壁際の床面から出土した土器片が接合したものである。279・283・285は北壁際の床面から覆土中，281・284は炉の覆土中及び床面から覆土最下層にかけて出土した土器片がそれぞれ接合したものである。Q93は北壁際，Q96・Q97は南側の床面，Q94・Q95はＰ３の覆土中からそれぞれ出土している。滑石の剥片も覆土最下層から床面にかけて出土している。

所見　焼土塊や炭化材の多くは壁際の床面から出土しており，一部は中央部からも出土している。また，床面も焼けて赤変していることから焼失住居であると考えられる。炭化材４点の樹種同定の結果，樹種はクヌギの丸材であることが判明しており，住居構築材の可能性が指摘されている。床面などから滑石臼玉５点や滑石剥片15点（荒割品11，破片４），が出土しており，住居内で滑石模造品を製作していたことが想定されるが，製作に関わる道具類が確認されず，明確ではない。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



第53図　第46号住居跡・出土遺物実測図



第54図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第53・54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考	
278	土師器	椀	13.6	5.5	3.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ		床面	80%	
279	土師器	椀	14.1	7.7	3.3	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ		床面	95%	PL.32
280	土師器	椀	15.3	7.3	4.3	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ		覆土下層	100%	PL.32
281	土師器	椀	13.7	6.5	3.8	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ		炉床面	95%	PL.32
282	土師器	椀	－	(3.8)	[4.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ		覆土中	15% 研板	PL.55
283	土師器	高坏	23.1	(9.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ		床面	60%	
284	土師器	壺	15.2	27.8	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・赤褐	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　輪積痕		床面～ 炉覆土中	60%	PL.45
285	土師器	甕	15.4	25.3	5.7	長石・石英	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		床面	90%	
286	土師器	小型甕	14.0	13.5	4.4	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面摩滅調整不明		覆土中層 ～下層	95%	PL.43

番号	器種	最大径	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴		出土位置	備考
Q93	臼玉	0.40	0.14	0.33	0.09	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔		床面	PL.52
Q94	臼玉	0.43	0.14	0.31	0.11	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔		覆土中	PL.52
Q95	臼玉	0.40	0.13	0.25	(0.08)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔		覆土中	PL.52
Q96	臼玉	0.45	0.18	0.29	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔		床面	PL.52
Q97	臼玉	0.49	0.15	0.18	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔		P３上層	PL.52

第47号住居跡（第55～58図）

位置　調査区南部のＨ４ｂ3区，標高25.5ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第７Ｂ号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.53ｍ，短軸4.48ｍの長方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は17～40cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。壁溝が全周している。南東壁際からＰ１にかけてわずかな高まりが確認されている。

炉　２か所。炉１は中央部のやや北寄りに位置している。長径75cm，短径63cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉２はほぼ中央部の北壁寄りに位置している。長径71cm，短径56cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。それぞれの炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量

炉２土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

ピット　27か所。Ｐ１は深さ17cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，Ｐ２～Ｐ27は配置と規模から壁柱穴と考えられるが明確ではない。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置し，長径51cm，短径48cmの円形で，深さは38cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

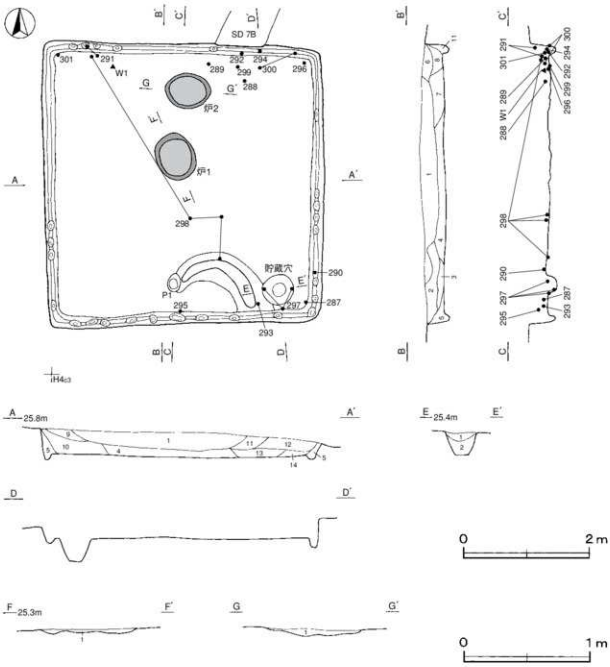
貯蔵穴土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック微量

覆土　14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

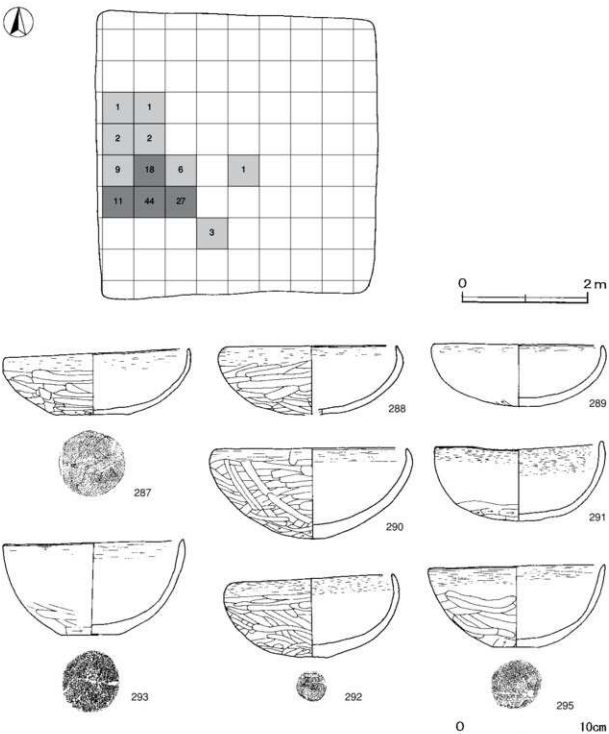
1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5 褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
7 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8 黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
11 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12 暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片373点（坏12，椀16，坩１，高坏３，壺２，甕339），石器１点（砥石），木製品１点（施ヵ）のほかに，混入した縄文土器片２点も出土している。287・290・293は南東コーナー部付近の床面から覆土最下層，288・289・292・294・296・299・300・301は北壁際の床面から覆土下層にかけてそれぞれまとまって出土している。また，南西寄り床面から粒状滓125点が出土している。

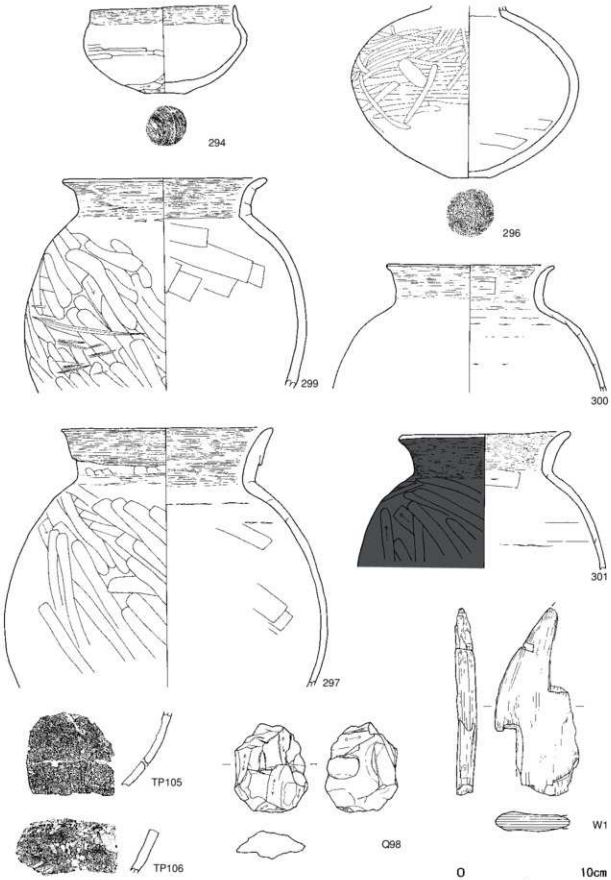


第55図　第47号住居跡実測図

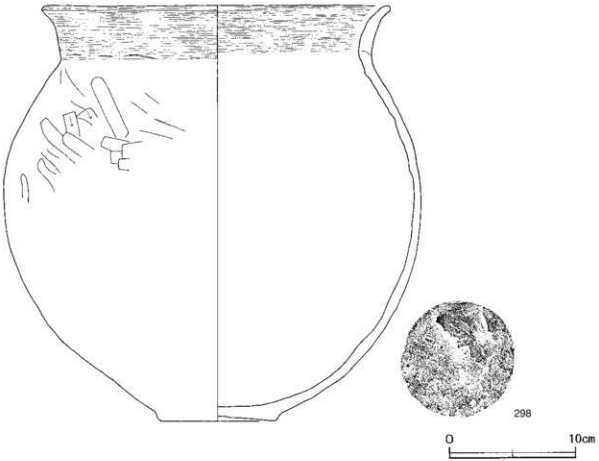
所見　遺物の多くは壁際の覆土下層からの出土で，廃絶後まもなく投棄されたと考えられる。出土状況から南及び北側の２方向からの投棄が想定される。南西寄り床面から粒状滓が出土していることや炉跡が２か所確認されたことなどから鍛冶工房的な性格を有した建物と考えられ，簡易な鍛冶作業が想定される。羽口や金床石などの鍛冶関連の道具類は廃絶に伴い持ち出された可能性が高い。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



第56図　第47号住居跡出土粒状滓分布図・出土遺物実測図



第57図　第47号住居跡出土遺物実測図(1)



第58図　第47号住居跡出土遺物実測図(2)

第47号住居跡出土遺物観察表（第56～58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
287	土師器	坏	14.7	5.2	5.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土最下層～床面	100%	
288	土師器	坏	13.7	(5.4)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土最下層～床面	80%	PL.32
289	土師器	坏	[13.3]	4.9	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ナデ	覆土下層	50%	
290	土師器	椀	15.3	7.1	－	長石・石英	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	覆土最下層～床面	100%	PL.32
291	土師器	椀	13.2	6.3	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	覆土上層～下層	100%	
292	土師器	椀	13.0	6.7	2.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	床面	95%	PL.32
293	土師器	椀	14.1	7.5	4.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ	覆土最下層～床面	95%	
294	土師器	椀	11.4	6.9	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	床面	95%	PL.32
295	土師器	椀	13.8	6.6	3.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土最下層～床面	85%	PL.32
296	土師器	坩	－	(13.5)	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ	床面	80%	PL.38
297	土師器	壺	16.5	(20.5)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	指り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	貯蔵穴上層	40%	
298	土師器	甕	27.3	33.0	9.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　輪積痕	覆土下層～床面	80%	PL.45
299	土師器	甕	15.9	(16.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	40%	研痕
300	土師器	甕	13.0	(10.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部外面横ナデ　内面ヘラナデ後横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ナデ　輪積痕	覆土下層～床面	25%	
301	土師器	甕	13.0	(11.0)	－	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	25%	
TP.105	土師器	甕	－	(5.9)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラナデ　穿孔有　修復孔 n	覆土中	5 %	
TP.106	土師器	甕	－	(3.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	5 %	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q⑯	紡石	7.0	5.7	2.2	80.0	滑石	両面に擦痕	覆土中	PL.53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	手法の特徴	出土位置	備考
W 1	漁 ｎ	(14.8)	(6.7)	1.8	端部に調整痕	覆土下層	

第49号住居跡（第59・60図）

位置　調査区南部のＧ４j1区，標高25.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６・８号溝に掘り込まれている。

規模と形状　第６・８号溝に掘り込まれているため全体は確認できなかったが，長軸3.15m，短軸1.97mが確認できた。確認できた壁や炉の位置などから，Ｎ－３°－Ｗを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は13～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の南及び西側が踏み固められている。

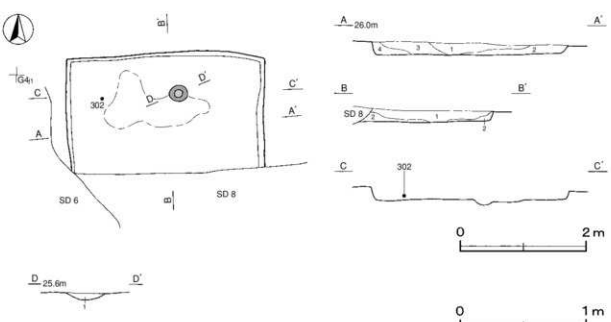
炉　北壁際の中央部やや東寄りに位置している。長径29cm，短径26cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量

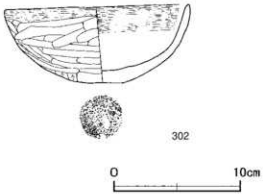
覆土　４層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片97点（坏１，椀１，甕94）の他，流れ込んだ縄文土器片１点も出土している。



第59図　第49号住居跡実測図



302は北西コーナー部寄りの覆土下層から完形で出土しており，埋没過程の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第60図　第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考	
302	土師器	椀	14.5	6.4	3.3	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ	内面ナデ	覆土下層	100%	PL.33

第50号住居跡（第61～64図）

位置　調査区南部のＧ３ｈ9区，標高25.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.79m，短軸5.24mの長方形で，主軸方向はＮ－11°－Ｗである。壁高は25～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の南西側が踏み固められている。南壁際のやや東寄りにわずかな高まりが確認されている。また，焼土塊が西壁際に確認されている。

炉　中央部の北壁寄りに位置している。長径84cm，短径81cmの円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径57cm，短径55cmの円形で，深さは65cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

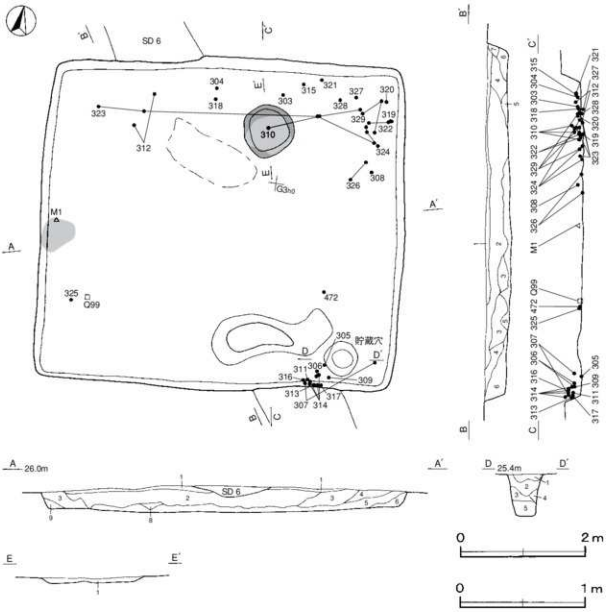
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

覆土　９層に分層される。上部の１・２層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが，その他の層はブロック状で不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

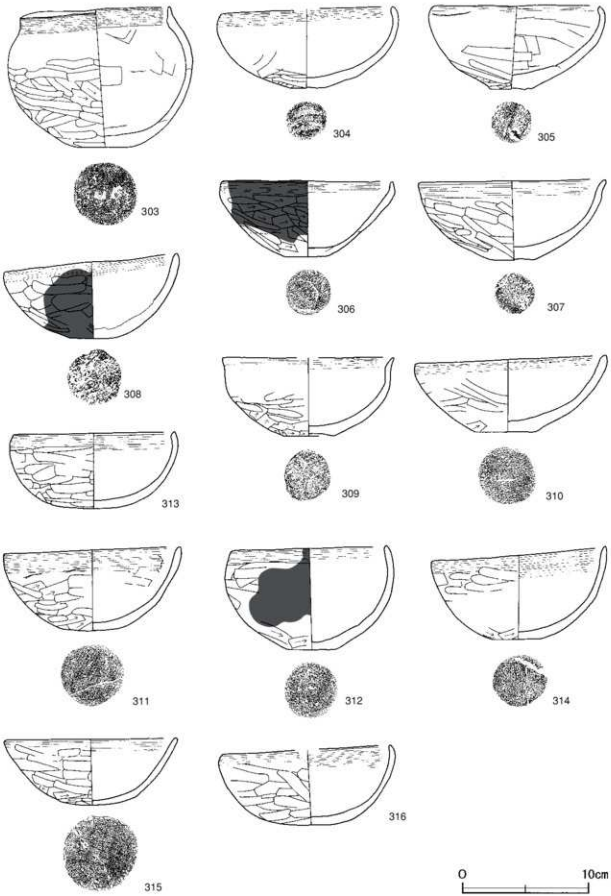
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　明　褐　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　赤　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片632点（椀69，高坏３，壺１，甕559），須恵器片２点（甕），石器１点（砥石），鉄製品１点（手鎌ヵ）のほかに，流れ込んだ縄文土器片１点も出土している。303・304・315・318・321は北壁際の覆土下層から出土している。305は貯蔵穴付近の床面，306・307・309・311・313は南壁際の覆土中層から出土している。323は北東コーナー及び北西コーナー付近の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。327は逆位で，328はつぶれた状態で北東コーナー近くの床面から隣接して出土している。

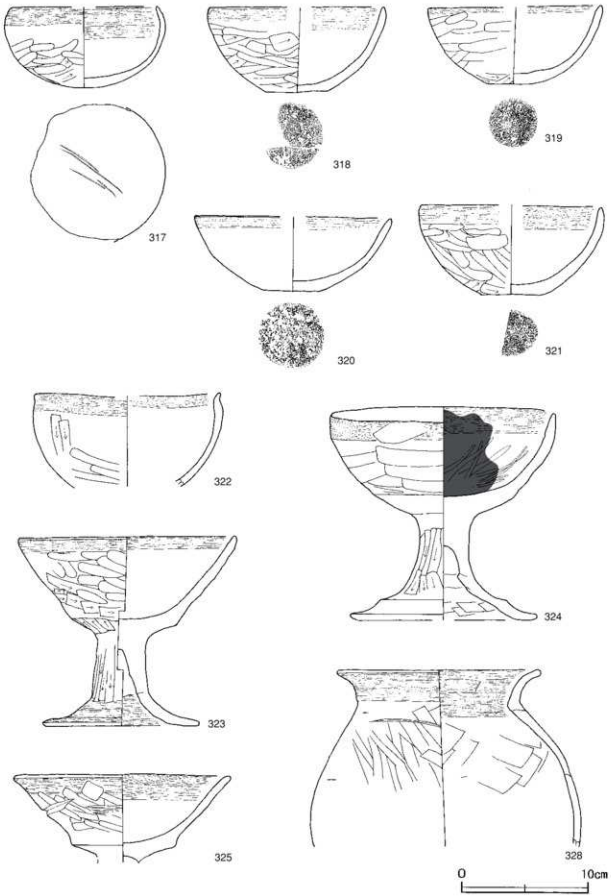
所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。床面から出土した遺物もあるが，多くの遺物は北東コーナー部の覆土下層からの出土で，南東コーナー部，南西コーナー部からも出土している。北東コーナー部と南西コーナー部からの投棄は廃絶後の早い時期から始められたと想定され，ある程度の期間続いたと考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



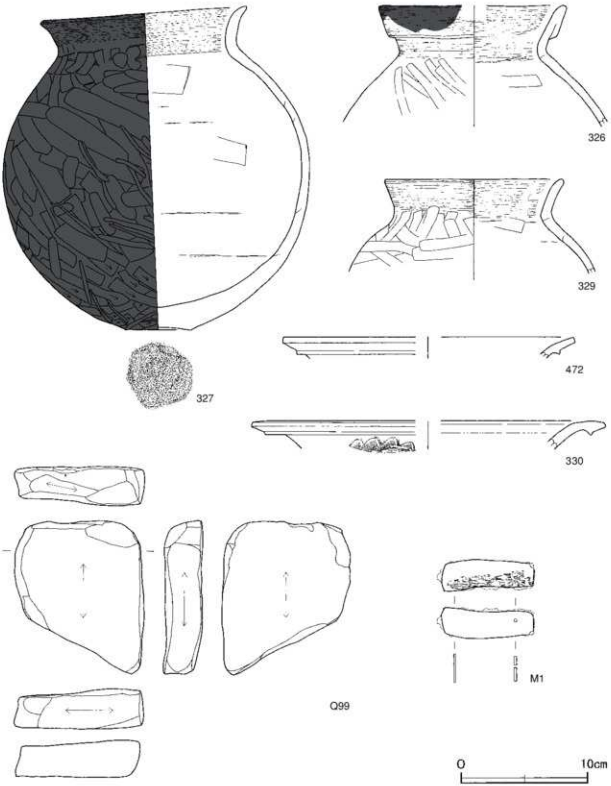
第61図　第50号住居跡実測図



第62図　第50号住居跡出土遺物実測図(1)



第63図　第50号住居跡出土遺物実測図(2)



第64図　第50号住居跡出土遺物実測図(3)

第50号住居跡出土遺物観察表（第62～64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
303	土師器	椀	11.9	11.2	4.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	100%　PL.38
304	土師器	椀	[13.6]	6.5	2.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	95%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
305	土師器	椀	13.2	6.5	3.1	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ　輪積痕	床面	95%	
306	土師器	椀	13.4	6.1	3.6	長石・石英	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土中層	100%	PL.33
307	土師器	椀	14.7	6.4	3.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ	覆土上層～中層	95%	PL.33
308	土師器	椀	16.8	6.8	3.9	長石・石英・赤色粒子・礫	にぶい・褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	95%	
309	土師器	椀	[13.5]	6.2	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中層	90%	
310	土師器	椀	14.8	6.1	4.8	長石・石英	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	90%	PL.33
311	土師器	椀	13.9	6.5	4.9	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ　輪積痕	覆土中層	90%	PL.33
312	土師器	椀	12.2	8.3	3.8	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	80%	PL.36
313	土師器	椀	12.8	6.1	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中層	80%	PL.33
314	土師器	椀	13.7	7.3	4.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土上層～中層	75%	
315	土師器	椀	13.4	5.3	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	70%	
316	土師器	椀	[13.3]	6.4	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中層	60%	
317	土師器	椀	11.5	6.4	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	60%	研痕
318	土師器	椀	[13.8]	7.1	4.9	長石・石英・雲母・礫	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	40%	
319	土師器	椀	[13.7]	6.1	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	60%	
320	土師器	椀	[15.4]	5.9	4.7	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面摩滅調整不明	覆土下層	50%	
321	土師器	椀	[14.2]	7.0	[4.6]	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	30%	
322	土師器	椀	[14.5]	(7.4)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	35%	
323	土師器	高坏	17.0	15.0	12.2	長石・石英・赤色粒子・礫	にぶい・褐	普通	坏部外面ヘラ削り後ヘラナデ　脚部ヘラ削り　坏部口辺及び脚部内・外面横ナデ　輪積痕	覆土下層	90%	PL.41
324	土師器	高坏	17.6	16.4	[13.4]	長石・石英・礫	橙	普通	坏部口辺内・外面横ナデ　外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き　脚部ヘラ削り　脚部外面横ナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	90%	PL.41
325	土師器	高坏	16.8	(6.9)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	坏部口辺内・外面横ナデ　外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	50% 研痕	PL.40
326	土師器	壺	[14.6]	(9.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	20%	
327	土師器	甕	16.1	25.6	5.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	100%	PL.44
328	土師器	甕	15.6	[14.0]	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	30%	
329	土師器	甕	13.8	(7.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	15%	
330	須恵器	甕	[28.0]	(2.2)	－	長石	緑黒	良好	ロクロナデ　口辺部に櫛1条　櫛歯状工具（8本以上）による波状文	覆土中	5%	自然釉
472	須恵器	甕	[23.2]	(1.6)	－	長石	オリーブ黒	良好	ロクロナデ	覆土下層	5%	自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q99	砥石	12.1	10.2	3.1	547.0	砂岩	砥面5面	床面	PL.54
M1	手鎌か	7.3	2.6	2.0	(14.1)	鉄	木質遺存　穿孔有	覆土下層	PL.55

第51号住居跡（第65・66図）

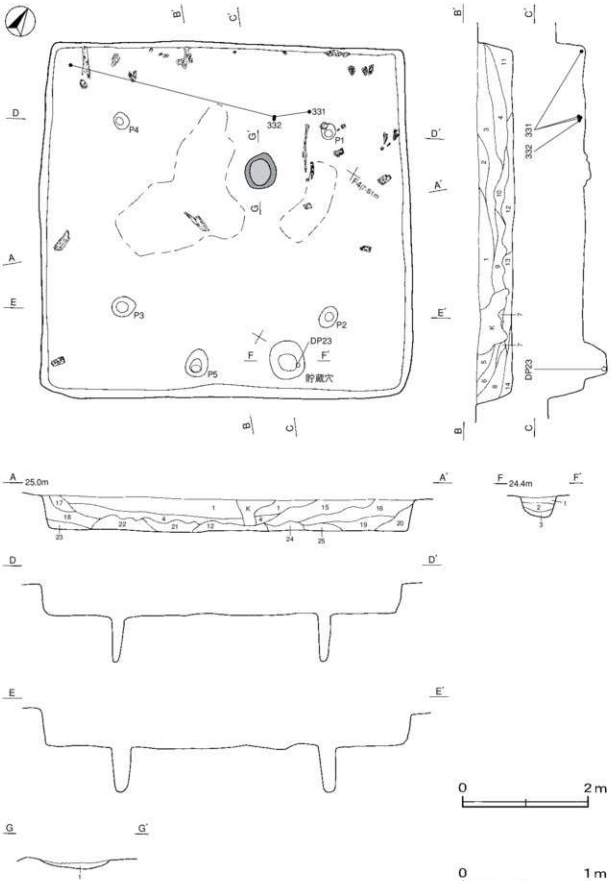
位置　調査区南部のＦ４j6区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.90m，短軸5.65mの方形で，主軸方向はＮ－30°－Ｗである。壁高は47～60cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の西及び東側が踏み固められている。また，炭化材が北側に多く確認されている。

炉　中央部のやや北東寄りに位置している。長径59cm，短径52cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量



第65図　第51号住居跡実測図

ピット　5か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ68～75cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ８cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南壁際のやや東寄りに位置している。長径59cm，短径55cmの円形で，深さは36cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

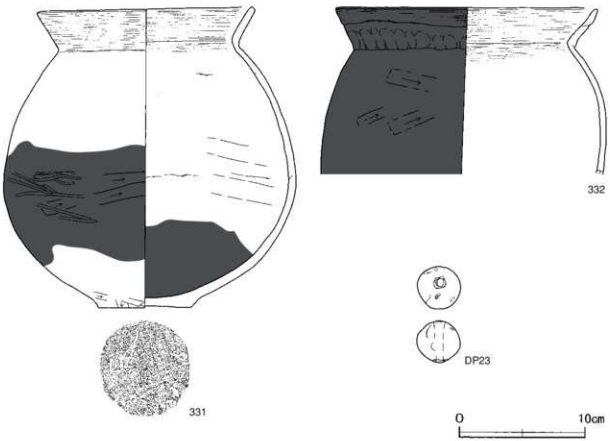
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

覆土　25層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
12　極暗褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
14　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
17　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
18　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
19　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
20　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
21　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
22　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
23　極暗褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
24　極暗褐色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
25　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片51点（高坏９，甕42），土製品１点（小玉）の他，混入した縄文土器片１点も出土している。331・332は北壁寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものであり，埋め戻しの過程で投棄さ



第66図　第51号住居跡出土遺物実測図

れたものと考えられる。DP23は貯蔵穴の底面から出土している。

所見　壁際の炭化材の下には焼土ブロックを多量に含む覆土が確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期後葉（４世紀中葉～４世紀末葉）と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
331	土師器	甕	16.8	23.9	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	20%
332	土師器	甕	20.5	(13.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	20%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	球状土錘	3.9	0.9	3.3	33.9	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	貯蔵穴底面	

第52号住居跡（第67図）

位置　調査区南部のＧ５ａ1区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

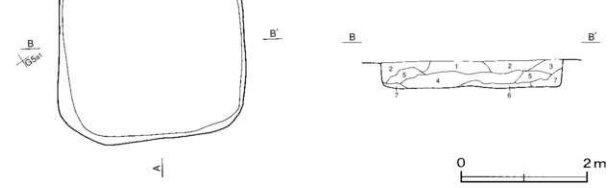
規模と形状　長軸2.97m，短軸2.96mの方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｅである。壁高は36～45cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

覆土　９層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片53点（坏５，高坏７，甕41）の他，混入した縄文土器片３点も出土している。遺物は細片のため図示できない。



第67図　第52号住居跡実測図

所見　内部施設については，施設の配列や位置を想定して床面を精査したが確認できなかった。時期は，図示できた遺物がないが，出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第55号住居跡（第68・69図）

位置　調査区南部のＧ４ｇ9区，標高25.0ｍの台地平坦部に位置している。

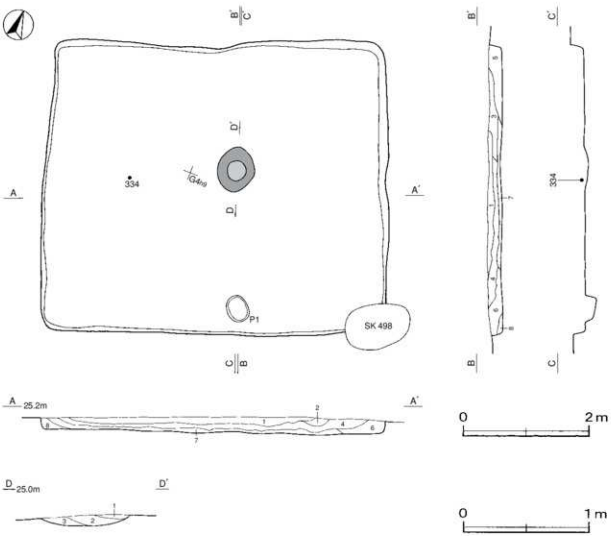
重複関係　第498号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.51ｍ，短軸4.62ｍの長方形で，主軸方向はＮ－31°－Ｗである。壁高は17～22㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉　中央部のやや北東寄りに位置している。長径71㎝，短径59㎝の楕円形で，床面を８㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量



第68図　第55号住居跡実測図

ピット　1か所。深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片34点（坩2，器台1，高坏14，甕17）のほかに，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。334は，西壁寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期と考えられる。

第69図　第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
333	土師器	器台	－	(2.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ	覆土中	20%
334	土師器	甕	[14.5]	(5.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後横ナデ	覆土下層	5%

第57号住居跡（第70～73図）

位置　調査区南部のH5b2区，標高24.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第2号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.65m，短軸4.35mの長方形で，主軸方向はN－77°－Eである。壁高は10～22cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周辺が踏み固められている。

炉　2か所。炉1は東壁際のやや北寄りに位置している。長径62cm，短径48cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2はほぼ中央部に位置している。長径31cm，短径29cmの円形で，床面を2cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉1と炉2の規模に差はあるが，使用痕跡や床の硬化面の広がりから，同時期に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量

炉2土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径69cm，短径62cmの楕円形で，深さは81cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

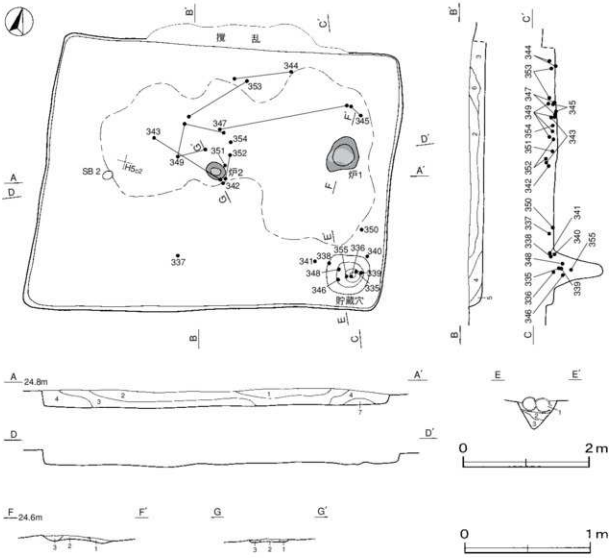
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

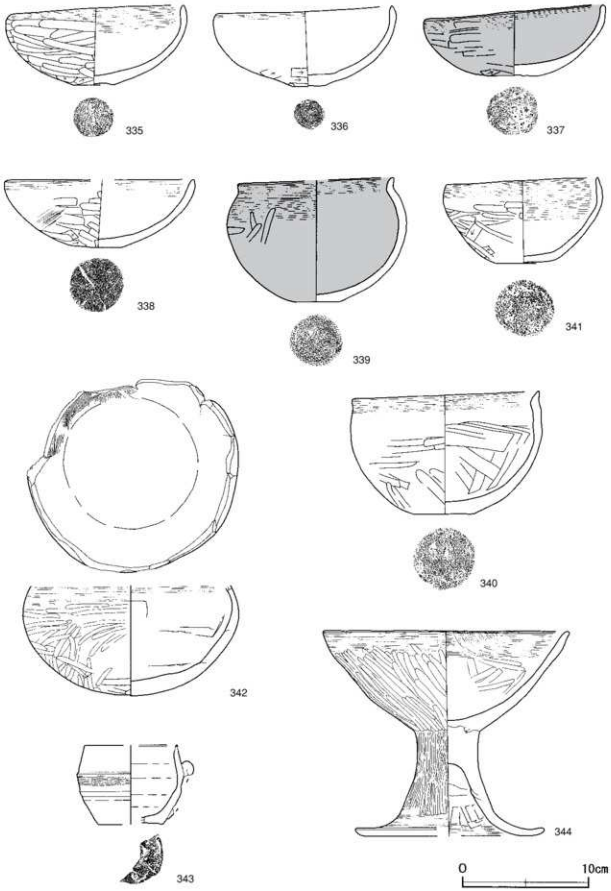
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片605点（坏79，椀9，高坏1，甕514，小形甕1，瓶1），須恵器片1点（把手付椀），石製模造品1点（双孔円板）が出土している。335・336・339・346・348・355は貯蔵穴の覆土上層，338・340・350は南東コーナー部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土しており，埋没過程の早い段階に一括投棄されたものと考えられる。343・344・347・349・352・353は，炉周辺と北側の床面から覆土上層にかけて出土した土器片がそれぞれ接合したものである。

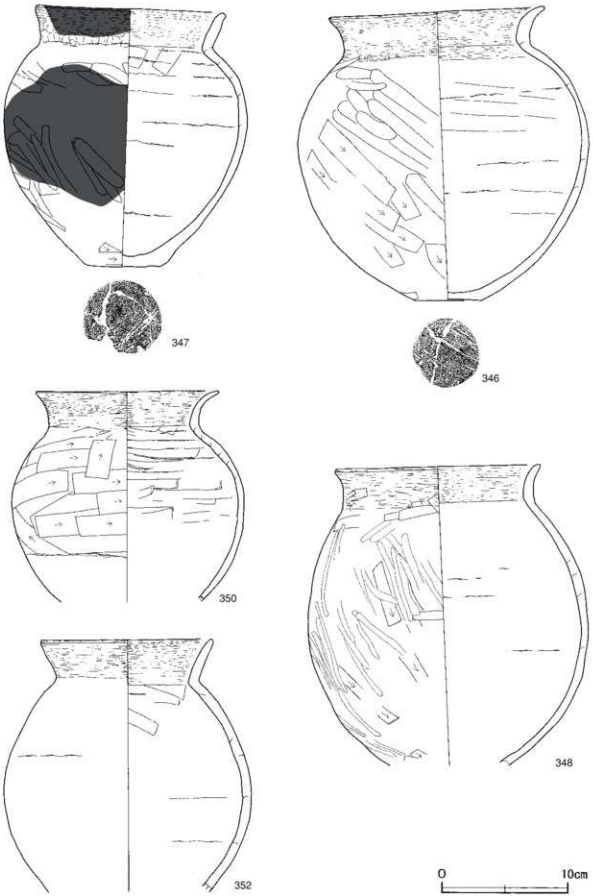
所見　中央部に小さい炉，東壁寄りに大きな炉を有し，南東コーナー部に貯蔵穴を配置しており，本跡北東に位置する第59号住居跡と類似している。出入り口施設に伴うピットは確認できなかったが，規模や主軸方向，屋内施設などの類似性から第59号住居跡との同時性も考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期後葉（5世紀後葉）と考えられる。



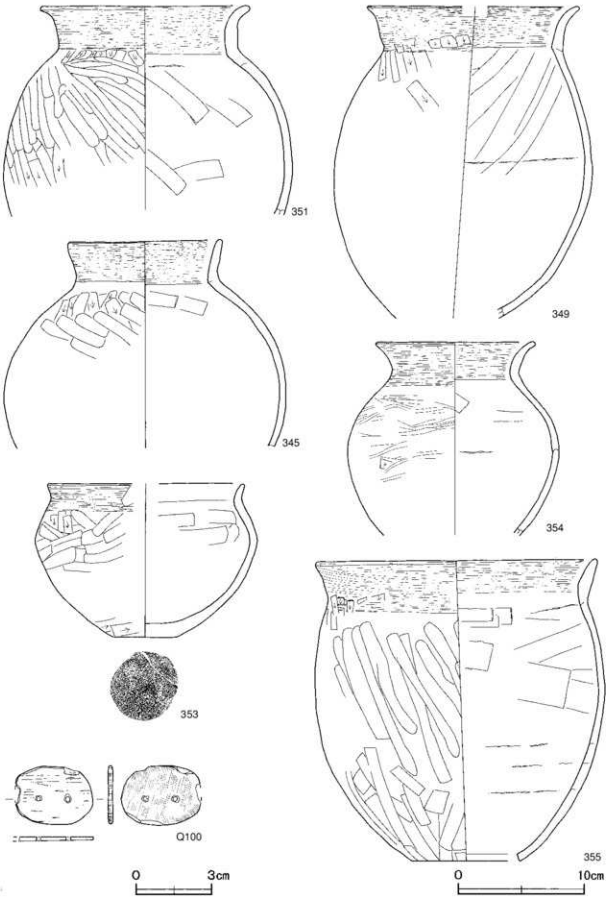
第70図　第57号住居跡実測図



第71図　第57号住居跡出土遺物実測図(1)



第72図　第57号住居跡出土遺物実測図(2)



第73図　第57号住居跡出土遺物実測図(3)

第57号住居跡出土遺物観察表（第71～73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
335	土師器	椀	13.9	6.4	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ		貯蔵穴上層	90%	PL.33
336	土師器	椀	13.8	6.4	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面摩滅調整不明		貯蔵穴上層	90%	PL.33
337	土師器	椀	14.2	5.7	4.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ		覆土下層	60%	
338	土師器	椀	[14.8]	5.4	3.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ		覆土下層	45%	
339	土師器	椀	[12.2]	9.9	4.0	長石・石英・雲母	赤橙	普通	口辺部及び体部外面上位横ナデ　口辺部内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ		貯蔵穴上層	95%	PL.38
340	土師器	椀	14.7	9.8	4.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ		床面	95%	PL.36
341	土師器	椀	12.0	6.8	4.4	長石・石英・赤色粒子・礫	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ		覆土下層	80%	PL.34
342	土師器	椀	－	(8.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ　破断面に粘土接貼り付け黒の調整痕　輪積痕		覆土下層	70%	
343	須恵器	把手付椀	[7.8]	6.3	[5.1]	長石	褐灰	良好	外面ロクロナデ　体部外面中位に糸切痕　底部ヘラ切り　付け高台　内面ヘラナデ　把手付椀　体部下端把手取り付け後ナデ　口辺部外面及び内底面に自然釉		覆土中層	45%	PL.48
344	土師器	高坏	19.4	16.3	[15.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部口辺内・外面横ナデ　坏部内・外面ヘラ磨き　脚部外面ヘラ磨き　脚部外面横ナデ　内面ヘラナデ後横ナデ　輪積痕		覆土下層～床面	60%	PL.41
345	土師器	壺	11.8	(16.5)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		床面	45%	
346	土師器	甕	16.6	23.4	5.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		貯蔵穴上層	90%	PL.44
347	土師器	甕	14.8	20.8	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　口辺部下端指頭痕　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		床面	75%	
348	土師器	甕	16.1	23.9	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕		貯蔵穴上層	80%	
349	土師器	甕	[16.6]	(24.6)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕		覆土中層	50%	
350	土師器	甕	14.3	(16.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　輪積痕		床面	60%	
351	土師器	甕	16.4	(16.6)	－	長石・石英・礫	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		覆土下層	30%	
352	土師器	甕	13.4	(20.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ　輪積痕		覆土上層～下層	30%	
353	土師器	小形甕	[15.4]	12.2	5.7	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ		覆土中層～下層	50%	
354	土師器	小形甕	12.3	(15.3)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕		覆土下層	30%	
355	土師器	甑	22.0	24.0	8.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後一部ヘラ削り　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		貯蔵穴上層	90%	PL.46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q100	双孔円板	2.3	(3.1)	0.17	(2.5)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.18cm	覆土中	PL.53

第59号住居跡（第74・75図）

位置　調査区南部のＨ５a3区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.24m，短軸4.28mの長方形で，主軸方向はＮ－20°－Ｗである。壁高は16～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　２か所。炉１は東壁寄りの中央部に位置している。長径71cm，短径57cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉２は中央部のやや南東寄りに位置している。長径28cm，短径24cmの楕円形で，床面を１cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉１と炉２の規模に差はあるが，使用痕跡や床の硬化面の広がりから，同時期に使用されていたと考えられる。

炉１土層解説
1　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

炉２土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　深さ18cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南壁際のやや東寄りに位置している。長径58cm，短径52cmの楕円形で，深さは48cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

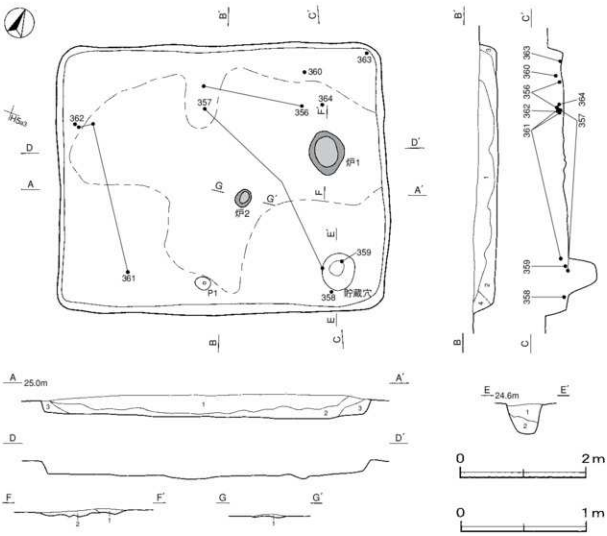
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

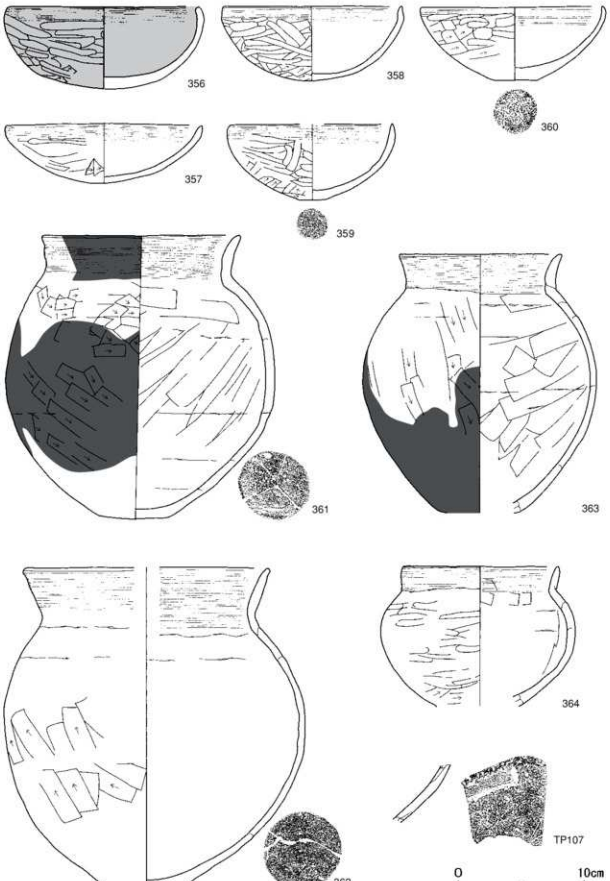
土層解説
1　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片732点（坏14，椀60，器台８，甕649，小形甕１）が出土している。358･359は南東コーナー部，360・362・363は北コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。356・357・361は覆土下層から出土した土器片がそれぞれ接合したもので，接合資料は離れた位置から出土しているものがある。

所見　中央部に小さい炉，東壁寄りに大きな炉を有し，南東コーナー部に貯蔵穴を配置しており，本跡の南西に位置する第57号住居跡と類似している。規模や主軸方向，屋内施設などの類似性から第57号住居跡との同時性も考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期後葉（５世紀後葉）と考えられる。



第74図　第59号住居跡実測図



第75図　第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考	
356	土師器	椀	15.2	6.6	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ナデ	覆土下層	90%	
357	土師器	椀	15.6	4.7	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ナデ	覆土下層	95%	
358	土師器	椀	14.1	5.9	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面摩滅調整不明	覆土下層	90%	PL34
359	土師器	椀	[12.7]	6.0	2.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面摩滅調整不明	覆土下層	85%	
360	土師器	椀	14.4	5.9	3.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ナデ	覆土下層	80%	
361	土師器	甕	15.5	22.4	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	70%	
362	土師器	甕	[19.0]	25.6	6.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り　内面摩滅調整不明　輪積痕	覆土下層	50%	
363	土師器	甕	12.7	(20.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	60%	
364	土師器	小形甕	12.2	(11.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	80%	
365	土師器	甕	－	(4.5)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラナデ　輪積痕		覆土中	5%	

第60号住居跡（第76・77図）

位置　調査区南部のＧ５h3区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第７Ｂ号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.65m，短軸6.61mの方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁高は40～44cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，床質は軟質であり，特に踏み固められている部分は確認されていない。西壁側にベッド状の高まりが確認されている。ベッド状の部分は床面よりも10cmほど高く，住居構築の際にローム土を掘り残して構築している。また，中央部北寄りの床面からは焼土塊や炭化材が確認され，床面も火を受けて赤変している。

炉　中央部のやや北東寄りに位置している。長径89cm，短径61cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム　ブロック微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック　微量

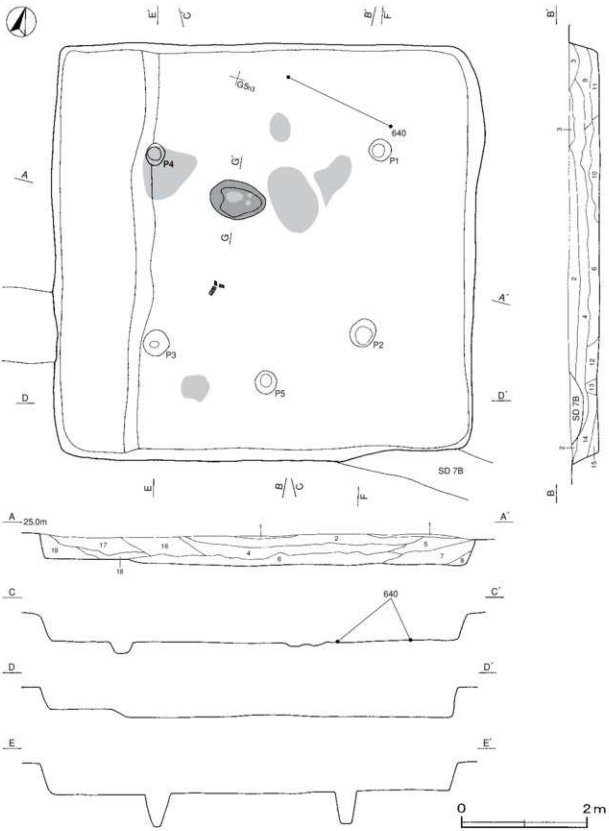
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ53～70cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　19層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

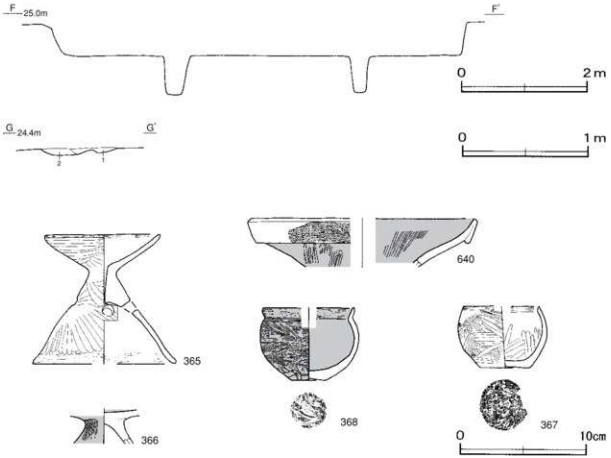
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
8　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
9　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
11　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子　微量
13　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
15　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　黒　色　ローム粒子・炭化粒子微量
17　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
18　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片76点（坏８，椀４，器台１，高坏１，壺１，甕60，甑１），ミニチュア土器２点（椀型，甕型），礫１点のほかに，混入した縄文土器片１点が出土している。640は北壁寄りの床面から出土した２点が接合したものである。365～368はそれぞれ覆土中から出土している。

所見　焼土塊や炭化材が確認されており，床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期後半と考えられる。



第76図　第60号住居跡実測図



第77図　第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
365	土師器	器台	9.0	10.2	[11.3]	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	器受部口辺部及び脚部端部内・外面横ナデ　外面ヘラ磨き　脚部内面ナデ　4窓＋	覆土中	60%
366	土師器	高坏	－	(2.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面ヘラ磨き　輪積痕	覆土中	10%
640	土師器	壺	[17.7]	(3.9)	－	長石・石英	橙	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部外面に凹目状の擬糸文　口辺部内面及び頸部内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%
367	土師器	ミニチュア	[6.0]	5.9	3.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土中	50%　椀型
368	土師器	ミニチュア	[7.2]	5.8	2.7	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土中	60%　壺型　PL47

第61号住居跡（第78・79図）

位置　調査区南部のＧ５e9区，標高24.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.38m，短軸4.05mの方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は25～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，特に踏み固められている部分は確認されていない。また，炉の北西側に板材と思われる炭化材が確認されている。

炉　中央部の北壁寄りに位置している。長径61cm，短径42cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

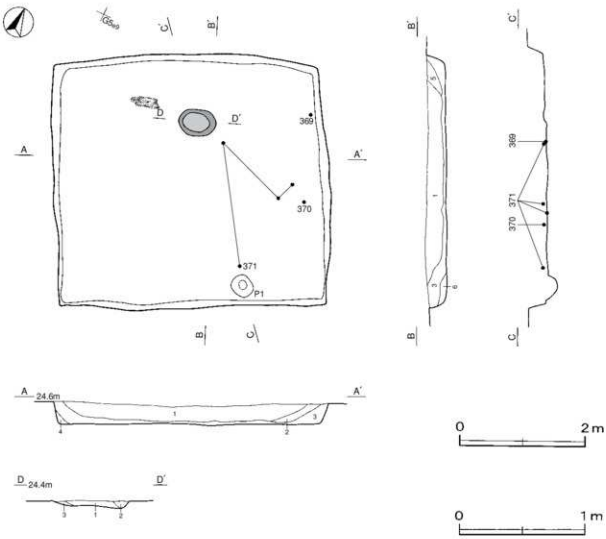
ピット　深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

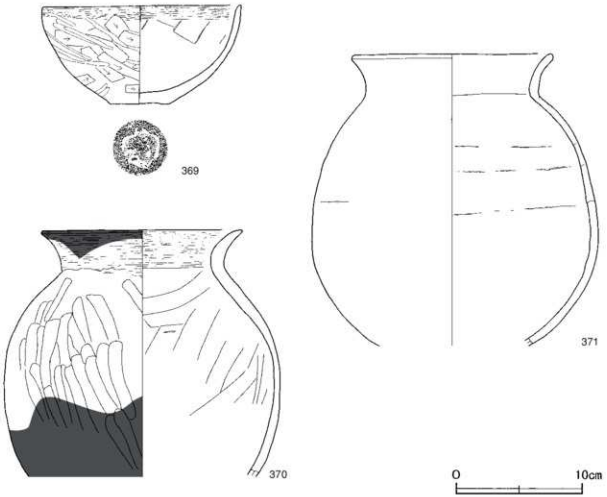
土層解説
1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片153点（椀2，甕151）が出土している。369は東壁際の床面から斜位で出土している。370・371は東側の床面から覆土最下層にかけて出土した土器片が接合したものである。

所見　炭化材が確認されており，焼失住居である可能性が高い。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（5世紀中葉）と考えられる。



第78図　第61号住居跡実測図



第79図　第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置		備考
369	土師器	椀	15.7	7.9	4.7	長石・石英・礫	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ		床面	90%	PL34
370	土師器	甕	15.7	(19.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ		覆土最下層	60%	
371	土師器	甕	15.5	(23.1)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面摩滅調整不明　輪積痕		覆土最下層 ～床面	50%	

第62号住居跡（第80～83図）

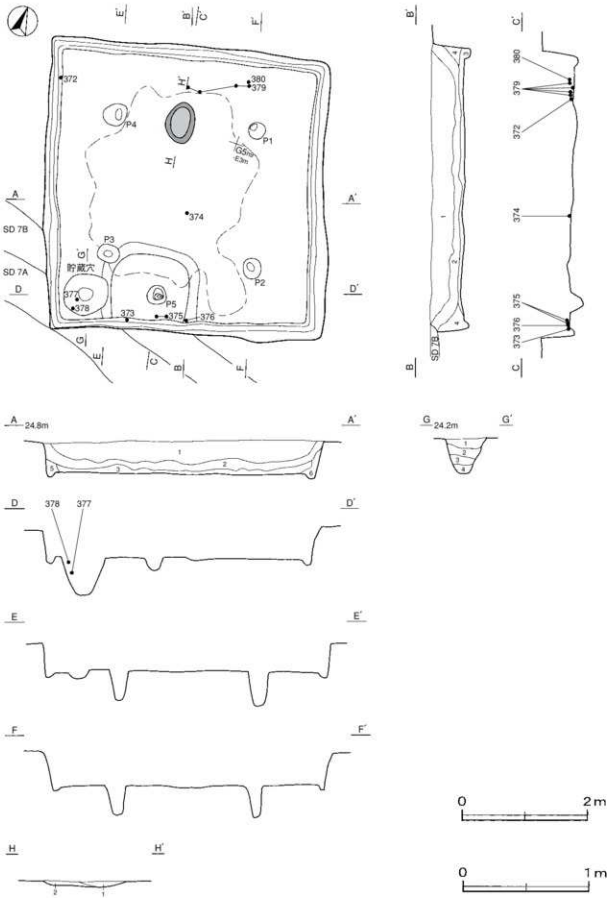
位置　調査区南部のＧ５ｈ9区，標高24.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第７Ａ・７Ｂ号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.58m，短軸4.43mの方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は40～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，壁溝が全周している。また，Ｐ５の周囲に６cmほどのわずかな高まりが確認されている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径68cm，短径47cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。



第80図　第62号住居跡実測図(1)

炉土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム
ブロック微量

ピット　5か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ45～56cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径70cm，短径65cmの円形で，深さは58cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

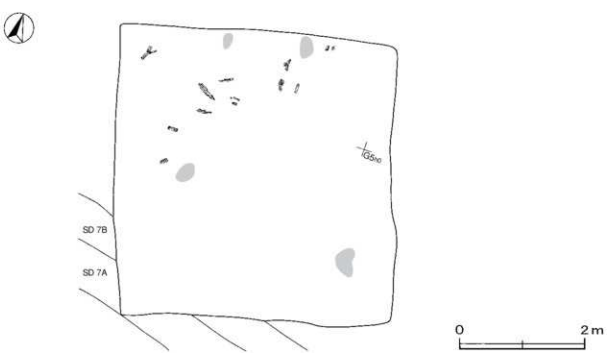
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化
粒子微量

覆土　6層に分層される。第３～６層は，遺物や炭化材の出土状況から埋め戻しされたものと考えられる。その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

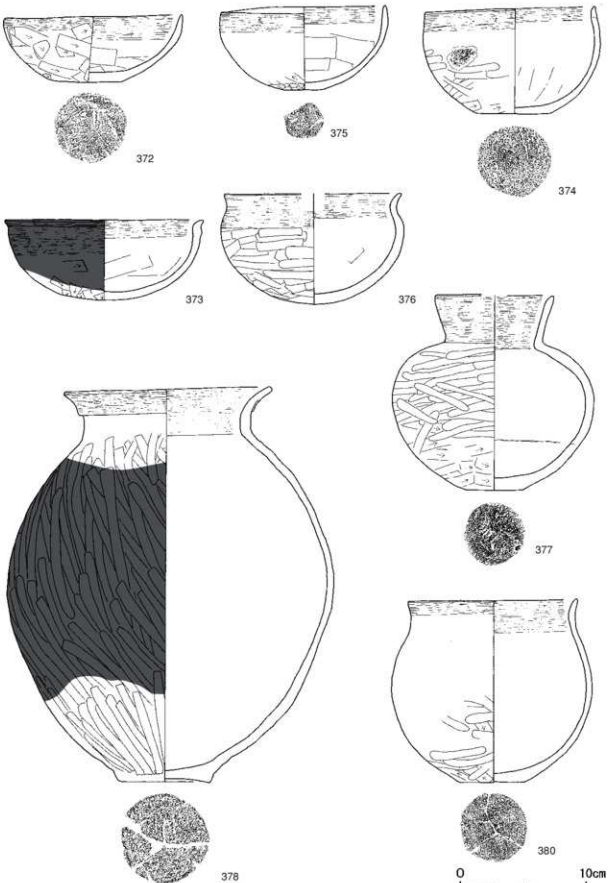
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，
炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片158点（坏50，椀21，坩１，壺１，甕84，小形甕１）のほかに，混入した鉄製品１点（釘ヵ）も出土している。377は貯蔵穴の覆土中層から斜位で出土している。373・375・376・378は南壁際の床面，372・380は北側の覆土下層からそれぞれ出土している。379は北側の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

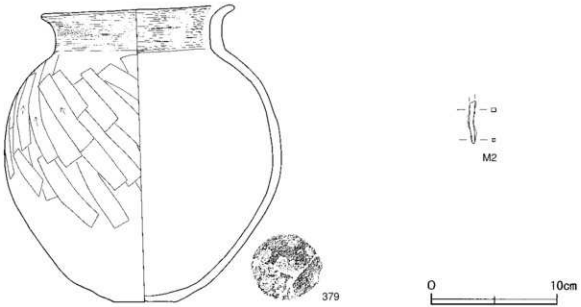
所見　炭化材が床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居である。また，遺物はほぼ完形に近いものがまとまって出土しており，遺棄された可能性が高い。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



第81図　第62号住居跡実測図(2)



第82図　第62号住居跡出土遺物実測図(1)



第83図　第62号住居跡出土遺物実測図(2)

第62号住居跡出土遺物観察表（第82・83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
372	土師器	椀	14.0	5.3	5.5	長石・石英・白色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	100%	PL.35
373	土師器	椀	15.5	6.4	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部から体部外面中位及び内面上位横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	100%	PL.34
374	土師器	椀	13.2	3.6	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ　輪積痕	床面	95%	将痕
375	土師器	椀	12.9	6.7	3.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	95%	PL.34
376	土師器	椀	13.9	8.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部から体部外面中位及び内面上位横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	60%	
377	土師器	壺	[9.2]	15.4	4.5	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面中位ヘラ削り後ヘラナデ　下端ヘラ削り後ナデ　輪積痕	貯蔵穴中層	100%	PL.37
378	土師器	壺	16.1	31.4	7.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面整成調整不明	床面	90%	PL.45
379	土師器	甕	14.8	23.7	5.0	長石・石英・礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	80%	PL.44
380	土師器	小形甕	13.2	14.6	5.1	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	90%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	釘ｇ	(3.4)	0.5	0.3	(1.2)	鉄	頭部欠損　断面方形　棒状　角釘ｇ	覆土中	

第63号住居跡（第84～88図）

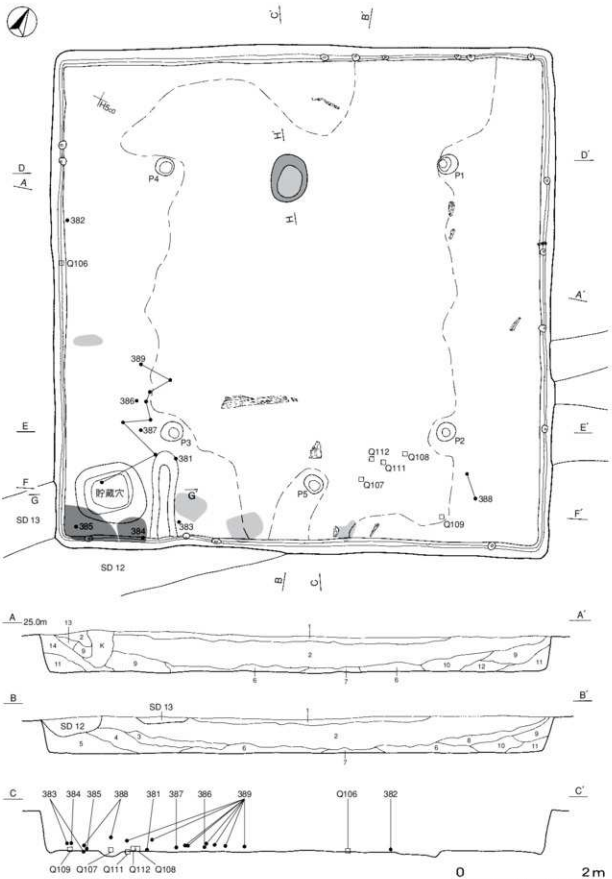
位置　調査区南部のＨ５ｃ0区，標高24.8ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第12・13号溝に掘り込まれている。

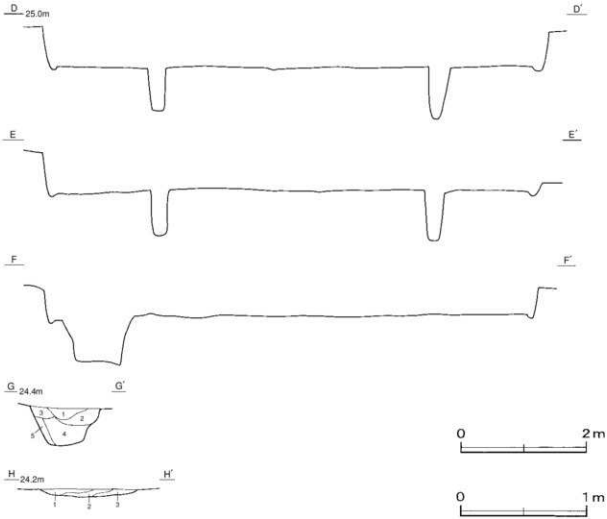
規模と形状　長軸8.06ｍ，短軸8.00ｍの方形で，主軸方向はＮ－30°－Ｗである。壁高は42～64cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められており，壁溝が全周している。貯蔵穴の東側に南壁から延びる４cmほどのわずかな高まりが確認されている。また，壁際を中心に焼土塊や炭化材が確認されている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径76cm，短径60cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。



第84図　第63号住居跡実測図(1)



第85図　第63号住居跡実測図(2)

炉土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット　21か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ66～83cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ８cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，Ｐ６～Ｐ21は不規則な配置ではあるが，規模などから壁柱穴と考えられるが明確ではない。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径120cm，短径98cmの楕円形で，深さは71cmである。底面はやや凸凹で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量

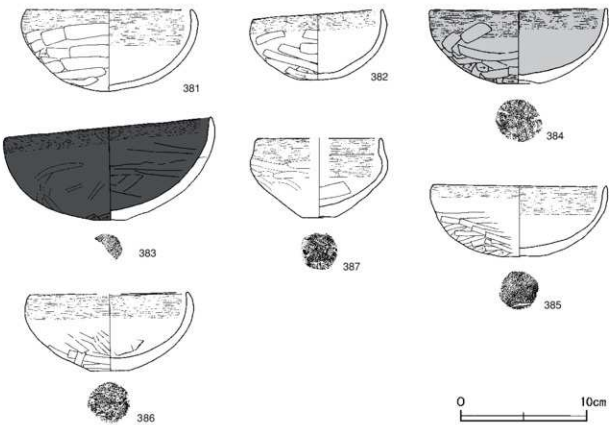
覆土　14層に分層される。上部の第１・２層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが，その他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　色　ロームブロック微量
3　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

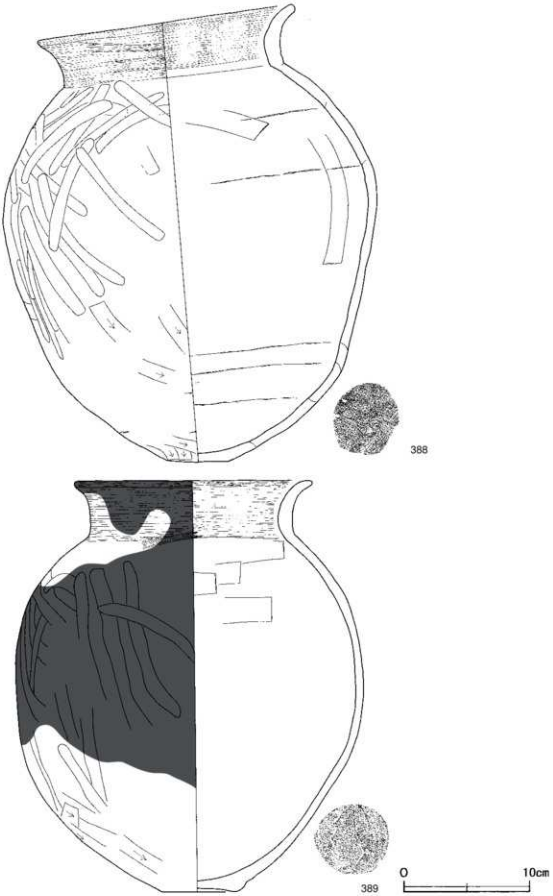
5　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片249点（坏20，椀86，高坏１，甕140，手捏土器２），須恵器片１点（甕），石製品１点（紡錘車），石製模造品７点（勾玉１，臼玉５，双孔円板１），滑石石核１点，滑石剥片19点が出土している。382は西壁際，381・387は南西コーナー部近くの床面からそれぞれ出土している。383～386・388・389は床面から覆土中層にかけて出土した土器片がそれぞれ接合したものである。Q106は西壁際床面，Q107～Q109・Q111・Q112は南東コーナー部寄りの床面からそれぞれ出土している。また，南西コーナー部覆土最下層からは粘土塊が確認されている。

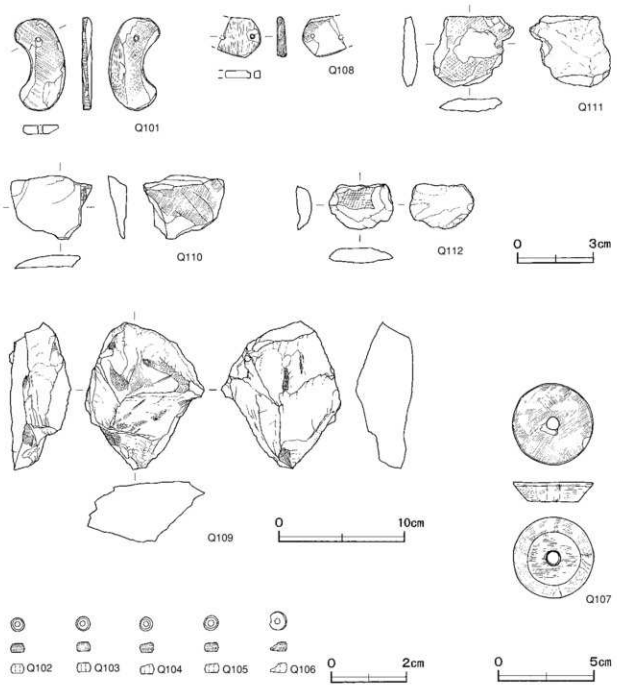
所見　焼土塊や炭化材が確認されていることから焼失住居と考えられる。また，南西コーナー部で確認された粘土塊は，出土の状況から壁溝や貯蔵穴が埋まった後に投棄されたと考えられる。石製模造品は臼玉５点，双孔円板１点，勾玉１点が出土しており，石製模造品を用いた住居廃絶に伴う祭祀的な行為が執り行われていたことを想起させる。そのほか，滑石石核１点，滑石剥片19点（荒割品13点，形割品２点，砕片４），さらには滑石製の紡錘車１点も出土しており，石核には削痕も認められることから滑石製の模造品や製品を製作していた可能性も想定される。製作に関わる道具類が出土していないのは，廃絶に伴い道具類を持ち出したものと考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



第86図　第63号住居跡出土遺物実測図(1)



第87図　第63号住居跡出土遺物実測図(2)



第88図　第63号住居跡出土遺物実測図(3)

第63号住居跡出土遺物観察表（第86～88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
381	土師器	椀	13.1	6.5	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	床面	100%	PL.34
382	土師器	椀	10.2	5.5	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	床面	100%	PL.34
383	土師器	椀	16.3	8.1	2.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層～床面	70%	
384	土師器	椀	13.9	6.0	3.8	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中層～床面	70%	
385	土師器	椀	13.7	5.6	3.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中層～床面	20%	
386	土師器	椀	12.4	6.4	3.1	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中層～床面	60%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置		備考
387	土師器	椀	[9.8]	6.3	2.7	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ナデ後ヘラ磨き　内面ナデ後ヘラナデ		床面	40%	
388	土師器	甕	20.0	36.0	4.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕		覆土中層～床面	85%	PL45
389	土師器	甕	18.7	32.7	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ		覆土中層～床面	60%	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q102	臼玉	0.35	0.16	0.25	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q103	臼玉	0.38	0.13	0.23	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q104	臼玉	0.35	0.15	0.26	0.05	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q105	臼玉	0.38	0.16	0.23	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q106	臼玉	0.48	0.15	(0.23)	(0.06)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL52
Q107	紡錘車	4.20	0.60	1.00	29.60	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL54

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q108	勾玉	3.6	2.0	0.4	4.5	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.16cm	覆土中	PL52
Q109	双孔円板	(1.6)	(1.7)	0.34	(1.4)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.15cm	床面	PL53
Q109	石板	11.7	9.5	4.9	525.0	滑石	両面に複数の擦痕	床面	PL53
Q110	剥片	2.5	3.2	0.7	4.9	滑石	両面に擦痕	覆土中	PL53
Q111	剥片	2.7	3.2	0.5	6.7	滑石	両面に擦痕	床面	PL53
Q112	剥片	1.7	2.5	0.5	3.2	滑石	両面に擦痕	床面	PL53

第66号住居跡（第89～92図）

位置　調査区南部のＨ６j6区，標高24.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第36号溝に掘り込まれている。

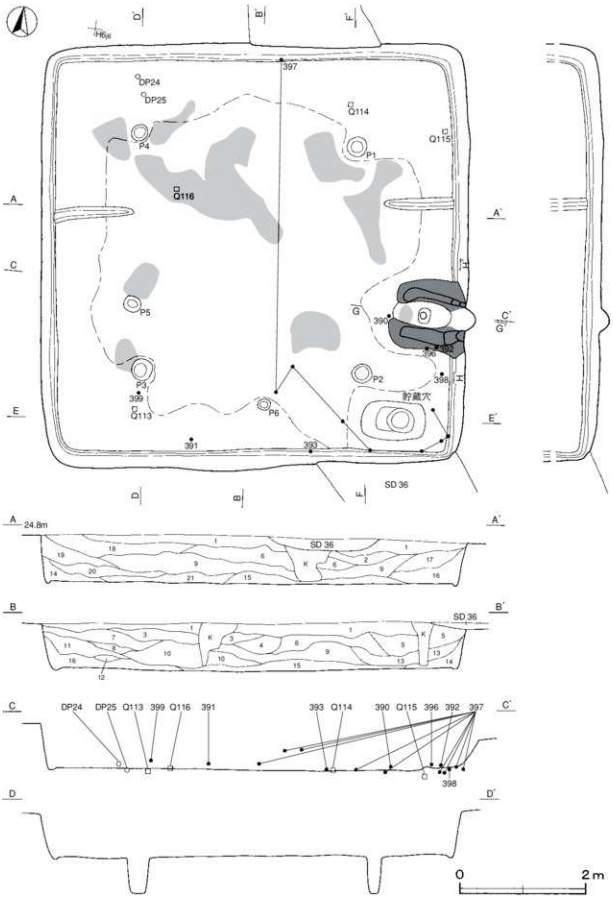
規模と形状　長軸6.80m，短軸6.76mの方形で，主軸方向はＮ－82°－Ｅである。壁高は46～70cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部と竈の周辺が踏み固められており，壁溝が全周している。間仕切り溝が，東西壁から各１条確認されている。また，中央部を除く床全体から焼土塊や炭化材が確認されており，床面の焼けた範囲も確認されている。

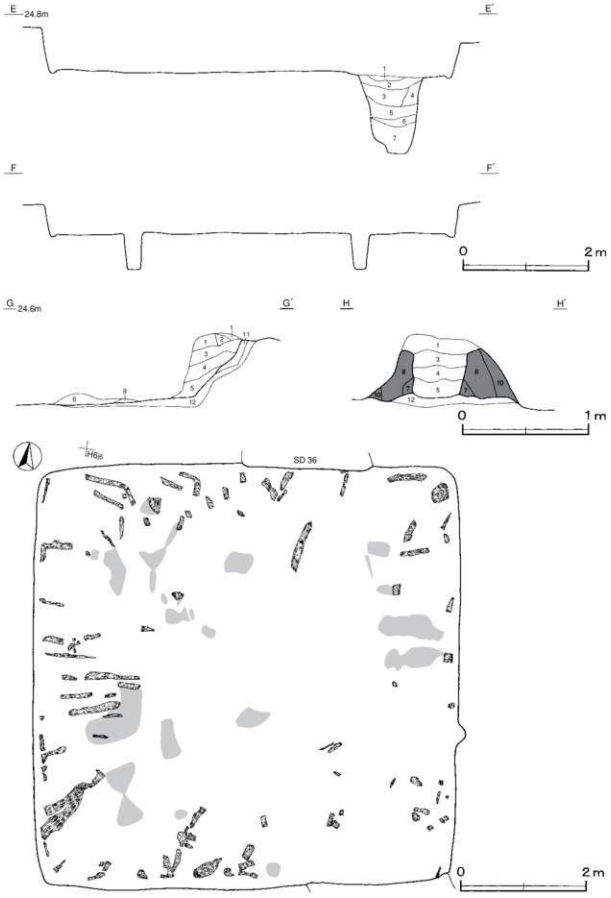
竈　東壁の南寄りに付設されており，焚口部から煙道部まで132cmである。袖部幅は111cmで，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は，床面に薄く客土して使用しており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ16cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。第７・８・10層は袖部の土層であり，土器片や小石を含んでいることから，混和材として混ぜ込まれたと考えられる。第９層は支脚の基部として床上に貼り付けられた層である。煙道と北壁の間には第11・12層が裏込めされている。

竈土層解説
1　灰黄褐色　砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　灰褐色　焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
5　暗赤褐色　砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量
7　赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
8　灰黄色　砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子少量
9　赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
10　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
12　黒褐色　ロームブロック少量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ56～58cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ９cmで，配置から出入り口施設に



第89図　第66号住居跡実測図(1)



第90図　第66号住居跡実測図(2)

伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ７cmで，Ｐ５同様，配置から竈の付設以前の出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長軸103cm，短軸61cmの隅丸長方形で，深さは121cmである。底面は平坦であるが段差が確認されている。壁はほぼ垂直に立ち上がり，上部で緩やかに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗	褐	色
2	黒	褐	色
3	暗	褐	色
4	暗	褐	色
5	褐		色
6	暗	褐	色
7	灰	褐	色

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
7　灰褐色　ロームブロック・砂質粘土粒子少量

覆土　21層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

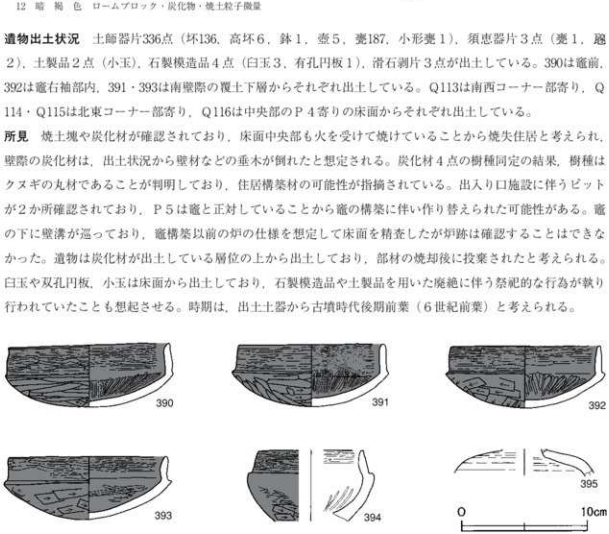
土層解説

1	黒	褐	色
2	暗	褐	色
3	褐		色
4	暗	褐	色
5	暗	褐	色
6	暗	褐	色
7	暗	褐	色
8	褐		色
9	褐		色
10	褐		色
11	黒	褐	色
12	暗	褐	色
13	褐		色
14	暗	褐	色
15	暗	褐	色
16	暗	褐	色
17	黒	褐	色
18	暗	褐	色
19	黒	褐	色
20	暗	褐	色
21	褐		色

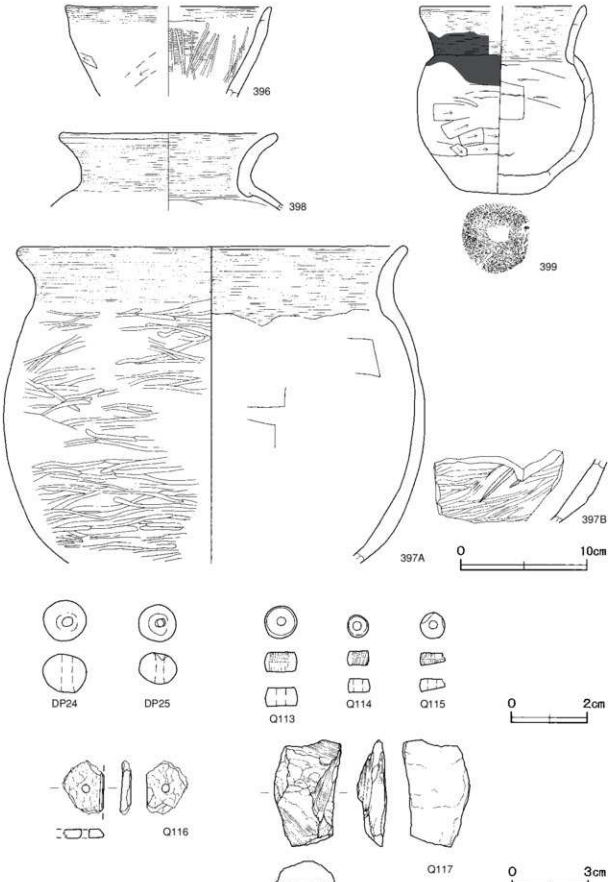
1　黒褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量
8　褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
9　褐色　ロームブロック少量
10　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
11　黒褐色　ロームブロック微量
12　暗褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
13　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗褐色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
15　暗褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
17　黒褐色　ロームブロック少量
18　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
19　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
20　暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
21　褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片336点（坏136，高坏６，鉢１，壺５，甕187，小形甕１），須恵器片３点（甕１，鉢２），土製品２点（小玉），石製模造品４点（臼玉３，有孔円板１），滑石剥片３点が出土している。390は竈前，392は竈右袖部内，391・393は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。Q113は南西コーナー部寄り，Q114・Q115は北東コーナー部寄り，Q116は中央部のＰ４寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　焼土塊や炭化材が確認されており，床面中央部も火を受けて焼けていることから焼失住居と考えられ，壁際の炭化材は，出土状況から壁材などの垂木が倒れたと想定される。炭化材４点の樹種同定の結果，樹種はクヌギの丸材であることが判明しており，住居構築材の可能性が指摘されている。出入り口施設に伴うピットが２か所確認されており，Ｐ５は竈と正対していることから竈の構築に伴い作り替えられた可能性がある。竈の下に壁溝が巡っており，竈構築以前の炉の仕様を想定して床面を精査したが炉跡は確認することはできなかった。遺物は炭化材が出土している層位の上から出土しており，部材の焼却後に投棄されたと考えられる。臼玉や双孔円板，小玉は床面から出土しており，石製模造品や土製品を用いた廃絶に伴う祭祀的な行為が執り行われていたことも想起させる。時期は，出土土器から古墳時代後期前葉（６世紀前葉）と考えられる。



第91図　第66号住居跡出土遺物実測図(1)



第92図　第66号住居跡出土遺物実測図(2)

第66号住居跡出土遺物観察表（第91・92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
390	土師器	坏	12.5	5.0	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部外面横ナデ後一部ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	100%	PL36
391	土師器	坏	11.4	4.9	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面ヘラ磨き　内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	100%	PL36
392	土師器	坏	11.7	4.9	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	90%	PL36
393	土師器	坏	12.4	5.0	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	90%	PL36
394	土師器	坏	[8.4]	(5.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土中	40%	
395	須恵器	甕	－	(2.1)	－	長石	褐灰	良好	ロクロナデ　体部に沈線	覆土中	5％	
396	土師器	鉢	[16.4]	(7.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラ磨き　輪積痕	覆土下層	10%	
397	土師器	甕	30.7	(25.2)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層～下層	60% 研痕	PL55
398	土師器	甕	16.8	(6.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	15%	
399	土師器	小形甕	12.9	15.0	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	60%	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	小玉	1.2	0.3	1.0	1.1	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL52
DP25	小玉	1.0	0.2	0.8	0.6	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL52
Q113	臼玉	0.82	0.22	0.52	0.61	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL52
Q114	臼玉	0.56	0.25	0.40	0.17	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL52
Q115	臼玉	0.66	0.21	0.34	(0.17)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL52

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q116	有孔円板	(2.2)	(1.6)	0.4	(1.6)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.3cm	床面	PL53
Q117	剥片	4.2	2.5	1.2	13.2	滑石	複数の擦痕	覆土中	PL53

第67号住居跡（第93～96図）

位置　調査区南部のⅠ6h1区，標高25.0mの台地平坦部に位置している。

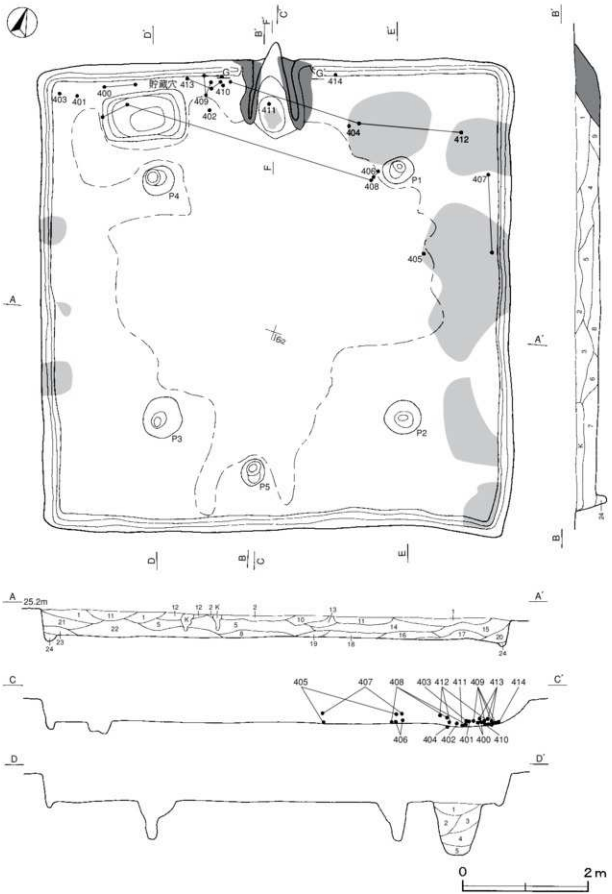
規模と形状　長軸7.46m，短軸7.44mの方形で，主軸方向はN－16°－Wである。壁高は34～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南壁から中央部に向かって踏み固められている。壁溝は竈部分を除いて全周している。また，南壁を除く全ての壁際から焼土塊が確認されている。

竈　北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで156cm，袖部幅は110cmで，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は，地山面を10cmほど掘りくぼめた後に褐色土を埋め戻して火床面として使用しており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ26cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第４・５層が天井部の崩落土層であり，第９～11層が袖部の土層である。第12～16層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量，炭化粒子微量
4　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量
6　赤　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
7　暗　褐　色　炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
11　褐　　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
12　褐　　色　焼土ブロック多量，ロームブロック少量，炭化粒子微量



第93図　第67号住居跡実測図(1)

13 褐　色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
14 褐　色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
15 褐　色 ロームブロック少量
16 褐　色 ロームブロック中量

ピット　5か所。P１～P４は深さ53～62cmで，主柱穴である。P５は深さ21cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置している。長軸134cm，短軸78cmの長方形で，深さは84cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量
3 褐　色 ロームブロック・炭化物微量
4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色 焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量

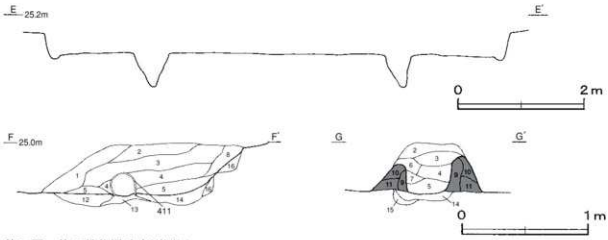
覆土　24層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

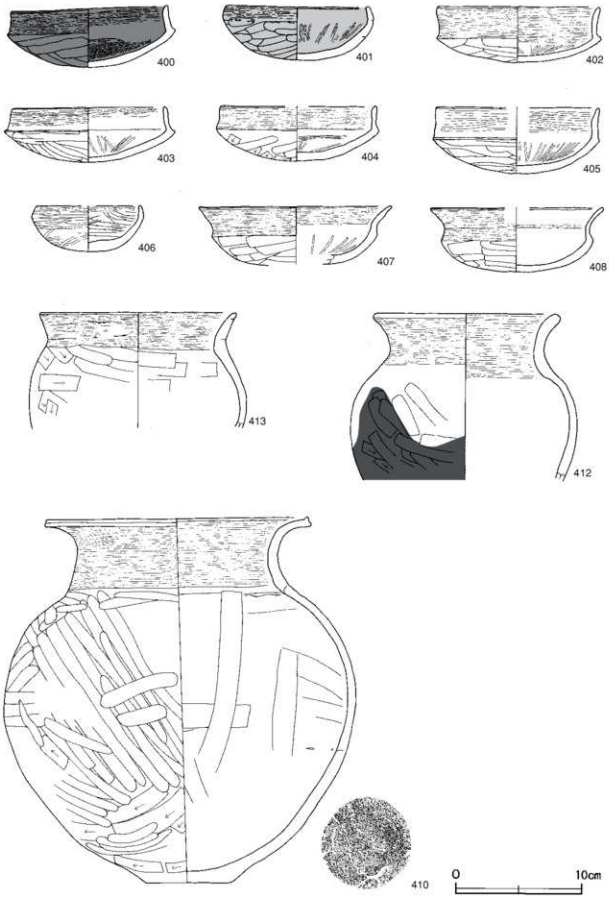
1 極暗褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐　色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
5 褐　色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック微量
7 褐　色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
8 褐　色 ロームブロック・炭化粒子微量
9 暗褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12 暗褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
13 暗褐色 ローム粒子微量
14 暗褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
15 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
16 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量
18 褐　色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19 褐　色 ロームブロック少量
20 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
21 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
22 褐　色 ロームブロック中量
23 黒褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
24 褐　色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片647点（坏109，椀７，高坏14，鉢１，壺７，甕507，小形甕２），土製品１点（土鈴ヵ），石製模造品３点（双孔円板，有孔円板未製品，剣形未製品ヵ），滑石剥片３点が出土している。400～403は竈左側の北壁際の覆土最下層から，404～407は北東コーナー部よりの覆土下層及び最下層からそれぞれ出土している。410は竈左袖脇の覆土最下層から409や413と折り重なるようにして出土している。411は竈内から逆位で出土しており，二次焼成を受けていることから支脚に転用されたものである。

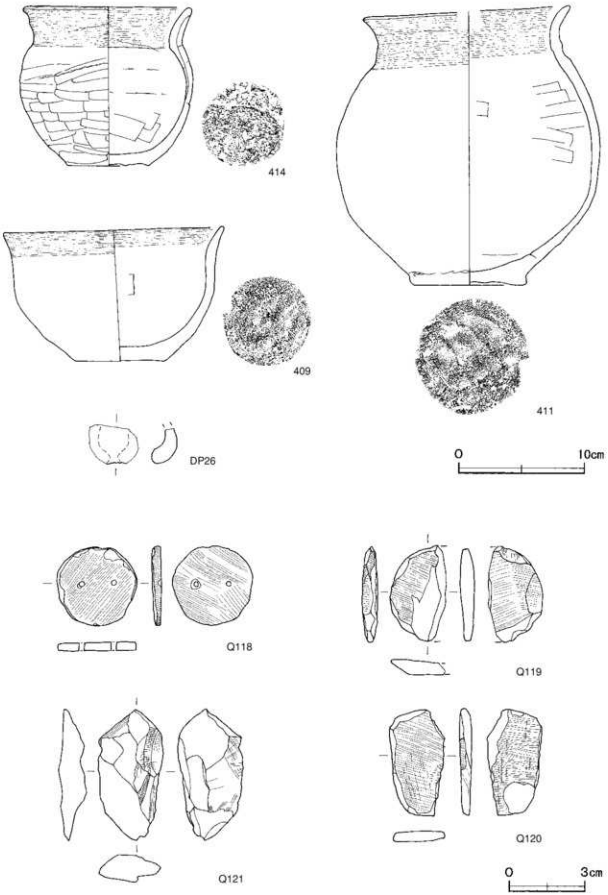
所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。出土遺物のほとんどが焼土塊の上から出土しており，焼失後の窪地に投棄されたと考えられる。石製模造品３点や剥片３点はいずれも遺構確認面や覆土最上層からの出土で，埋め戻しの過程で混入したと考えられる。時期は，出土土器から古墳時代後期前葉（５世紀末葉～６世紀初頭）と考えられる。



第94図　第67号住居跡実測図(2)



第95図　第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第96図　第67号住居跡出土遺物実測図(2)

第67号住居跡出土遺物観察表（第95・96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
400	土師器	坏	12.2	4.7	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土最下層	95%	PL36
401	土師器	坏	11.3	4.4	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き　輪積痕	覆土最下層	95%	PL35
402	土師器	坏	12.7	4.4	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土最下層	60%	
403	土師器	坏	12.0	4.4	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	60%	PL36
404	土師器	坏	[12.2]	4.4	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	床面	80%	
405	土師器	坏	12.7	5.3	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層～床面	55%	
406	土師器	坏	[8.3]	3.6	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土最下層～床面	60%	
407	土師器	坏	15.1	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	60%	
408	土師器	坏	[13.5]	5.1	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面摩滅調整不明	覆土下層～床面	50%	
409	土師器	鉢	17.1	10.7	7.2	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ナデ　内面ナデ	覆土最下層	80%	PL41
410	土師器	甕	20.6	29.0	6.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土最下層	70%	PL45
411	土師器	甕	[16.2]	22.2	8.9	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ　輪積痕	竈内	75%	PL44
412	土師器	甕	14.1	(13.2)	－	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層～床面	40%	
413	土師器	甕	15.4	(9.1)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土最下層	30%	
414	土師器	小形甕	12.8	12.6	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土最下層	80%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP26	土錘ｇ	(3.8)	4.4	1.3	(19.1)	土（長石・石英）	外面ナデ　内面指頭痕	覆土中	
Q118	双孔円板	3.2	3.2	0.4	5.9	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.2cm	覆土中	PL53
Q119	有孔円板未製品	3.9	(2.2)	0.6	(6.7)	滑石	両面平滑　研磨調整	覆土中	PL52
Q120	剱形未製品ｇ	4.2	2.2	0.5	6.0	滑石	両面平滑　研磨調整	覆土中	PL52
Q121	剥片	5.2	2.6	1.1	14.5	滑石	複数の剥痕	覆土中	PL53

第68号住居跡（第97～100図）

位置　調査区南部のＪ５a4区，標高25.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南側は大きく攪乱を受けているため全体の確認はできなかったが，長軸8.02m，短軸は3.27mが確認できた。確認できた壁や柱穴からＮ－10°－Ｗを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は９～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部及び炉の周辺が踏み固められている。壁溝が北・西壁及び東壁に一部確認されている。

炉　２か所。炉１は中央部の北壁寄りに位置している。長径102cm，短径72cmの楕円形で，床面を２cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉２は全体を確認することはできなかったが，遺存する炉床部は59cmほどの円形状と考えられ，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
Ⅰ　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量

炉２土層解説
Ⅰ　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量

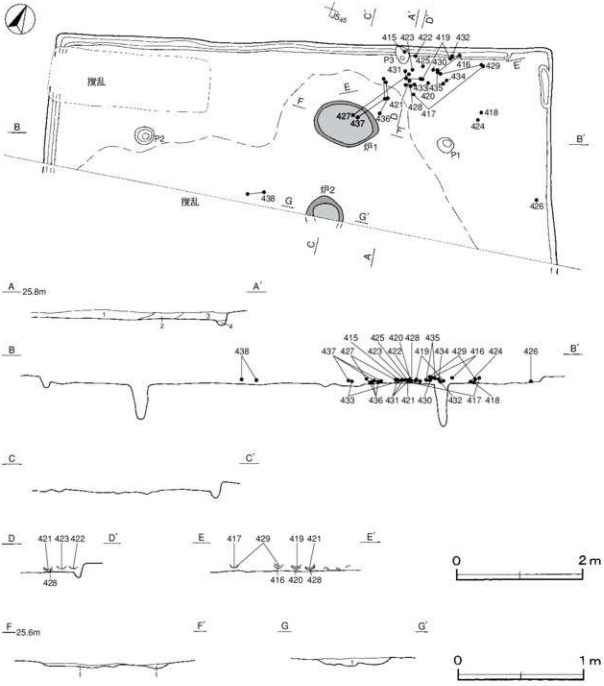
ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ54cm・66cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ３は深さ22cmで，性格は不明である。

覆土　４層に分層される。覆土はわずかではあるが，遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

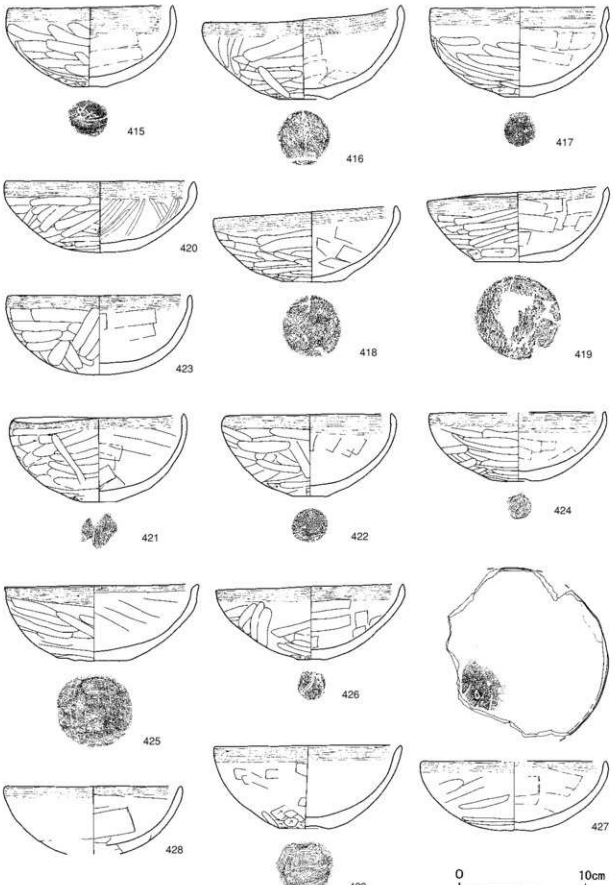
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片597点（坏10，椀96，坩１，高坏２，甕488），石製模造品１点（剣形未製品ヵ），滑石剥片４点が出土している。415～425・427～437は北壁際から中央部北側にかけてまとまって出土している。438は炉２西側から出土した土器片が接合したものである。

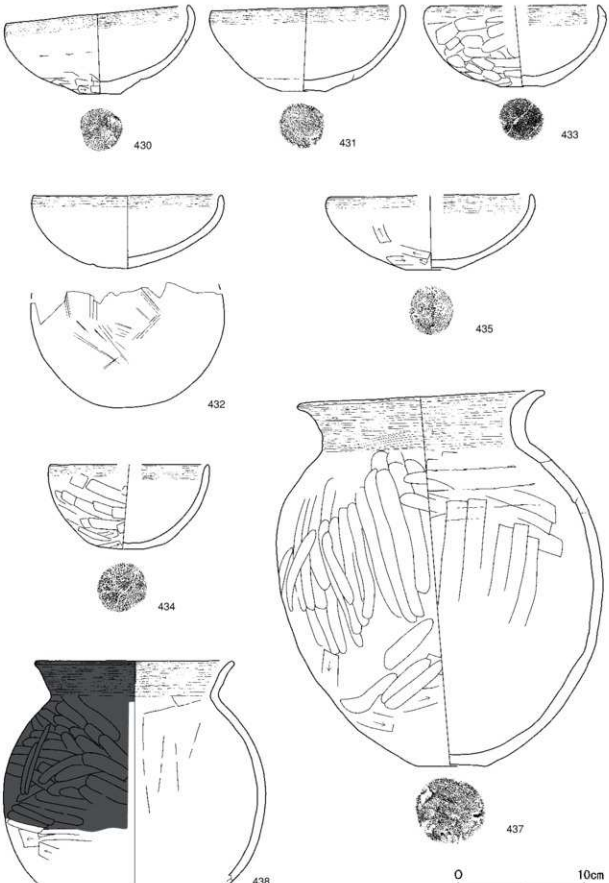
所見　遺物の大部分は北壁際から中央部北側にかけての覆土最下層から折り重なるようにして出土しており，住居廃絶後まもなく一括投棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



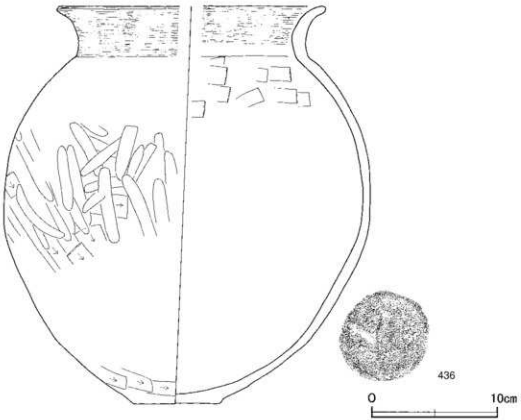
第97図　第68号住居跡実測図



第98図　第68号住居跡出土遺物実測図(1)



第99図　第68号住居跡出土遺物実測図(2)



第100図　第68号住居跡出土遺物実測図(3)

第68号住居跡出土遺物観察表（第98～100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
415	土師器	椀	13.0	6.4	3.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	95%	PL.35
416	土師器	椀	15.5	7.5	3.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	90%	PL.35
417	土師器	椀	13.9	7.2	2.1	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	95%	
418	土師器	椀	14.3	6.1	4.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	90%	PL.34
419	土師器	椀	14.2	6.0	6.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	95%	
420	土師器	椀	14.9	5.7	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土下層	90%	
421	土師器	椀	13.5	7.0	2.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	95%	PL.35
422	土師器	椀	13.1	6.6	2.6	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	90%	PL.35
423	土師器	椀	14.4	6.3	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	85%	PL.35
424	土師器	椀	[13.8]	5.5	2.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	80%	PL.35
425	土師器	椀	15.2	6.1	5.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	70%	
426	土師器	椀	14.7	6.0	2.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	75%	
427	土師器	椀	[14.6]	5.5	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	50%	将痕
428	土師器	椀	13.9	15.4)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	70%	
429	土師器	椀	14.8	6.6	4.2	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	80%	
430	土師器	椀	14.4	7.0	3.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	60%	
431	土師器	椀	15.1	6.8	3.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	60%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	椀	14.9	5.8	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面摩滅調整不明	覆土下層	60% 雑報
433	土師器	椀	[13.3]	6.5	3.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ナデ　輪積痕	覆土下層	60%
434	土師器	椀	[12.4]	6.8	3.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ナデ	覆土下層	60%
435	土師器	椀	[16.1]	6.0	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	40%
436	土師器	甕	[21.0]	31.5	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ヘラナデ	覆土下層	50%
437	土師器	甕	19.4	29.8	5.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	35%
438	土師器	甕	15.4	[18.0]	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	30%

第73号住居跡（第101・102図）

位置　調査区東部のＥ６ｅ5区，標高24.0ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.27ｍ，短軸5.14ｍの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｅである。壁高は56～68cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，貯蔵穴を取り囲むように４～８cmほどのわずかな高まりが確認されており，貯蔵穴周辺や炉の周辺，中央部の西壁寄りがやや踏み固められている。また，北コーナー寄りから焼土塊や炭化材が確認されている。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径73cm，短径49cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　橙　　色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ45～62cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ21cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径123cm，短径102cmの楕円形で，深さは64cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

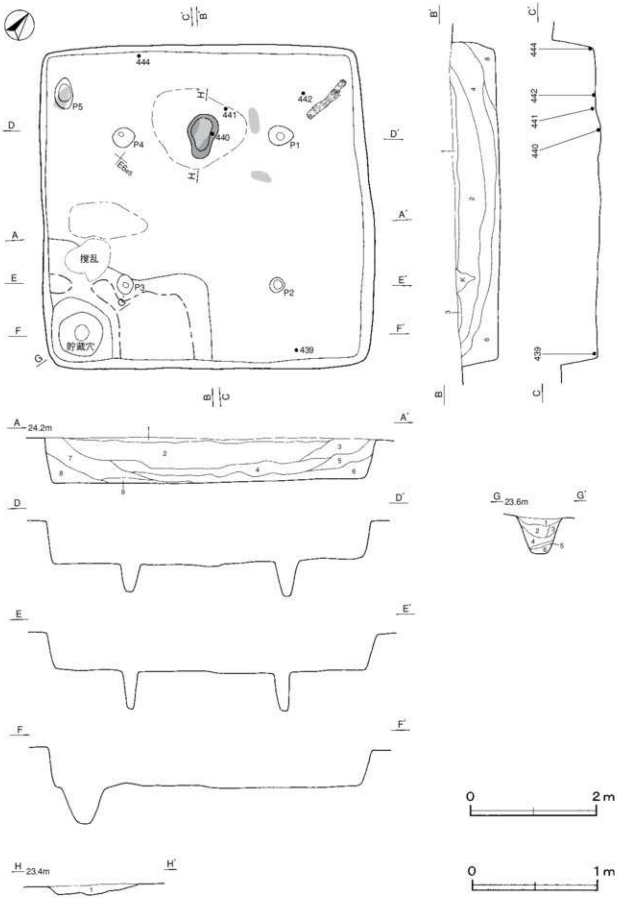
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム ブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6　褐　灰　色　砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム ブロック微量

覆土　９層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

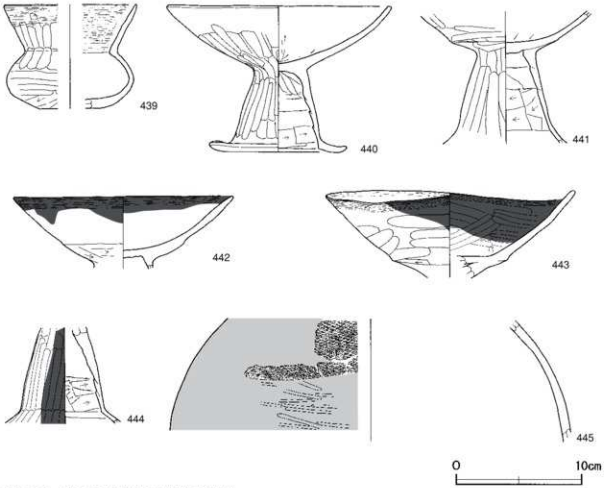
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子微量
8　褐　　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片92点（坩６，器台４，高坏８，壺３，甕71）のほかに，流れ込んだ縄文土器片１点も出土している。439は東コーナー部，444は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。440は炉の火床面，442は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材はわずかであるが，焼土塊も確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代中期中葉（５世紀中葉）と考えられる。



第101図　第73号住居跡実測図



第102図　第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第102図）

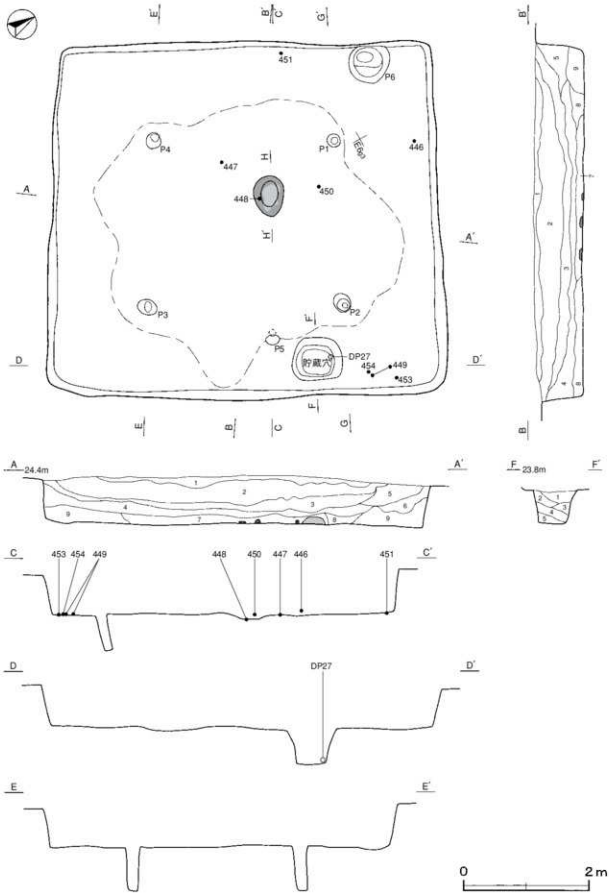
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
439	土師器	坩	[10.4]	8.3	[4.8]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	60%	PL.37
440	土師器	高坏	17.4	11.6	10.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	坏部・脚部外面ヘラナデ　坏部内面摩滅によりヘラナデ後の調整不明　脚部内面ヘラ削り後ナデ　輪積痕	炉内	75%	PL.40
441	土師器	高坏	－	(10.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部・脚部外面ヘラナデ　坏部内面摩滅によりヘラナデ後の調整不明　脚部内面ヘラ削り　輪積痕	覆土下層	50%	
442	土師器	高坏	17.2	(5.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	床面	50%	PL.40
443	土師器	高坏	19.5	(7.0)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラ磨き	覆土中	40%	
444	土師器	高坏	－	(7.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ヘラ削り　輪積痕	覆土下層	20%	
445	土師器	壺	－	(9.7)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面上位に網目状の撚糸文　ヘラ磨き	覆土中	5%	

第74号住居跡（第103～106図）

位置　調査区東部のＥ６ｇ3区，標高24.3ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.26ｍ，短軸5.70ｍの方形で，主軸方向はＮ－61°－Ｗである。壁高は63～70㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，床面全体に焼土塊や炭化材が確認されており，床の一部は赤変している。



第103図　第74号住居跡実測図(1)

炉　中央部やや北東寄りに位置している。長径67cm，短径49cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

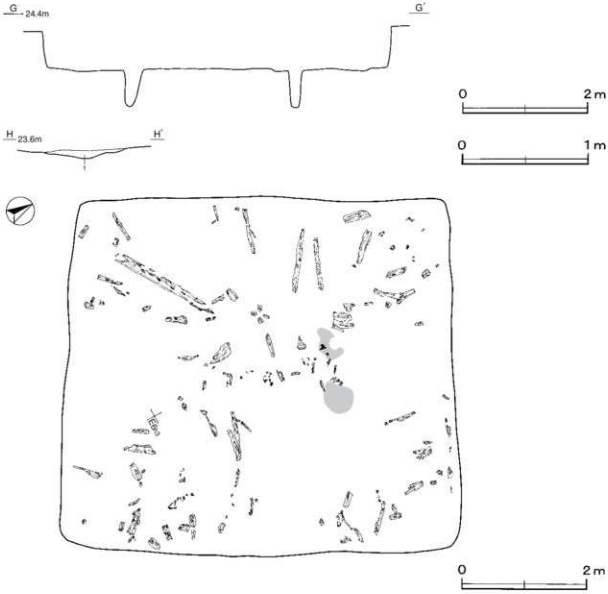
炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ56～71cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ59cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ15cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナー部やや南寄りに位置している。長径81cm，短径69cmの楕円形で，深さは55cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

覆土　９層に分層される。第１～６層はレンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。第７～９層は焼土や炭化材を多く含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

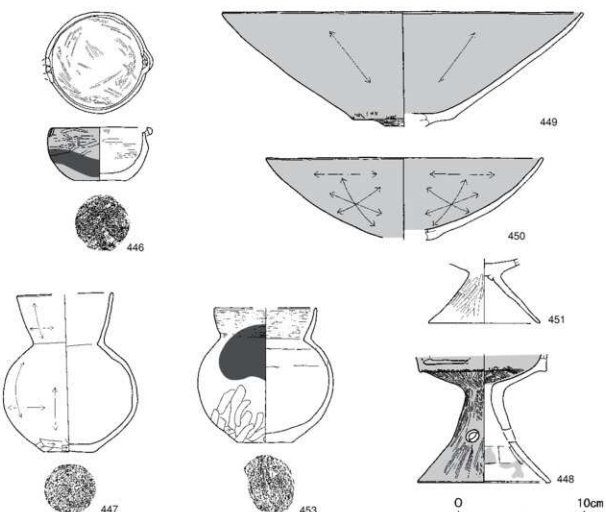


第104図　第74号住居跡実測図(2)

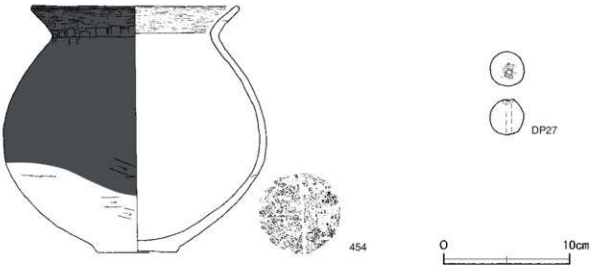
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　炭化物少量，焼土ブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
9　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化材微量

遺物出土状況　土師器片94点（把手付椀１，坩４，器台１，高坏11，甕76，小形甕１），土製品１点（球状土錘），礫１点のほかに，細かく破砕された土器片（367ｇ）が出土している。447･450は炉の周りの床面，448は炉の火床面，453・454は東コーナー部床面からそれぞれ出土している。449も東コーナー部床面から出土しており，第73・78号住居跡から出土した坏部片と接合している。破砕された土器片は北東壁際の床面，DP27は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材が床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居である。また，炭化材４点の樹種同定の結果，樹種はクヌギの丸材であることが判明しており，住居構築材の可能性が指摘されている。449は，本跡では床面，第73号住居跡では覆土下層，第78号住居跡では覆土中からそれぞれ出土しており，出土状況と遺存率から本跡の遺物として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第105図　第74号住居跡出土遺物実測図(1)



第106図　第74号住居跡出土遺物実測図(2)

第74号住居跡出土遺物観察表（第105・106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
446	土師器	把手付椀	7.8	4.2	4.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土下層	95%	PL47
447	土師器	坩	[7.5]	12.7	4.0	長石・石英	明黄褐	普通	口辺部・体部外面丁寧なヘラ磨き　体部外面下端ヘラ撫り　内面ナデ	床面	90%	PL37
448	土師器	黄瀬器台	－	(10.3)	10.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	器受部内・外面及び脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ヘラナデ　器受部4悪　脚部3悪	炉内	70%	PL39
449	土師器	高坏	28.2	(9.2)	－	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面ハケ目調整後丁寧なヘラ磨き	床面	40%	PL40
450	土師器	高坏	21.8	(6.6)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	床面	40%	接合関係SI73・78
451	土師器	高坏	－	(5.1)	8.9	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ナデ	床面	40%	
453	土師器	壺	[8.0]	10.7	4.4	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ撫り後ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	床面	35%	
454	土師器	甕	16.1	19.6	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ撫り後ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	床面	95%	PL44

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP27	紡錘土錘	2.7	0.6	2.7	20.7	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	貯蔵穴底面	

第75号住居跡（第107・108図）

位置　調査区東部のＦ５b0区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.62m，短軸3.34mの方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｗである。壁高は65～73cmで，ほぼ垂直に立ち上がり，上部で外傾している。

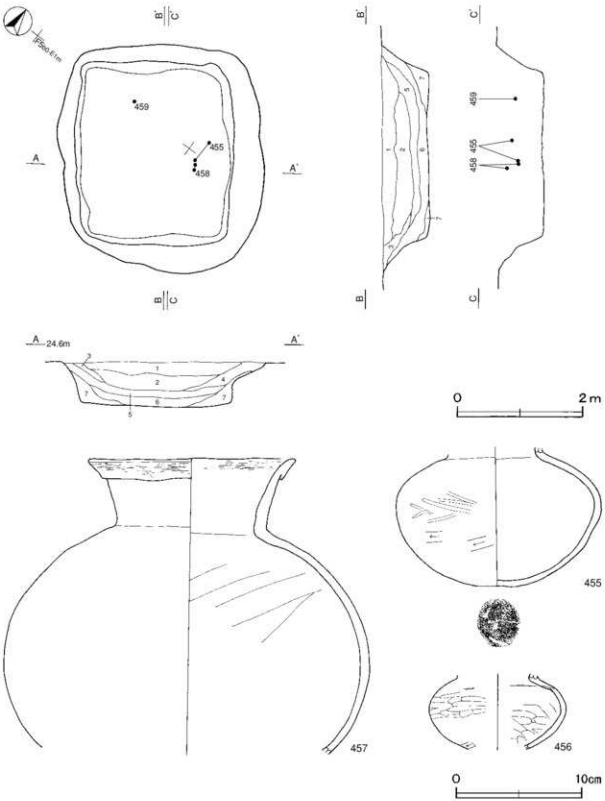
床　ほぼ平坦であるが，特に踏み固められている部分は確認されていない。

覆土　7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

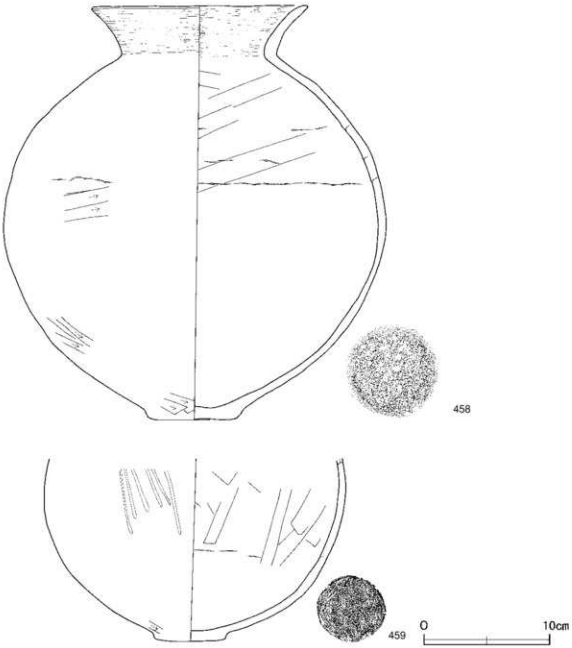
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片33点（坩３，器台１，壺１，甕28）の他，流れ込んだ縄文土器片１点も出土している。455・458は北東壁寄り，459は北西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　遺物は，出土状況や覆土の堆積状況などから，埋没していく段階で廃棄されたと考えられる。本跡と同様の形状を示すのは第77号住居跡で，炉跡などの屋内施設は検出されていないが住居跡として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代前期末葉～中期初頭（４世紀末葉～５世紀初頭）と考えられる。



第107図　第75号住居跡・出土遺物実測図



第108図　第75号住居跡出土遺物実測図

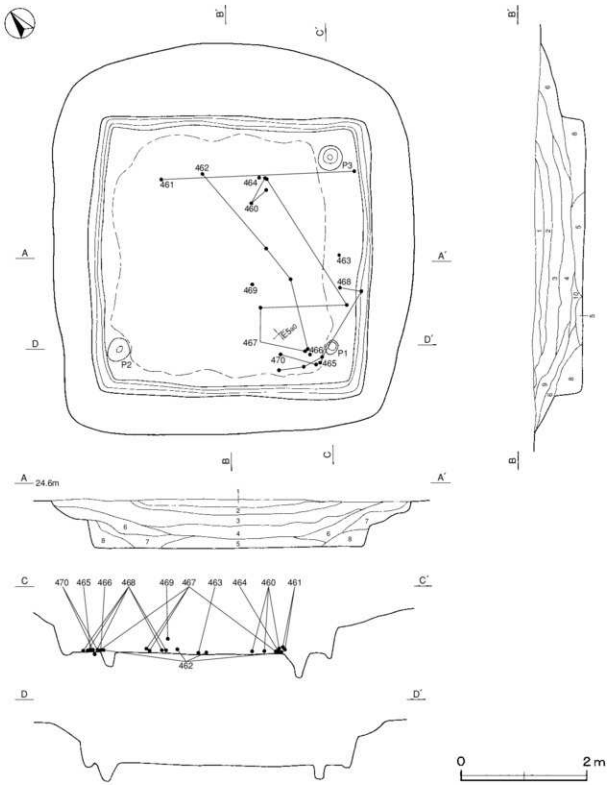
第75号住居跡出土遺物観察表（第107・108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	土師器	坩	－	(11.1)	3.4	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土中層	75%
456	土師器	坩	－	(6.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面指頭によるナデ　輪積痕	覆土中	30%
457	土師器	壺	16.2	(23.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ	覆土中	30%
458	土師器	壺	16.7	32.9	7.3	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面摩滅調整不明　体部外面摩滅のためヘラ削り後の調整不明　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	60%
459	土師器	壺	－	(14.5)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後丁寧なナデ　一部ヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	30%

第77号住居跡（第109・110図）

位置　調査区東部のＤ５j0区，標高24.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.10m，短軸5.70mの方形で，主軸方向はＮ－46°－Ｅである。壁高は68～90cmで，外傾して立ち上がっており，上部でさらに外傾している。



第109図　第77号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，壁近くを除いて全体に踏み固められている。壁溝が全周している。

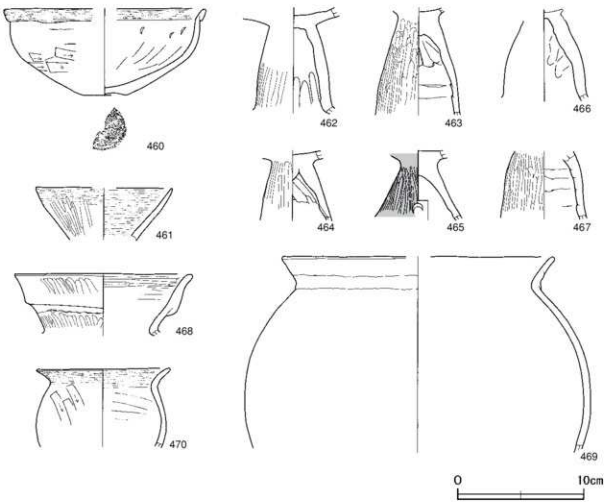
ピット　3か所。P1～P3は深さ22～38cmで，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　10層に分層される。第5・8層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積で，その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　黒　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片38点（椀1，坩3，器台1，高坏8，壺3，甕20，小形甕2）のほかに，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。463は南東壁側の床面，464は北東壁寄りの覆土下層，465は南コーナー部の床面，469は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。460～462・466～468・470は接合資料で，467は南東部の広範囲から出土した土器片が接合し，さらに，468は南コーナー付近から出土した土器片が接合したものである。

所見　本跡と同様の形状を示すのは第75号住居跡で，炉跡などの屋内施設は検出されていないが住居跡として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代前期末葉～中期初頭（4世紀末葉～5世紀初頭）と考えられる。



第110図　第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土師器	椀	15.5	6.9	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ　工具痕	覆土下層	40%
461	土師器	坩	[10.6]	(4.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　外面ヘラ磨き	覆土下層	20%
462	土師器	高坏	－	(8.4)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面指頭によるナデ	覆土下層～床面	30%
463	土師器	高坏	－	(8.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面指頭によるナデ　輪積痕	床面	15%
464	土師器	高坏	－	(5.5)	－	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面指頭によるナデ　輪積痕	覆土下層	20%
465	土師器	高坏	－	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ナデ　3窓ｅ	床面	25%
466	土師器	高坏	－	(7.3)	－	長石・石英	橙	普通	脚部外面摩滅調整不明　内面指頭によるナデ脚部	床面	25%
467	土師器	高坏	－	(5.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	床面	20%
468	土師器	壺	13.8	(4.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面ヘラ磨き　体部外面ヘラ磨き　内面ナデ	床面	20%
469	土師器	甕	[21.4]	(15.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	摩滅調整不明　輪積痕	覆土中層	20%
470	土師器	小形甕	[10.4]	(6.3)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	30%

第78号住居跡（第111・112図）

位置　調査区東部のＥ５ｃ0区，標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第33号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.00m，短軸4.64mの方形で，主軸方向はＮ－57°－Ｗである。壁高は45～53cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。Ｐ２とＰ３の間に３cmほどのわずかな高まりが確認されている。

炉　２か所。炉１は中央部の北寄りに位置している。長径94cm，短径59cmの不整楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉２は中央部の南西寄りに位置している。長径43cm，短径37cmの不定形で，床面をそのまま利用した地床炉である。炉床は火を受けて赤変している。

炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

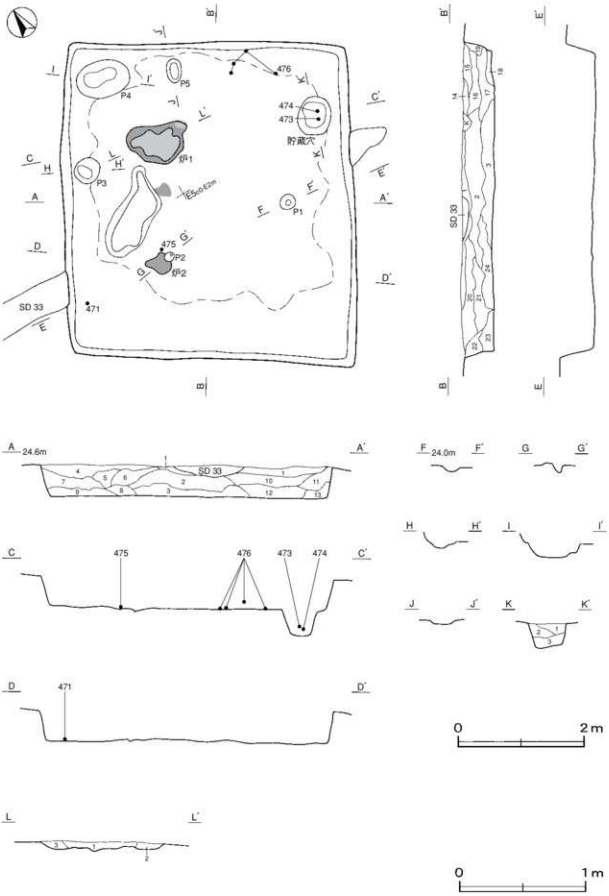
ピット　５か所。Ｐ１は深さ７cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～Ｐ５は深さ６～26cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナー部付近に位置している。長径62cm，短径54cmの楕円形で，深さは40cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

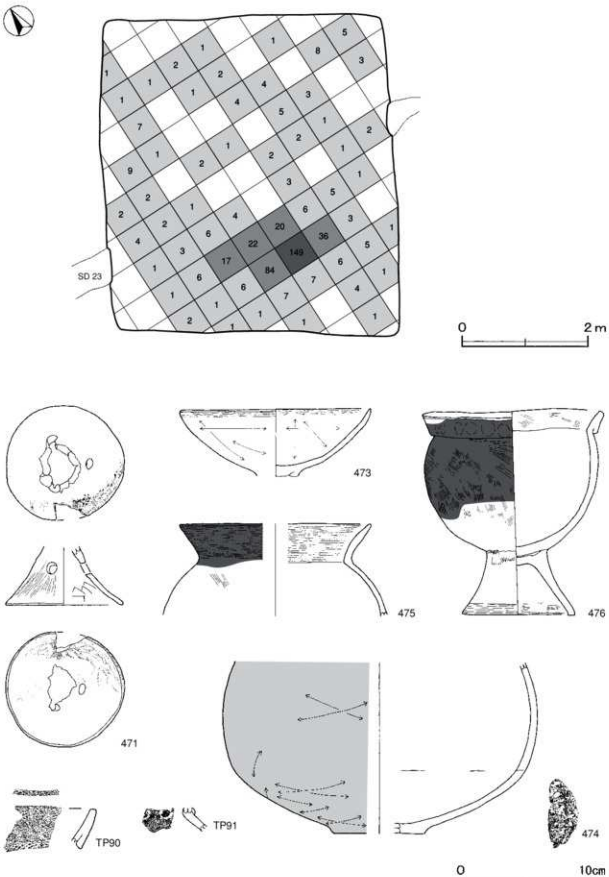
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　24層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子微量
8　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
9　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　ロームブロック少量
13　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
14　黒褐色　ローム粒子少量
15　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
16　黒色　ロームブロック微量
17　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
18　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第111図　第78号住居跡実測図



第112図　第78号住居跡出土粒状滓分布図・出土遺物実測図

19 褐　色 ロームブロック中量
20 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
21 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
22 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
23 暗 褐 色 ローム粒子少量
24 暗 褐 色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片34点（器台1，高坏1，壺4，甕27，台付甕1），粒状滓489点のほかに，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。471は西壁際のコーナー寄り，475は炉2脇の床面からそれぞれ出土している。473・474は貯蔵穴下層から重なるようにして出土している。476は北東壁寄りの床面及び覆土下層から出土した土器片が接合したものである。粒状滓はほぼ床全域から出土しているが，特に南側床面に集中している。また，高坏の坏部片が第73・74号住居跡から出土した坏部片と接合している。

所見　471の内・外面には羽口に転用された痕跡が確認されており，南西寄り床面から粒状滓が出土していることや炉跡が2か所確認されたことなどから鍛冶工房的な性格を有した遺構と考えられる。また，貯蔵穴北東側の床面に鉄が腐植したような錆色の覆土が確認されたことから，貯蔵穴脇の壁の土と共に自然科学分析を行った。分析の結果，貯蔵穴北東側の覆土には壁の土よりも赤鉄鉱の含有量が多く，鍛冶作業で生じた鉄分に由来することが指摘されている。炉1の周辺部の粒状滓の出土は50cmの方形内からは数点であり，炉2の周辺も炉1周辺より若干増えるものの多くは出土していない。粒状滓が多く検出されている区域は炉2の南東側で，350点近くが集中して出土している。出土状況から判断して作業は南コーナーで行われていたことが想定できる。また，炉1・2の間には床の高まりが確認されており，作業に伴い炉間の頻繁な移動も想定される。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。

第78号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
471	土師器	鍛台	－	(4.7)	9.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ナデ　3窓	床面	40% 羽口転用	PL.39
473	土師器	高坏	15.0	(5.3)	－	長石・石英	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面丁寧なヘラ磨き	貯蔵穴下層	50%	
474	土師器	壺	－	(13.6)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面丁寧なヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	貯蔵穴下層	40%	
475	土師器	甕	[15.0]	(7.3)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ハケ目調整後ナデ　内面ナデ	床面	10%	
476	土師器	台付甕	13.9	16.2	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面指頭痕　口辺部内面・体部・脚部外面ハケ目調整後ナデ　体部・脚部内面ナデ　脚端部横ナデ	覆土下層～床面	90%	PL.46
TP90	土師器	壺	－	(3.1)	－	長石・石英	橙	普通	鍛台口縁　口唇部及び口辺部外面に網目状の擬赤文　口辺部内面ヘラ磨き　内面赤彩	覆土中	5%	
TP91	土師器	壺	－	(1.8)	－	長石・石英	橙	普通	頸部にボタン状瘤貼付　外面赤彩	覆土中	5%	

第79号住居跡（第113～116図）

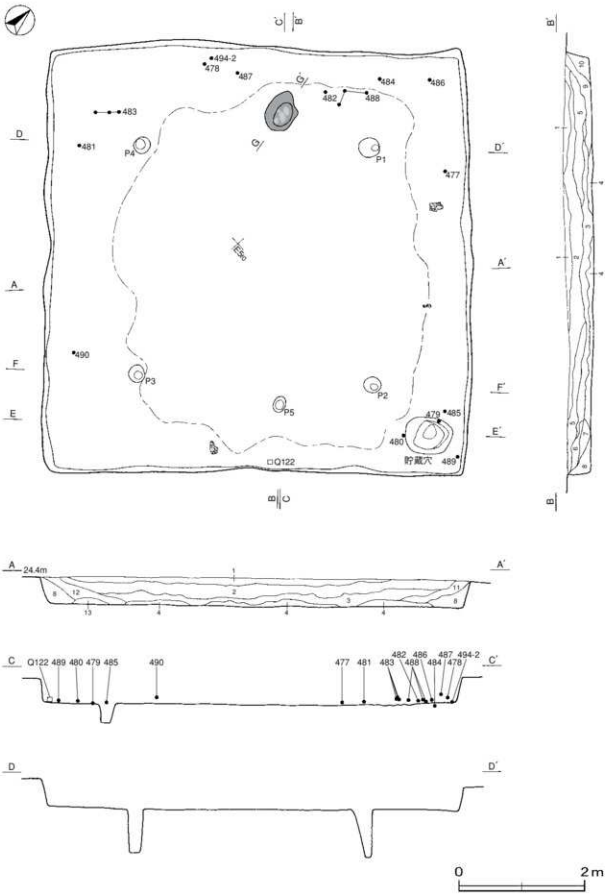
位置　調査区東部のE5f0区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.78m，短軸6.73mの方形で，主軸方向はN－47°－Wである。壁高は40～45cmで，外傾して立ち上がっている。

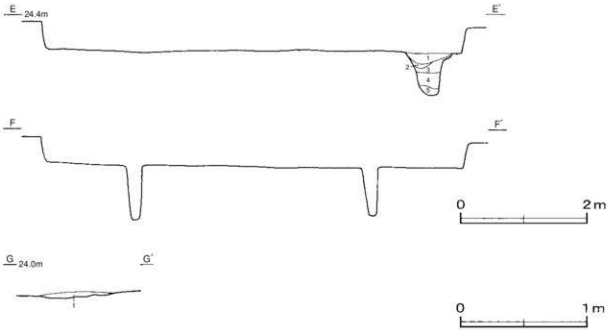
床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。また，北東壁や北西壁近くに焼土塊や炭化材が確認されている。

炉　北壁寄りに位置している。長径76cm，短径49cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量



第113図　第79号住居跡実測図(1)



第114図　第79号住居跡実測図(2)

ピット　5か所。P１～P４は深さ68～84cmで，主柱穴である。P５は深さ29cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径76cm，短径58cmの楕円形で，深さは69cmである。底面は皿状で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	
2	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
4	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量	
5	褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	

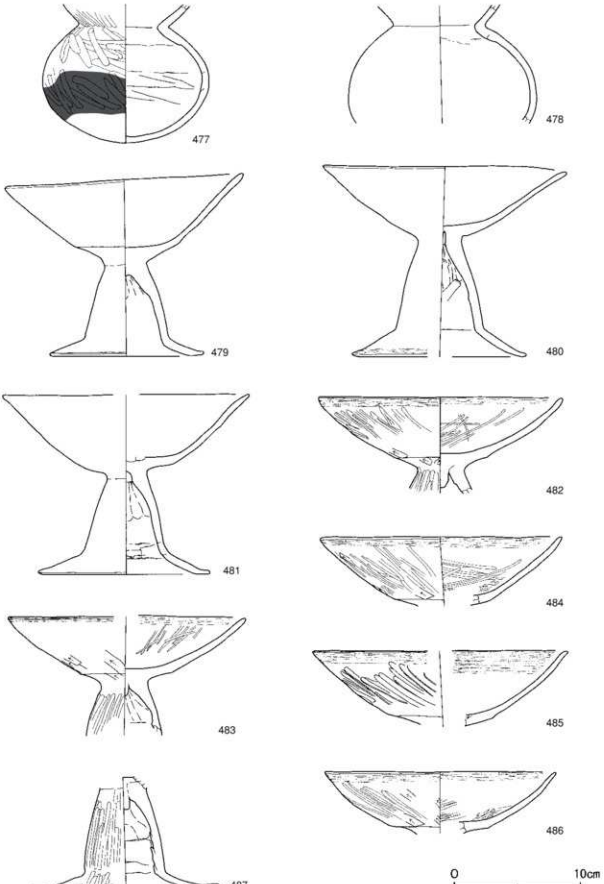
覆土　13層に分層される。第４・13層は，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積で，その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

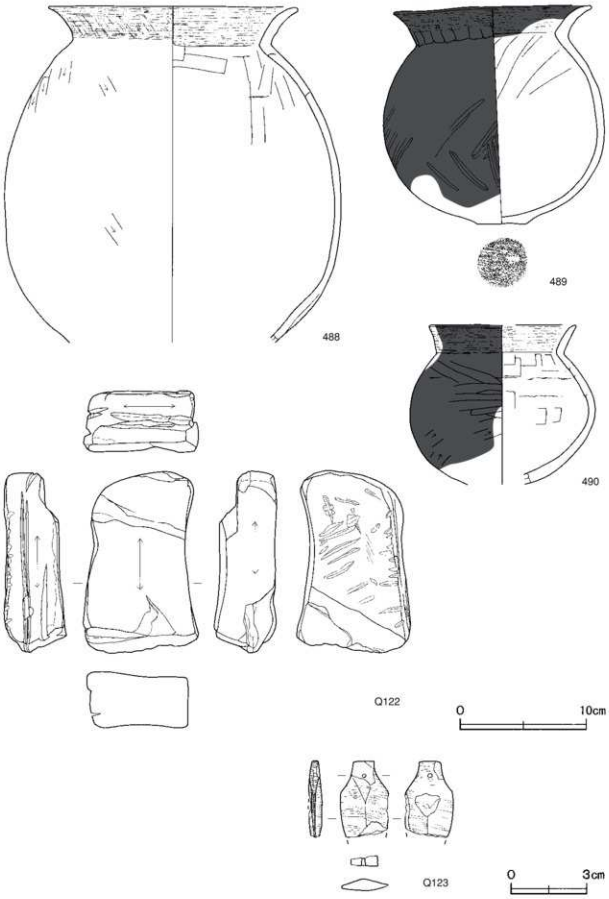
1	黒　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
4	褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
5	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
6	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
7	褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
8	褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
9	暗　褐　色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	
10	褐　色	ロームブロック微量	
11	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
12	黒　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	
13	褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片282点（坩２，高坏74，甕203，小形甕３），石器１点（砥石），石製模造品１点（剣形）が出土している。477は北東壁際，478・487は北西壁際，482・484・486・488は北コーナー寄り，479・480・485・489は東コーナー部，481・483は西コーナー寄り，490は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。西コーナー寄りの床面から出土した高坏の脚部が第80号住居跡から出土した高坏の坏部と接合している。

所見　焼土塊や炭化材が確認されたことから焼失住居であると考えられ，遺物も焼失の際に火を受けている。時期は，出土土器から古墳時代中期前葉（５世紀前葉）と考えられ，遺物の接合関係や主軸方向，規模などから第80号住居跡と同時期と想定される。



第115図　第79号住居跡出土遺物実測図(1)



第116図　第79号住居跡出土遺物実測図(2)

第79号住居跡出土遺物観察表（第115・116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
477	土師器	坩	－	(11.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口沿部・体部外面ヘラ磨き　口沿部・体部内面ナデ　輪積痕	覆土下層	80%	PL.38
478	土師器	坩	－	(9.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面摩滅調整不明　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	50%	
479	土師器	高坏	18.7	14.5	12.2	長石・石英・雲母	橙	普通	摩滅調整不明　脚部内面ナデ	覆土下層	90%	PL.41
480	土師器	高坏	19.0	15.2	[13.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	摩滅調整不明　脚端部横ナデ　脚部内面ナデ	覆土下層	55%	
481	土師器	高坏	[19.3]	14.2	13.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	摩滅調整不明　脚部内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	50%	
482	土師器	高坏	19.1	(7.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口沿部内・外面横ナデ　坏部・脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き　脚部内面ナデ	覆土下層	50%	PL.40
483	土師器	高坏	[18.7]	(9.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口沿部内・外面横ナデ　坏部外面摩滅のためヘラ削り後の調整不明　坏部内面・脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ナデ	覆土下層	40%	
484	土師器	高坏	18.9	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口沿部内・外面横ナデ　坏部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土下層	50%	
485	土師器	高坏	[20.0]	(6.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口沿部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ後ナデ　内面摩滅調整不明	覆土下層	30%	
486	土師器	高坏	18.2	(4.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口沿部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土下層	25%	
487	土師器	高坏	－	(9.0)	[14.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	35%	
488	土師器	甕	19.5	(26.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口沿部外面ヘラナデ後横ナデ　内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	60%	
489	土師器	小形甕	15.1	17.3	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口沿部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ磨き後ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	95%	PL.44
490	土師器	小形甕	[11.4]	(12.6)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口沿部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	75%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q122	砥石	14.3	9.1	4.8	778.0	砂岩	砥面５面の内１面は玉砥ぎ痕	床面	PL.54
Q123	剣形模造品	(3.1)	1.9	0.5	(4.0)	滑石	両面両刃状　中央部焼　全面研磨調整　上部穿孔　孔径0.15cm	覆土中	PL.52

第80号住居跡（第117～120図）

位置　調査区東部のＥ５d5区，標高24.2ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.72ｍ，短軸6.66ｍの方形で，主軸方向はＮ－41°－Ｗである。壁高は56～73cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北コーナー部から中央部にかけて広く踏み固められている。Ｐ３の中央部側と貯蔵穴の周りに高まりが確認されている。また，床面から焼土塊や炭化材が確認されている。

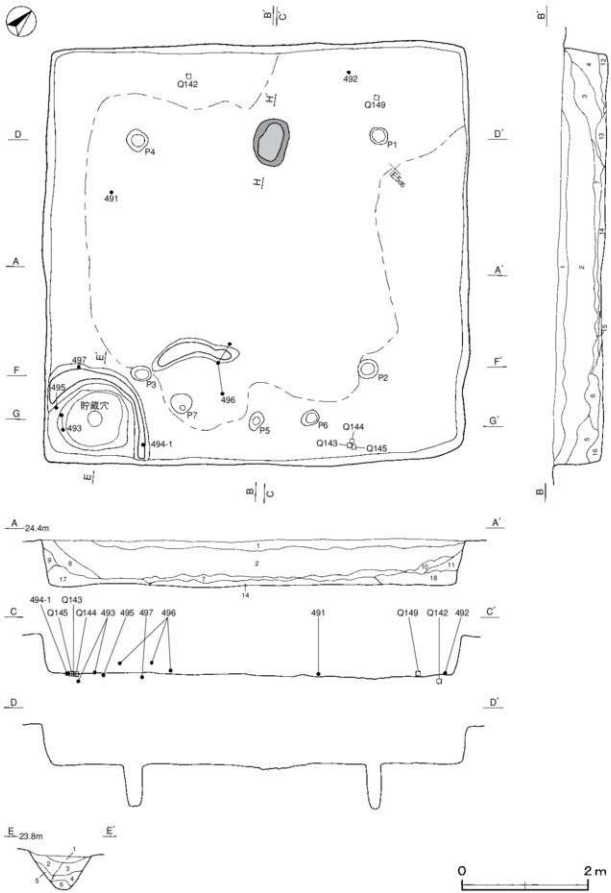
炉　ほぼ中央部の北壁寄りに位置している。長径75cm，短径57cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量

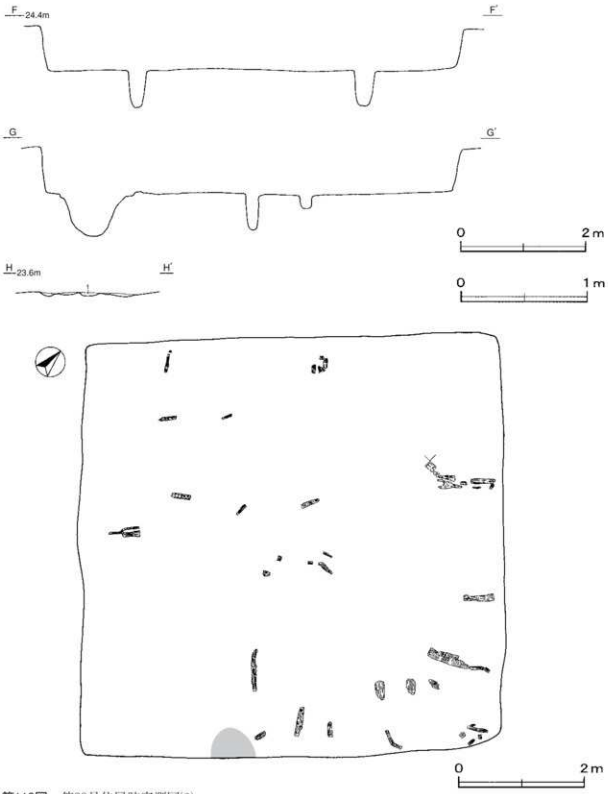
ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ58～70cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ59cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，Ｐ６・Ｐ７は深さ21cm・29cmで，出入り口施設に伴うピットの補助的な役割を有していた可能性が推測されるが明確ではない。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径114cm，短径112cmの不整円形で，深さは71cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
5　にぶい褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量



第117図　第80号住居跡実測図(1)



第118図　第80号住居跡実測図(2)

覆土　18層に分層される。第1・2層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積で，その他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

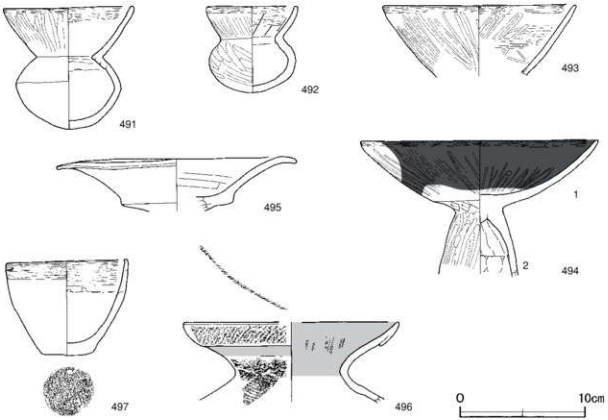
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

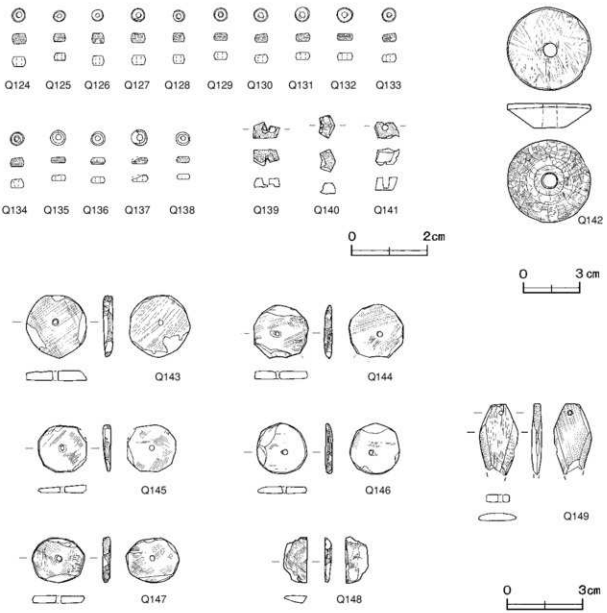
5　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
13　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
14　暗　褐　色　炭化材・ロームブロック・焼土粒子微量
15　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
16　褐　色　炭化材中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
18　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化材微量

遺物出土状況　土師器片197点（坩15，器台８，高坏25，壺３，甕145），ミニチュア土器１点（椀型ヵ），石製品１点（紡錘車），石製模造品25点（臼玉15，臼玉未製品３，剣形１，有孔円板５，有孔円板未製品１），滑石剥片25点が出土している。494・497は貯蔵穴脇の床面，493・495は貯蔵穴上層，491は南西壁寄りの床面，492は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は床のほぼ全域で確認されていることから焼失住居と考えられる。また，炭化材４点（南西壁際１点，南東壁際３点）の樹種同定の結果，南西壁際の１点及び南東壁際の２点の樹種はクヌギの丸材，残りの１点はハンノキの丸材であることが判明しており，住居構築材の可能性が指摘されている。石製模造品のほかに，臼玉未製品３点，有孔円板未製品１点，滑石剥片25点（荒割品９，形割品12，砕片４），さらには滑石製の紡錘車１点も出土しており，滑石製の模造品や製品を製作していた可能性も想定される。製作に関わる道具類が出土していないのは，廃絶に伴い道具類を持ち出したものと考えられる。貯蔵穴脇の床面から出土した494（高坏坏部）は第79号住居跡から出土した脚部（北西壁際の床面）と接合関係にあり，出土状況と遺存率などから本跡の遺物として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代中期前葉（５世紀前葉）と考えられ，遺構間の接合関係遺物の出土状況と主軸方向や規模などから第79号住居跡と同時期に廃絶されたことが想定される。



第119図　第80号住居跡出土遺物実測図(1)



第120図　第80号住居跡出土遺物実測図(2)

第80号住居跡出土遺物観察表（第119・120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
491	土師器	坏	10.1	9.7	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ後ヘラ磨き　内面横ナデ後ナデ　体部内・外面ナデ　輪積痕	床面	100%　PL.37
492	土師器	坏	7.2	6.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナデ後ヘラ磨き　内面ヘラナデ後横ナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ナデ	床面	100%　PL.37
493	土師器	坏	15.0	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラ磨き	貯蔵穴上層	45%
494	土師器	高坏	18.6	(10.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　坏部内・外面及び脚部外面ヘラ磨き　脚部内面ナデ　指頭痕　輪積痕	床面	75%　PL.40　接合関係 SI 79
495	土師器	高坏	19.0	(4.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部外面摩滅調整不明　内面ヘラナデ	貯蔵穴上層	50%
496	土師器	壺	[17.0]	(6.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部外面・体部上位に沈の単節縄文　口辺部内面及び脚部外面にヘラ磨き	覆土下層	40%
497	土師器	ミニチュア	9.5	7.6	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ　輪積痕	床面	100%　PL.47　粗製

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q124	臼玉	0.39	0.16	0.29	0.08	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q125	臼玉	0.33	0.12	0.22	0.05	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q126	臼玉	0.31	0.12	0.28	0.05	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q127	臼玉	0.37	0.15	0.24	(0.05)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q128	臼玉	0.32	0.14	0.24	(0.05)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q129	臼玉	0.37	0.13	0.22	0.05	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q130	臼玉	0.37	0.14	0.26	0.08	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q131	臼玉	0.41	0.15	0.22	0.08	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q132	臼玉	0.39	0.12	0.20	0.07	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q133	臼玉	0.37	0.14	0.22	0.05	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q134	臼玉	0.38	0.17	0.23	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q135	臼玉	0.38	0.15	0.16	0.03	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q136	臼玉	0.37	0.14	0.16	0.04	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q137	臼玉	0.42	0.17	0.18	0.04	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q138	臼玉	0.36	0.14	0.11	0.03	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL52
Q139	臼玉未製品	(0.68)	(0.19)	0.23	(0.10)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　穿孔	覆土中	PL52
Q140	臼玉未製品	(0.57)	(0.12)	0.24	(0.08)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　穿孔	覆土中	PL52
Q141	臼玉未製品	(0.61)	(0.17)	0.30	(0.11)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　未穿孔	覆土中	PL52
Q142	紡錘車	4.50	0.83	1.30	30.90	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL54

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q143	有孔円板	2.4	2.4	0.4	(3.4)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.2cm	床面	PL53
Q144	有孔円板	2.1	2.1	0.3	(2.6)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.17cm	床面	PL53
Q145	有孔円板	1.8	1.9	0.3	(1.4)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.17cm	床面	PL53
Q146	有孔円板	2.0	1.9	0.3	(1.7)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.21cm	覆土中	PL53
Q147	有孔円板	1.7	2.0	0.3	(2.0)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.19cm	覆土中	PL53
Q148	有孔円板未製品	1.8	(0.9)	0.2	(0.6)	滑石	両面平滑　全面研磨調整	覆土中	PL53
Q149	剣形	(2.8)	1.5	0.4	(2.2)	滑石	両面両刃状　全面研磨調整　上部穿孔　孔径0.15cm	床面	PL52

第81号住居跡（第121・122図）

位置　調査区東部のＥ５g8区，標高24.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.82m，短軸4.80mの方形で，主軸方向はＮ－52°－Ｗである。壁高は30～34cmで，外傾して立ち上がっている。

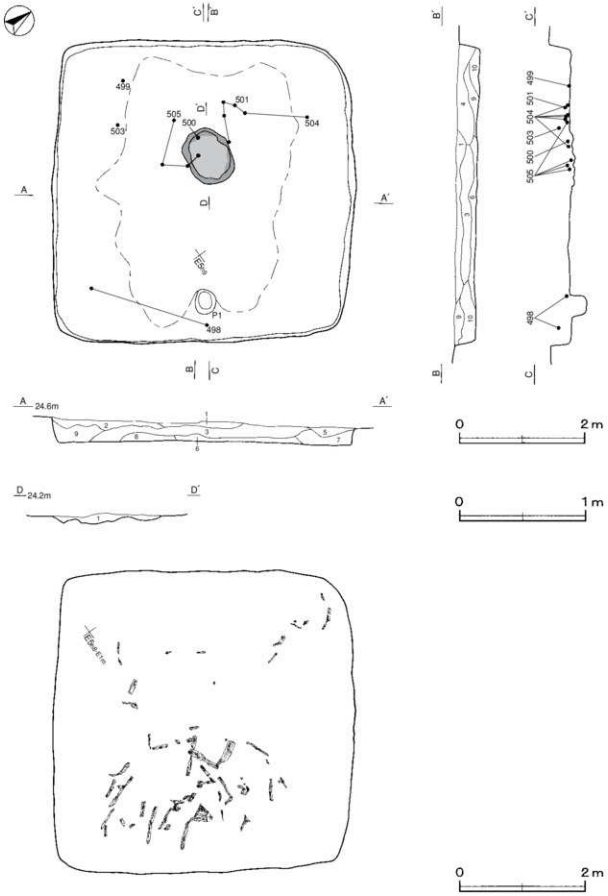
床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。焼土塊は炉周辺で，炭化材は床面のほぼ全域で確認されている。

炉　中央部やや北西寄りに位置している。長径92cm，短径72cmの楕円形で，床面を８cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量

ピット　深さは29cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

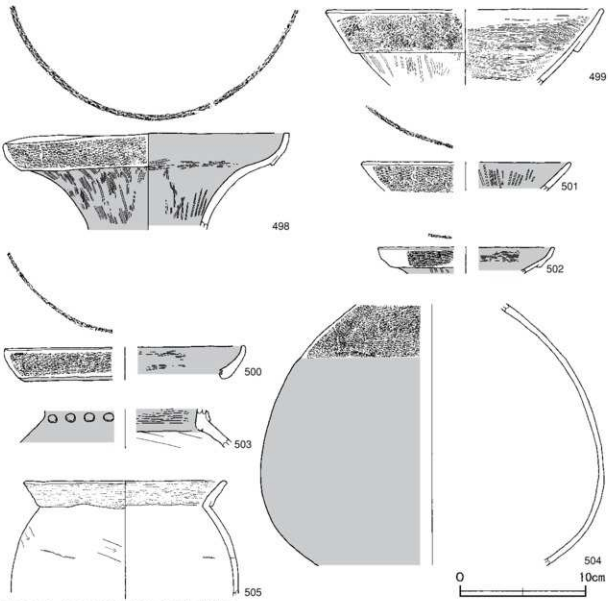


第121図　第81号住居跡実測図

土層解説
1　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材微量
8　黒　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片42点（坩３，器台３，高坏６，壺７，甕23），石器１点（磨石），礫１点が出土している。498は南コーナー寄りの覆土下層，南東壁の覆土中層から出土した土器片が接合したものであり，第74・82号住居跡から出土した土器片とも接合している。499は西コーナー寄りの床面，500・501・505は炉周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は住居の構築材と考えられ，床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。498は，第74号住居跡から出土した土器片２点と第82号住居跡から出土した土器片２点が接合関係にあり，出土状況と遺存率などから本跡の遺物として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第122図　第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
498	土師器	壺	22.7	(7.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部外面に綱目状の撚糸文　口辺部内面及び頸部外面にヘラ磨き	覆土中層・下層	20%　PL.42　接合関係S74・82
499	土師器	壺	[21.8]	(6.0)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	複合口縁　口辺部外面に綱目状の撚糸文　口辺部内面及び頸部外面にヘラ磨き	床面	5%
500	土師器	壺	[18.9]	(2.6)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部外面に綱目状の撚糸文　口辺部内面へラ磨き	覆土下層	5%
501	土師器	壺	[16.3]	(2.3)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部及び口辺部外面に綱目状の撚糸文　口辺部内面へラ磨き	覆土下層	5%
502	土師器	壺	[13.6]	(2.1)	－	長石・石英	黒褐	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部外面に綱目状の撚糸文　口辺部内面及び頸部外面にヘラ磨き	覆土中	5%
503	土師器	壺	－	(3.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部にボタン状張貼付　内面ヘラ磨き　体部外面ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	5%
504	土師器	壺	－	(20.8)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後丁寧なナデ　内面ナデ	覆土下層～床面	20%
505	土師器	甕	15.6	(9.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土下層～P覆土下層	10%

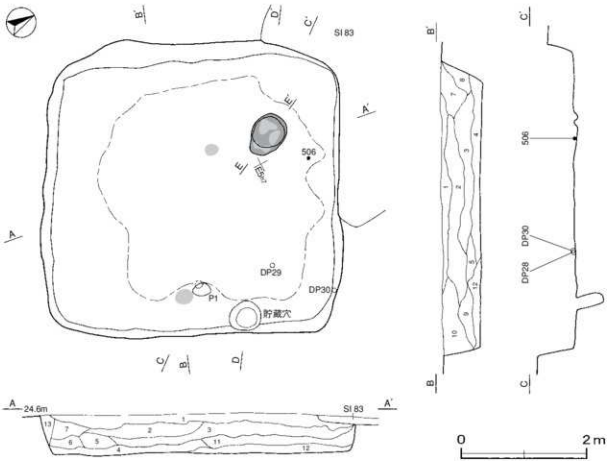
第82号住居跡（第123～125図）

位置　調査区東部のＥ５h6区，標高24.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第83号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.68m，短軸4.63mの方形で，主軸方向はＮ－60°－Ｗである。壁高は40～58cmで，外頻して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。また，南東壁際及び中央部付近に焼けた範囲が２か所確認されており，焼土が６～８cmの層をなしている。炭化材は床面のほぼ全域で確認されている。



第123図　第82号住居跡実測図(1)

炉　北コーナー部寄りに位置している。長径73cm，短径54cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説

1	極暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量	
2	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	
3	赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物中量，ローム ブロック微量	

ピット　深さは43cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東壁際に位置している。長径51cm，短径47cmの円形で，深さは27cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量	
2	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量	

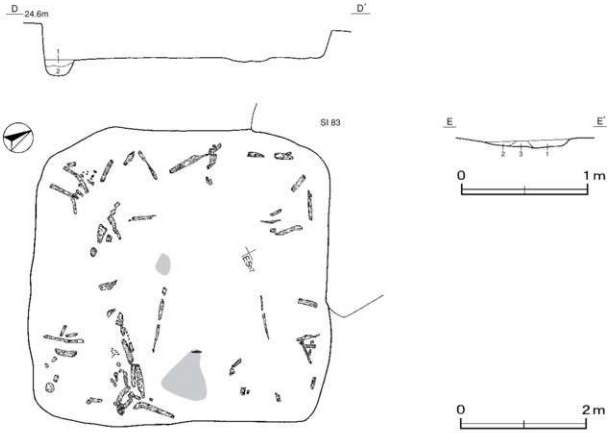
覆土　13層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

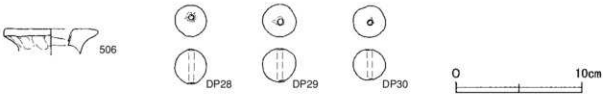
1	黒褐色	ロームブロック微量	
2	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
3	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	
4	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
7	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	
8	褐色	ロームブロック少量	
9	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
10	黒褐色	ローム粒子微量	
11	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
12	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
13	褐色	ロームブロック中量	

遺物出土状況　土師器片34点（器台１，高坏２，甕30，炉器台１），土製品３点（球状土錘）が出土している。506は北東壁寄り，DP29・DP30は東コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は住居の構築材と考えられ，床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第124図　第82号住居跡実測図(2)



第125図　第82号住居跡出土遺物実測図

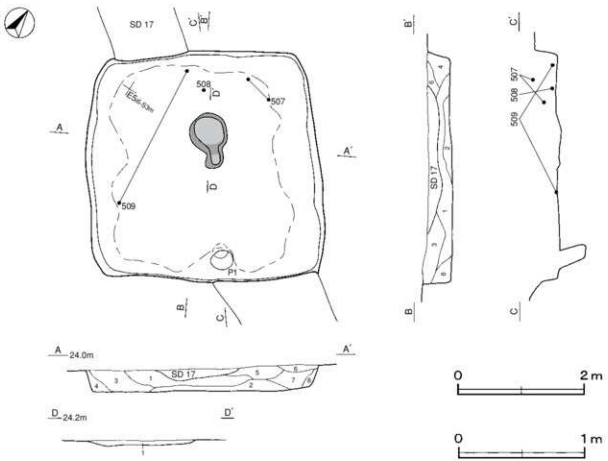
第82号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
506	土師器	甕台	7.4	(2.0)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外面に指頭痕　輪積痕	床面	15%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP28	球状土錘	2.5	0.4	2.7	17.3	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
DP29	球状土錘	2.6	0.4	2.6	17.8	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	床面	
DP30	球状土錘	2.6	0.4	2.4	16.4	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	床面	

第84号住居跡（第126・127図）

位置　調査区東部のＥ５i6区，標高23.8mの台地平坦部に位置している。



第126図　第84号住居跡実測図

重複関係　第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.70m，短軸3.68mの方形で，主軸方向はN－33°－Wである。壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。

炉　中央部やや北西寄りに位置している。長径90cm，短径61cmの不定形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

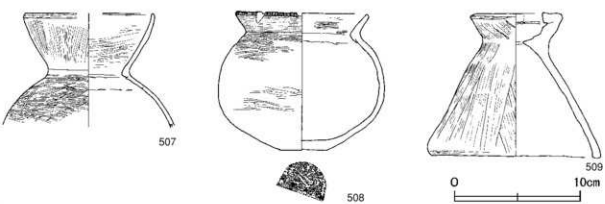
ピット　深さは43cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片71点（坏3，坩1，器台3，高坏15，壺3，甕43，小形甕1，炉器台2），不明鉄製品1点が出土している。507は北コーナー寄りの覆土上層から中層，508は北西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。509は北西壁寄りと南西壁寄りの床面から出土した土器片が接合している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第127図　第84号住居跡出土遺物実測図

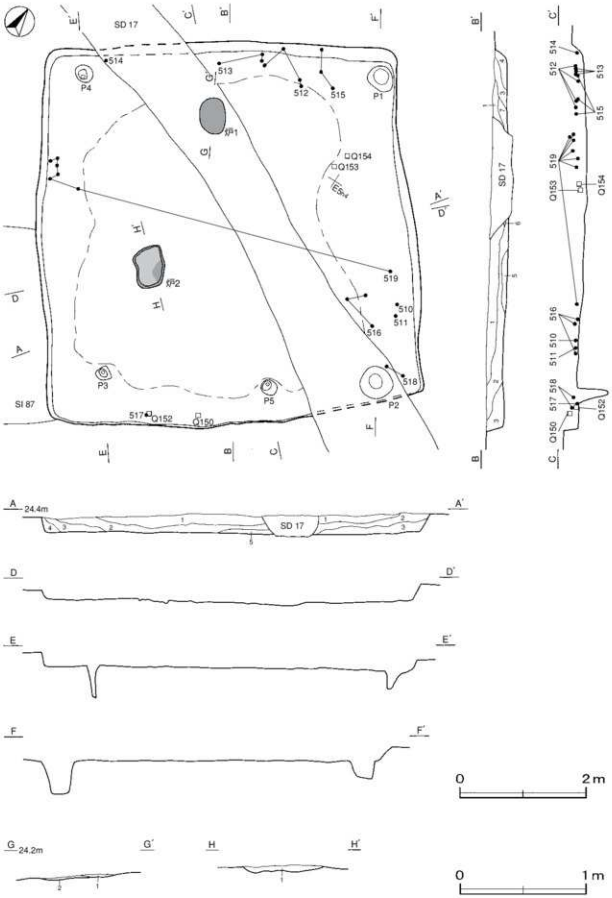
第84号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
507	土師器	坩	[10.1]	(9.0)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土上層～中層	20%	
508	土師器	小形甕	10.3	11.0	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口頸部に縞み　口辺部内・外面及び体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	85%	PL42
509	土師器	炉器台	7.1	11.5	13.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　輪積痕	床面	80%	

第86号住居跡（第128～131図）

位置　調査区東部のE5h3区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第87号住居跡を掘り込み，第17号溝に掘り込まれている。



第128図　第86号住居跡実測図

規模と形状　長軸6.06m，短軸6.04mの方形で，主軸方向はN－35°－Wである。壁高は24～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　2か所。炉1はほぼ中央部の北西壁寄りに位置している。第17号溝に掘り込まれており，長径58cm，短径42cmほどが確認された。形状は楕円形で，床面を掘りくぼめた地床炉と推定される。炉床は火を受けてやや赤変している。炉2は中央部の南西寄りに位置している。長径72cm，短径53cmの不整楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説
1　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

炉2土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量

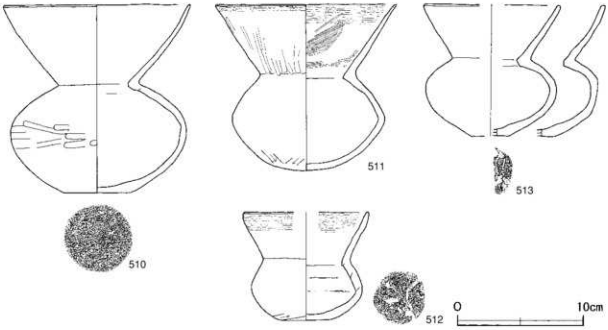
ピット　5か所。P1～P4は深さ29～54cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ45cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

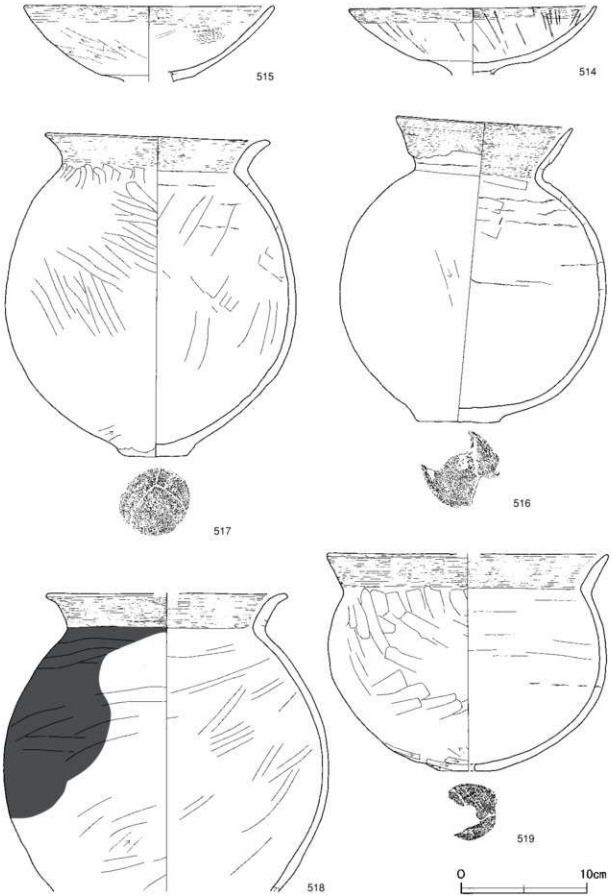
土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片279点（坩45，器台4，高坏18，壺1，甕208，甑1，炉器台2），土製品1点（球状土錘），石器1点（砥石），石製模造品3点（臼玉，剣形，有孔円板），滑石の原石1点，ガラス製品1点（小玉），鉄製品1点（不明）のほかに，流れ込んだ弥生土器片1点，混入した陶器片1点も出土している。510・511は北東壁際の床面から正位で出土している。512～515は北西壁際の覆土中層，517は南東壁際の床面，516・518は東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。519は南西壁際と北東壁際の覆土上層から中層にかけて出土した土器片が接合したものである。

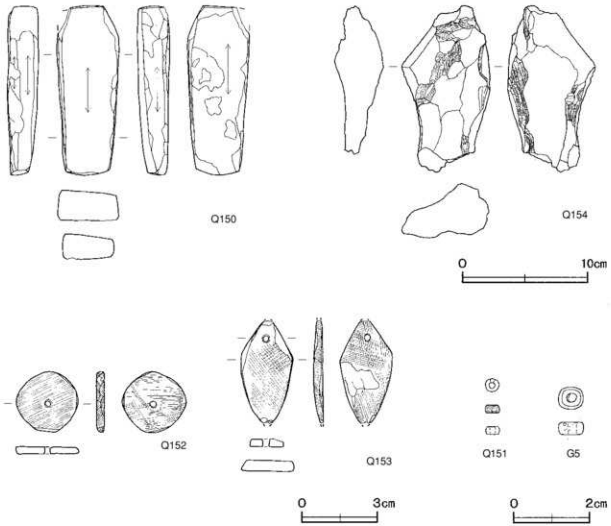
所見　時期は，出土土器から古墳時代中期前葉（5世紀前葉）と考えられる。



第129図　第86号住居跡出土遺物実測図(1)



第130図　第86号住居跡出土遺物実測図(2)



第131図　第86号住居跡出土遺物実測図(3)

第86号住居跡出土遺物観察表（第129～131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
510	土師器	坩	14.7	14.9	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面丁寧なナデ　体部外面摩滅の為ヘラナデ以外の調整不明　内面ナデ　輪積痕	床面	100%	PL.38
511	土師器	坩	14.2	13.2	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラ磨き　体部外面摩滅によりヘラ削り後の調整不明　内面ナデ	床面	80%	PL.38
512	土師器	坩	[9.7]	8.6	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅によりヘラ削り後の調整不明　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	70%	PL.37
513	土師器	坩	[10.6]	10.4	[3.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	摩滅により調整不明　内面ナデ	覆土中層	40%	
514	土師器	高坏	19.4	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　坏部内・外面ヘラナデ後ナデ	覆土中層	55%	
515	土師器	高坏	19.5	(6.1)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅によりヘラ削り後の調整不明　内面ヘラ磨き	覆土中層	50%	
516	土師器	壺	14.0	24.1	6.5	長石・石英	橙	普通	巻り返し口縁　口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	45%	
517	土師器	甕	17.4	25.6	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	80% 接合関係:SI 79	
518	土師器	甕	[18.7]	[23.6]	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	35%	
519	土師器	甑	[22.0]	17.2	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土上層～中層	65%	PL.46

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q151	臼玉	0.37	0.13	0.22	0.05	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土中	PL.52
G 5	小玉	0.64	0.27	0.31	0.17	青色ガラス	両面研磨調整　側面擦痕　中央部穿孔	覆土中	PL.52

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q150	硯石	13.4	4.8	2.5	(245.0)	砂岩	硯面４面	覆土中層	
Q152	有孔円板	2.4	2.5	0.3	3.3	滑石	両面平滑　全面研磨調整　孔径0.18cm	床面	PL53
Q153	剣型	(4.1)	2.1	0.38	(4.9)	滑石	両面平滑　全面研磨調整　上部穿孔　孔径0.25cm　剣形模造品？	覆土下層	PL52
Q154	石棒	13.2	7.0	4.3	324.0	滑石	両面に複数の擦痕	覆土下層	PL53

第87号住居跡（第132・133図）

位置　調査区東部のＥ５i3区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第86号住居，第23号溝にそれぞれ掘り込まれている。

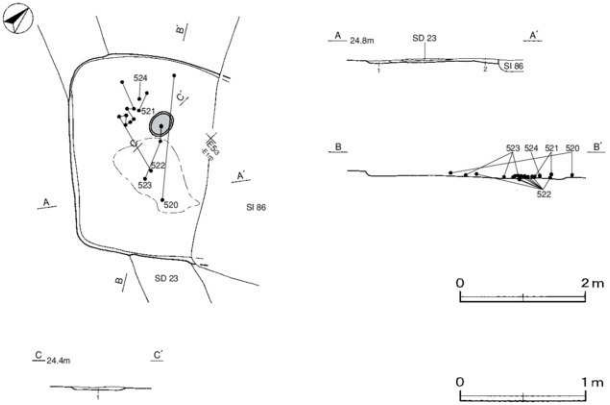
規模と形状　第86号住居に掘り込まれているため全体は確認できなかったが，長軸3.18m，短軸2.20mが確認できた。確認できた壁や炉の位置からＮ－43°－Ｗを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は４～８cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の南側が踏み固められている。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径45cm，短径36cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

覆土　２層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

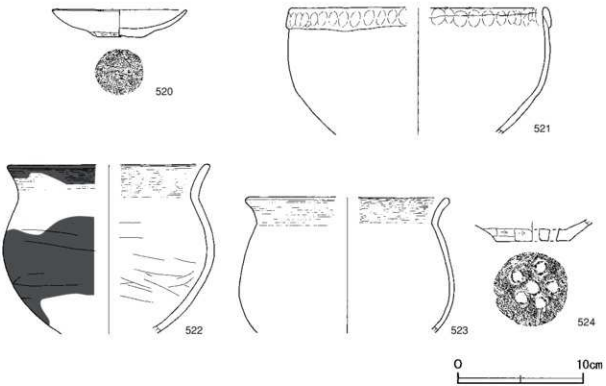


第132図　第87号住居跡実測図

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量　　2　極暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片27点（坏１，高坏１，鉢１，甕23，瓶１）が出土している。520は北西壁際と中央部やや南東寄りの覆土下層から出土した土器片が接合している。521～524は炉の周囲の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第133図　第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
520	土師器	坏	10.5	2.2	3.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端ヘラ削り　全面丁寧なナデ	覆土下層	90%　PL47
521	土師器	鉢	[20.4]	(10.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	折り返し口縁　口辺部内・外面指頭による押圧　体部内・外面ナデ　編模様	覆土下層	40%
522	土師器	甕	[15.8]	(13.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	40%
523	土師器	甕	[15.7]	(10.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ	覆土下層	15%
524	土師器	瓶	－	(1.7)	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	5%

第90号住居跡（第134・135図）

位置　調査区東部のＤ５ｇ3区，標高24.1ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.61ｍ，短軸4.04ｍの長方形で，主軸方向はＮ－42°－Ｗである。壁高は15～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　北西壁寄りに位置している。長径71cm，短径49cmの楕円形である。床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量　　2　赤　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径56cm，短径45cmの楕円形で，深さは49cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

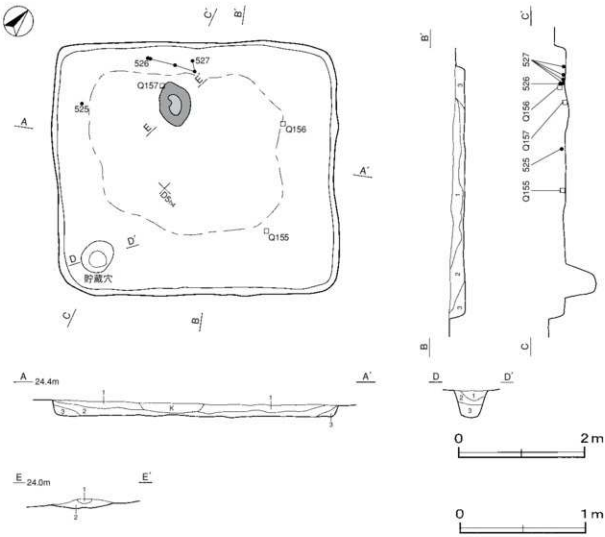
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量（締まり弱い）　　3　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

覆土　３層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

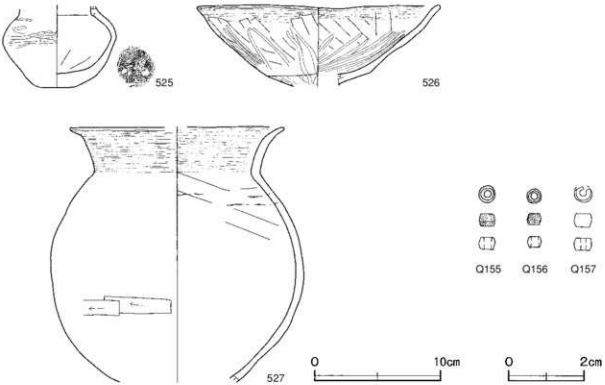
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量　　3　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片226点（坩２，器台２，高坏13，甕209），石製模造品３点（臼玉），軽石１点が出土している。525は西コーナー寄り，526・527は炉と北西壁の間の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代中期前葉（５世紀前葉）と考えられる。



第134図　第90号住居跡実測図



第135図　第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
525	土師器	坩	－	(6.5)	2.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面一部ヘラ磨き残存　内面ヘラナデ	覆土下層	80%
526	土師器	高坏	19.0	(6.5)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　坏部内・外面ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土下層	50%
527	土師器	甕	[16.8]	(20.2)	－	長石・石英・赤色粒子	灰赤	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	60%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q155	臼玉	0.44	0.20	0.33	0.09	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	床面	PL.52
Q156	臼玉	0.37	0.18	0.30	0.06	滑石	両面平滑　全面研磨調整　中央部穿孔	覆土下層	PL.52
Q157	臼玉	(0.4)	0.14	0.35	(0.07)	碧玉	全面研磨調整　中央部穿孔	床面	

第92号住居跡（第136図）

位置　調査区東部のＤ５j3区，標高24.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状　削平を受けて床面が露出した状態で確認された。検出された炉の位置や柱穴と考えられるピットの位置などから判断して長軸4.50m，短軸3.90mほどの長方形と推定され，主軸方向はＮ－48°－Ｅである。

床　ほぼ平坦である。特に踏み固められている部分は確認されていない。

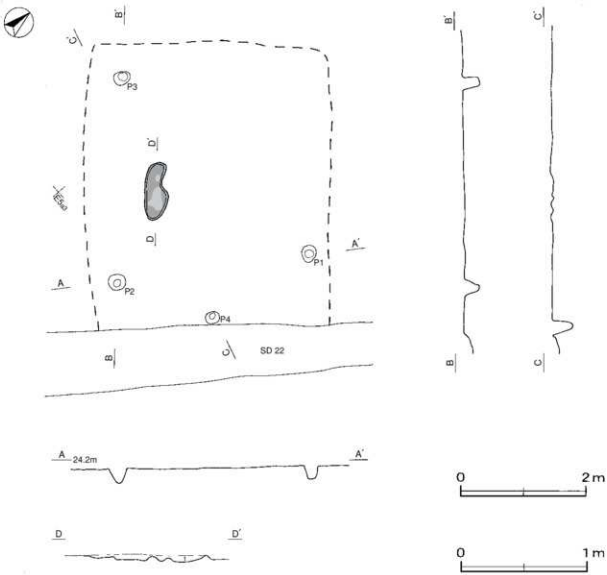
炉　中央部の南西寄りに位置している。長径97cm，短径41cmの不定形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

ピット　4か所。P１～P３は深さ24～29cmで，配置から主柱穴と考えられる。P４は深さ37cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　床面が露出した状況で検出されたため，堆積状況は確認できなかった。

所見　床面の遺存状態などから主柱穴がコーナー部に寄っていると想定され，同様の形態を示す住居跡は古墳時代前期では８軒（第77・112・113・117～121号住居跡），古墳時代中期前葉では１軒（第86号住居跡）検出している。遺物が出土していないため明確な時期判断をするのは難しいが，時期は，内部施設やその配置などから古墳時代前期～中期前葉と考えられる。



第136図　第92号住居跡実測図

第94号住居跡（第137・138図）

位置　調査区北部のＤ５j1区，標高23.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１・１Ａ号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.97m，短軸4.80mの方形で，主軸方向はN－16°－Eである。壁高は15～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

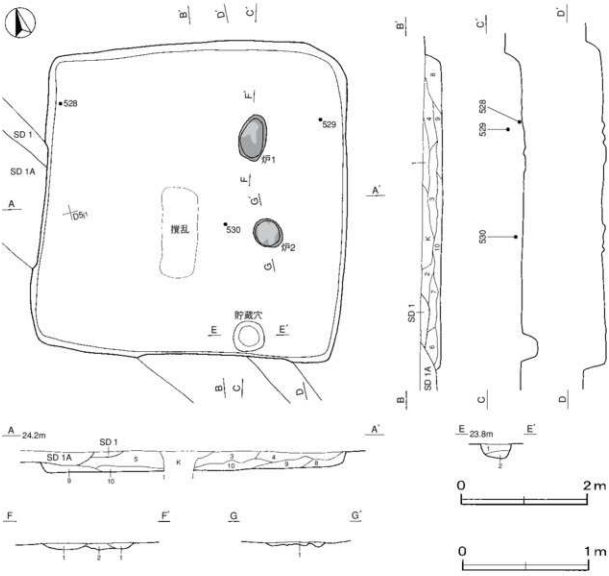
炉　2か所。炉1は中央部の北東寄りに位置し，長径76cm，短径46cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。炉2は炉1の南側に位置し，長径53cm，短径45cmの楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

炉2土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴　南壁際の東寄りに位置している。長径53cm，短径51cmの円形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量



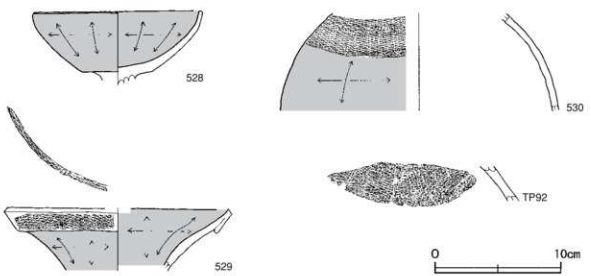
第137図　第94号住居跡実測図

覆土　10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片88点（器台1，高坏4，壺3，甕80）が出土している。528は北西コーナー部，530は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。529は北東コーナー寄りの覆土中層から出土しており，第80号住居跡から出土した土器片と接合している。

所見　529は，出土状況と遺存率などから本跡の遺物として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第138図　第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
528	土師器	高坏	13.2	(5.9)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	覆土下層	55%
529	土師器	壺	[17.4]	(4.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部に網目状の撚糸文　口辺部内面及び頸部外面丁寧なヘラ磨き	覆土上層	10% 接合関係 SI 80
530	土師器	壺	－	(7.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上位に網目状の撚糸文　体部外面丁寧なヘラ磨き	覆土下層	5%
TP92	土師器	壺	－	(2.7)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面上位に網目状の撚糸文	覆土中	5%

第95号住居跡（第139・140図）

位置　調査区北部のＥ４ｃ0区，標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第130号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.15m，短軸3.00mの長方形で，主軸方向はＮ－63°－Ｗである。壁高は22～61cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。焼土塊が1か所，炭化材が床全体に確認されている。

炉　中央部の北西寄りに位置している。長径62cm，短径57cmの不整円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

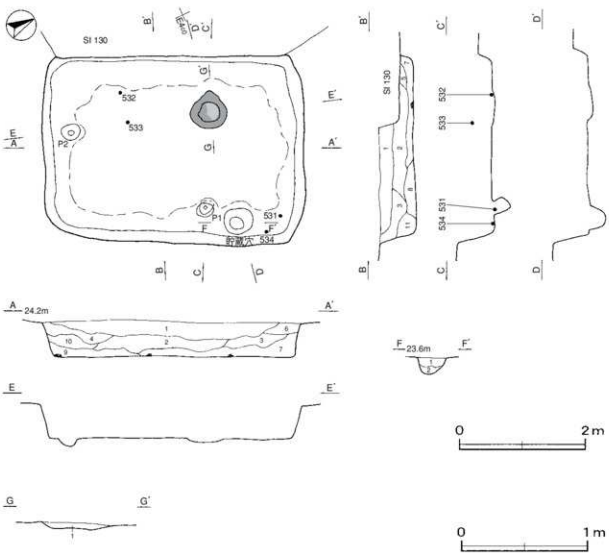
炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ28cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ11cmで，立て替えによる出入り口施設のピットであると想定されるが，Ｐ１とＰ２との新旧関係については不明である。

貯蔵穴　南東壁際の東コーナー部寄りに位置している。径48cmの円形で，深さは28cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は２層に分層され，第１層に直径23cmほどの炭化材が斜位で確認されている。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　炭化材中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量　　2　褐　　色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

覆土　11層に分層される。第１層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で，第２～11層はブロック状の堆積状況を示すことから，人為堆積と考えられる。

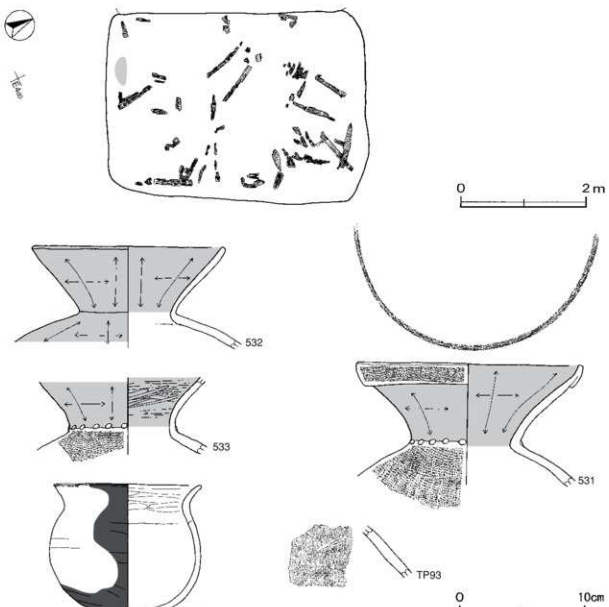


第139図　第95号住居跡実測図

土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
5 褐 色 ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
6 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 極 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8 暗 褐 色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
9 極 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
10 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
11 褐 色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片30点（高坏６，壺６，甕17，台付甕１）が出土している。531・534は東コーナー部，532は西コーナー寄りの床面から出土しており，第94号住居跡から出土した土器片と接合している。533は中央部やや西寄りの覆土中層から出土している。

所見　炭化材は床面の全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。また，炭化材４点の樹種同定の結果，樹種はクヌギの丸材であることが判明しており，住居構築材の可能性が指摘されている。532は第94号住居跡の土器片と接合関係にあり，遺構の時期や出土状況などから本跡の遺物として掲載した。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第140図　第95号住居跡・出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
531	土師器	壺	17.3	(9.6)	－	長石・石英	明赤褐	普通	複合口縁　口唇部・口辺部外面及び体部外面上位に網目状の燃糸文　口辺部内面及び頸部・体部外面丁寧なヘラ磨き　頸部にボタン状貼付　体部内面ナデ	床面	30%	PL.42
532	土師器	壺	14.9	(8.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	全面丁寧なヘラ磨き　輪積痕	床面	30% 接合関係 S2⑨	
533	土師器	壺	－	(6.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部外面丁寧なヘラ磨き　頸部内面ヘラ磨き　頸部にボタン状貼付　体部外面上位に網目状の燃糸文	覆土中層	25%	PL.42
534	土師器	台付甕	11.5	(10.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後ナデ　口辺部内面及び体部外面ヘラナデ後ナデ　内面ナデ　輪積痕	床面	85%	
TP95	土師器	壺	－	(4.1)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面上位に網目状の燃糸文　赤彩	覆土中	5%	PL.55

第96号住居跡（第141・142図）

位置　調査区北部のＥ４d8区，標高24.1ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.56ｍ，短軸5.46ｍの方形で，主軸方向はＮ－55°－Ｗである。壁高は59～68cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。また，中央部から西側にかけて焼けている範囲が４か所，南コーナー部では焼土塊が，南コーナーを除く全面では炭化材が確認されている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径92cm，短径53cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい褐色　ローム ブロック・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム ブロック・炭化粒子微量
3　明　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ62～69cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ38cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部寄りに位置している。長径76cm，短径49cmの楕円形で，深さは26cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

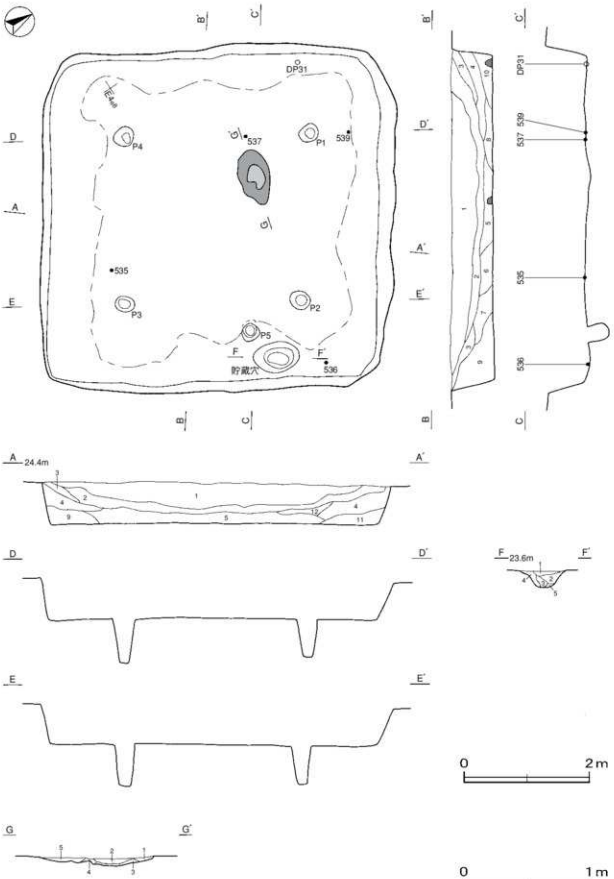
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
4　褐　色　ローム ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5　灰　褐　色　焼土粒子中量，ローム ブロック・炭化粒子微量

覆土　12層に分層される。第１～３層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で，その他の層は，遺物の出土状況と不規則な堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

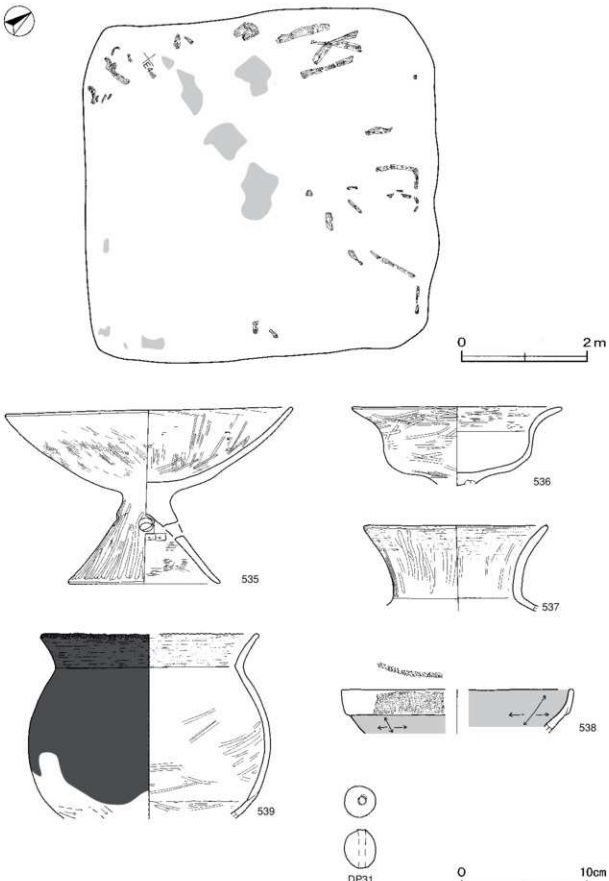
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム ブロック・炭化粒子微量
9　褐　　色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
10　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物少量
11　褐　　色　焼土粒子少量，ローム ブロック・炭化物微量
12　褐　　色　ローム ブロック少量

遺物出土状況　土師器片８点（高坏３，壺４，甕１），土製品２点（球状土錘）が出土している。535は南西壁寄り，536は東コーナー部，537・539は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は住居の構築材と考えられ，床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期前葉（３世紀中葉～末葉）と考えられる。



第141図　第96号住居跡実測図



第142図　第96号住居跡・出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表（第142図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
535	土師器	高坏	22.4	14.0	11.9	長石・石英	明黄褐	普通	坏部外面ハケ目調整後ナデ　内面及び脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　脚部内面ヘラ削り　ハケ目調整後ナデ	床面	95%	PL.41
536	土師器	高坏	16.3	(6.2)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面摩滅によりヘラ磨き以外の調整不明	床面	55%	
537	土師器	壺	14.1	(6.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口沿部内・外面横ナデ後ヘラ磨き	床面	20%	
538	土師器	壺	[18.2]	(3.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部にLRの単節縄文　複合口縁　口沿部に細目状の櫛赤文　口沿部内面及び頸部外面に丁寧なヘラ磨き	覆土中	10%	
539	土師器	甕	[17.0]	(14.7)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部に縄み　口沿部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラ磨き　輪積痕	床面	30%	PL.43

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
DP21	土錘	2.5	0.6	3.1	17.8	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	床面	

第98号住居跡（第143～145図）

位置　調査区北部のＥ４j6区，標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.64m，短軸5.52mの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は50～68cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。また，多量の焼土と炭化材が確認され，中央部は火を受けて赤変している。

炉　中央部やや北東寄りに位置している。長径57cm，短径41cmの不整楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量

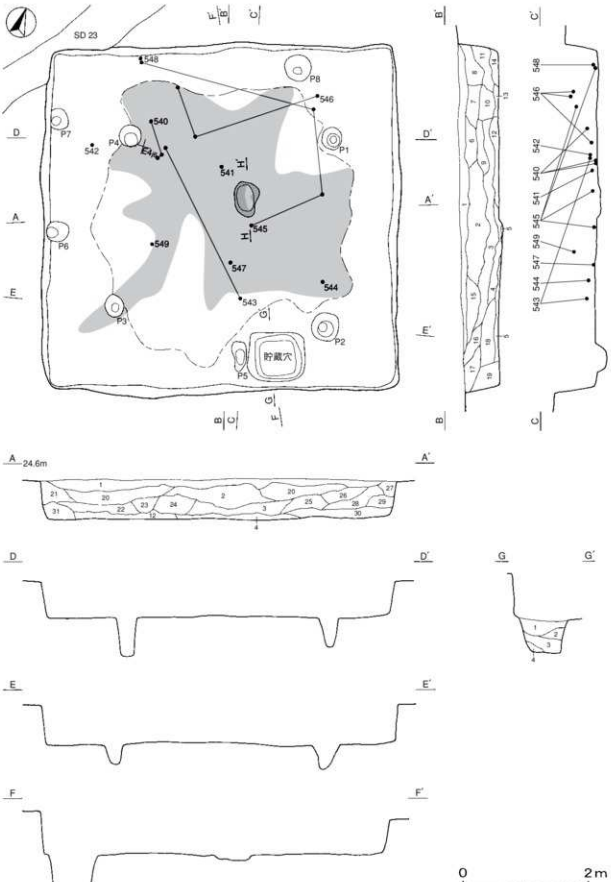
ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ35～62cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ21cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，Ｐ６～Ｐ８は深さ43～45cmで，壁柱穴の可能性も考えられるが明確ではない。

貯蔵穴　南壁際やや東寄りに位置している。長軸93cm，短軸81cmの長方形で，深さは59cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量

覆土　31層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　褐　色　ロームブロック少量（しまりが弱い）
9　褐　色　ロームブロック少量
10　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
11　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
12　極暗褐色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ローム粒子微量
13　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
14　褐　色　ロームブロック中量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量
16　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
18　灰　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
19　灰　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
20　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
21　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
22　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
23　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
24　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
25　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
26　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

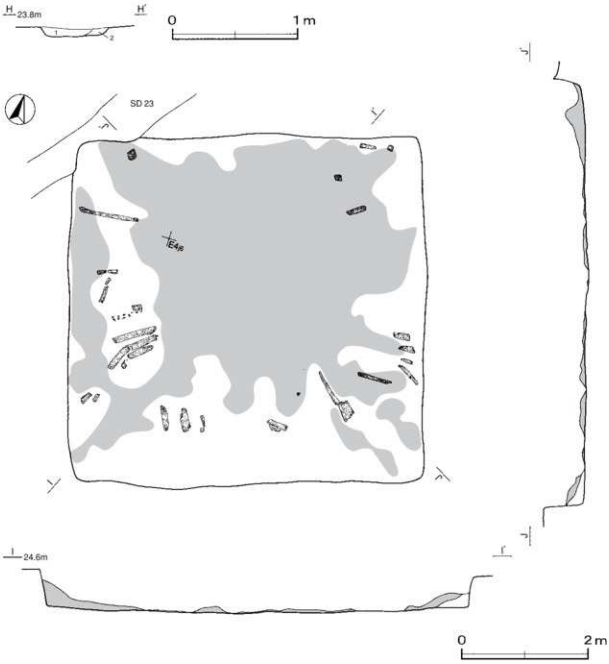


第143図　第98号住居跡実測図(1)

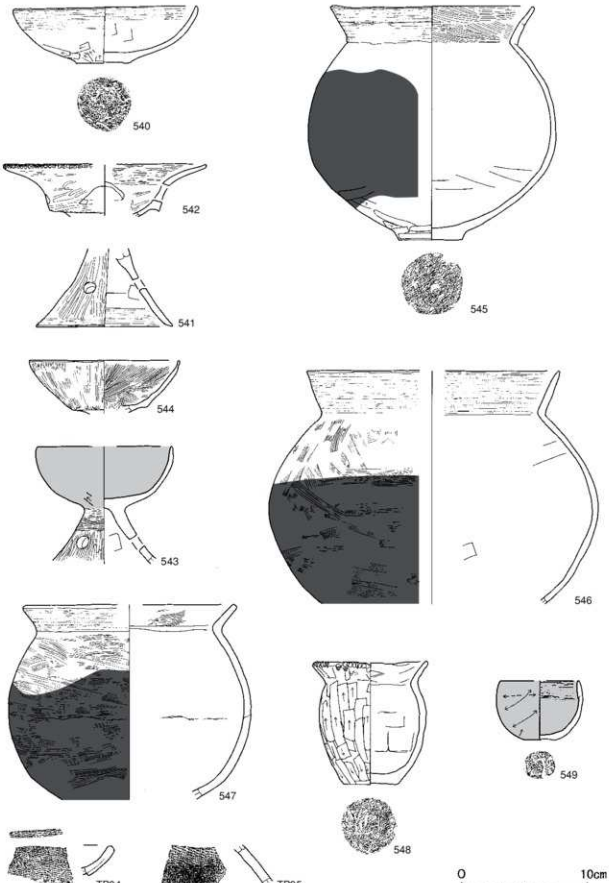
27 明　褐　色　ローム粒子中量
28 暗　褐　色　ロームブロック微量
29 灰　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
30 褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
31 赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片556点（坏１，椀３，坩８，器台９，高坏30，壺１，甕503，小形甕１），ミニチュア土器５点（椀型４，壺型１）のほかに，混入した弥生土器片６点も出土している。544はＰ２付近，540・542はＰ４付近，541・547・549は中央部，548は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。543は出入り口施設付近とＰ４付近の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。545は中央部や北壁際の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見　炭化材は住居の構築材と考えられ，南側に多く確認された。また，多量の焼土も確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第144図　第98号住居跡実測図(2)



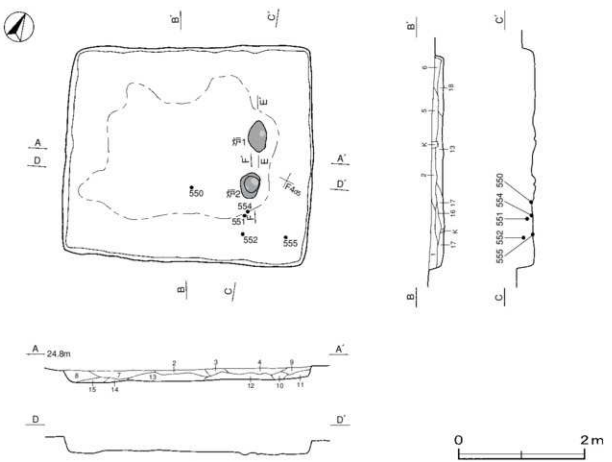
第145図　第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
540	土師器	坏	14.4	4.5	4.2	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	95%
541	土師器	器台	－	(6.2)	10.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ後ナデ　脚端部内・外面横ナデ　3窓	覆土下層	40%
542	土師器	器台	[16.0]	(4.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部及び下端部に原体押圧　内・外面ヘラ磨き　透かし4か所ヵ	覆土下層	5％
543	土師器	高坏	[10.7]	(9.3)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	坏部外面摩滅によりヘラ削り後の調整不明　内面摩滅調整不明　脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ後ナデ　3窓	覆土下層	60%
544	土師器	高坏	11.7	(4.2)	－	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	覆土下層	45%
545	土師器	甕	15.8	18.6	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部外面横ナデ　内面ハケ目調整　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層～下層	45%
546	土師器	甕	[19.8]	(18.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ハケ目調整後ナデ　内面ヘラナデ	覆土上層～下層	20%
547	土師器	甕	[16.4]	(15.4)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部外面横ナデ　内面ハケ目調整　体部外面ハケ目調整後ナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	40%
548	土師器	小形甕	8.6	9.8	4.2	長石・石英	橙	普通	口縁部に横撫工具による押圧　口辺部外面ハケ目調整後ヘラナデ　内面ヘラナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	95%	PL48
549	土師器	ミニチュア	[6.2]	4.8	2.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面丁寧なヘラ磨き　口辺部内面ヘラ磨き　体部内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	65% 掲型	PL47
TP94	土師器	壺	－	(2.4)	－	長石・石英	橙	普通	現台口縁　口唇部及び口辺部外面に網目状の撚糸文　口辺部内面ヘラ磨き　内面赤彩	覆土中	5％	PL55
TP95	土師器	壺	－	(3.4)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面上位に網目状の撚糸文　外面赤彩	覆土中	5％	PL55

第99号住居跡（第146～148図）

位置　調査区北部のＦ４ｄ４区，標高24.6ｍの台地平坦部に位置している。



第146図　第99号住居跡実測図(1)

規模と形状　長軸3.95m，短軸3.48mの長方形で，主軸方向はN－60°－Eである。壁高は20～27cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，東コーナー部から炭化材が確認されている。

炉　2か所。炉1は東壁寄りに位置している。長径51cm，短径32cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は炉1の南側に位置している。長径43cm，短径33cmの不整楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

炉2土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量

覆土　18層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

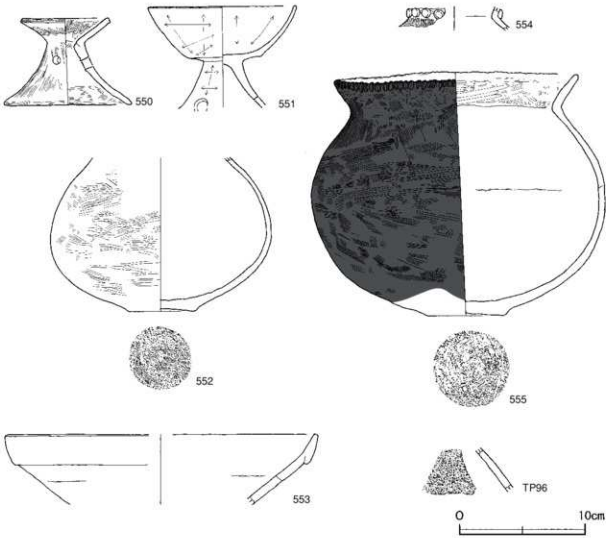
土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
11　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
12　黒　　色　炭化物多量，ローム粒子・焼土粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
15　黒　褐　色　ロームブロック微量
16　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
17　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
18　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片63点（器台1，高坏12，壺2，甕48）が出土している。550は中央部床面，551・552は東コーナー部の覆土中層，554・555は床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材が出土していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期前葉（3世紀中葉～末葉）と考えられる。

第147図　第99号住居跡実測図(2)



第148図　第99号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
550	土師器	器台	6.7	6.9	10.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部横ナデ　器受部内ヘラ磨き　器受部・脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　脚部内面ハケ目調整後ナデ　3窓	床面	100%	PL.39
551	土師器	高坏	11.6	(8.1)	－	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面丸刀脚部外面丁寧なヘラ磨き　脚部内面ナデ　3窓？	覆土中層	80%	
552	土師器	壺	－	(12.2)	5.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面摩滅調整不明	覆土中層	20%	
553	土師器	壺	[22.4]	(5.6)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	複合口縁　全面ナデ　輪積痕	覆土中	10%	
554	土師器	壺	－	(1.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面丁寧なヘラ磨き　胴部にボタン状隆起付	床面	5%	
555	土師器	甕	19.1	19.4	6.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に摘み　口辺部内・外面横ナデ　口辺部内面ハケ目調整後ヘラ磨き　外面ハケ目調整後ナデ　内面ナデ　輪積痕	床面	95%	PL.43
TP96	土師器	壺	－	(3.5)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面上位に網目状の熱赤文　外面赤彩	覆土中	5%	PL.55

第100号住居跡（第149・150図）

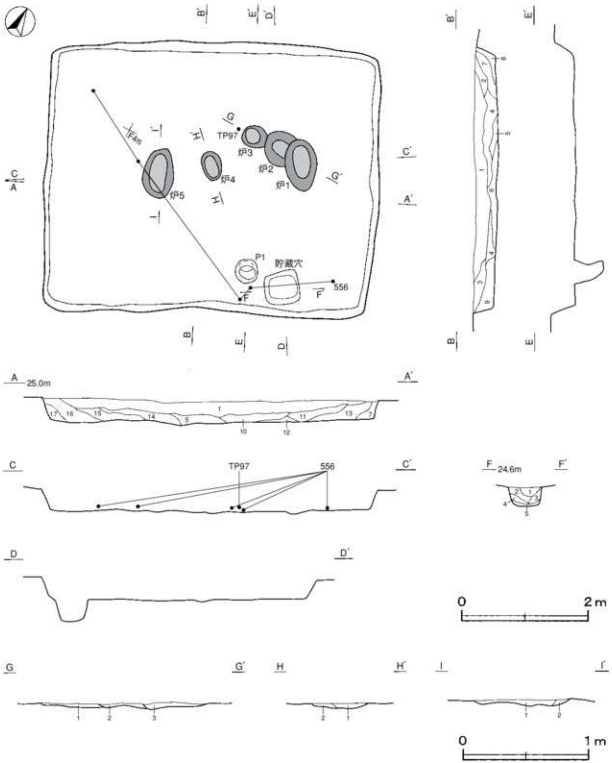
位置　調査区北部のＦ４ｅ5区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.28m，短軸4.30mの長方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は30～38cmで，外傾し

て立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉　5か所。炉1～炉3は重複しており，中央部やや北東寄りに位置している。炉1は長径84cm，短径51cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は長径58cm，短径55cmの円形，炉3は長径46cm，短径36cmの楕円形と推定され，それぞれ床面を2～3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉1～炉3とも炉床



第149図　第100号住居跡実測図

は火を受けて赤変硬化している。覆土の堆積状況と完掘状況から，炉３・炉２・炉１の順で作り替え使用したと考えられる。炉４は中央部に位置しており，長径47cm，短径32cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉５は炉４の西側に位置しており，長径79cm，短径51cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉４・炉５ともに炉床は火を受けて赤変硬化している。炉１～炉３と炉４・炉５の使用時期の差違については判然としない。

炉１～３土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子微量

炉４土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

炉５土層解説

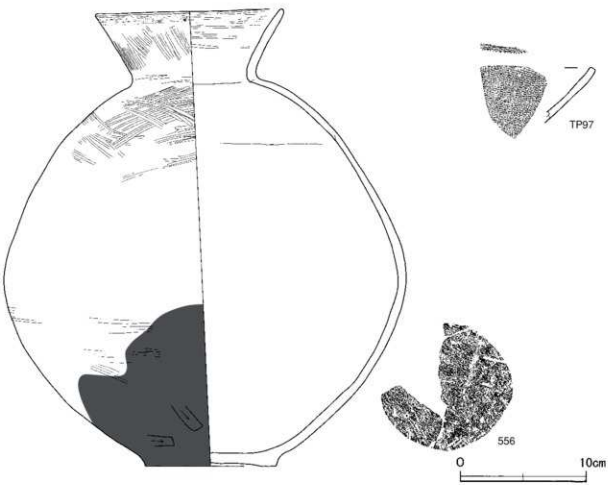
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　深さは49cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部寄りに位置し，長軸56cm，短軸53cmの方形で，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量



第150図　第100号住居跡出土遺物実測図

覆土　17層に分層される。第１～３層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で，第４～17層はブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック少量
13　褐　　色　ローム粒子中量
14　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
17　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片101点（椀３，坩１，器台２，高坏６，壺３，甕86）の他，混入した弥生土器片２点が出土している。556は散在していた土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期前葉（３世紀中葉～末葉）と考えられる。

第100号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
556	土師器	壺	147	36.2	10.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土下層～床面	50%
TP97	土師器	壺	－	(14)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部及び口辺部外面に櫛目状の擬糸文　口辺部内面ヘラ磨き　内面赤彩	覆土下層	5% PL55

第101号住居跡（第151・152図）

位置　調査区南部のＦ４e1区，標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.22m，短軸5.05mの長方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｗである。壁高は27～44cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の南西側から北東側にわたって踏み固められている。壁際の床面に焼土塊が多く確認されており，炭化材も確認されている。

炉　中央部やや北東寄りに位置している。長径102cm，短径74cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

土層解説
1　極暗褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量
2　極暗赤褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ54～68cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

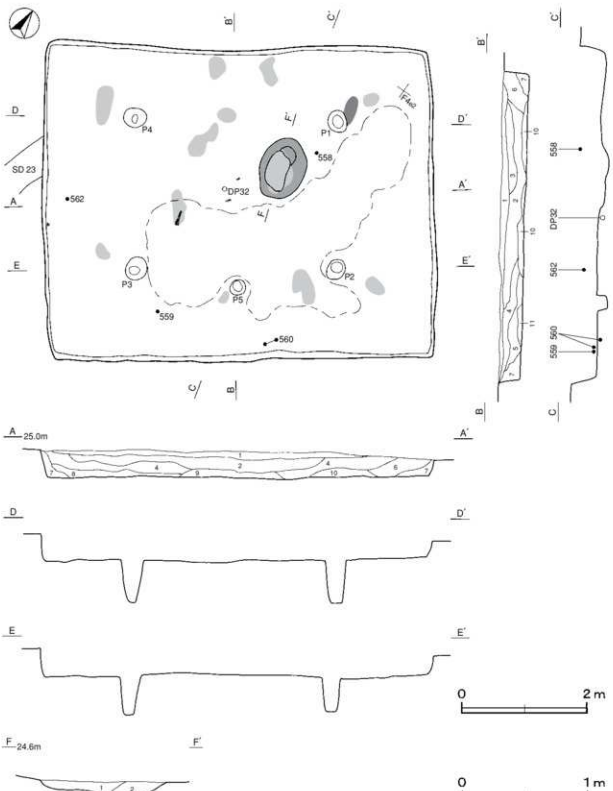
覆土　11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量

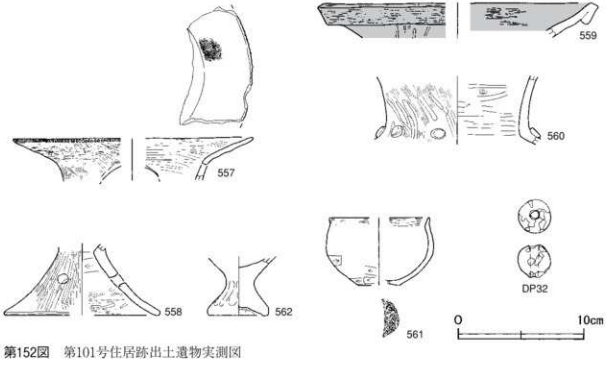
遺物出土状況　土師器片302点（坩１，器台５，高坏18，壺16，甕261），ミニチュア土器２点（椀型・台付甕型ヵ），土製品１点（球状土錘）のほかに，混入した縄文土器片１点，弥生土器片９点も出土している。559はＰ３付近，

560は南東壁際の覆土下層及び床面から出土している。

所見　床面から焼土塊や炭化材が確認されたことから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第151図　第101号住居跡実測図



第152図　第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
557	土師器	装飾器台	[19.0]	(3.3)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後横ナデ　内面ハケ目調整後ヘラ磨き　器受部外面ハケ目調整後ナデ　内面ヘラ磨き　4窓ヵ	覆土中	10%	将棋
558	土師器	器台	－	(5.7)	[12.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面ヘラ削り　ハケ目調整後ヘラ磨き　3窓ヵ	覆土中層	15%	
559	土師器	壺	[21.2]	(2.7)	－	長石・石英	明赤褐	普通	複合口縁　口頸部外面横ナデ　内面及び頸部外面ヘラ磨き	覆土下層	10%	
560	土師器	壺	－	(5.4)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内・外面ハケ目調整後ヘラ磨き　頸部にボタン状瘤貼付	覆土下層～床面	10%	
561	土師器	ミニチュア	[7.8]	5.4	[3.2]	長石・石英	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面摩滅により ヘラ削り後の調整不明　内面ナデ	覆土中	20%	掩型
562	土師器	ミニチュア	－	(4.7)	4.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面ナデ　脚部内・外面指頭痕	覆土中層	40%	台付甕型ヵ

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
DP32	球状土錘	2.7	0.7	2.6	(15.2)	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔　外面調整	床面	

第110号住居跡（第153図）

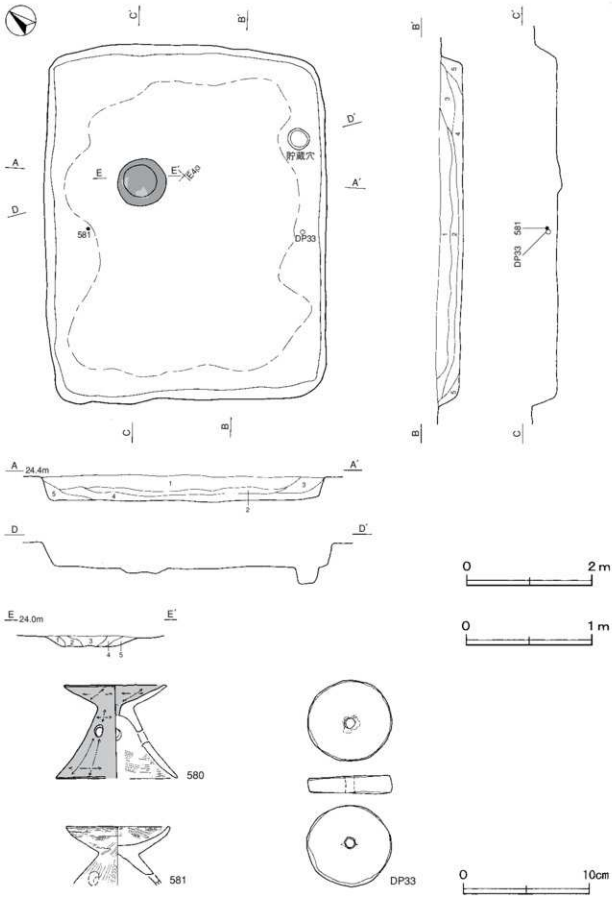
位置　調査区北部のＥ４j区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.60m，短軸4.48mの長方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｅである。壁高は35～39cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除いて広く踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径80cm，短径78cmの円形で，床面を８cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　明　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量



第153図　第110号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴　東コーナー寄りに位置している。長径37cm，短径35cmの円形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

覆土　5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム ブロック少量

遺物出土状況　土師器片54点（器台7，高坏6，壺2，甕39），ミニチュア土器1点（椀型），土製品1点（紡錘車），礫1点が出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。581は北西壁寄り，DP33は南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。

第110号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
580	土師器	器台	7.9	7.4	[9.4]	長石・石英	にぶい・橙	普通	器受部内・外面及び脚部外面ハケ目調整後丁寧なヘラ磨き　脚部内面ハケ目調整後ナデ　3窓	覆土中	75%　PL39
581	土師器	器台	[8.0]	(4.7)	－	長石・石英	橙	普通	器受部内・外面横ナデ後ヘラ磨き　脚部外面ヘラ磨き　内面ナデ　3窓	覆土下層	60%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP33	紡錘車	6.6	0.9	1.5	76.5	土（長石・石英）	丁寧なナデ	覆土下層	

第111号住居跡（第154図）

位置　調査区北部のＦ４b4区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.93m，短軸3.87mの方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｗである。壁高は10～17cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部の床面から炭化材が確認されている。

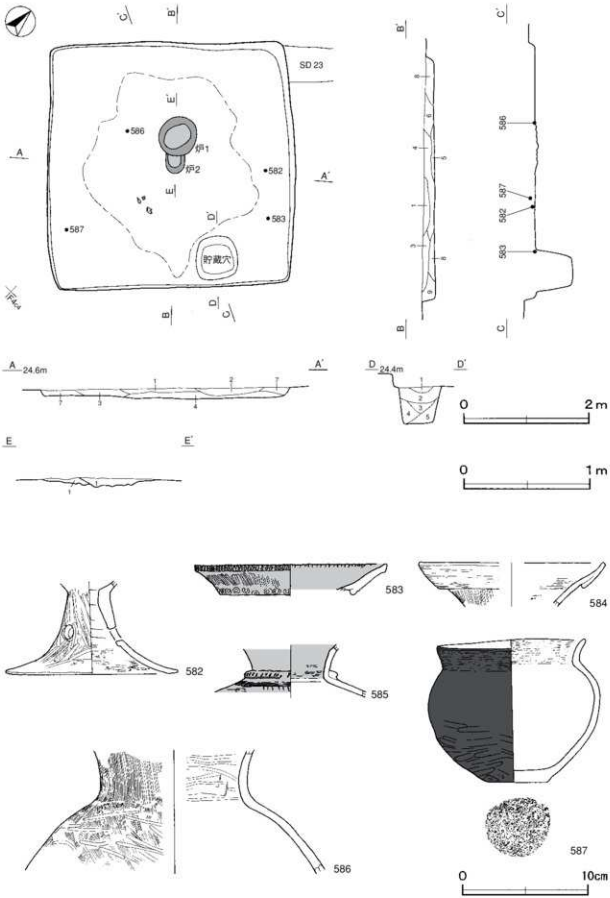
炉　2か所。炉1は中央部やや北西寄りに位置しており，炉2を掘り込んでいる。長径65cm，短径60cmの円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は炉1の南東側に位置している。炉1に掘り込まれており，確認できた規模は長径32cm，短径30cmほどで，楕円形と考えられる。床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火を受けて赤変硬化している。覆土の堆積状況から，炉2から炉1へ作り替えたと考えられる。

炉1土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量

炉2土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

貯蔵穴　南東コーナー部寄りに位置している。長軸70cm，短軸68cmの隅丸方形で，深さは61cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム ブロック少量
3　極暗褐色　ローム ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム ブロック微量



第154図　第111号住居跡・出土遺物実測図

覆土　9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片133点（器台４，高坏６，壺５，甕116，小形甕２）が出土している。582・583は北東壁寄り，586は中央部，587は南コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　床面から炭化材が確認されたことから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。

第111号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
582	土師器	器台	－	(7.4)	13.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面ハケ目調整後ナデ	覆土下層	40%	
583	土師器	壺	15.1	(2.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複合口縁　口唇部及び口辺部上位にヘラ条工具による刻み　口辺部外面ヘラ磨き　口辺部下端に竹管による刺突　内面摩滅調整不明	覆土下層	10%	
584	土師器	壺	[14.5]	(3.5)	－	長石・石英	橙	普通	複合口縁　口辺部外面横ナデ　内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%	
585	土師器	壺	－	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き　頸部に隆帯貼り付け後ヘラ条工具（９本）による刻み　体部上位に櫛描条工具による直状文　体部外面ヘラ磨き	覆土中	5%	
586	土師器	甕	－	(9.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面ハケ目調整　内面ヘラナデ後ヘラ磨き　体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	覆土下層	10%	
587	土師器	小形甕	11.6	11.4	5.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	60%	PL43

第112号住居跡（第155・156図）

位置　調査区北部のＥ４g4区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.45m，短軸5.18mの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は60～70cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，北東壁寄りから焼土塊が２か所確認された。

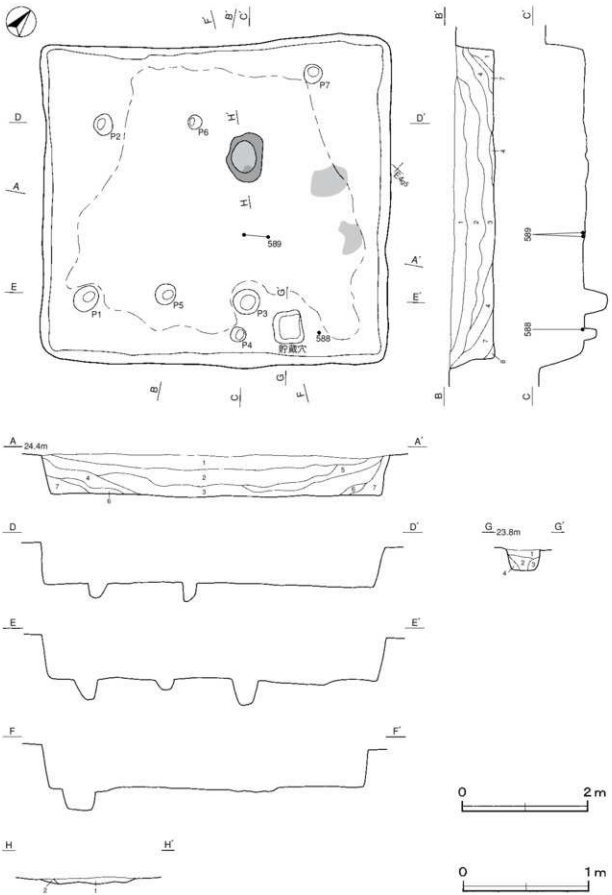
炉　中央部の北寄りに位置している。長径79cm，短径58cmの不整楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ34cm・24cmで，主柱穴である。Ｐ３は深さ40cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は深さ29cmで，出入り口施設に伴うピットの補助的役割を想定できるが明確ではない。Ｐ５・Ｐ６は深さ21cm・29cm，Ｐ７は深さ16cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナー部寄りに位置している。長軸52cm，短軸44cmの隅丸長方形で，深さは35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土の締まりは全体的に弱い。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量



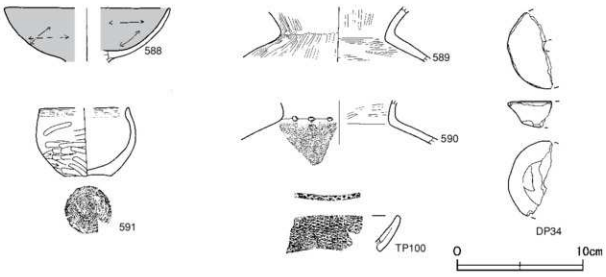
第155図　第112号住居跡実測図

覆土　8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片139点（坏2，椀1，高台付坏13，高坏2，壺3，甕118），ミニチュア土器1点（椀型），土製品1点（紡錘車）のほかに，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。588は貯蔵穴脇，589は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第156図　第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第156図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
588	土師器	高坏	[13.0]	(4.3)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	床面	15%
589	土師器	壺	－	(4.4)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面ヘラ磨き	床面	15%
590	土師器	壺	－	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	頸部にボタン状瘤貼付　体部外面上位に網目状の燃糸文　内面ヘラ磨き	覆土中	5%
591	土師器	ミニチュア	[6.8]	5.4	3.6	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中	60%　椀型
TP100	土師器	壺	－	(4.5)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部及び口辺部外面に網目状の燃糸文　複合口縁	覆土中	5%　PL55

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	紡錘車	(6.0)	(0.7)	2.1	(29.0)	土（長石・石英）	丁寧なナデ	覆土中	

第113号住居跡（第157～159図）

位置　調査区北部のE 4 6区，標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第17号溝，第626号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.74m，短軸4.60mの方形で，主軸方向はN－12°－Wである。壁高は28～40cmで，外傾して立ち上がっている。

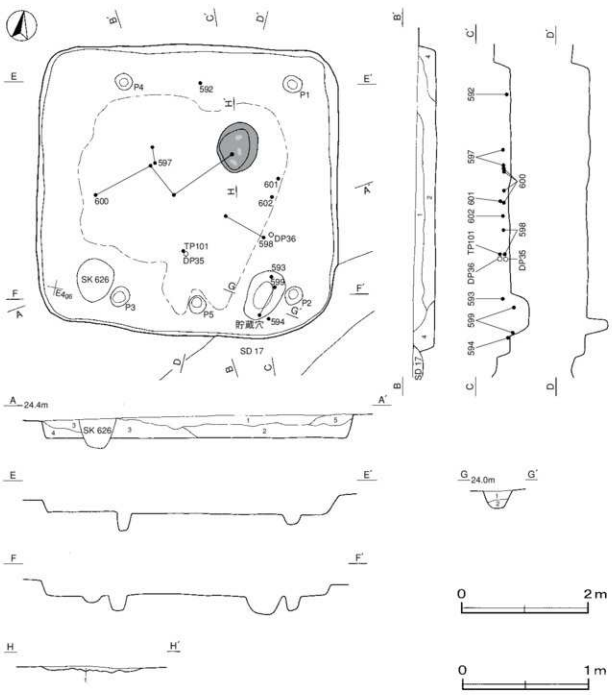
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部の北東寄りに位置している。長径81cm，短径66cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

ピット　5か所。P1～P4は深さ18～29cmで，主柱穴である。P5は深さ38cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部寄りに位置している。長径83cm，短径54cmの楕円形で，深さは30cmである。底面はほ



第157図　第113号住居跡実測図

ほ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

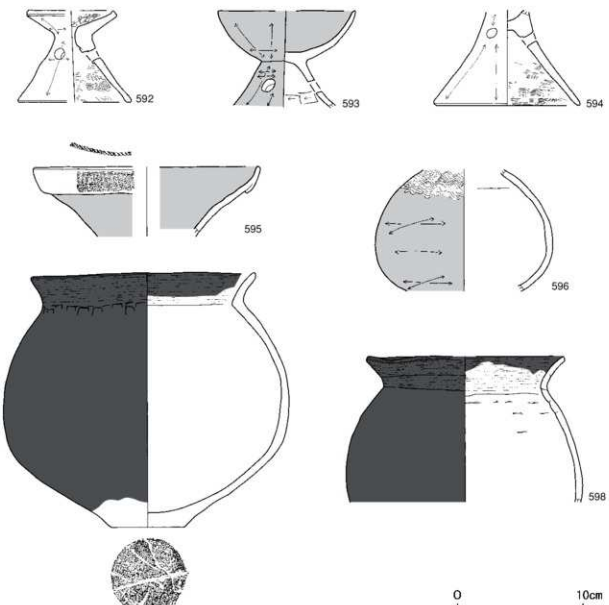
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量　　2　黒　褐　色　ロームブロック少量

覆土　5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

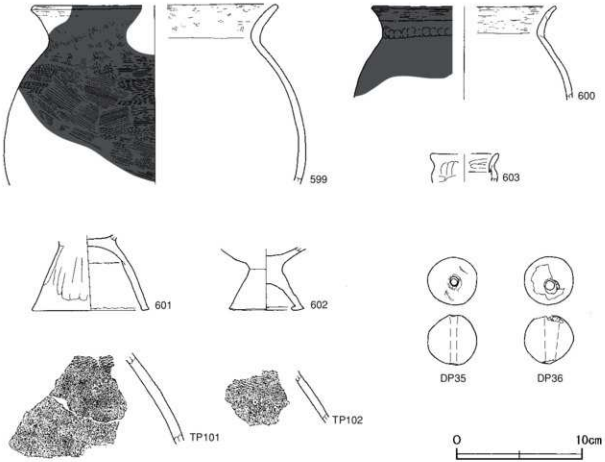
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片208点（器台3，高坏38，壺5，甕157，台付甕4，手捏土器1），土製品2点（球状土錘），礫1点，軽石1点が出土している。592は北壁寄り，597・600は中央部，598・601・602は中央部東寄り，593・594は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。599は貯蔵穴の覆土上層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第158図　第113号住居跡出土遺物実測図(1)



第159図　第113号住居跡出土遺物実測図(2)

第113号住居跡出土遺物観察表（第158・159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
592	土師器	器台	[6.7]	7.2	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	器受部・脚部外面ハケ目調整後丁寧なヘラ磨き　器受部内面ヘラ磨き　脚部内面ハケ目調整後ヘラ磨き　3窓	覆土下層	30%	
593	土師器	高坏	[10.8]	(7.7)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	坏部・脚部外面丁寧なヘラ磨き　坏部内面摩滅調整不明　脚部内面ヘラ削り　3窓	覆土下層	50%	
594	土師器	高坏	－	(7.6)	11.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ハケ目調整後丁寧なヘラ磨き　内面ハケ目調整後ナデ　3窓	覆土下層	45%	
595	土師器	壺	[17.5]	(5.5)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部に孔の単節縄文　複合口縁　口辺部に網目状の撚糸文　内・外面摩滅調整不明	覆土中	5%	
596	土師器	壺	－	(9.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部上位に櫛歯状工具による波状文　体部外面丁寧なヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土中	30%	
597	土師器	甕	17.4	20.2	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ後ナデ　内面ナデ　底部木葉痕	覆土下層	85%	PL44
598	土師器	甕	[15.5]	(11.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部内・外面ナデ　輪積痕	覆土下層	25%	
599	土師器	甕	[19.0]	(14.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後ナデ　体部外面ハケ目調整内面ナデ	貯蔵穴上層	15%	
600	土師器	甕	14.4	(7.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　口辺部外面下端に指頭痕　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	25%	
601	土師器	台付甕	－	(6.0)	9.3	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面ヘラナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	20%	
602	土師器	台付甕	－	(4.9)	5.9	長石・石英	橙	普通	内・外面ナデ	覆土下層	10%	
603	土師器	手捏土器	[5.2]	(2.2)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内・外面ナデ　輪積痕	覆土中	20%	
TP101	土師器	壺	－	(7.2)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面胴上位に網目状の撚糸文　外面赤彩	覆土中層	5%	
TP102	土師器	壺	－	(4.1)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面胴上位に網目状の撚糸文　外面赤彩	覆土中	5%	PL55

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	球状土錘	3.8	0.6	4.0	53.6	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	
DP36	球状土錘	3.8	(1.1)	3.7	(49.7)	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	

第115号住居跡（第160図）

位置　調査区北部のＥ４a4区，標高24.0mの台地平坦部に位置している。

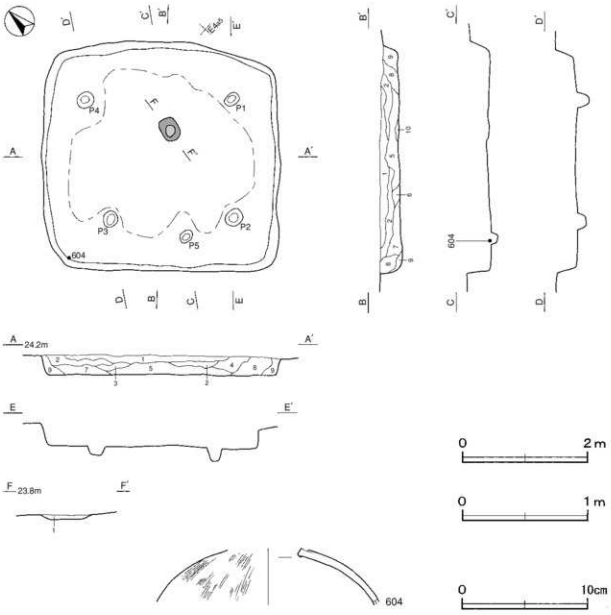
規模と形状　長軸3.80m，短軸3.64mの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｅである。壁高は20～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや東寄りに位置している。長径40cm，短径29cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けてやや赤変している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ11～22cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ13cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第160図　第115号住居跡・出土遺物実測図

覆土　10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第10層は炉の覆土である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　褐　　色　ロームブロック微量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片58点（高坏９，壺７，甕42）のほかに，混入した縄文土器片５点も出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。604は西コーナー部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。

第115号住居跡出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
604	土師器	壺	－	(4.5)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ	床面	5%

第116号住居跡（第161・162図）

位置　調査区北部のＤ４i5区，標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.34m，短軸5.27mの長方形で，主軸方向はＮ－48°－Ｗである。壁高は52～54cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，中央部と壁際には焼土塊や炭化材が確認されており，中央部分の床面も焼けている。

炉　中央部やや北西寄りに位置している。長径82cm，短径60cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック・小石微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

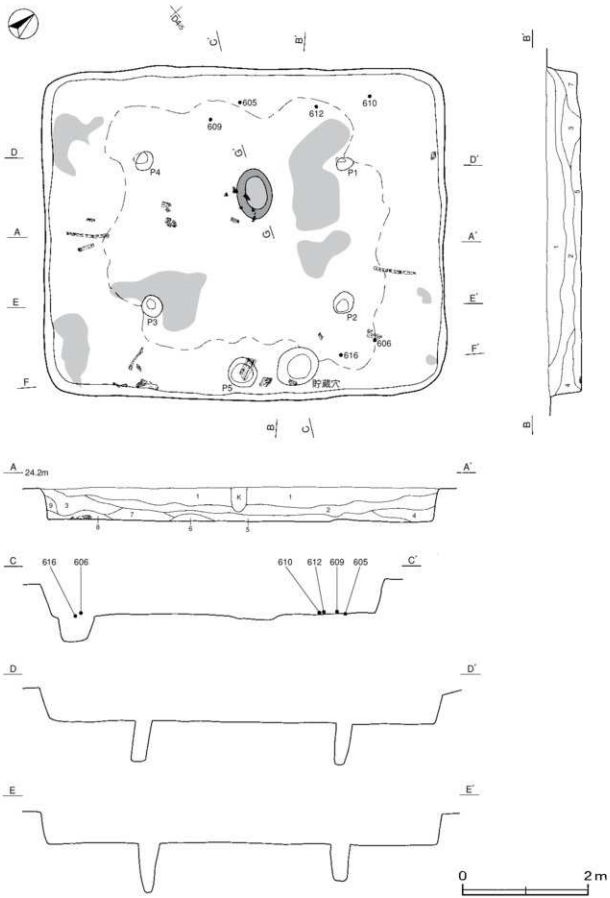
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ59～79cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ19cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東壁側の東コーナー部寄りに位置している。長径72cm，短径61cmの楕円形で，深さは41cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　９層に分層される。上部の第１・２層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であり，その他の層はブロック状の堆積状況を示すことから，埋め戻されたものと考えられる。

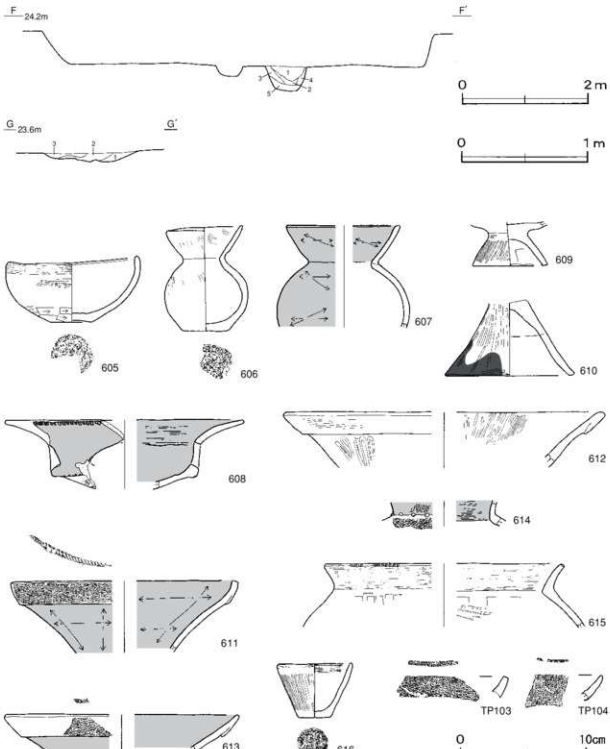
土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
8　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
9　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量



第161図　第116号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片88点（椀１，坩８，器台３，高坏29，壺45，甕２），ミニチュア土器１点（椀型ヵ），滑石原石２点が出土している。605・609・612は北西壁寄り，606・616は東コーナー寄り，610は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　焼土塊や炭化材が確認されており，床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第162図　第116号住居跡・出土遺物実測図

第116号住居跡出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	残存	備考
605	土師器	椀	10.2	5.2	3.3	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部外面横ナデ　内面摩滅の為調整不明　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	80%	PL47
606	土師器	坏	5.9	8.4	3.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面及び体部外面ハケ目調整後ナデ　ミニチュア土	床面	95%	PL37
607	土師器	坏	[8.9]	(8.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面及び体部外面丁寧なヘラ磨き	覆土中	15%	
608	土師器	装飾器台	18.7	(5.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部及び器受部下端にヘラ状工具による刻み　器受部内・外面ヘラ磨き　4窓ま	覆土中	10%	
609	土師器	高坏	－	(3.5)	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	床面	40%	
610	土師器	高坏	－	(6.0)	10.2	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	床面	45%	
611	土師器	壺	[17.1]	(5.7)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	複合口縁　口唇部に刻みの単節縄文　口辺部外面に網目状の燃糸文　口辺部内・外面丁寧なヘラ磨き	覆土中	5%	
612	土師器	壺	[25.0]	(4.4)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	複合口縁　内・外面ヘラ磨き	床面	5%	
613	土師器	壺	[18.3]	(3.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁　口辺部に網目状の燃糸文　内・外面摩滅調整不明	覆土中	5%	
614	土師器	壺	－	(2.0)	－	長石・石英	明赤褐	普通	頸部にボタン状瘤貼付　内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%	
615	土師器	甕	[18.6]	(5.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部に棒状工具による押圧　口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ヘラナデ後一部ヘラ磨き	覆土中	5%	
616	土師器	ミニチュア	5.7	4.3	2.5	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ナデ	床面	95% 複製ま	PL47
TP(II)	土師器	壺	－	(1.6)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部及び口辺部外面に網目状の燃糸文	覆土中	5%	
TP(IV)	土師器	壺	－	(2.0)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後磨り消し	覆土中	5%	

第117号住居跡（第163・164図）

位置　調査区北部のＤ４h3区，標高24.0ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.12ｍ，短軸5.02ｍの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は48～56cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。また，焼土塊や炭化材が確認されており，中央部分の床面は赤変している。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径73cm，短径44cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
2　にぶい暗褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

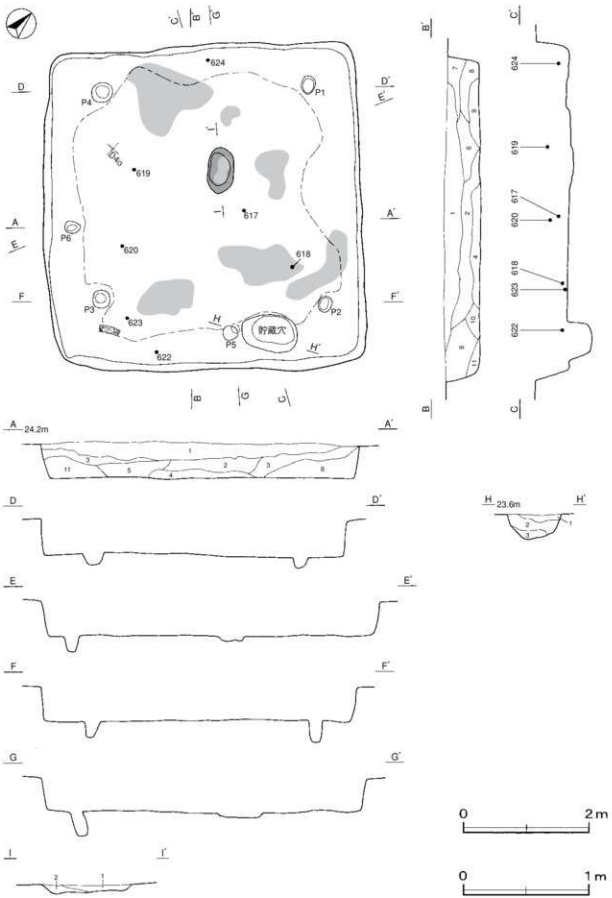
ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ16～34cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ39cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ24cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　東南壁際やや東コーナー部寄りに位置している。長径89cm，短径61cmの楕円形で，深さは39cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック中量

覆土　11層に分層される。第１層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で，第２～11層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

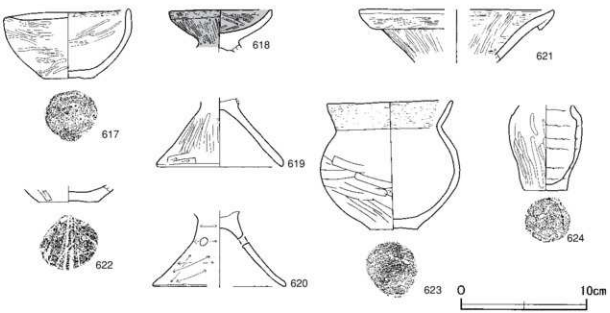
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9　黒褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
10　褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
11　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量



第163図　第117号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片172点（椀１，器台１，高坏７，壺１，甕162），ミニチュア土器１点（壺型）が出土している。617･618は中央部，622･623は南コーナー寄り，624は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。619・620は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　焼土塊や炭化材が確認されており，床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第164図　第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
617	土師器	椀	9.8	5.5	4.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内面横ナデ　体部内・外面ヘラ磨き	覆土下層	100%	PL47
618	土師器	器台	8.0	(3.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部外面横ナデ　体部内・外面ヘラ磨き	覆土下層	45%	
619	土師器	器台ｅ	－	(5.5)	9.8	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中層	50%	
620	土師器	器台ｅ	－	(6.0)	[10.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面丁寧なヘラ磨き　内面ナデ　３窓	覆土中層	45%	
621	土師器	壺	[15.3]	(4.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	複合口縁　口辺部内面横ナデ　体部内・外面ハケ目調整後ヘラ磨き	覆土中	5％	
622	土師器	甕	－	(1.3)	4.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り	覆土下層	5％　胴痕	
623	土師器	小形甕	9.7	10.3	3.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土下層	80%	PL43
624	土師器	ミニチュア	－	(6.8)	3.4	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	80%　壺型	PL48

第118号住居跡（第165・166図）

位置　調査区北部のＥ４ｂ2区，標高24.0ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.06ｍ，短軸4.20ｍの長方形で，主軸方向はＮ－32°－Ｗである。壁高は24～37㎝で，外傾して立ち上がっている。

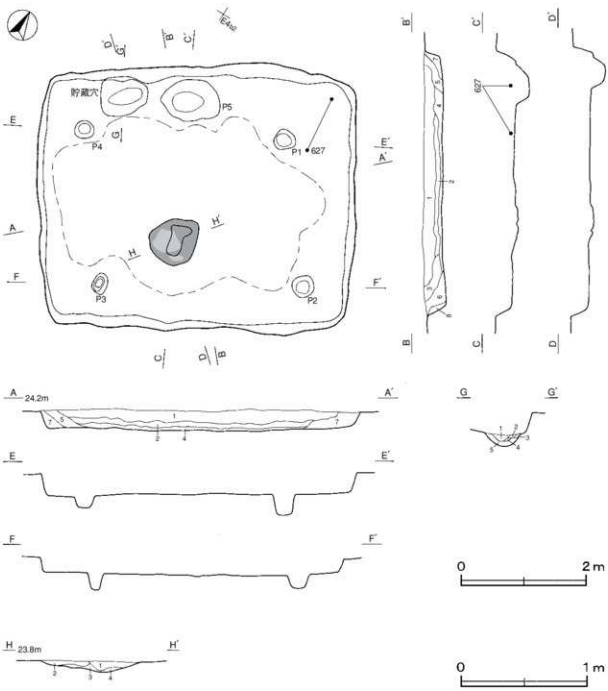
床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。

炉　中央部の南寄りに位置している。長径81cm，短径72cmの不整楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ19～38cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北壁際の北西コーナー部寄りに位置している。長径82cm，短径70cmの不整楕円形で，深さは22cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。



第165図　第118号住居跡実測図

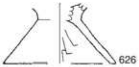
貯蔵穴土層解説
1　極暗褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化物微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量

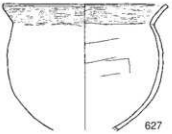
覆土　8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片135点（高坏15，壺３，甕116，小形甕１）が出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。627は北コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。





0　10cm

第166図　第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
625	土師器	器台ｂ	－	(5.1)	[10.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中	40%
626	土師器	器台ａ	－	(4.8)	[8.9]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面ナデ　内面ヘラナデ	覆土中	30%
627	土師器	小形甕	12.8	(10.0)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口頸部内・外面横ナデ　体部外面ナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	55%

第119号住居跡（第167・168図）

位置　調査区北部のＤ３ｊ0区，標高23.9ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.54ｍ，短軸4.55ｍの長方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は22～39㎝で，外傾して立ち上がっている。

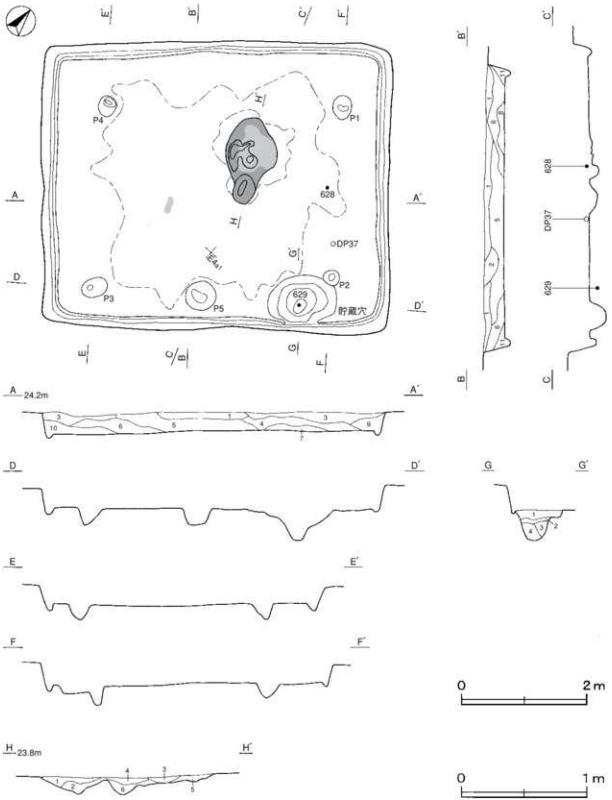
床　ほぼ平坦で，中央部が広く踏み固められている。壁溝が全周している。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径138㎝，短径84㎝の不定形で，床面を13㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
5　赤　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ23～29cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ26cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　東コーナー部寄りに位置している。長径108cm，短径79cmの楕円形で，深さは51cmである。底面は皿状で，



第167図　第119号住居跡実測図

壁は外傾して立ち上がり，上位で段を有している。

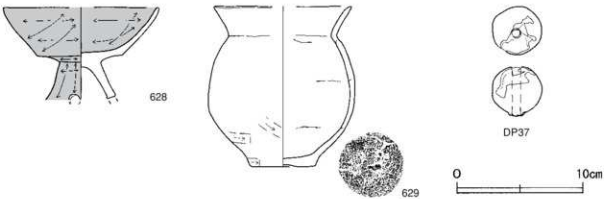
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片127点（器台２，高坏３，壺１，甕119，小形甕１，手捏土器１），土製品１点（球状土錘）が出土している。628・DP37は北東壁寄りの床面，629は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（４世紀初頭～前葉）と考えられる。



第168図　第119号住居跡出土遺物実測図

第119号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
628	土師器	高坏	[12.2]	(7.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部内・外面及び脚部外面丁寧なヘラ磨き　脚部内面ナデ　３孔	床面	35%	PL.40
629	土師器	小形甕	[10.8]	12.8	5.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ　輪積痕	貯蔵穴上層	40%	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP37	球状土錘	3.9	(0.7)	3.9	(50.0)	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	床面	

第120号住居跡（第169図）

位置　調査区北部のＤ３g0区，標高23.9mの台地平坦部に位置している。

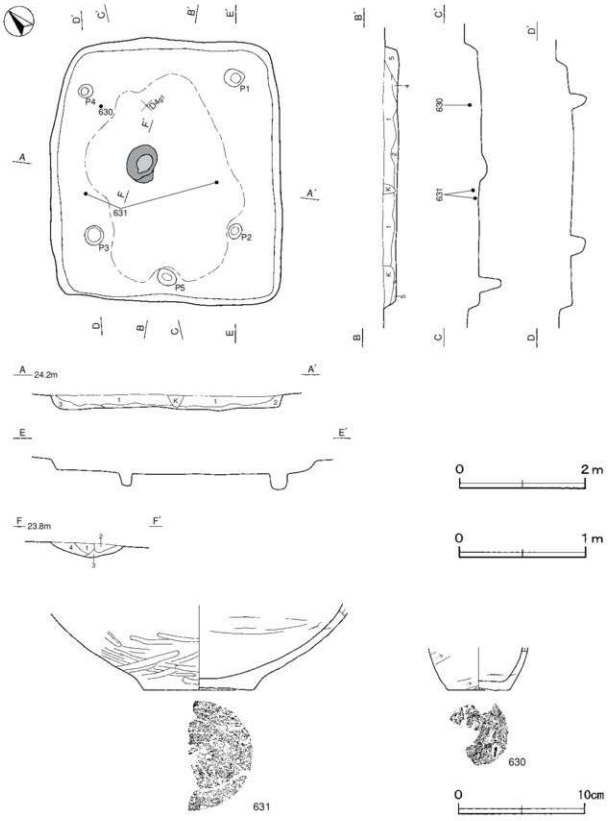
重複関係　第２号石器集中地点を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.18m，短軸3.66mの長方形で，主軸方向はＮ－42°－Ｅである。壁高は18～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径61cm，短径48cmの不整楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量



第169図　第120号住居跡・出土遺物実測図

ピット　5か所。P１～P４は深さ21～29cmで，主柱穴である。P５は深さ38cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片６点（器台１，高坏２，壺２，甕１）が出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。630は北コーナー寄りの覆土中層から出土している。631は南東壁と北西壁寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期と考えられる。

第120号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
630	土師器	壺	－	(3.4)	4.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ　輪積痕	覆土中層	15%
631	土師器	甕	－	(6.8)	8.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	15%

第121号住居跡（第170図）

位置　調査区北部のＤ３ｈ９区，標高23.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.73m，短軸4.68mの方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｗである。壁高は25～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径102cm，短径79cmの楕円形で，床面を８cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット　６か所。P１～P４は深さ11～29cmで，主柱穴である。P５は深さ44cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P６は深さ27cmで，配置から出入り口施設に伴う補助的なピットと考えられるが明確ではない。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径58cm，短径56cmの円形で，深さは19cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

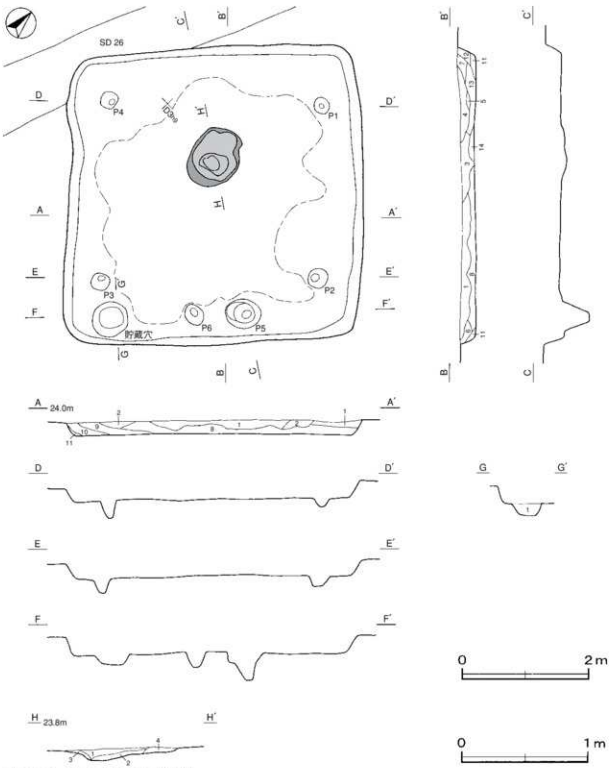
覆土　14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量
12　褐　　色　ローム粒子中量
13　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片32点（高坏４，壺３，甕25）のほかに，混入した縄文土器片１点も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第170図　第121号住居跡実測図

第122号住居跡（第171・172図）

位置　調査区北西部のＤ３g6区，標高23.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸4.29m，短軸3.74mの長方形で，主軸方向はＮ－42°－Ｗである。壁高は32～42cmで，外傾して立ち上がっている。

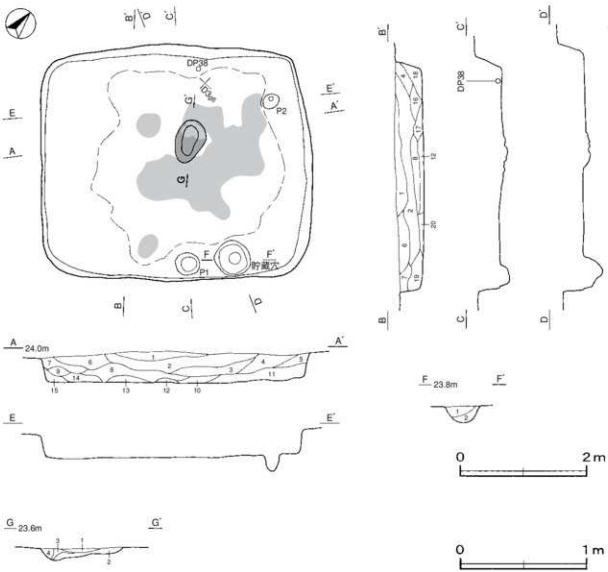
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，焼土塊や炭化材が床面から確認されており，中央部は火を受けて赤変している。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径69cm，短径48cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ25cmで，性格は不明である。



第171図　第122号住居跡実測図

貯蔵穴　東コーナー部寄りに位置している。長径60cm，短径56cmの不整円形で，深さは34cmである。底面はほぼ皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

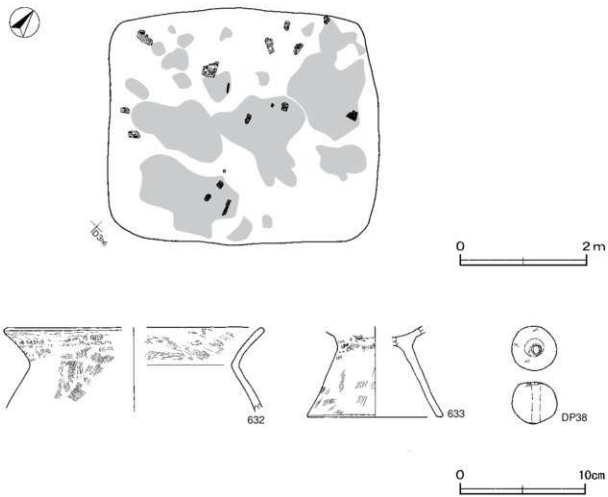
覆土　20層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
9　極暗褐色　炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
11　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　極暗褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
13　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ロームブロック少量，炭化物微量
14　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
17　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子微量
18　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
19　赤　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量
20　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片118点（高坏３，甕113，台付甕２），土製品１点（球状土錘）のほかに，混入した弥生土器片３点も出土している。632・633は覆土中，DP38は北西壁際の覆土下層から出土している。

所見　焼土塊や炭化材が確認されており，床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は，図示できた遺物が少ないが，出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第172図　第122号住居跡・出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表（第172図）

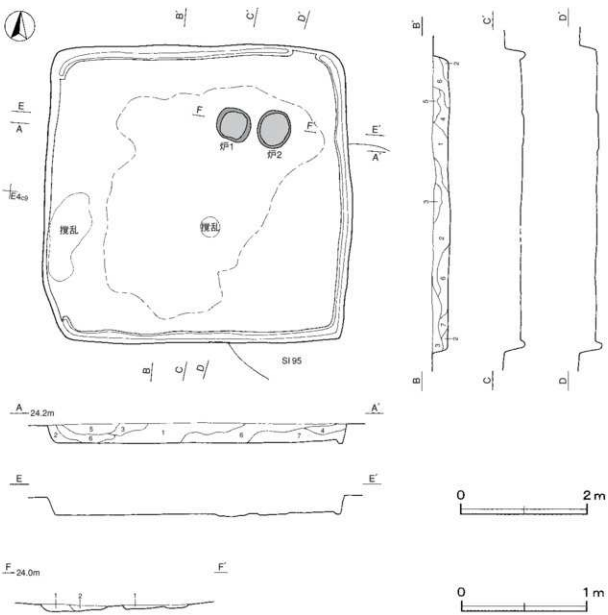
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
632	土師器	甕	[20.2]	(6.7)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部外面ハケ目調整後横ナデ　内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整　内面ナデ	覆土中	5%
633	土師器	台付甕	－	(7.2)	10.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面ハケ目調整後ナデ　内面ナデ	覆土中	20%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP38	球状土錘	3.5	0.7	3.3	39.0	土（長石・石英）	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	

第130号住居跡（第173図）

位置　調査区北部のＥ４ｂ9区，標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第95号住居跡を掘り込んでいる。



第173図　第130号住居跡実測図

規模と形状　長軸4.80m，短軸4.72mの隅丸方形で，主軸方向はN－4°－Wである。壁高は25～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。西側壁を除いて壁溝が確認されている。

炉　2か所。炉1は中央部の北東寄りに位置している。長径56cm，短径50cmの楕円形で，床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は炉1の東側に位置している。長径64cm，短径53cmの楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。それぞれの炉床は火を受けて赤変硬化している。炉1・炉2とも規模や形状が類似しているが使用時期については明確ではない。

炉1土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・ロームブロック微量

覆土　7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

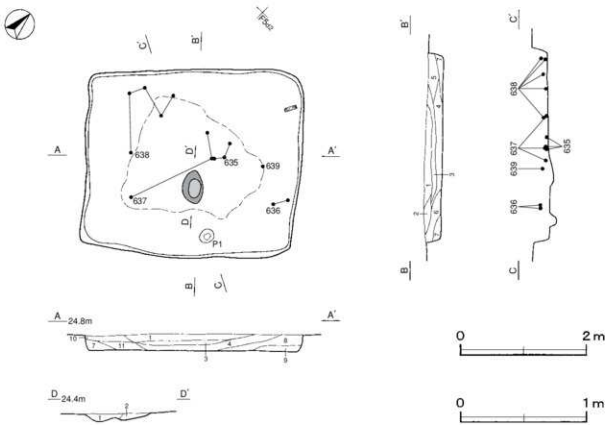
土層解説
1　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片15点（高坏5，壺2，甕8）が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　時期は，図示できた遺物がないが，出土土器から古墳時代前期と考えられる。

第132号住居跡（第174～176図）

位置　調査区東部のF5d2区，標高24.6mの台地平坦部に位置している。



第174図　第132号住居跡実測図

規模と形状　長軸3.40m，短軸2.99mの長方形で，主軸方向はN－40°－Wである。壁高は23～27cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北コーナー部で炭化材が確認されている。

炉　中央部やや南東寄りに位置している。長径53cm，短径33cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

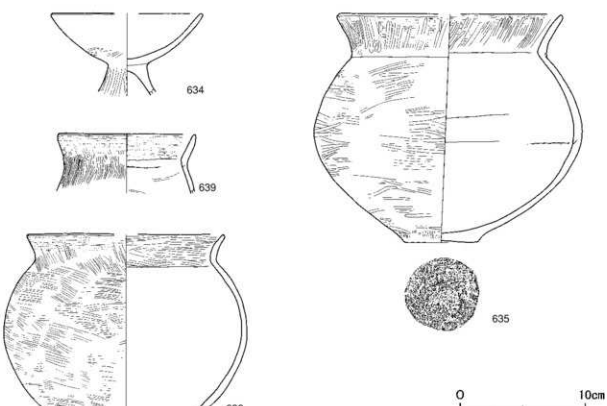
ピット　深さは14cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

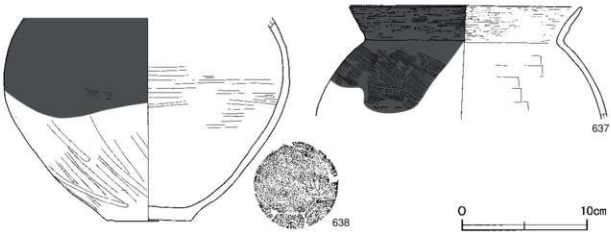
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片157点（器台1，甕155，小形甕1）のほかに，混入した縄文土器片1点，弥生土器片1点も出土している。635・637は中央部の覆土下層から床面にかけて出土した土器片が接合したものであり，638も西コーナー寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものである。636・639は北東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　炭化材が出土していることから焼失住居の可能性が高い。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第175図　第132号住居跡出土遺物実測図(1)



第176図　第132号住居跡出土遺物実測図(2)

第132号住居跡出土遺物観察表（第175・176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
634	土師器	高坏	[11.8]	(6.5)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	坏部外面及び脚部外面ヘラ磨き　内面摩滅調整不明　脚部内面ナデ	覆土中	30%
635	土師器	甕	[17.5]	18.1	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラ磨き　体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層～床面	55%
636	土師器	甕	[15.4]	(14.2)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ後ハケ目調整　体部外面ハケ目調整　内面ナデ	覆土下層	25%
637	土師器	甕	18.1	(9.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ　体部外面ハケ目調整　内面ヘラナデ	覆土下層～床面	10%
638	土師器	甕	－	(16.1)	6.7	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	50%
639	土師器	小形甕	10.9	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後横ナデ　輪積痕	覆土下層	10%

第133号住居跡（第177図）

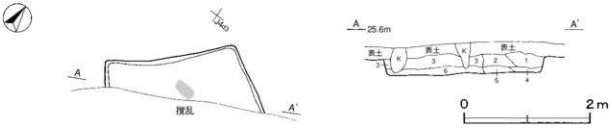
位置　調査区南部のＪ４ｄ3区，標高25.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南側は大きく攪乱を受けているため全体の確認はできなかったが，長軸2.23m，短軸は1.00mほどが確認できた。壁などからＮ－48°－Ｅを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は23～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。焼土塊が確認されていない。

覆土　6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量



第177図　第133号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片３点（甕）のほかに，混入した土師質土器片１点も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期を特定できる遺物は少ないが，時期は，出土土器から古墳時代中期と考えられる。

表４古墳時代竪穴住居跡一覧表 --

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								主柱穴	炉・入口	ピット	竈・炉	貯蔵穴				
38	J３f０	N－８°－E	［長方形］	2.96×[2.66]	８～20	平坦	－	－	１	－	炉１	－	人為	土師器	中期	本跡→第78号P
39	J４d１	N－33°－W	［方形］	[2.74]×2.54	８	平坦	－	－		－	炉１	－	不明	土師器，滑石剥片	中期	
42	I４b１	N－８°－W	方形	4.46×4.42	18～28	平坦	半周	４	－	－	炉１	－	人為	土師器，不明土製品	中期	本跡→第3号火葬土坑 SK128・610
45	H３j０	N－２°－E	長方形	5.67×4.66	16～33	平坦	－	－	－	－	炉１	１	自然	土師器	中期中葉（５世紀中葉）	本跡→SK459・608・609
46	H３b０	N－10°－W	方形	4.70×4.58	40～60	平坦	全周	４	１	－	炉１	１	人為・自然	土師器，石製模造品，滑石剥片，鉄製品	中期中葉（５世紀中葉）	
47	H４b３	N－０°	長方形	4.53×4.48	17～40	平坦	全周	－	１	26	炉２	１	人為	土師器，石器，粒状滓，木製品	中期中葉（５世紀中葉）	本跡→SD7B
49	G４j１	N－３°－W	［長方形］	3.15×(1.97)	13～20	平坦	－	－	－	－	炉１	－	自然	土師器	中期	本跡→SD6・8
50	G３b９	N－11°－W	長方形	5.79×5.24	25～32	平坦	－	－	－	－	炉１	１	人為・自然	土師器，須恵器，石器，鉄製品	中期中葉（５世紀中葉）	本跡→SD6
51	F４j６	N－30°－W	方形	5.90×5.65	47～60	平坦	－	４	１	－	炉１	１	人為	土師器，土製品	前期後葉（４世紀中葉～末葉）	
52	G５a１	N－35°－E	方形	2.97×2.96	36～45	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器	中期	
55	G４g９	N－31°－W	長方形	5.51×4.62	17～22	平坦	－	－	１	－	炉１	－	自然	土師器	前期	本跡→SK498
57	H５b２	N－77°－E	長方形	5.65×4.35	10～22	平坦	－	－	－	－	炉２	１	自然	土師器，須恵器，石製模造品	中期後葉（５世紀後葉）	本跡→SB２
59	H５a３	N－20°－W	長方形	5.24×4.28	16～30	平坦	－	－	１	－	炉２	１	自然	土師器	中期後葉（５世紀後葉）	
60	G５b３	N－16°－W	方形	6.65×6.61	40～44	平坦	－	４	１	－	炉１	－	人為	土師器，礫	前期後半	本跡→SD7B
61	G５e９	N－28°－W	方形	4.38×4.05	25～38	平坦	－	－	１	－	炉１	－	自然	土師器	中期中葉（５世紀中葉）	
62	G５b９	N－25°－W	方形	4.58×4.43	40～60	平坦	全周	４	１	－	炉１	１	人為・自然	土師器，鉄製品	中期中葉（５世紀中葉）	本跡→SD7A・7B
63	H５c０	N－30°－W	方形	8.06×8.00	42～64	平坦	全周	４	１	16	炉１	１	人為・自然	土師器，須恵器，石製模造品，滑石石枕・剥片	中期中葉（５世紀中葉）	本跡→SD12・13
66	H６j６	N－82°－E	方形	6.80×6.76	46～70	平坦	全周	４	１	１	竈１	１	人為	土師器，須恵器，土製品，石製模造品，剥片	後期前葉（６世紀前葉）	本跡→SD36
67	I６b１	N－16°－W	方形	7.46×7.44	34～50	平坦	全周	４	１	－	竈１	１	人為	土師器，土製品，石製模造品，滑石剥片	後期前葉（５世紀末葉～６世紀初頭）	土
68	J５a４	N－10°－W	［方形・長方形］	8.02×(3.27)	９～16	平坦	一部	２	－	１	炉２	－	人為	土師器，石製模造品，滑石剥片	中期中葉（５世紀中葉）	
73	E６e５	N－50°－E	方形	5.27×5.14	56～68	平坦	－	４	－	１	炉１	１	自然	土師器	中期中葉（５世紀中葉）	
74	E６g３	N－61°－W	方形	6.26×5.70	63～70	平坦	－	４	１	１	炉１	１	人為・自然	土師器，土製品，礫	前期中葉（４世紀初頭～前葉）	
75	F５b０	N－35°－W	方形	3.62×3.34	65～73	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	a４	前期末葉～中期初頭（４世紀末葉～５世紀初頭）	
77	D５j０	N－46°－E	方形	6.10×5.70	68～90	平坦	全周	３	－	－	－	－	人為・自然	土師器	前期末葉～中期初頭（４世紀末葉～５世紀初頭）	
78	E５c０	N－57°－W	方形	5.00×4.64	45～53	平坦	－	－	１	４	炉２	１	人為	土師器，粒状滓	前期中葉（４世紀初頭～前葉）	本跡→SD33
79	E５f０	N－47°－W	方形	6.78×6.73	40～45	平坦	－	４	１	－	炉１	１	人為・自然	土師器，石器，石製模造品	中期前葉（５世紀前葉）	
80	E５d５	N－41°－W	方形	6.72×6.66	56～73	平坦	－	４	１	２	炉１	１	人為・自然	土師器，ミニチュア土器，石製品，石製模造品	中期前葉（５世紀前葉）	
81	E５g８	N－52°－W	方形	4.82×4.80	30～34	平坦	－	－	１	－	炉１	－	人為	土師器，石器，礫	前期中葉（４世紀初頭～前葉）	
82	E５b６	N－60°－W	方形	4.68×4.63	40～58	平坦	－	－	１	－	炉１	１	人為	土師器，土製品	前期	本跡→SI83
84	E５i６	N－33°－W	方形	3.70×3.68	35～45	平坦	－	－	１	－	炉１	－	人為	土師器，不明鉄製品	前期	本跡→SD17
86	E５a３	N－35°－W	方形	6.06×6.04	24～28	平坦	－	４	１	－	炉２	－	自然	土師器，土製品，石器，石製模造品，ガラス製品，原石	中期前葉（５世紀前葉）	SI87→本跡→SD17
87	E５i３	N－43°－W	［方形・長方形］	3.18×(2.20)	４～８	平坦	－	－	－	－	炉１	－	自然	土師器	前期中葉（４世紀初頭～前葉）	本跡→SI86，SD23

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	炉入口	ピット	竈・炉	炉跡穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
90	D 5 g3	N－42°－W	長方形	4.61×4.04	15～25	平坦	－	－	－	－	炉1	1	自然	土師器，石製模造品，軽石	中期前葉 (5世紀前葉)	
92	D 5 j3	N－48°－E	[長方形]	[4.50×3.90]	－	平坦	－	3	1	－	炉1	－	不明		前期～中期前葉	本跡→SD22
94	D 5 j1	N－16°－E	方形	4.97×4.80	15～35	平坦	－	－	－	－	炉2	1	人為	土師器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	本跡→SD1-1A
95	E 4 c0	N－63°－W	長方形	4.15×(3.00)	22～61	平坦	－	－	1	1	炉1	1	人為 自然	土師器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	本跡→SI130
96	E 4 d8	N－55°－W	方形	5.56×5.46	59～68	平坦	－	4	1	－	炉1	1	人為 自然	土師器，土製品	前期前葉 (3世紀中葉～末葉)	
98	E 4 j6	N－15°－W	方形	5.64×5.52	50～68	平坦	－	4	1	3	炉1	1	人為	土師器，ミニチュア土器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	本跡→SD23
99	F 4 d1	N－60°－E	長方形	3.95×3.48	20～27	平坦	－	－	－	－	炉2	－	人為	土師器	前期前葉 (3世紀中葉～末葉)	
100	F 4 e5	N－25°－W	長方形	5.28×4.30	30～38	平坦	－	－	1	－	炉5	1	人為 自然	土師器	前期前葉 (3世紀中葉～末葉)	
101	F 4 e1	N－35°－W	長方形	6.22×5.05	27～44	平坦	－	4	1	－	炉1	－	人為	土師器，ミニチュア土器，土製品	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	本跡→SD23
110	E 4 j2	N－47°－E	長方形	5.60×4.48	35～39	平坦	－	－	－	－	炉1	1	自然	土師器，ミニチュア土器，土製品，礫	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
111	F 4 b4	N－45°－W	方形	3.93×3.87	10～17	平坦	－	－	－	－	炉2	1	人為	土師器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	本跡→SD23
112	E 4 g4	N－40°－W	方形	5.45×5.18	60～70	平坦	－	2	1	4	炉1	1	自然	土師器，ミニチュア土器，土製品	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
113	E 4 f6	N－12°－W	方形	4.74×4.60	28～40	平坦	－	4	1	－	炉1	1	自然	土師器，土製品，礫，軽石	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	本跡→SD17，SK626
115	E 4 a4	N－50°－E	方形	3.80×3.64	20～35	平坦	－	4	1	－	炉1	－	人為	土師器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
116	D 4 i5	N－48°－W	長方形	6.34×5.27	52～54	平坦	－	4	1	－	炉1	1	人為 自然	土師器，ミニチュア土器，滑石原石	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
117	D 4 h3	N－40°－W	方形	5.12×5.02	48～56	平坦	－	4	1	1	炉1	1	人為 自然	土師器，ミニチュア土器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
118	E 4 b2	N－32°－E	長方形	5.06×4.20	24～37	平坦	－	4	1	－	炉1	1	自然	土師器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
119	D 3 j0	N－40°－W	長方形	5.54×4.55	22～39	平坦	全周	4	1	－	炉1	1	人為	土師器，土製品	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
120	D 3 g0	N－42°－W	長方形	4.18×3.66	18～20	平坦	－	4	1	－	炉1	－	自然	土師器	前期	第2号石器集中地点→本跡
121	D 3 h9	N－45°－W	方形	4.73×4.68	25～32	平坦	－	4	1	1	炉1	1	人為	土師器	前期	本跡→SD26
122	D 3 g6	N－42°－W	長方形	4.29×3.74	32～42	平坦	－	－	1	1	炉1	1	人為	土師器，土製品	前期	
130	E 4 b9	N－4°－W	方形	4.80×4.72	25～28	平坦	ほぼ全周	－	－	－	炉2	－	人為	土師器	前期	SI95→本跡
132	F 5 d2	N－40°－E	長方形	3.40×2.99	23～27	平坦	－	－	1	－	炉1	－	人為	土師器	前期中葉 (4世紀初頭～前葉)	
133	J 4 d3	N－48°－E	方形・長方形	2.23×(1.00)	23～25	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器	中期	

(2) 掘立柱建物跡

第４号掘立柱建物跡（第178図）

位置　調査区南西部のＨ４i4区，標高25.0ｍほどの台地縁辺部に位置している。

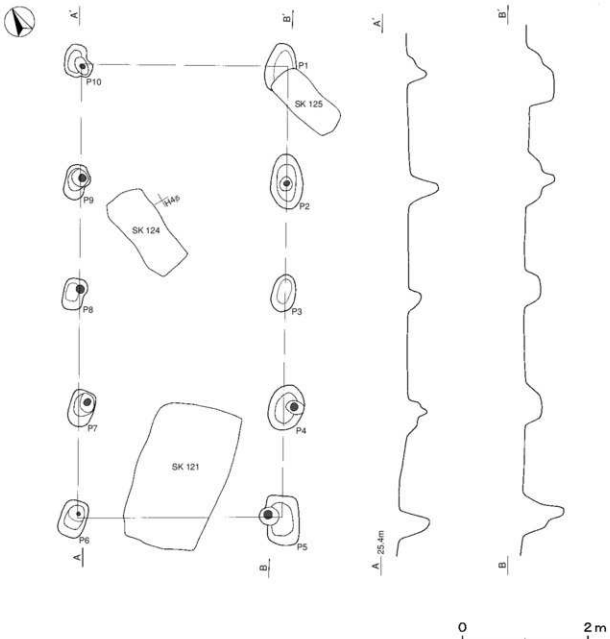
重複関係　第121・124・125号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行４間，梁行１間の側柱建物跡で，桁行方向はＮ－31°－Ｅである。規模は，桁行7.2ｍ（24尺），梁行3.3ｍ（11尺）で，面積は23.76㎡である。柱間寸法は桁行が1.8ｍ（６尺）である。

柱穴　10か所。平面形は楕円形を基調とし，深さは22～64㎝である。各柱穴の覆土はおおむね２層から３層に分層でき，ロームブロックやローム粒子・炭化粒子を含んでおり，色調は暗褐色と極暗褐色，黒褐色である。土層断面の観察から柱抜き取り後の自然堆積と考えられる。底面は皿状で，Ｐ１・Ｐ３を除く柱穴から柱のあたりが確認できた。

所見　東・西妻側の柱穴の位置を想定して確認面を精査したが柱穴は確認できなかった。柱穴の規模と建物跡の形状から倉庫と考えられるが明確ではない。当遺跡の南に位置するナギ山遺跡に，本跡と同様の規模と構造の第２号掘立柱建物跡があり，重複関係と出土土器から６世紀前半に比定されている。遺物が出土しておらず

時期を特定することは難しいが，ナギ山遺跡第２号掘立柱建物跡と同様の規模と構造を示すことから古墳時代後期と考えられる。



第178図　第４号掘立柱建物跡実測図

(3)　土坑

第458号土坑（第179図）

位置　調査区中央部西寄りＨ３ｊ8区，標高25.4mの台地縁辺部に位置している。

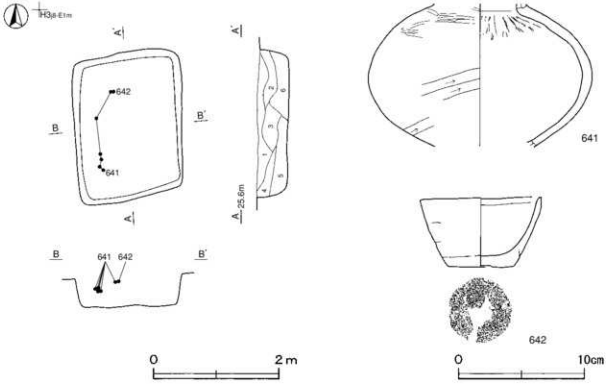
規模と形状　長軸2.35m，短軸1.73mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－４°－Ｗである。深さは49cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片12点（坏1，椀1，坩1，甕9），ミニチュア土器1点（鉢型ヵ）が出土している。641は西壁寄りの覆土中層から出土した土器片が接合したもので，642は北西コーナー寄りの覆土上層から出土したものである。

所見　時期は，出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第179図　第458号土坑・出土遺物実測図

第458号土坑遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
641	土師器	坩	－	(11.3)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中層	40%
642	土師器	ミニチュア	9.5	5.6	4.9	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ　編積痕	覆土上層	60%　PL.47　鉢型ヵ

第661号土坑（第180図）

位置　調査区中央部東寄りのＥ６ｂ7区，標高23.7mの台地平坦部に位置している。

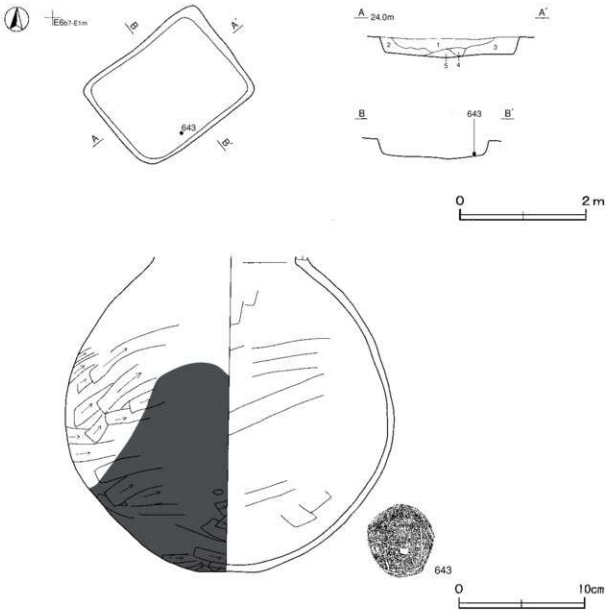
規模と形状　長軸2.25m，短軸1.76mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－52°－Ｅである。深さは28cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層される。第１層は堆積状況から自然堆積と考えられ，第２～５層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片２点（甕）が出土している。643は覆土第３層の下部からまとまって出土した土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第180図　第661号土坑・出土遺物実測図

第661号土坑遺物観察表（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
643	土師器	甕	－	(25.0)	5.2	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中層	80%

表5 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
438	E 3 j 8	N－4°－W	隅丸長方形	2.35×1.73	49	外傾	平坦	人為	土師器，ミニチュア土器	
661	E 6 b7	N－52°－E	隅丸長方形	2.25×1.76	28	外傾	平坦	自然・人為	土師器	

4　平安時代の遺構と遺物

今回の調査では，台地平坦部に平安時代の竪穴住居跡9軒，土坑2基が確認された。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第40号住居跡（第181・182図）

位置　調査区南部のⅠ4i6区，標高25.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第612号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.24m，短軸3.21mの方形で，主軸方向はN－10°－Wである。壁高は4～10cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉　ほぼ中央部に位置している。長径73cm，短径51cmの不整舟形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

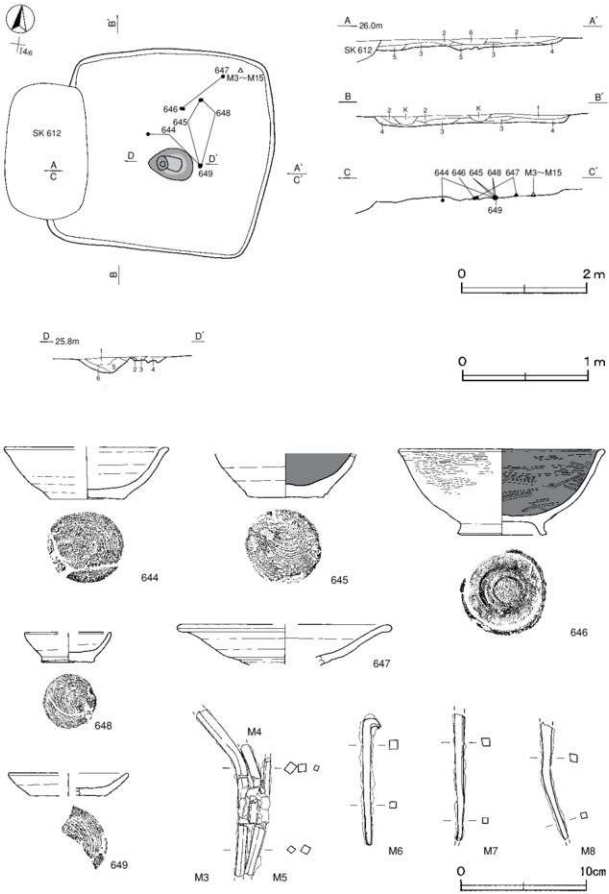
炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

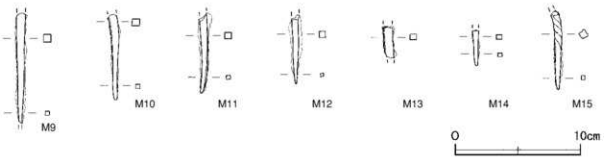
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　褐色　ロームブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子微量
6　黒褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片116点（坏31，高台付椀3，高台付皿1，小皿10，蓋5，壺1，甕65），鉄製品13点（釘12，不明1）が出土している。644～649は中央部から北東壁にかけての床面から出土している。M3～M15は北東コーナー部の床面からまとまって出土している。

所見　土器はいずれも床面からの出土であり，遺構に伴うものと考えられる。竈は無く炉跡だけが検出された。北東コーナー部からは鉄製品がまとまって出土しており，竈も検出されないことから鍛冶関連の作業場を想定し，床面精査後の覆土を篩にかけ水洗選別を試みたが粒状滓や鍛造剥片などの鍛冶関連遺物は確認されず，他の工房的な住居とも想定されるが明確ではない。時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。



第181図　第40号住居跡・出土遺物実測図



第182図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第181・183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置		備考
64	土師器	坏	[12.6]	4.1	5.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	床面	50%	
65	土師器	坏	－	(3.5)	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	床面	30%	
66	土師器	高台付椀	16.1	6.8	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け　体部内・外面ヘラ磨き	床面	50%	PL48
67	土師器	高台付皿	[17.1]	(3.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロ成形	床面	45%	
68	土師器	小皿	[6.8]	2.4	4.2	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	床面	60%	
69	土師器	小皿	[9.4]	1.8	[6.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	床面	35%	

番号	器種	長さ	孔径	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
M3	釘	(13.3)	0.7	0.7		鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M4	釘	(6.4)	0.7	0.7	(54.0)	鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M5	釘	(9.3)	0.6	0.6		鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M6	釘	10.1	1.4	0.7	23.7	鉄	断面方形　棒状　角釘	床面	PL55
M7	釘	(10.1)	0.7	0.6	(16.5)	鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M8	釘	(9.3)	1.0	0.7	(18.7)	鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M9	釘	(8.8)	0.7	0.6	(15.4)	鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M10	釘	(6.8)	0.6	0.5	(7.3)	鉄	頭部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M11	釘	(6.4)	0.6	0.5	(5.8)	鉄	頭部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M12	釘	(5.5)	0.6	0.5	(6.7)	鉄	頭部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	PL55
M13	釘	(2.7)	0.8	0.5	(3.5)	鉄	頭部・先端部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	
M14	釘	(2.9)	0.5	0.4	(1.6)	鉄	頭部欠損　断面方形　棒状　角釘か	床面	
M15	不明	(6.2)	0.8	0.7	(6.7)	鉄	右回りのねじり　先端部断面方形	床面	鍵か　PL55

第44号住居跡（第183図）

位置　調査区南部のＨ４j2区，標高25.7mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸3.40m，短軸2.40mの長方形で，主軸方向はＮ－90°である。壁高は12～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　２か所。炉１は中央部に位置しており，長径41cm，短径23cmの楕円形で，床面とほぼ同じ高さの地床炉である。炉２は炉１の南東側に位置しており，長径23cm，短径18cmの楕円形で，炉床は床面と同じ高さである。それぞれの炉床は火を受けて赤変している。使用された時期差については明確ではない。

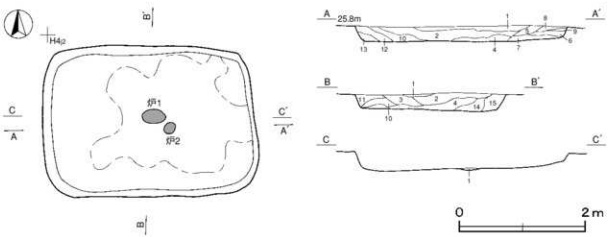
炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

覆土　15層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，砂質年度粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック少量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック少量・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片４点（坏）のほかに，流れ込んだ縄文土器片１点と古墳時代の土師器片３点も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見　竈は無く炉跡だけが検出された。時期を判定する遺物は少ないが，出土土器や遺構の形状などから平安時代の遺構と判断した。また，形状は第40号住居跡と類似している。



第183図　第44号住居跡実測図

第48号住居跡（第184図）

位置　調査区南部のＨ４ａ3区，標高25.6mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長軸3.89m，短軸2.54mの長方形で，主軸方向はＮ－87°－Ｅである。壁高は38～55cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　ほぼ中央部に位置している。長径37cm，短径26cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

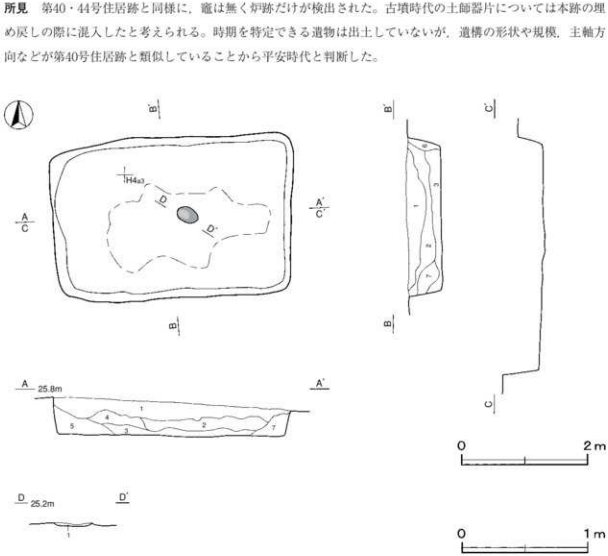
炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量

覆土　７層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 極暗褐色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック多量
4 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量
6 黒 褐 色 ロームブロック微量
7 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片62点が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 第40・44号住居跡と同様に，竈は無く炉跡だけが検出された。古墳時代の土師器片については本跡の埋め戻しの際に混入したと考えられる。時期を特定できる遺物は出土していないが，遺構の形状や規模，主軸方向などが第40号住居跡と類似していることから平安時代と判断した。



第184図 第48号住居跡実測図

第53号住居跡（第185図）

位置 調査区南部のＧ５a4区，標高24.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.25m，短軸2.81mの長方形で，主軸方向はＮ－89°－Ｅである。壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

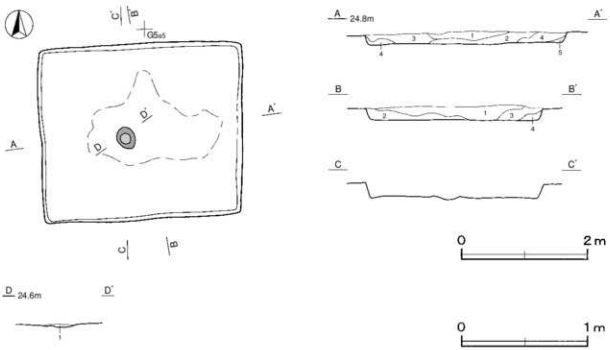
炉 中央部やや南西寄りに位置している。長径38cm，短径31cmの楕円形で，床面を２cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量

覆土　5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

所見　第40・44・48号住居跡と同様に，竈は無く炉跡だけが検出された。遺物が出土していないため時期の判断は難しいが，遺構の形状や規模，主軸方向などが第40号住居跡と類似していることから平安時代と判断した。



第185図　第53号住居跡実測図

第83号住居跡（第186図）

位置　調査区東部のＥ５g6区，標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第82号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.95m，短軸2.66mの長方形で，主軸方向はＮ－84°－Ｗである。壁高は８～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉　中央部やや西寄りに位置している。長径63cm，短径43cmの楕円形で，床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

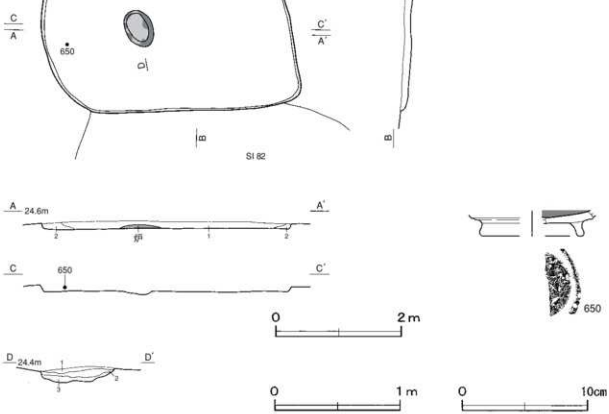
炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

覆土　3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片２点（高台付椀）のほかに，古墳時代の土師器片６点が出土している。650は西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　第40・44・48・53号住居跡と同様に，竈は無く炉跡だけが検出された。時期を特定できる遺物は出土していないが，遺構の形状や規模，主軸方向などが近接する第89号住居跡と類似していることから平安時代と判断した。



第186図　第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
650	土師器	高台付椀	－	(2.0)	[7.7]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	高台貼り付け後ナデ	覆土下層	5％

第88号住居跡（第187図）

位置　調査区東部のＥ５g5区，標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第89号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.22m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はＮ－43°－Ｗである。壁高は16～21cmで，外傾して立ち上がっている。

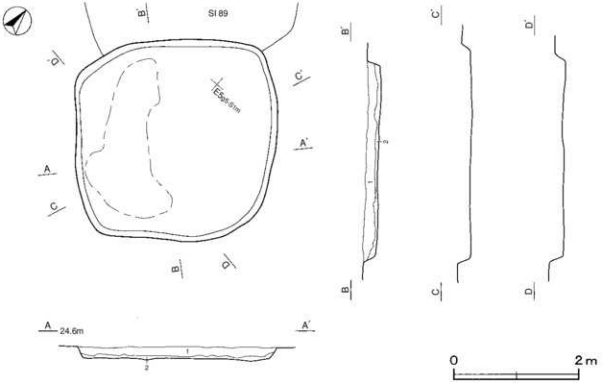
床　ほぼ平坦で，西側が踏み固められている。

覆土　２層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　古墳時代の土師器片３点が出土しているが，埋没の過程で流れ込んだと考えられる。遺物は細片のため図示できない。

所見　竈や炉を含めた屋内施設は検出されておらず，時期を判定する遺物も出土していない。時期は，10世紀前半に比定されている第89号住居跡を掘り込んでいることから10世紀前半以降とした。



第187図　第88号住居跡実測図

第89号住居跡（第188図）

位置　調査区東部のＥ５f4区，標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第88号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.65m，短軸3.35mの方形で，主軸方向はＮ－52°－Ｗである。壁高は５～10cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉　2か所。炉1は西コーナー部寄りに位置している。長径54cm，短径41cmの楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は中央部やや南寄りに位置している。長径63cm，短径45cmの楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。それぞれの炉床は火を受けて赤変硬化しており，使用された時期差については明確ではない。

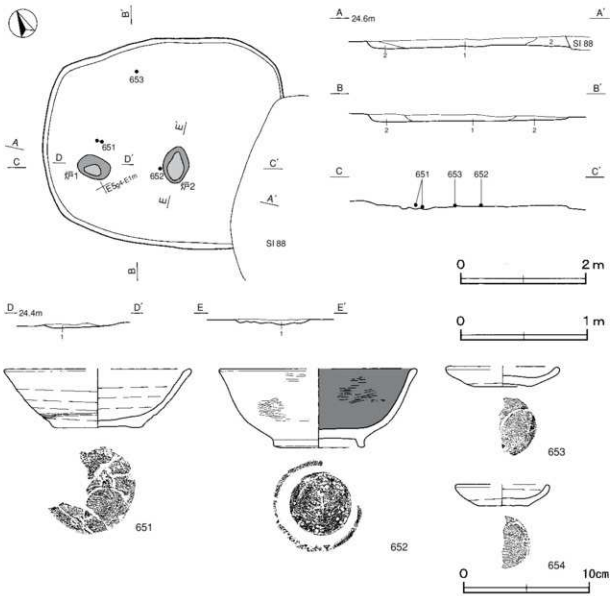
炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム ブロック微量

覆土　2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片4点（坏1，高台付椀1，小皿2）のほかに，古墳時代の土師器片26点も出土してい



第188図　第89号住居跡・出土遺物実測図

る。651は炉１際，652は炉２際，653は北東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　第40・44・48・53・83号住居跡と同様に，竈は無く炉跡だけが検出された。時期を特定できる遺物は少ないが，時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表（第188図）

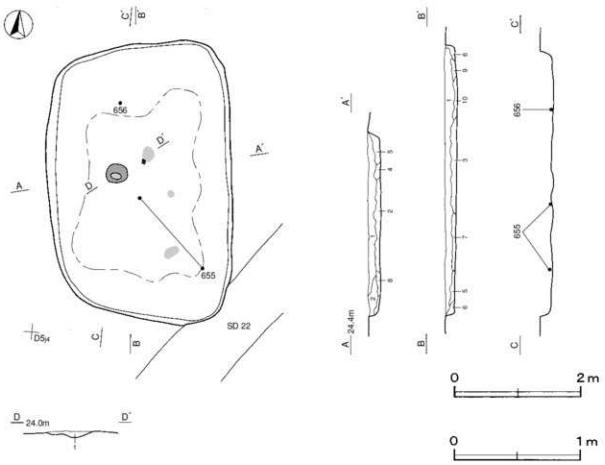
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
651	土師器	坏	[14.5]	4.7	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	覆土下層～床面	45%
652	土師器	高台付椀	[15.3]	6.3	7.3	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け　体部内・外面ヘラ磨き	床面	45%　刻書「＋」
653	土師器	小皿	[8.6]	1.6	4.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	床面	50%
654	土師器	小皿	[7.1]	1.7	4.0	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	覆土中	40%

第91号住居跡（第189・190図）

位置　調査区東部のＤ５i4区，標高24.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.45m，短軸2.97mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がっている。



第189図　第91号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部及び南東コーナー寄りから焼土塊や炭化材がわずかに出土している。

炉　中央部やや西寄りに位置している。長径37cm，短径31cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量

覆土　10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片90点（坏63，高台付椀15，小皿４，高坏３，甕５）が出土している。655は中央部及び南東コーナー部の床面から出土した土器片が接合したものである。656は中央部北寄りの床面から出土している。

所見　第40・44・48・53・83・89号住居跡と同様に，竈は無く炉跡だけが検出された。床面から焼土塊や炭化材が確認されており，床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期を特定できる遺物は少ないが，時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。

第190図　第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
655	土師器	高台付椀	－	(3.6)	[6.7]	長石・石英・雲母・赤色粒物	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	床面	5%
656	土師器	小皿	7.5	1.7	5.9	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	床面	95%

第93号住居跡（第191図）

位置　調査区東部のＤ５j5区，標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状　全体は確認できなかったが，長軸3.09m，短軸2.55mが確認された。主軸方向をＮ－65°－Ｗとする長方形と推定される。壁高は５～８cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周辺が踏み固められている。炉の南東側に撹乱を受けている。

炉　中央部やや北寄りに位置している。長径53cm，短径38cmの不定形で，床面を３cmほど掘りくぼめた地床炉

である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

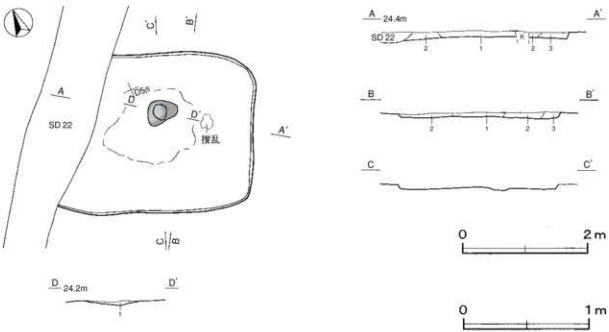
炉土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

覆土　3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　古墳時代の土師器片4点が出土しているが，埋没の過程で流れ込んだと考えられる。遺物は細片のため図示できない。

所見　第40・44・48・53・83・89・91号住居跡と同様に，竈は無く炉跡だけが検出された。時期を特定できる遺物は出土していないが，遺構の形状や規模などが近接する他の同時代の住居跡と類似しており平安時代と判断した。



第191図　第93号住居跡実測図

表6 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係(古→新)
								土師式	須入口	ピット	竈・炉	焼成穴			
40	I 4 i 6	N-10°-W	方形	3.24×3.21	4～10	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為	土師器，鉄製品	10世紀前半	本跡→SK612
44	H 4 j 2	N-90°-E	長方形	3.40×2.40	12～28	平坦	－	－	－	－	炉2	－	人為	土師器	平安時代	
48	H 4 a 3	N-87°-E	長方形	3.89×2.54	38～55	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為	土師器	平安時代	
53	G 5 a 4	N-89°-E	長方形	3.25×2.81	15～20	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為		平安時代	
83	E 5 g 6	N-84°-W	長方形	3.95×2.66	8～10	平坦	－	－	－	－	炉1	－	自然	土師器	平安時代	SI82→本跡
88	E 5 g 3	N-43°-W	方形	3.22×3.20	16～21	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器，磁器	10世紀前半以降	SI89→本跡
89	E 5 f 4	N-52°-W	方形	3.65×3.35	5～10	平坦	－	－	－	－	炉2	－	自然	土師器	10世紀前半	本跡→SI88
91	D 5 i 4	N-1°-W	隅丸長方形	4.45×2.97	15～20	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為	土師器	10世紀前半	本跡→SD22
93	D 5 j 5	N-65°-W	[長方形]	(3.09)×2.55	5～8	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為	土師器	平安時代	本跡→SD22

(2) 土坑（平安時代）

第145号土坑（第192図）

位置　調査区南部のＩ５ｇ2区，標高25.8mの台地平坦部に位置している。

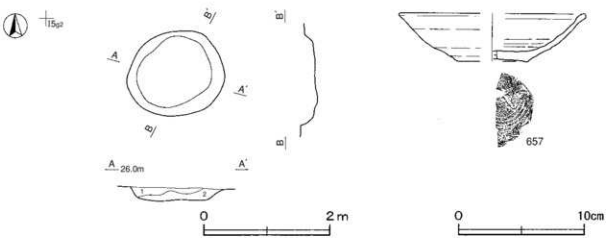
規模と形状　長径1.50m，短径1.41mの円形で，長径方向はＮ－０°である。深さは24cmで，底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層される。含有物や遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片３点（坏）が出土している。657は覆土中から出土した土器片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から９世紀末葉～10世紀初頭と考えられる。



第192図　第145号土坑・出土遺物実測図

第145号土坑出土遺物観察表（第192図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
657	土師器	坏	[14.4]	3.9	[5.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り　ロクロナデ	覆土中	30%

第668号土坑（第193図）

位置　調査区北部のＤ５ｈ4区，標高24.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.75m，短軸2.06mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－88°－Ｅである。深さは18cm，底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

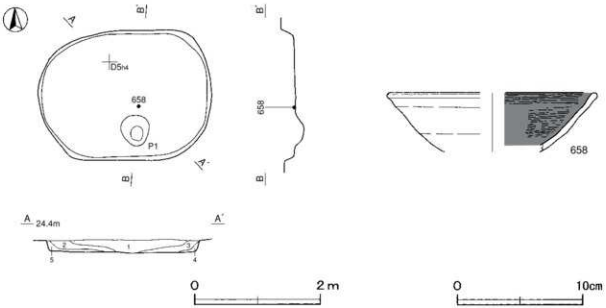
ピット　長径52cm，短径44cmの楕円形で，深さは14cmである。

覆土　５層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片12点（坏類6，甕6）が出土している。658はピット北側の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀末葉～10世紀初頭と考えられる。



第193図　第668号土坑・出土遺物実測図

第668号土坑出土遺物観察表（第193図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
658	土師器	椀	[16.2]	(4.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き　ロクロナデ	底面	25%

表7 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模（m）（長径×短径）（長軸×短軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（旧→新）
145	I 5g2	N－0°	円形	1.50×1.41	24	緩斜	平坦	人為	土師器	
668	D 5h4	N－88°－E	隅丸長方形	2.75×2.06	18	緩斜	平坦	自然	土師器	

茨城県教育財団文化財調査報告第296集

薬師入遺跡 2

阿見町吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上巻

平成20(2008)年3月19日　印刷
平成20(2008)年3月24日　発行

発行　財団法人 茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　株式会社　高野高速印刷
〒310－0853　茨城県水戸市平須町1822－122
TEL　029－305－5588